岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第536集

本波(ほんなみ)Ⅷ遺跡発掘調査報告書

一般県道侍浜夏井線緊急地方道路整備事業関連遺跡発掘調査

２００９

岩手県久慈地方振興局土木部

(財)岩手県文化振興事業団

本波Ⅷ遺跡発掘調査報告書

一般県道侍浜夏井線緊急地方道路整備事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする１万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことの出来ない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、岩手県久慈市の一般県道侍浜夏井線緊急地方道路整備事業に関連して平成19年度に発掘調査を実施した、本波Ⅷ遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査で本遺跡は、縄文時代前期前葉に集落が営まれていたことが明らかとなりました。中でもこの調査によって得られた出土遺物は、この時期の様相を考える上で貴重な資料を提供することができました。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました岩手県久慈地方振興局土木部、久慈市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成21年２月

財団法人　岩手県文化振興事業団
理事長　　武　田　牧　雄

例　　言

1　本報告書は、岩手県久慈市侍浜町本波第11地割51－32ほかに所在する本波Ⅷ遺跡の発掘調査成果を収録したものである。

2　本遺跡の調査は、一般県道侍浜夏井線緊急地方道路整備事業に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県久慈地方振興局土木部と岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課との協議を経て、岩手県久慈地方振興局土木部の委託を受けた㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。

3　本遺跡の岩手県遺跡台帳における遺跡番号はJG10-0332、遺跡略号はHNⅧ-07である。

4　野外調査及び室内整理期間、調査担当者は次の通りである。

野外調査　期　間　平成19年８月１日～11月29日
　　面　積　5,700㎡
　　担当者　北田　勲・川又　晋・高橋聡子
室内整理　期　間　平成19年11月１日～平成20年3月31日
　　担当者　北田　勲・高橋聡子

5　本報告書の作成は、北田・高橋が本文原稿、遺構・遺物図化を行った。また、Ⅰ調査に至る経過は岩手県久慈渡地方振興局土木部、Ⅱ－２地理的環境は菊池強一氏、附編 自然科学分析は１を株式会社火山灰考古学研究所、２を株式会社加速器分析研究所、３を株式会社第四紀地質研究所が行った。全体の編集は北田が行った。

6　分析・鑑定は次の機関等に委託した。

石器・石製品の石材鑑定　：　花崗岩研究会
火山灰同定分析　：　株式会社火山灰考古学研究所
放射性炭素年代測定　：　株式会社加速器分析研究所
黒曜石産地同定分析　：　株式会社第四紀地質研究所

7　座標原点の測量及び空中写真撮影は次の機関に委託した。

座標原点の測量　：　株式会社藤森測量設計
空中写真撮影　：　東邦航空株式会社

8　本書では、以下の地形図・地質図などを使用した。

・「1/25,000・1/50,000地形図 久慈」（国土地理院）
・「東北地方デジタル地質図２」『建設技術者のための東北地方の地質』（(株) 東北建設協会・(独) 産業技術総合研究所）　承認番号 第63500-A-20090119-001号
・「岩手県遺跡情報検索システム　2000年度版」（岩手県教育委員会事務局）

9　野外調査及び本報告書の作成にあたり、次の方々から御指導・ご助言をいただいた（敬称略・五十音順）。

菊池強一（岩手大学非常勤講師）、坂川進（八戸市博物館）、千葉啓蔵（久慈市教育委員会）

10　発掘調査資料は、全て岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

11　調査成果の一部については、現地説明会資料・岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成19年度）等に発表してきたが、本書の記載内容が優先するものである。

凡　　例

1　遺構図の用例は次の通りである。

（1）遺構実測図の縮尺は土坑の平面・断面図１/40、焼土遺構・配石遺構・ピットの平面・断面図１/20で表した。ただし規模の関係上これに合わないものもあるため、各図版にスケール及び縮尺を付した。

（2）推定線は破線で表した。また、遺構同士の切り合いは実線（切られている側は間隔を空ける）で表した。

（3）層位は、基本層序にローマ数字、各遺構堆積土などにアラビア数字を使用した。

（4）土層色調観察には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』を使用した。

（5）遺構図中の「P」は土器、「S」は石器または礫を表している。

2　遺物実測図の用例は次の通りである。

（1）遺物実測図の縮尺は縄文土器1/3、石器（剥片）2/3、石器（礫）1/3、石製品2/3で表した。ただし法量の関係上これに合わないものもあるため、各図版にスケール及び縮尺を付した。

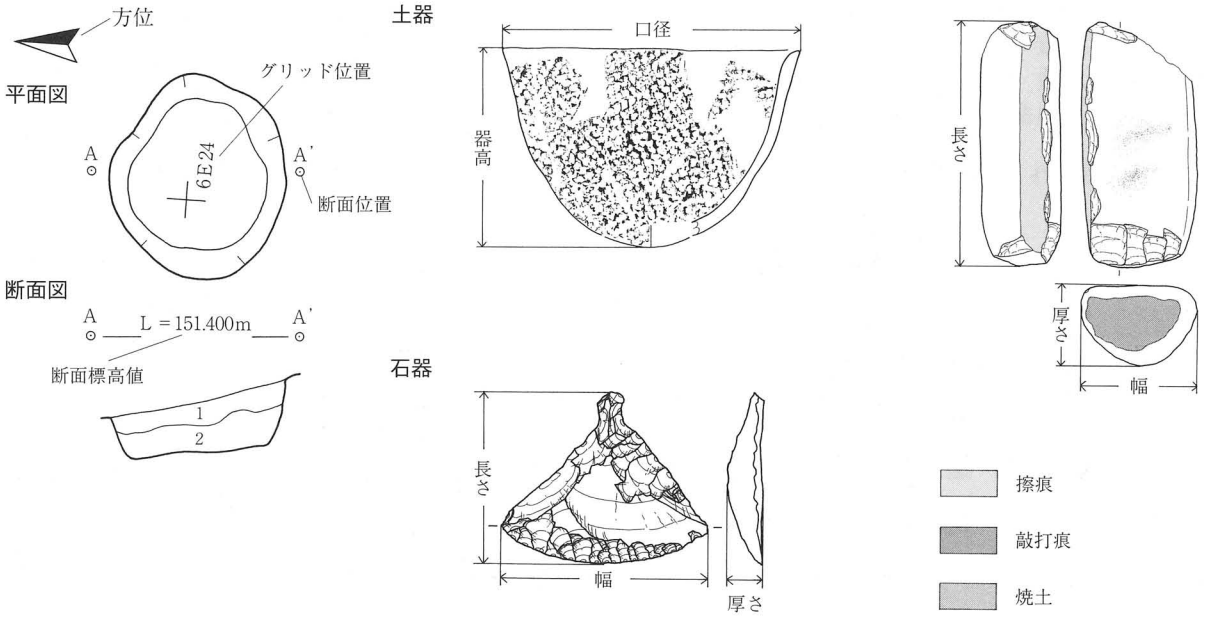
（2）剥片石器については、折れ面が存在する場合、その部分の実測図も付した。

（3）礫石器の擦痕については、スクリーントーンで示した。また、敲打痕についても、実測図で表現できない場合についてはスクリーントーンで示した。

3　写真図版の用例は次の通りである。

（1）遺構写真図版については基本的に平面及び断面写真をセットとし掲載した。

（2）遺物写真図版については、縮尺は基本的に遺物実測図に準じている。



遺構・遺物凡例図

目　　次

Ⅰ　調査に至る経過……1

Ⅱ　遺跡の立地と環境……2

1　遺跡の位置……2
2　地理的環境……4
3　歴史的環境……4
4　基本層序と調査区内の地形……10

Ⅲ　調査と整理の方法……13

1　野外調査方法……13
（1）グリッド設定……13
（2）試掘調査……15
（3）重機及び人力による粗掘・遺構検出……15
（4）遺構の調査方法……15
（5）遺物の取り上げ方……16
（6）遺構の命名について……16
2　整理方法……16
（1）遺　　構……16
（2）遺　　物（a. 土器　b. 石器）……16
（3）掲載図版の構成……17
3　野外調査経過……17

Ⅳ　検出遺構……19

1　遺物包含層……19
2　土　　坑……20
3　焼土遺構……21
4　集石遺構……21
5　ピット……21

Ⅴ　出　土　遺　物……28

1　土　　器……28

（1）群　別　土　器……28
（2）土器重量分布……29
（3）土器の個体数……29

2　石　　器……31

（1）尖　頭　器……31
（2）石　　鏃……31
（3）石　　錐……32
（4）石　　匙……32
（5）篦　状　石　器……33
（6）楔　形　石　器……34
（7）スクレイパー類……34
（8）二次加工ある剥片……35
（9）微細剥離痕ある剥片……35
（10）抉　入　石　器……35
（11）石　　核……35
（12）剥　　片……36
（13）石　斧　類……39
（14）礫　器　類……39
（15）敲　磨　器　類……40
（16）礫　石　錘……41
（17）砥　　石……41
（18）線　刻　礫……41
（19）石皿台石類……41

3　石　製　品……41

Ⅵ　調査のまとめ……76

1　遺　　構……76

2　遺　　物……76

附編　自然科学分析……79

1　火山灰同定分析……79

2　放射性炭素年代測定……84

3　黒曜石産地同定分析……87

報告書抄録……120

図版目次

第１図　岩手県全図・遺跡位置図…… 1
第２図　周辺の地形…… 2
第３－１図　遺跡周辺の地質図…… 3
第３－２図　遺跡周辺の地形断面図…… 3
第４図　周辺の遺跡分布図…… 5
第５図　基本土層（１）…… 7
第６図　基本土層（２）…… 8
第７図　基本土層（３）…… 9
第８図　基本土層（４）……10
第９図　基本土層（５）……11
第10図　基本土層（６）……12
第11図　グリッド配置図……14
第12図　遺構配置図……18
第13図　遺物包含層範囲図……22
第14図　１～９号土坑……23
第15図　10～17号土坑……24
第16図　18～25号土坑……25
第17図　26号土坑、1号焼土遺構、1･2号集石遺構……26
第18図　１～４号ピット……27
第19図　土器重量分布図（１～10グリッド）……30
第20図　石鏃長幅比率……31
第21図　石匙長幅比率……32
第22図　篦状石器長幅比率……33
第23図　楔形石器長幅比率……34
第24図　スクレイパー類長幅比率……35
第25図　石核長幅比率……36
第26図　剥片出土分布図……37
第27図　礫器類長幅比率……39
第28図　敲磨器類長幅比率……40
第29図　出土土器（１）……42
第30図　出土土器（２）……43
第31図　出土土器（３）……44
第32図　出土土器（４）……45
第33図　出土土器（５）……46
第34図　出土土器（６）……47
第35図　出土土器（７）……48
第36図　出土土器（８）……49
第37図　出土石器（１）……50
第38図　出土石器（２）……51
第39図　出土石器（３）……52
第40図　出土石器（４）……53
第41図　出土石器（５）……54
第42図　出土石器（６）……55
第43図　出土石器（７）……56
第44図　出土石器（８）……57
第45図　出土石器（９）……58

表　目　次

第１表　周辺の遺跡分布表…… 6
第２表　基準点位置……15
第３表　遺構名変更表……16
第４表　土器個体数……29
第５表　石鏃先端角集計表……31
第６表　石鏃分類別石材表……32
第７表　石匙刃角集計表……33
第８表　石匙分類別石材表……33
第９表　篦状石器刃角集計表……33
第10表　篦状石器分類別石材表……33
第11表　スクレイパー類分類別石材表……34
第12表　スクレイパー類刃角集計表……34
第13表　石核分類別石材表……35
第14表　石核剥離角集計表……36
第15表　剥片出土点数・重量集計表……38
第16表　石斧類分類別石材表……39
第17表　礫器類分類別石材表……40
第18表　敲磨器類分類別石材表……41
第19表　土坑観察表……59
第20表　焼土遺構観察表……59
第21表　集石遺構観察表……59
第22表　ピット観察表……59
第23表　土器観察表……60
第24表　尖頭器観察表……72
第25表　石鏃観察表……72
第26表　石錐観察表……72
第27表　石匙観察表……73
第28表　篦状石器観察表……73
第29表　楔形石器観察表……73
第30表　スクレイパー類観察表……73

第31表　二次加工ある剥片観察表……73
第32表　微細剥離痕ある剥片観察表……74
第33表　抉入石器（異形）観察表……74
第34表　剥片観察表……74
第35表　石核観察表……74
第36表　石斧類観察表……74
第37表　礫器類観察表……75
第38表　敲磨器類観察表……75
第39表　砥石観察表……75
第40表　線刻礫観察表……75
第41表　石皿台石類観察表……75
第42表　石棒類観察表……75

写真図版目次

写真図版１　遺跡遠景……94
写真図版２　遺跡近景、
　　尾根上西側トレンチ深掘……95
写真図版３　基本土層（１）……96
写真図版４　基本土層（２）……97
写真図版５　尾根上遺物包含層……98
写真図版６　１～４号土坑……99
写真図版７　５～８号土坑……100
写真図版８　９～13号土坑……101
写真図版９　14～17号土坑……102
写真図版10　18～21号土坑……103
写真図版11　22～25号土坑……104
写真図版12　26号土坑、１・２号集石……105
写真図版13　１号焼土、１～３号ピット……106
写真図版14　４号ピット、
　　遺物出土状況、作業風景……107
写真図版15　出土土器（１）……108
写真図版16　出土土器（２）……109
写真図版17　出土土器（３）……110
写真図版18　出土土器（４）……111
写真図版19　出土土器（５）……112
写真図版20　出土土器（６）……113
写真図版21　出土土器（７）……114
写真図版22　出土石器（１）……115
写真図版23　出土石器（２）……116
写真図版24　出土石器（３）……117
写真図版25　出土石器（４）……118
写真図版26　出土石器（５）……119

Ⅰ　調査に至る経過

本波Ⅷ遺跡は、「緊急地方道路整備事業本波工区」の道路改良工事に伴い、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

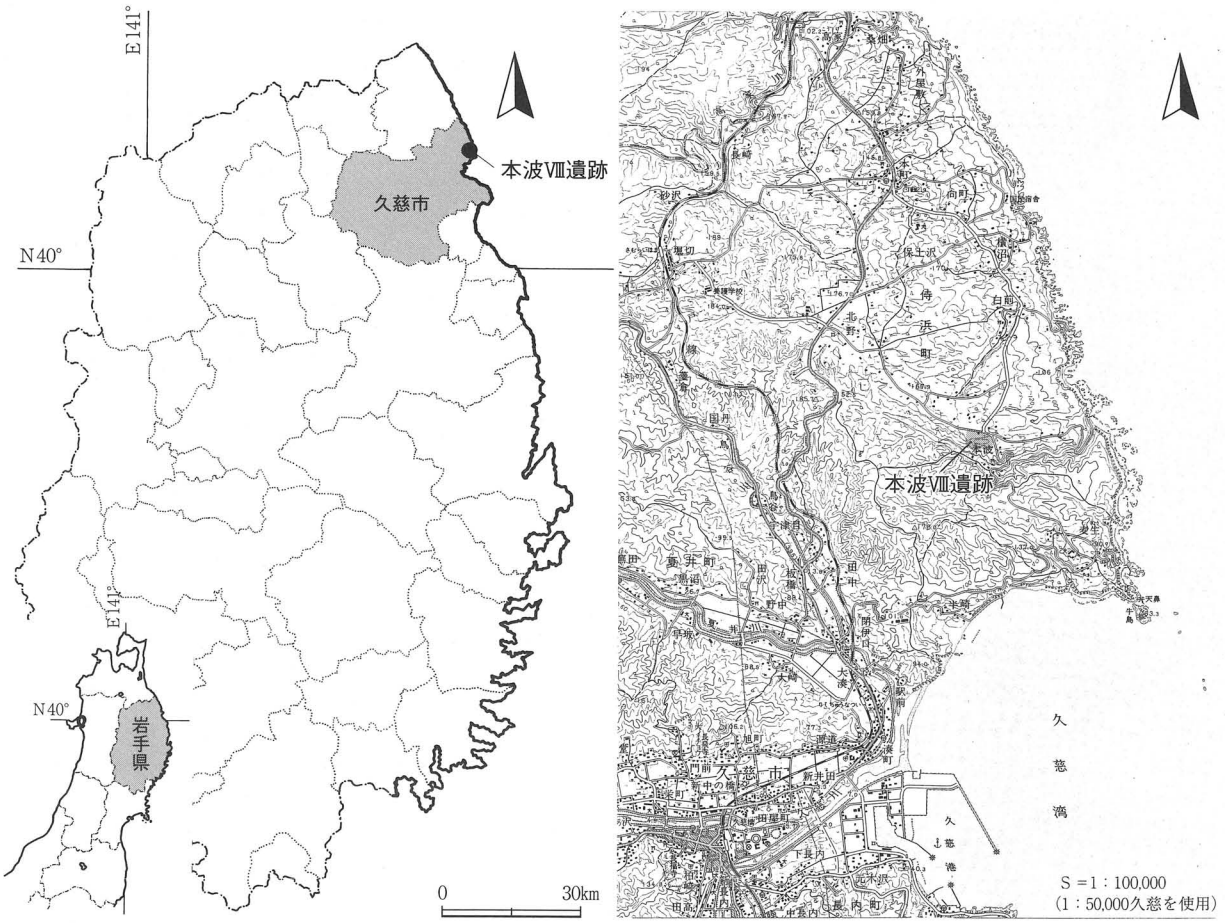
一般県道侍浜夏井線は久慈市北東部に位置し、一般国道45号（久慈市侍浜町）から一般国道395号（久慈市夏井町）に至る、一般国道45号の代替機能を持つ生活道路である。事業対象地域である「本波工区」は、険しい地形に沿って、幅員狭小、急カーブ、急勾配が連続する隘路で、安全で円滑な交通に支障をきたしている。このため、道路を整備することにより、隘路を解消し生活道路としての機能強化を図り、安全で円滑な交通を確保することを目的に事業着手したものである。

当事業の施行に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、久慈地方振興局土木部から平成18年７月19日付久地木第512号「緊急地方道路整備事業実施計画における埋蔵文化財の試掘調査について（依頼）」により岩手県教育委員会に対して試掘調査の依頼を行った。

依頼を受けた岩手県教育委員会は平成18年８月１日～２日及び８月24日～25日に試掘調査を実施し、工事に着手するには本波Ⅷ遺跡の発掘調査が必要となる旨を平成18年９月５日付教生第793号「緊急地方道路整備事業実施計画における埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」により当土木部へ回答してきた。

その結果を踏まえて当土木部は岩手県教育委員会と協議し、調整を受けて平成19年７月31日付けで財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

（岩手県久慈地方振興局土木部）



第１図　岩手県図・遺跡位置図

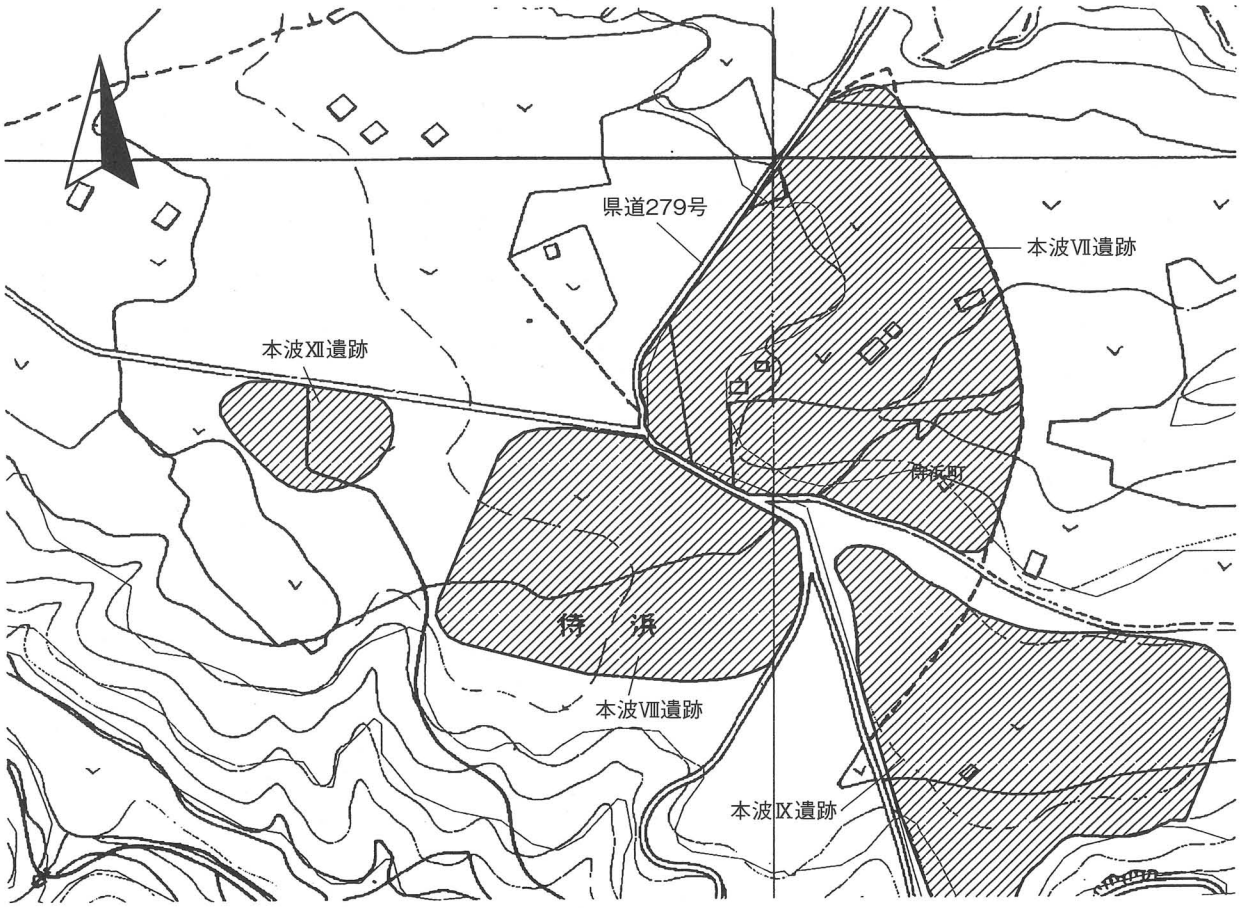
Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　遺 跡 の 位 置

本波Ⅷ遺跡は岩手県久慈市侍浜町本波第11地割51－32ほかに所在し、国土地理院発行25,000分の１地形図「久慈」の図幅に含まれ、北緯40度14分20秒、東経141度48分36秒に位置する。遺跡は、久慈市役所の北北東に約5.6kmの場所にあり、九戸段丘（白前段丘）面である尾根状の微高地に立地している。標高は133～153m、現況は山林・原野・牧草地である。

久慈市は東に太平洋を望み、北に洋野町・軽米町、西に葛巻町・九戸村、南に岩泉町・野田村と接する岩手県沿岸北部の中核都市である。平成18年３月６日に、西に隣接していた山形村と合併し、新「久慈市」が発足した。人口は39,141人（平成17年度国勢調査調べ）、総面積623.14km²で、漁業を第一次産業とし、「海洋に拓かれた都市」づくりを目指している。

遺跡の所在する侍浜町は、久慈市の中で沿岸の北端に位置しており、高家・川津内・横沼・白前・本波・麦生などの漁港が入り組んだ海岸線に点在している。漁業は大変盛んで、ウニ・アワビをはじめ、ワカメや昆布、シャケ・イナダ・ドンコ・イカなど様々な海産物が獲れる。また、本波地区は牧畜も主要な産業であり、周辺には酪農牛のための牧草地が拡がっている。加えて、ほうれん草の栽培に従事している家庭も多い。久慈湾に臨む半崎地区には久慈国家地下石油備蓄基地があり、175万kl（全



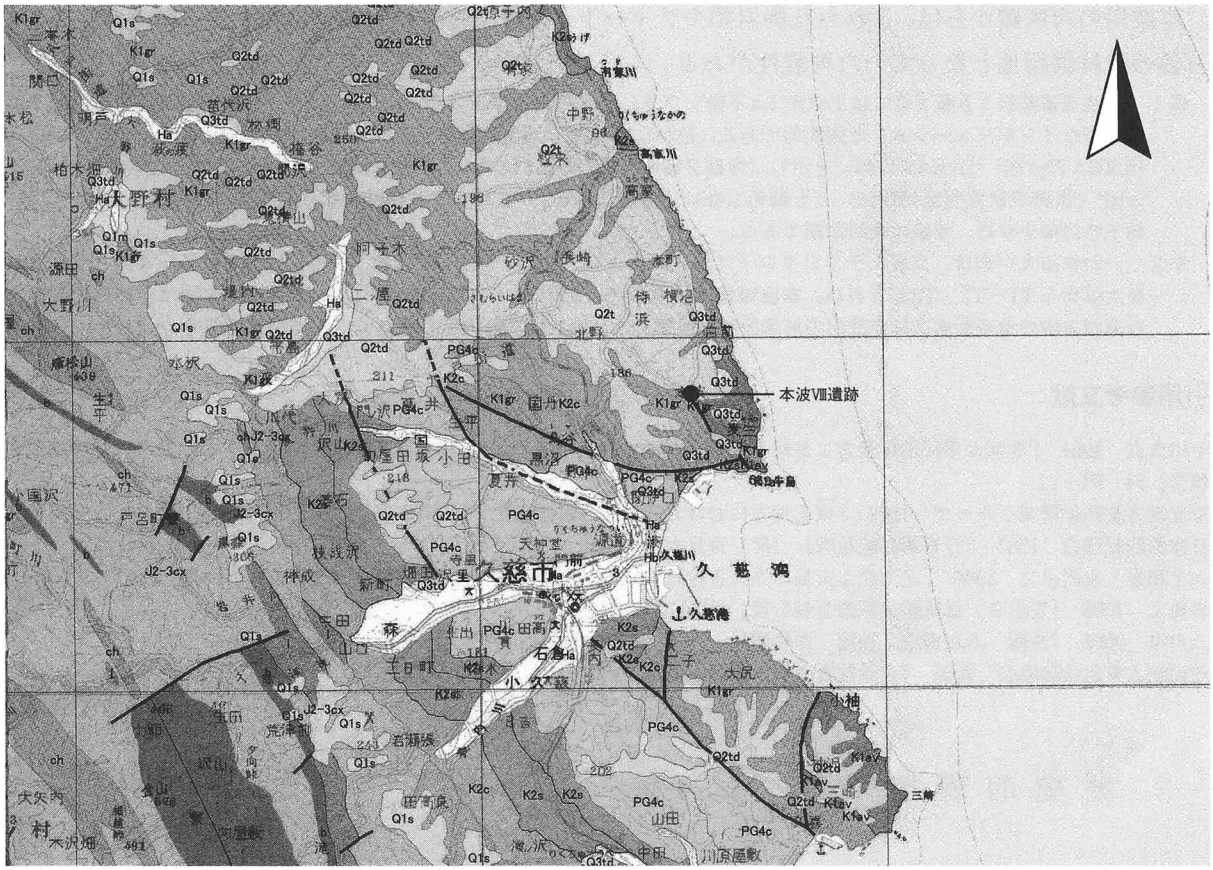
第２図　周辺の地形（1：5,000）

国消費量の約３日分、岩手県内消費量の約１年分に相当）を貯蔵できるタンクが地下の岩盤を刳り貫いて設置されており、地下利用施設「もぐらんぴあ」が併設されている。

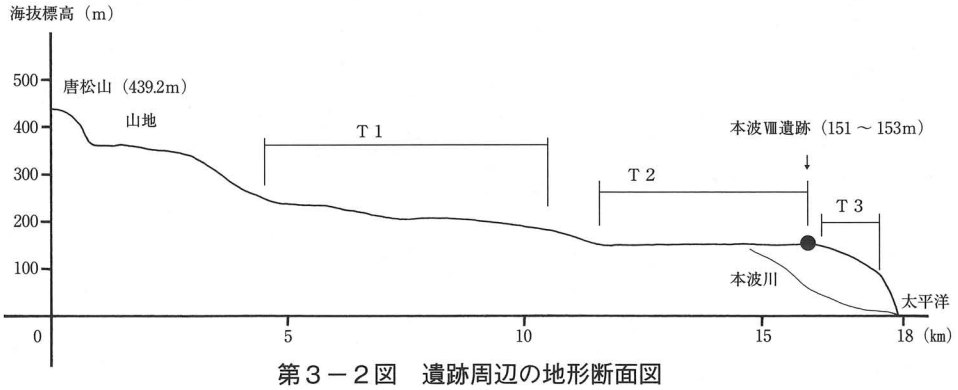
侍浜町を南北に縦断するように国道45号が通っており、沿岸部を結ぶ基幹道路となっている。久慈市侍浜支所近くの交差点から県道279号（一般県道侍浜夏井線）が海岸沿いに平行して通っており、本波神社の北側の東西に走る農免道と交差する小高い丘陵地に本遺跡がある。

2　地理的環境

本波Ⅷ遺跡は海抜高度133～153m、定高性があり、波状丘陵化した中期更新世の高位段丘面上（九戸面、Ｔ１～３）に立地する。



第３－１図　遺跡周辺の地質図（1：200,000）社団法人東北建設協会（2006）より引用　本波Ⅷ遺跡の位置を加筆



第３－２図　遺跡周辺の地形断面図

遺跡の南には東西方向に開析谷が発達し、V字状の狭い谷底を本波川（呼称）が東流して太平洋に注いでいる。本波川の現河床面からの比高差は65～80m、典型的な岩石砂礫段丘である（第３－２図）。

段丘面は十和田起源の厚いテフラと下位に腐り礫化した薄い段丘礫層で構成されている。周辺の露頭観察によれば、その推定層厚は、段丘礫層２m、被覆テフラが９mである。テフラの上部にAT[※1]、中部にAso-4、Toyaなどの広域火山灰を含み、Toyaの下位から赤色風化殻が発達して、段丘礫層は腐り礫化している。

段丘群の基盤岩は、北部北上山地の安家－田野畑帯（大上・永広 1988）堆積岩類と白亜紀に貫入した花崗岩に代表される（第３－１図）。

遺跡直下は両者の接触域にあたり、遺跡南側の段丘崖には花崗岩とその風化帯が散見される。また、遺跡直下まで南東から北西方向に断層が延び、断層を境に東側が段丘面高度を下げる[※2]。

本波川の河床礫からは、これら花崗岩類やチャート、頁岩などの拳大の亜角礫～亜円礫が散見され、石器の母材供給地となっていた可能性がある。

※１　本波Ⅷ遺跡第Ｖｂ層下位にはTo-Of（大不動テフラ）由来の火山ガラスが検出されており（附編１参照）、同層準下部の顕著なインボリューションと調和的である。しかし、Ｖｂ層下部泥炭質粘土層から採取した木炭片のC14･AMS年代は、15,300±70yrBP（IAAA-71749）を示し（附編２参照）、南対岸に位置する麦生Ⅸ遺跡の同層準C14・AMS年代45,100±yrBP（古環境研究所№101216）とも調和しない（附編２参照）。広域テフラの推定年代とC14年代の逆転については、地下水汚染を含め、今後の検討課題である。

※２　いわゆる九戸面は、高度とテフロクロノロジィによって、上位・中位・下位の三面群に区分される。また、それぞれを上位からT1・T2・T3とまとめ、本波Ⅷ遺跡はT2からT3面にかけて立地分布している。３－２図は本波Ⅷ遺跡を含む東西方向の地形断面図に本波川の河床断面を投影した。前者は切峰面図の最高位点で作図してある。

引用参考文献

中川久夫　1961「本邦太平洋沿岸地方における海水準静的変化と第四紀編年」『東北大学理学部地質学古生物学教室研究邦分報告』54　P1－61
東北地方第四紀研究グループ　1969「東北地方における第四紀海水準変化」『地団研専報』15　P37－83
日本第四紀学会　1987『日本第四紀地図』（財）東京大学出版会
大上和良・永広昌之　1988「北部北上山地の先宮古統堆積岩類に関する研究の総括と現状」『地球科学』42　P187―201
岩埋文　1998『麦生Ⅲ・Ⅸ遺跡発掘調査報告書』岩埋文第274集
八戸市　2005『新編　八戸市史　別編　自然編』
社団法人東北建設協会　2006『建設技術者のための東北地方の地質』

（菊池強一）

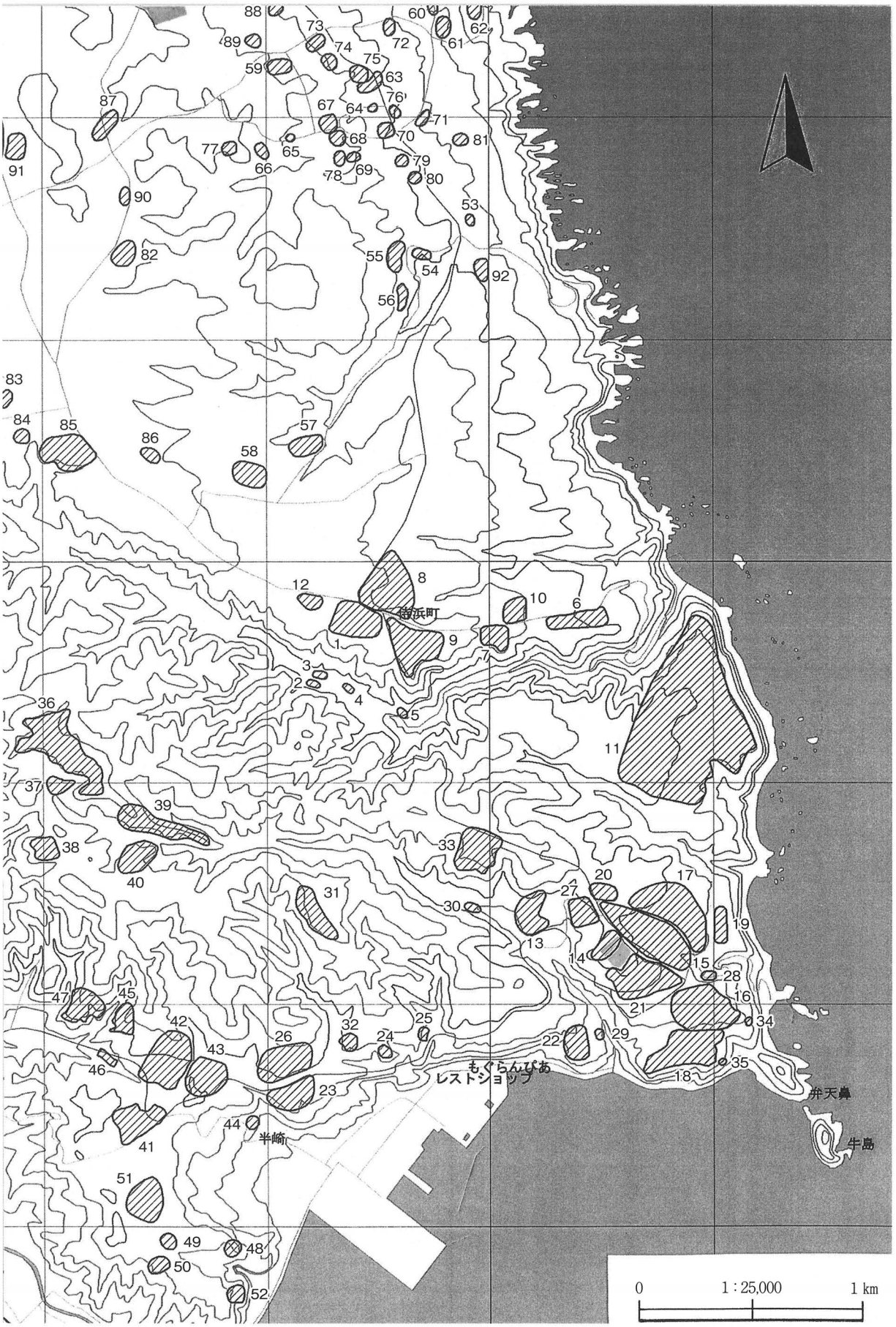
3　歴史的環境

久慈市では岩手県教育委員会によると、平成20年３月31日現在で615遺跡が報告されている。この中で本遺跡を中心とし、久慈市侍浜町に点在する計92遺跡を第４図・第１表に示した。

久慈市内の遺跡分布については、これまで久慈市教育委員会が詳細な分布調査を行っている（久慈市教委　1990～1996）。また、久慈市教委、岩手県埋蔵文化財センターの調査報告書が多く刊行されているため、詳細はそれらに譲りたい。ここでは本遺跡近隣と縄文時代前期について触れる。

本遺跡の所在する久慈市侍浜町本波地区には現在のところ本波Ⅰ～ⅩⅡの計12遺跡が確認されている（久慈市教委　1995）。遺跡の立地は、大半の遺跡が海岸段丘上に形成されており、段丘上平坦面を中心に分布が見られる。この地域一帯の遺跡密度は濃く、半崎・麦生地区（久慈市教委　1990）や侍浜地区（久慈市教委　1995）では数多くの遺跡が分布している。

縄文時代前期の遺物を出土しているのは、本波Ⅵ～Ⅹの５遺跡で、いずれも本遺跡の周辺に分布している。本波Ⅶ遺跡からは今回の調査で出土した繊維混入の縄文土器が検出されている。

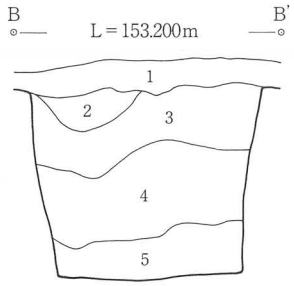


第４図　周辺の遺跡分布図

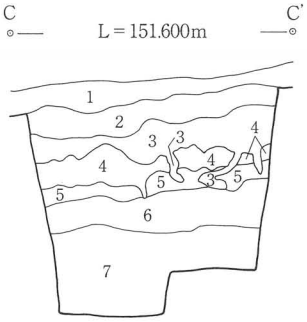
第１表　周辺の遺跡一覧表

No.	遺跡コード	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物	所在地	備考
1	JG10-0332	本波Ⅷ	散布地	縄文	縄文土器、石器	侍浜町本波11-45-3	本報告
2	JG10-0351	本波Ⅰ	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	侍浜町本波9-15-5	
3	JG10-0352	本波Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	侍浜町本波11-12-1	
4	JG10-0353	本波Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器（後期）	侍浜町本波11-71	
5	JG10-0364	本波Ⅳ	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	侍浜町本波11-25	
6	JG11-0025	本波Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器、石鏃	侍浜町本波12－39	
7	JG10-0339	本波Ⅵ	散布地	縄文	縄文土器（前期）、石鏃	侍浜町本波12	H13範囲拡大
8	JG10-0305	本波Ⅶ	散布地	縄文	縄文土器（前・中・後期）、石鏃、フレイク	侍浜町本波11-68	
9	JG10-0335	本波Ⅸ	散布地	縄文	縄文土器（前期）、石匙	侍浜町本波8-7	H13範囲拡大
10	JG11-0021	本波Ⅹ	散布地	縄文	縄文土器（前期）	侍浜町本波12-34	H13範囲拡大
11	JG10-0048	本波ⅩⅠ	集落跡？	縄文	縄文土器（後期）	侍浜町本波4	
12	JG10-0301	本波ⅩⅡ	散布地	縄文	縄文土器(後期)	侍浜町本波11	
13	JG11-1052	麦生Ⅰ	集落跡	縄文・古代	縄文土器（前・後期）、土師器、竪穴住居跡	侍浜町麦生7-26	平成元年度試掘調査
14	JG11-1074	麦生Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器（前期）	侍浜町麦生3	
15	JG11-1077	麦生Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器（前・中・後期）	侍浜町麦生5	H8発掘調査
16	JG11-1099	麦生Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器（後期）	侍浜町麦生1－2－8	
17	JG11-1058	麦生Ⅴ	散布地	縄文・古代	縄文土器（後期）、土師器	侍浜町麦生4－36－10	
18	JG11-2018	麦生Ⅵ	集落跡	縄文	縄文土器（後期）	侍浜町麦生1－22	
19	JG11-1160	麦生Ⅶ	散布地	縄文	縄文土器（前期）	侍浜町麦生4－36－22	
20	JG11-1045	麦生Ⅷ	散布地	縄文	縄文土器（後期）	侍浜町麦生4	
21	JG11-1086	麦生Ⅸ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（後期）、弥生土器	侍浜町麦生3－29－2	H13範囲拡大・H8調査
22	JG11-2013	麦生Ⅹ	散布地	縄文	縄文土器（前・後期）	侍浜町麦生1	
23	JG10-2230	麦生ⅩⅠ	散布地	縄文・弥生	縄文土器、弥生土器	侍浜町麦生1	
24	JG10-2215	麦生ⅩⅡ	散布地	縄文	縄文土器（後期）	侍浜町麦生2	
25	JG10-2216	麦生ⅩⅢ	散布地	縄文	縄文土器（後期）	侍浜町麦生2	
26	JG10-2320	麦生ⅩⅣ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（中・後期）、弥生土器	侍浜町麦生2	
27	JG11-1064	麦生ⅩⅤ	散布地	縄文	縄文土器（後期）	侍浜町麦生6	
28	JG11-1089	麦生ⅩⅥ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（前・後期）、弥生土器、鉄滓	侍浜町麦生4	
29	JG11-2004	麦生ⅩⅦ	散布地	縄文	縄文土器（後期）、鉄滓	侍浜町麦生1	
30	JG10-1357	麦生ⅩⅧ	散布地	縄文	縄文土器（前・中・後期）	侍浜町麦生7	
31	JG10-1351	麦生ⅩⅨ	散布地	縄文	縄文土器	侍浜町麦生2	
32	JG10-2322	麦生ⅩⅩ	散布地	縄文	縄文土器（後期）	侍浜町麦生2	
33	JG10-1338	麦生ⅩⅩⅠ	集落跡	縄文	縄文土器（後・晩期）	侍浜町麦生7	平成元年度試掘調査
34	JG11-2111	麦生ⅩⅩⅡ	砲台場跡	近世	土塁	侍浜町麦生1	
35	JG11-2120	麦生ⅩⅩⅢ	砲台場跡	近世	土塁	侍浜町麦生1	H5.4.28市指定史跡
36	JG10-0189	滝合Ⅰ	集落跡	縄文	竪穴住居跡（縄文前期）、陥し穴状遺構、縄文土器（前期）・石鏃	侍浜町本波9-43-27	昭和62年度調査
37	JG10-1200	滝合Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器（前期）	侍浜町本波9	H13範囲拡大
38	JG10-1139	滝合Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器（前期）	夏井町字鳥谷5	H13範囲拡大
39	JG10-1214	滝合Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器（後期）	侍浜町麦生9	
40	JG10-1234	滝合Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器	侍浜町麦生9	
41	JG10-2254	半崎Ⅰ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（前・後期）、弥生土器	夏井町閉伊口5	
42	JG10-2235	半崎Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器（前期）	夏井町閉伊口5－77-2	範囲拡大
43	JG10-2236	半崎Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器（後期）	夏井町閉伊口8	
44	JG10-2259	半崎Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器(前・後期)、フレイク	夏井町閉伊口8	
45	JG10-2213	半崎Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器	夏井町閉伊口	
46	JG10-2222	半崎Ⅵ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（前・中・後期）、弥生土器	夏井町閉伊口3	
47	JG10-1291	半崎Ⅶ	散布地	縄文	縄文土器（早・前・後期）	夏井町閉伊口	
48	JG20-0218	半崎南Ⅰ	散布地	縄文・古代	須恵器、縄文土器、フレーク	夏井町閉伊口9	
49	JG20-0206	半崎南Ⅱ	散布地	縄文	製塩土器	夏井町閉伊口9	
50	JG20-0224	半崎南Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器（前期）、剥片	夏井町閉伊口9	
51	JG10-2283	半崎南Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器	夏井町閉伊口8	
52	JG20-0237	半崎南Ⅴ	散布地	縄文・弥生	縄文土器、弥生土器	夏井町閉伊口9	
53	JG00-1339	白前Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（前・中・後期）	侍浜町白前6-18-44	
54	JG00-1356	白前Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器（早・前・中・後期）	侍浜町白前4-32	
55	JG00-1345	白前Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器（前期）、石鏃	侍浜町白前4	
56	JG00-1375	白前Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器（前・後期）、石匙	侍浜町白前4-2-9	
57	JG00-2331	白前Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器（後期）	侍浜町白前3	
58	JG00-2259	白前Ⅵ	散布地	縄文	縄文土器（後期）	侍浜町白前1-137-6	
59	JG00-0370	横沼Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（後期）	侍浜町横沼9-144	
60	JG00-0357	横沼Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器（後期）	侍浜町横沼7-10	
61	JG00-0367	横沼Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器（後期）	侍浜町横沼8-12	
62	JG00-0359	横沼Ⅴ	散布地	古代	土師器	侍浜町横沼8	
63	JG00-0384	横沼Ⅵ	集落跡	縄文	縄文土器（前：円筒下層式・後期）・石器	侍浜町横沼9-57	
64	JG00-0395	横沼Ⅶ	散布地	縄文	縄文土器（前期）	侍浜町横沼9-70	
65	JG00-1301	横沼Ⅷ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（前期）、弥生土器	侍浜町保土沢9-12	
66	JG00-1310	横沼Ⅸ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（前期）・弥生土器	侍浜町横沼11-155	
67	JG00-1302	横沼Ⅹ	散布地	縄文	縄文土器（後・晩期）	侍浜町横沼6-15	H13範囲変更
68	JG00-1314	横沼ⅩⅠ	散布地	縄文	縄文土器（後期）	侍浜町横沼9-107	H13範囲変更
69	JG00-1314	横沼ⅩⅡ	散布地	縄文	縄文土器（前・中・後期）	侍浜町横沼10-107	
70	JG00-1305	横沼ⅩⅢ	散布地	縄文	縄文土器（早期）	侍浜町横沼9-87	
71	JG00-1306	横沼ⅩⅣ	散布地	縄文	縄文土器（前・後期）	侍浜町横沼7-45	
72	JG00-0355	横沼ⅩⅤ	散布地	縄文	縄文土器（後期）	侍浜町横沼8-68	
73	JG00-0352	横沼ⅩⅥ	散布地	縄文	縄文土器（前期）	侍浜町横沼9-38	
74	JG00-0362	横沼ⅩⅦ	散布地	縄文	縄文土器（前期）	侍浜町横沼7-7	
75	JG00-0363	横沼ⅩⅧ	散布地	縄文	縄文土器（前期）	侍浜町横沼9-56	
76	JG00-0385	横沼ⅩⅨ	散布地	縄文	縄文土器（前・後期）	侍浜町横沼8-20	
77	JG00-1208	横沼ⅩⅩ	散布地	縄文	縄文土器（後期）	侍浜町横沼8-44	H13範囲変更
78	JG00-1313	横沼ⅩⅩⅠ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（早期）、弥生土器	侍浜町横沼10	
79	JG00-1305	横沼ⅩⅩⅡ	散布地	縄文	縄文土器（前期）	侍浜町横沼9-18-97	
80	JG00-1315	横沼ⅩⅩⅢ	散布地	縄文	縄文土器（前・後期）	侍浜町横沼6	
81	JG00-0398	横沼ⅩⅩⅣ	散布地	縄文	縄文土器（前・後期）	侍浜町横沼6-11-2	
82	JG00-1263	北野Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器（後期）、石器	侍浜町保土沢8-45-50	
83	JG00-2118	北野Ⅷ	散布地	縄文・古代	縄文土器（後期）、土師器	侍浜町字北野10-182	
84	JG00-2138	北野Ⅸ	散布地	縄文	縄文土器（後期）	侍浜町字北野10-185	
85	JG00-2231	北野Ⅹ	散布地	縄文	縄文土器（後期）、石斧、磨石、敲石、フレイク	侍浜町字北野10-93	
86	JG00-2244	北野ⅩⅠ	散布地	縄文	縄文土器（後期？）	侍浜町字北野3-10	
87	JG00-1202	保土沢Ⅱ	散布地	縄文・弥生・古代	縄文土器（前期）、弥生土器、土師器、アメリカ式石鏃	侍浜町保土沢43-96	H13範囲拡大
88	JG00-0249	保土沢Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器（後期）	侍浜町保土沢9-6-1	
89	JG00-0258	保土沢Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器（後期）	侍浜町保土沢9-115	
90	JG00-1233	保土沢Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器（後期）	侍浜町保土沢8-45-53	
91	JG00-1109	保土沢北	散布地	縄文	縄文土器（後期）	侍浜町保土沢8-25-23	
92	JG01-1070	西久保	散布地	縄文	縄文土器（早・前・後期）、石鏃、石斧	侍浜町白前4-23	

尾根上西側北基本土層



尾根上西側中央基本土層



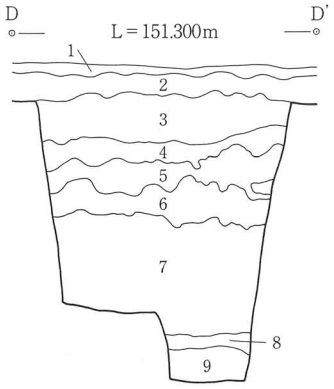
尾根上西側北基本土層

1. 10YR2/2 ～ 2/3 黒褐色　粘性やや弱　締まりやや疎　表土層　植物根多い　炭化物２～３％
2. 10YR4/4 褐色粘土質　粘性やや弱　締まり疎～やや疎　根カクラン or ピット？（締まりない）
3. 10YR5/6 黄褐色粘土質　粘性やや弱　締まりやや疎　地山
4. 10YR5/6 黄褐色～ 6/6 明黄褐色粘土質　粘性やや弱　締まりやや疎　３層より明るい
5. 10YR6/6 明黄褐色粘土質　粘性やや弱　締まりやや疎～中　水分若干多い　４層より明るい
　→３～５層にかけて、グラデーションのように深くなるほど明るくなる。

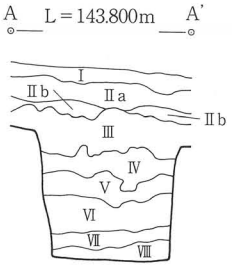
尾根上西側中央基本土層

1. 10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　締まりやや疎　植物根、水分多い　表土
2. 10YR3/3 ～ 3/4 暗褐色　粘性やや弱　締まりやや疎を主体に 10YR5/6 黄褐色を靄状に散在（植物根部分か）（遺物包含層）
3. 10YR3/4 暗褐色　粘性やや弱　締まりやや疎　（遺物包含層）
4. 10YR3/4 暗褐色　粘性やや弱　締まりやや疎～中　To-Cu パミス（径１㎜）３～５％ 散在
5. 10YR4/6 褐色　粘性やや弱　締まり中　To-Cu パミス（径１～３㎜）２～３％ 散在（上部に多く、４層より少ない）
6. 10YR5/6 黄褐色粘土質　粘性やや弱　締まり中　地山層
7. 10YR6/6 明黄褐色粘土　粘性中～やや強　締まりやや強

尾根上西側南基本土層



北斜面北端基本土層



尾根上西側南基本土層

1. 10YR2/3 黒褐色　粘性弱　締まり疎　植物腐食層　表土
2. 10YR2/3 黒褐色　粘性やや弱　締まり疎～やや疎　Ⅱ層起源
3. 10YR3/4 暗褐色　粘性やや弱　締まりやや疎
4. 10YR3/4 暗褐色　粘性やや弱　締まりやや疎～中　To-Cu パミス（径１㎜）２～３％散在
5. 10YR3/4 暗褐色～ 4/4 褐色　粘性やや弱　締まり中　To-Cu パミス（径１～３㎜）３～５％散在（上部に多い）
6. 10YR4/6 褐色粘土質　粘性やや弱　締まり中　To-Nb パミス（径５～ 10 ㎜）１～２%散在
7. 10YR5/6 黄褐色粘土質　粘性やや弱～中　締まり中
8. 10YR6/6 明黄褐色粘土　粘性強　締まりやや強　粘土層（９層より粘性、締まり強い）
9. 10YR5/8 黄褐色粘土　粘性やや強　締まり中～やや強　粘土層

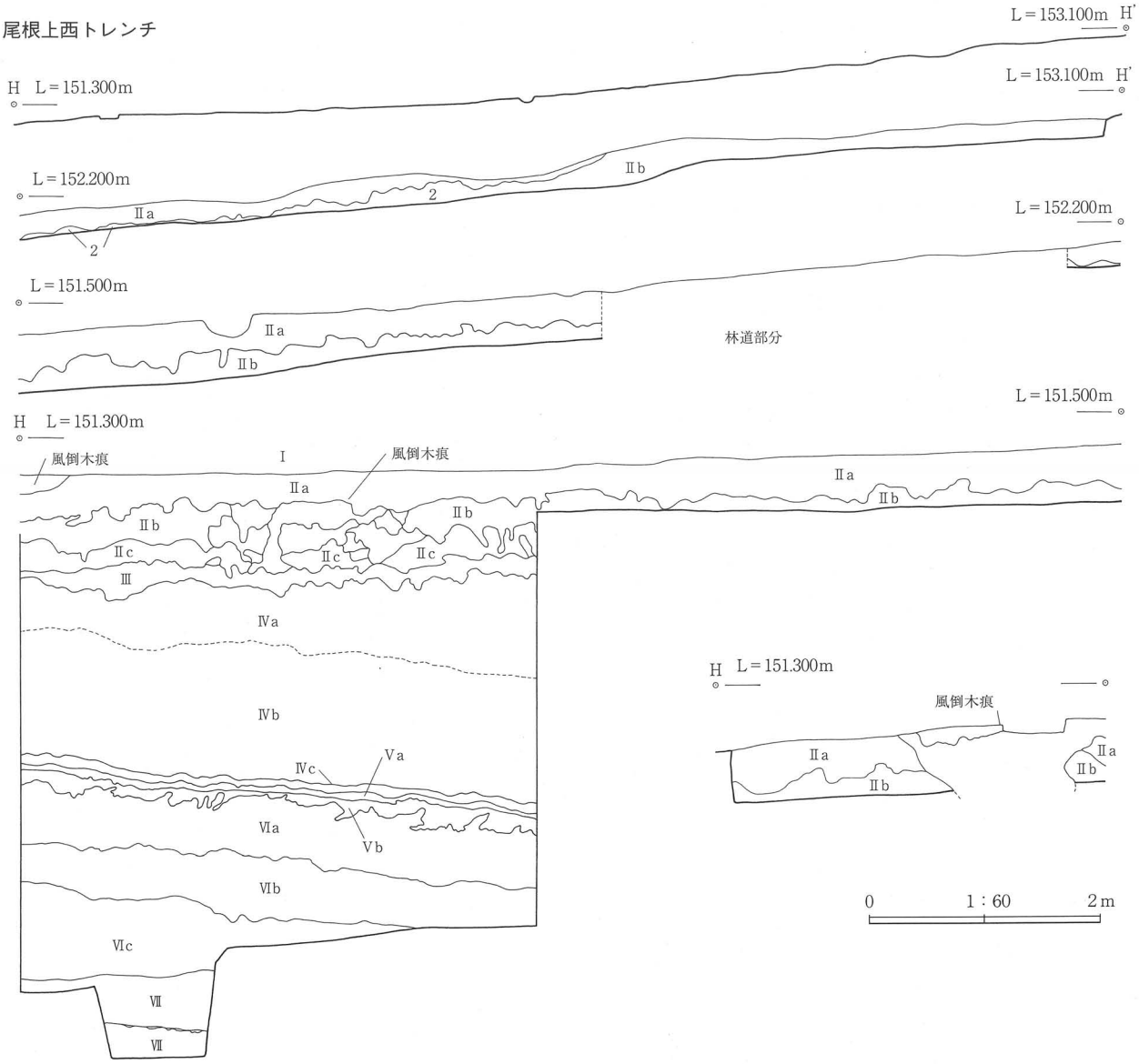
北斜面北端基本土層

Ⅰ. 10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　締まりやや疎　表土
Ⅱa. 10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　締まり中　炭化物（径２～３㎜）１％未満、To-Cu パミス（径１～２㎜）が層全体に分散する（２％）
Ⅱb. 10YR2/3 黒褐色　粘性中　締まり中　To-Cu ？パミス（径１～５㎜）が層全体に分散する（５％）。漸移層。
Ⅲ. 10YR4/4 褐色粘質シルトと 10YR3/3 暗褐色シルトが 6:4 の割合で混合。粘性やや強　締まりやや密　To-Cu ？パミス（径１～８㎜）が層全体に分散する（15%）
Ⅳ. 10YR4/6 褐色粘質シルト　粘性やや強　締まりやや密　To-Cu ？パミス（径２～８㎜）を１％未満含む
Ⅴ. 10YR5/8 黄褐色　粘性中　締まり密　To-Cu ？パミス（径３～８㎜）を１％未満含む
Ⅵ. 10YR5/8 黄褐色粘質シルト　粘性やや強　締まり密
Ⅶ. 10YR6/8 明黄褐色粘質シルト　粘性やや強　締まり密　Ⅷ層と同質の火山灰がブロック状（径８～ 10 ㎜）に５％混入。ブロックは下位に集中。
Ⅷ. 2.5Y7/6 明黄褐色　粘性弱　締まりやや疎　段丘構成層

0　1：60　2m

第５図　基本土層（１）

尾根上西トレンチ



尾根上西トレンチ

Ⅰ 黒褐色表土層（10YR2/3）。腐植土。

Ⅱ a 暗褐色土（10YR3/3）。縄文時代前期前葉遺物包含層。

　b 暗褐色土（10YR3/3）に直径１～２㎜の黄橙色火山灰粒を３～７％の密度で含む。

　c 褐色土（10YR4/4）に直径２～５㎜の黄橙色火山灰粒を３％程度の密度で含む。

Ⅲ 黄褐色細粒火山灰層（10YR5/6）。直径１～２㎜の浅黄橙色火山灰を２～３％含む。

Ⅳ a 浅黄橙色細粒火山灰層（7.5YR8/4）。非常に締まった角柱状節理が発達し、本層下部 10 ～ 15 ㎝に著しい。

　b 層厚 10 ～ 15 ㎝、N-60°-E、傾斜 30° NW で計 27 層の斜行葉理層が発達する。一部、下部から 1 ～ 1.5m の範囲に偽装葉理が見られる。層の堆積は、上方に向かって級化が認められ、部分的に直径３～５㎜大の木炭片を３％ほど含む。

　c 明褐色砂質粗粒火山灰層（7.5YR5/6）。黄橙色軽石（10YR8/8）を ± ２％含む（直径 ± ３㎜）。黒雲母混入。

Ⅴ にぶい橙色火山灰質粘土層（7.5YR6/4）。上部から５㎝の範囲に赤黒色（2.5YR1.7/1）の木炭片ないし泥質化した粘土層がレンズ状に包含される。

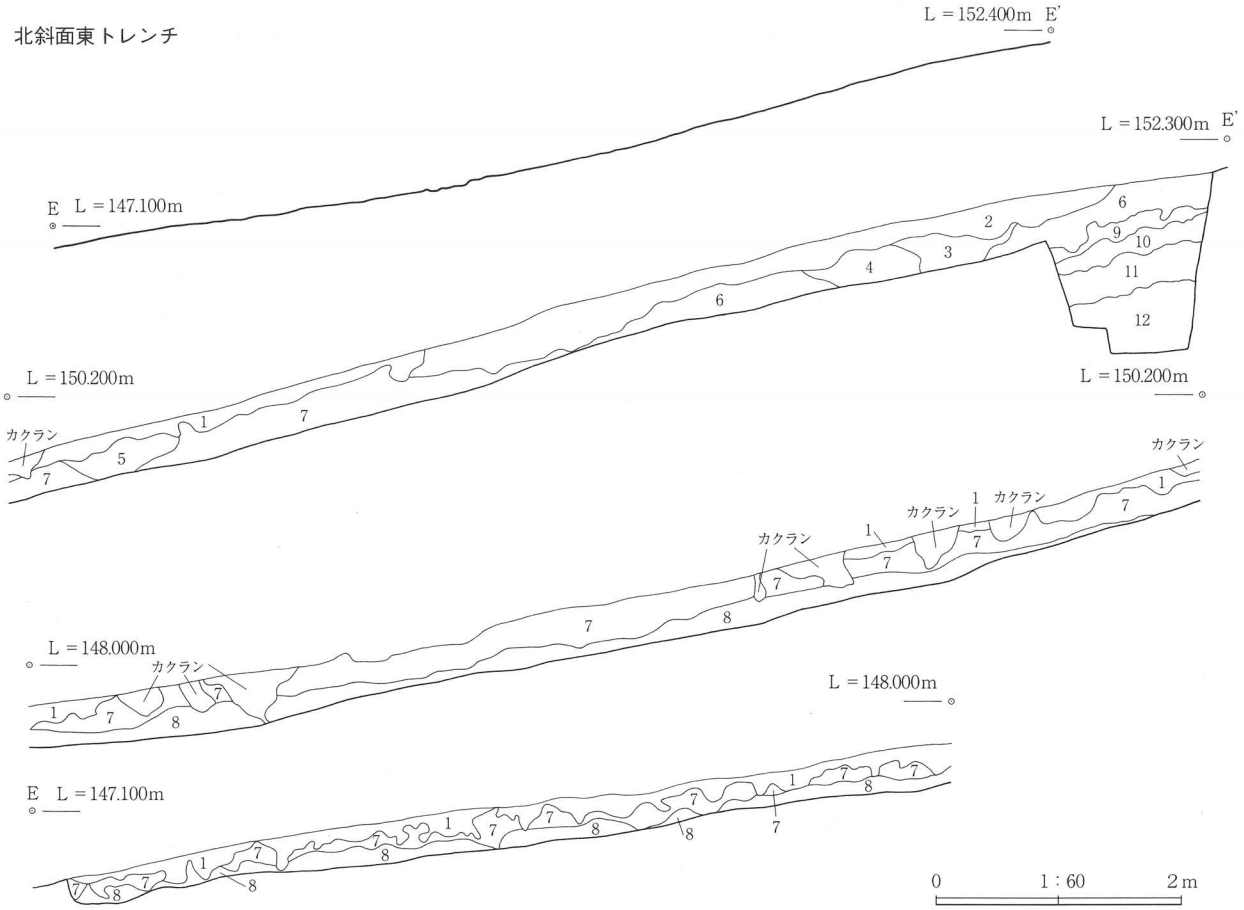
Ⅵ a 黄褐色浮石質火山灰層（10YR5/8）。上半部は軽石粒が２％前後含む。下部 20 ㎝に直径３～７㎜大の発泡の良い淡黄色軽石粒を 10 ～ 15% 含む。

　b 明褐色浮石質火山灰層（7.5YR5/6）。最下部より 25 ㎝の部分に浅黄橙色軽石（7.5YR8/3 ～ 6）を１％含む（直径２～３㎜）。最下部から 15 ㎝の部分はやや泥質火山灰で直径５～８㎜大の粘土塊（Rounded= 円磨されたもの→下層と不整合な証拠）を含む。粘土塊の密度は約７％。

　c 7.5YR5/8 明褐色火山灰層。底から約 30 ㎝の部分まで直径 ± １㎝の粘土塊（Rounded）を 20% 含む。炭化粒（直径２㎜）を２％前後含む。

Ⅶ 褐色粗粒火山灰層（7.5YR4/4）。層厚１m＋α。輝石・角閃石・磁鉄鉱・安山岩・軽石、直径２×３㎜の A（角礫）および火山ガラスが見られる。層中に直径 2.5× ３㎜ないし 1.5× ２㎜大に堆積するレンズ状の 5YR5/8 明赤褐色火山灰を含む。

第６図　基本土層（２）



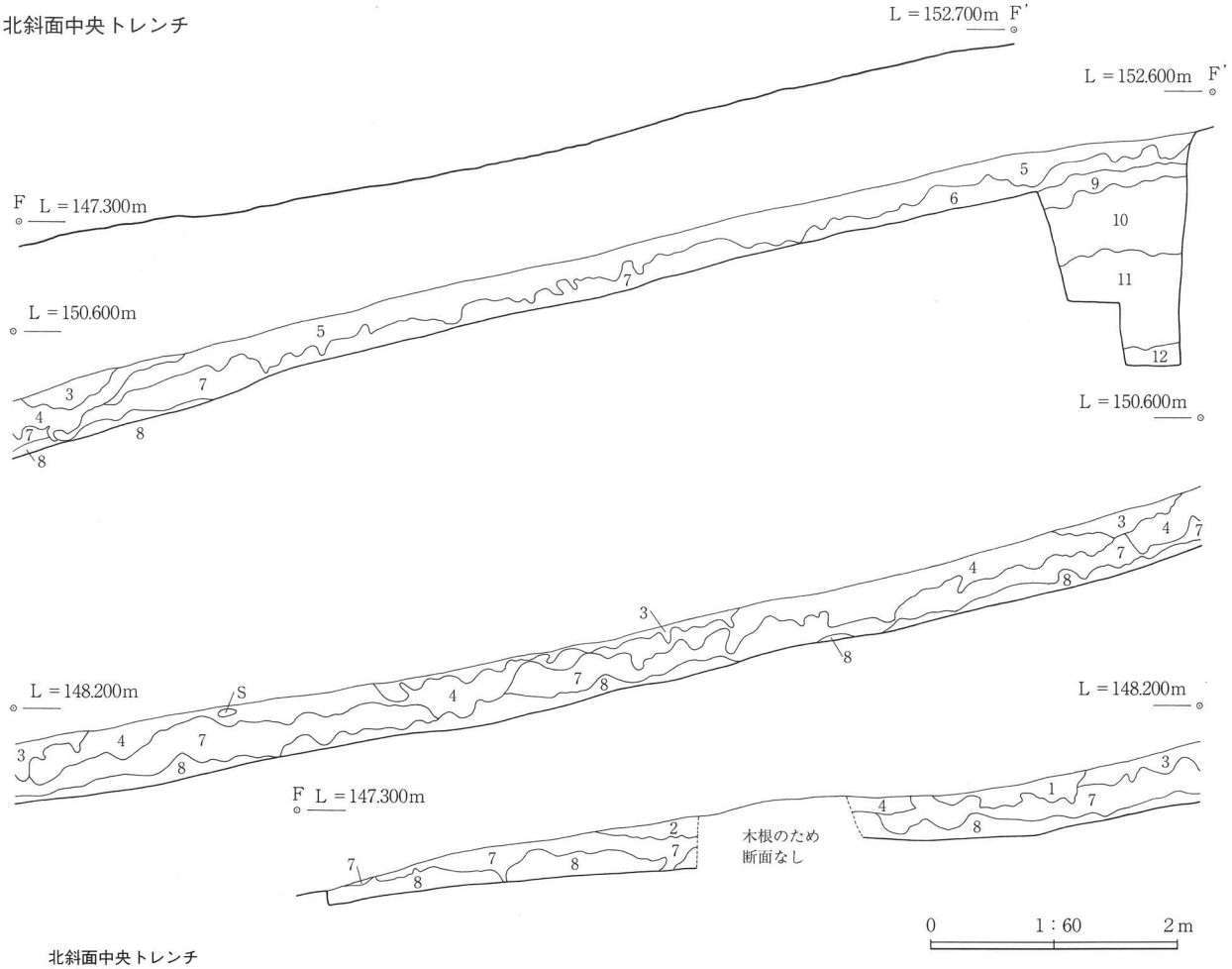
北斜面東トレンチ
1．10YR2/3 黒褐色　粘性中　締まり中　To-Cu ？パミス（径１～５㎜）が層全体に分散する（５％）。二次堆積の漸移層。
2．10YR3/3 暗褐色　粘性弱　締まり中　遺物包含層。
3．10YR2/2 黒褐色　粘性締まり共に中。To-Cu ？パミス（径１㎜）３％混入。風倒木痕。
4．10YR3/3 暗褐色　粘性やや弱　締まり中　To-Cu ？パミス（径１～３㎜）３％混入。風倒木痕。
5．10YR3/3 暗褐色　粘性中　締まりやや密　To-Cu ？パミス（径１～３㎜）５％混入。風倒木痕。
6．10YR4/6 褐色　粘性弱　締まり中　To-Cu パミス（径１～３㎜）を層全体に疎らに３％、炭化物５％含む。
7．10YR4/4 褐色粘質と 10YR3/3 暗褐色が 6:4 の割合で混合。粘性やや強　締まりやや密　To-Cu ？パミス（径１～８㎜）が層全体に分散する（15%）
8．10YR4/6 褐色粘質　粘性やや強　締まりやや密　To-Cu ？パミス（径２～８㎜）を１％未満含む
9．10YR4/4 褐色粘土質と 10YR3/4 暗褐色の 6:4 混合層　粘性中　締まりやや密　To-Cu パミス（径１～８㎜）を 15% 含む。
10. 10YR5/8 黄褐色　粘性中　締まり中　To-Nb パミス（径３～８㎜）が下位に５％混入
11. 10YR5/8 黄褐色粘質　粘性やや強　締まり密　To-H パミス１％未満混入。漸移層。
12. 10YR5/8 黄褐色粘質　粘性やや強　締まり密

第７図　基本土層（３）

また、滝合遺跡からは縄文時代前期初頭の繊維混入土器を埋設した竪穴住居跡１棟が検出されている（久慈市教委　1989）。平沢Ⅰ遺跡（岩埋文　1988）や中長内遺跡（久慈市教委　1988）でも縄文時代前期前葉の竪穴住居跡が検出されており、縄文時代前期初頭～前葉の集落が多く見つかっている。

引用参考文献

岩手県教委　2008　『岩手県遺跡台帳』
久慈市教委　1988　『中長内遺跡』久慈市埋蔵文化財発掘調査報告書第８集
久慈市教委　1989　『滝合遺跡』久慈市埋蔵文化財発掘調査報告書第９集
久慈市教委　1990　『久慈市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ』久慈市埋蔵文化財発掘調査報告書第12集
久慈市教委　1995　『久慈市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅵ』久慈市埋蔵文化財発掘調査報告書第19集
(財)岩埋文　1988　『平沢Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩埋文第125集
(財)岩埋文　1999　『大芦Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩埋文第306集



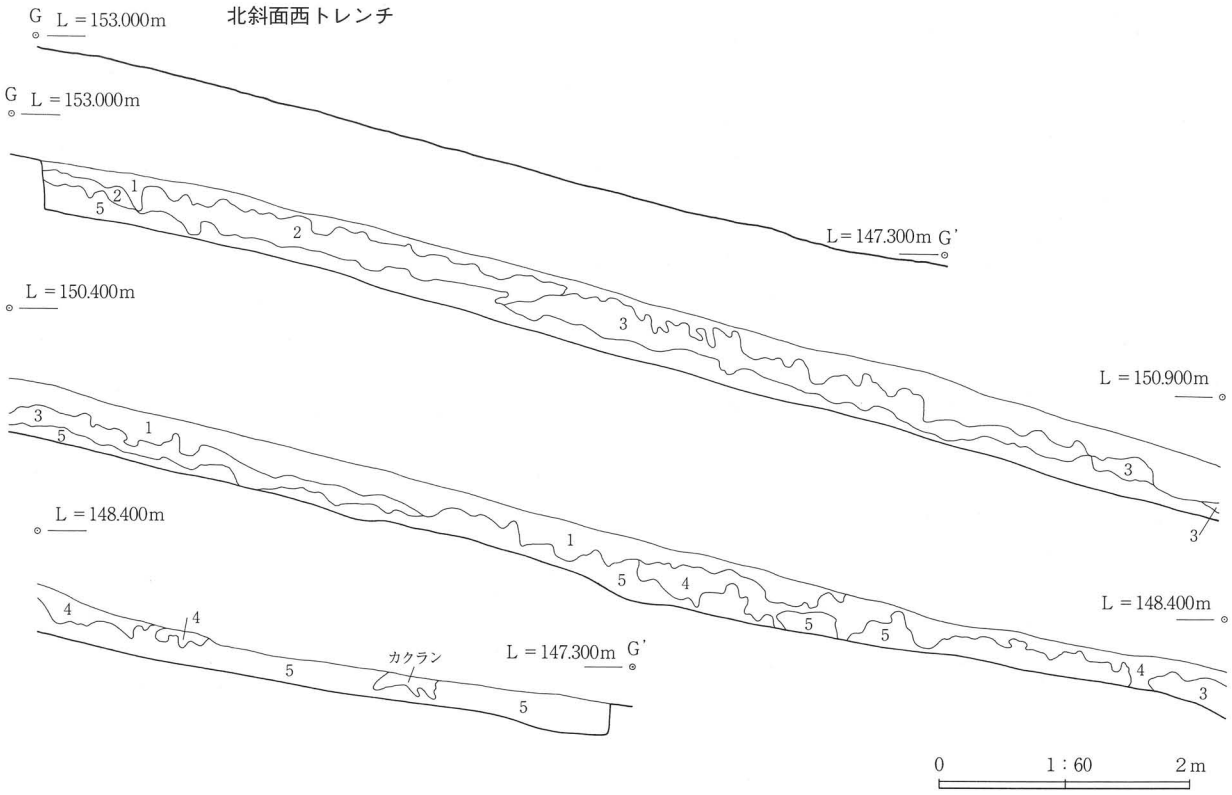
北斜面中央トレンチ
1．10YR2/3 黒褐色　粘性中　締まり中　攪乱？
2．10YR2/1 黒色　粘性中　締まりやや弱
3．10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　締まり中　炭化物（径２～３㎜）１％未満、To-Cu ？パミス（径１～２㎜）が層全体に分散する（２％）二次堆積層か。
4．10YR2/3 黒褐色　粘性中　締まり中　To-Cu ？パミス（径１～５㎜）が層全体に分散する（５％）。二次堆積の漸移層か。
5．10YR3/3 暗褐色　粘性弱　締まり中　遺物包含層。
6．10YR4/6 褐色　粘性弱　締まり中　To-Cu パミス（径１～３㎜）を層全体に疎らに３％、炭化物５％含む。
7．10YR4/4 褐色粘質土と 10YR3/3 暗褐色が 6:4 の割合で混合。粘性やや強　締まりやや密　To-Cu ？パミス（径１～８㎜）が層全体に分散する（15%）
8．10YR4/6 褐色粘質土　粘性やや強　締まりやや密　To-Cu ？パミス（径２～８㎜）を 1% 未満含む
9．10YR5/8 黄褐色　粘性中　締まり中　To-Nb パミス（径３～８㎜）が下位に５％混入
10．10YR5/8 黄褐色粘質土　粘性やや強　締まり密　To-H パミス１％未満混入。漸移層。
11．10YR5/8 黄褐色粘質土　粘性やや強　締まり密
12．10YR5/8 黄褐色　粘性やや弱　締まり中

第８図　基本土層（４）

4　基本層序と調査区内の地形（第５～10図）

本遺跡全体の基本層序は以下の通りである。基本的には尾根上西トレンチ深掘の層序に従うが、Ⅰ層に関しては北斜面北端基本土層も考慮した。

Ⅰ　a　黒褐色土（10YR2/2～3）。腐植土（表土）。
　　b　黒褐色土（10YR2/2）。
Ⅱ　a　暗褐色土（10YR3/3）。縄文時代前期前葉遺物包含層。
　　b　暗褐色土（10YR3/3）に直径１～２㎜の黄橙色火山灰粒を３～７％の密度で含む。
　　c　褐色土（10YR4/4）に直径２～５㎜の黄橙色火山灰粒を３％程度の密度で含む。



北斜面西トレンチ
1. 10YR3/3 暗褐色　粘性弱　締まり中　遺物包含層。
2. 10YR4/6 褐色　粘性弱　締まり中　To-Cu パミス（径１～３㎜）を層全体に疎らに３％、炭化物５％ 含む。
3. 10YR4/4 褐色粘土質と 10YR3/4 暗褐色の 6:4 混合層　粘性中　締まりやや強　To-Cu パミス（径１～８㎜）を 15% 含む。
4. 10YR3/3 暗褐色　粘性中　締まりやや弱　To-Cu パミス（径２～３㎜）を疎らに包含する。３層土をブロック状（径５～８㎝）に５％ 含む。１層と５層の漸移層。
5. 10YR5/8 黄褐色　粘性中　締まりやや強　To-Cu パミス（径１～５㎜）を１％ 含む。

第９図　基本土層（５）

Ⅲ　黄褐色細粒火山灰層（10YR5/6）。直径１～２㎜の浅黄橙色火山灰を２～３％含む。

Ⅳ　a　浅黄橙色細粒火山灰層（7.5YR8/4）。非常に締まった角柱状節理が発達、下部10～15cmに著しい。

b　層厚10～15cm、N60°E、傾斜30°NWで計27層の斜行葉理層が発達する。一部、下部から１～1.5mの範囲に偽装葉理が見られる。層の堆積は、上方に向かって級化が認められ、部分的に直径３～５㎜大の木炭片を３％ほど含む。

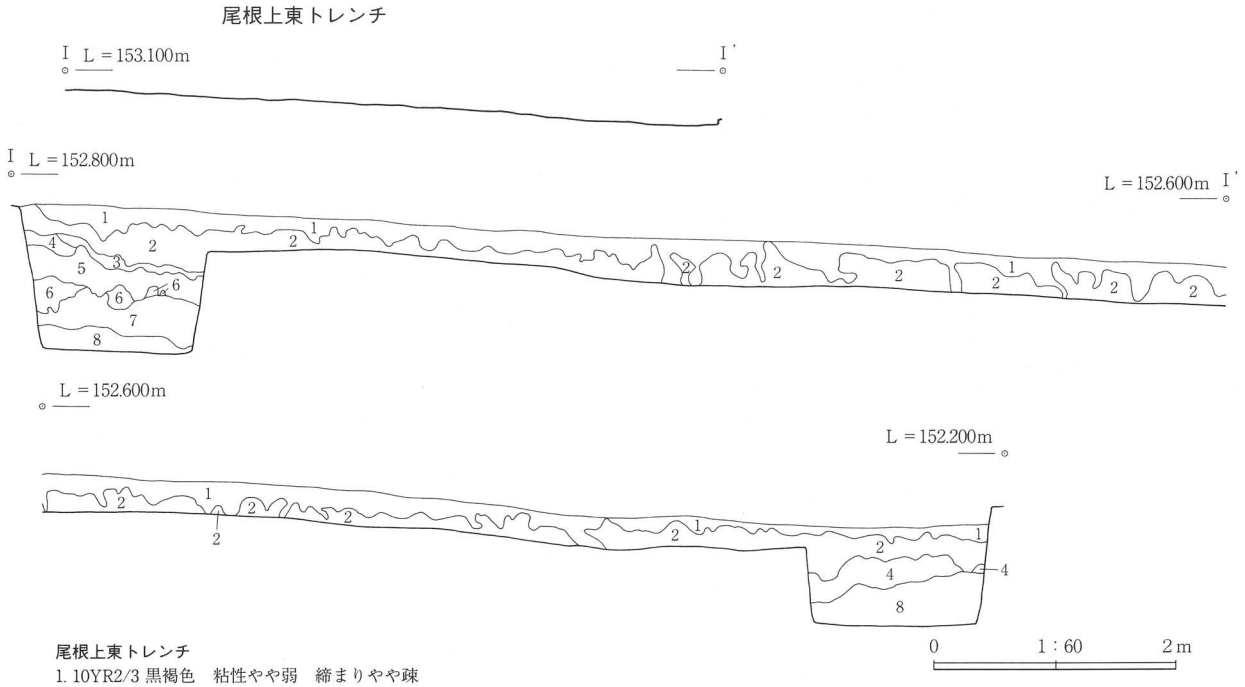
c　明褐色砂質粗粒火山灰層（7.5YR5/6）。黄橙色軽石（10YR8/8）を±２％含む（直径±３㎜）。黒雲母混入。

Ⅴ　にぶい橙色火山灰質粘土層（7.5YR6/4）。上部から５cmの範囲に赤黒色（2.5YR1.7/1）の木炭片ないし泥質化した粘土層がレンズ状に包含される。

Ⅵ　a　黄褐色浮石質火山灰層（10YR5/8）。上半部は軽石粒が2%前後含む。下部20cmに直径３～７㎜大の発泡の良い淡黄色軽石粒を10～15%含む。

b　明褐色浮石質火山灰層（7.5YR5/6）。最下部より25cmの部分に浅黄橙色軽石（7.5YR8/3～6）を１%含む（直径２～３㎜）。最下部から15cmの部分はやや泥質火山灰で直径５～８㎜大の粘土塊を含む。粘土塊の密度は約７%。

c　明褐色火山灰層（7.5YR5/8）。底から約30cmの部分まで直径±１cmの粘土塊を20%含む。



尾根上東トレンチ
1. 10YR2/3 黒褐色　粘性やや弱　締まりやや疎
2. 10YR3/3 暗褐色　粘性やや弱　締まり中　To-Cu パミス（径１～３㎜）を 20 ～ 30% 散在
3. 10YR4/6 褐色　粘性やや弱　締まりやや疎～中
4. 10YR3/4 暗褐色　粘性やや弱　締まりやや疎～中　To-Cu パミス（径１㎜以下）１% 散在
5. 10YR3/3 暗褐色　粘性やや弱　締まり中～やや強　To-Cu パミス（径１～２㎜）３% 散在　４層は漸移層
6. 10YR4/6 褐色粘土質　粘性やや弱　締まり中　To-Cu パミス（径３～５㎜）２～３% 散在
7. 10YR4/6 褐色粘土質　粘性やや弱　締まり中　To-Nb パミス（径１～10㎜）１～２% 散在、炭化物（径１～２㎜）１%
8. 10YR5/6 黄褐色粘土　粘性やや弱～中　締まり中～やや強
※非常に堅い層で、遺物は１層に含まれ、２層より下位には皆無である。

第10図　基本土層（６）

炭化粒（直径２㎜）を２%前後含む。

Ⅶ　褐色粗粒火山灰層（7.5YR4/4）。層厚１m＋α。輝石・角閃石・磁鉄鉱・安山岩・軽石、直径２×３㎜の角礫および火山ガラスが見られる。層中に直径2.5×３㎜ないし1.5×２㎜大に堆積するレンズ状の明赤褐色火山灰（5YR5/8）を含む。

Ⅷ　段丘構成礫層。

調査区内の地形を概観すると、調査区は東西に走る尾根状の段丘を南北に縦断した形となっており、現況での標高最高値は153m（尾根上７Ｄ区）、標高最低値は128m（南斜面17C区）である。調査区は南北に約160m、東西に約50mの範囲で、斜面の傾斜角は北斜面が約8.53°、南斜面が約17.44°である。

調査区の現況地形は山林、原野、牧草地で構成されている。主体は山林で尾根状を呈しており、北斜面の比高差は約10mで緩やかであるのに対し、南斜面は約25mあり、急傾斜で南西側の谷へ向かって落ち込んでいく。尾根上区のほぼ中央を東西に横断するように林道が通っており、やや平坦に造成されている。また、南斜面には伐採した木を運搬する際に作られたと考えられる重機道が北西から南東に向かって走っている。調査区北端の１～３区は傾斜を平坦にする地形改変がされており、牧草地として利用されていたと見られる。

調査区は現況では大半が松林であり、伐採後に残った切株が無数残存していた。また、枯木や枯枝、背丈を越える草が繁茂しており、これらの除去作業に丸四日間を費やした（業者委託による）。松の根は地中まで深く入り込んでおり、Ⅰ層を攪乱するのみでなく、Ⅱ層の遺物包含層やⅢ層まで深く到達しているものもあった。この影響により、層序が乱れ混在する箇所も認められた。

層序については、Ⅰ層は森林腐植土や人工的に地形改変が行われた表土で、遺構は存在しないが縄文時代の遺物が表採できる。現況では、Ⅰa層が層厚10～30cmで、尾根上は全体に薄い傾向がある。Ⅰb層は層厚10～20cmで、尾根上区には見られず北斜面下位に存在する。土色は黒褐色が中心で、軟質であり、部分的に炭化物を多く混入する。

Ⅱ層は暗褐色土主体に構成されており、上部のⅡa層が縄文時代前期初頭の遺物包含層である。層厚は10～30cmで、北斜面１～３区及び南斜面の大半は存在しない。遺物包含層の範囲についてはⅣ検出遺構で述べる。Ⅱb層は十和田中掫テフラ(To-Cu)を、またⅡc層は当初、十和田南部テフラ(To-Nb)と思われたが、分析の結果では十和田中掫テフラとのことである（附編１参照)。これらを混入する層はそれぞれ層厚10～30cmである。

Ⅲ層は暗褐色で構成され、十和田八戸テフラを２～３％含み非常に締まっている。

Ⅳ層は浅黄橙色主体で構成され、堆積状況からa･bの２層に分けられる。Ⅳa層は層厚40～80cmで、粒径の大きい節理層が認められた。Ⅳb層は層厚約100cmで、この中に斜行した葉理層が発達している。Ⅳc層はⅣ層最下層にあり、層厚は10cm弱と薄い。黄橙色の軽石粒子が認められ、Ⅳ層全体が十和田大不動テフラに由来するものと思われる。

Ⅴ層はにぶい橙色で構成される火山灰質粘土層で、上部に層厚5cm程度の炭化物層が認められる。この箇所における木炭片のAMS年代は、15,300±70yrBP(IAAA-71749)の測定結果が得られている(附編２参照)。Ⅴ層とⅥ層の境界には北斜面へ向かってインボリューションが認められる。

Ⅵ層は黄褐～明褐色テフラで構成され、堆積状況からａ～ｃの３層に区分される。a層下位には軽石粒子が多く含まれる。b層の最下位は粘質の強い明褐色火山灰層で、直径1cm弱の粘土塊を含んでいる。c層下位には若干の炭化物粒を混入する。

Ⅶ層は褐色テフラで構成されるが、掘削最下位のため層厚は３ｍ以上あると考えられる。上面から40～50cm下位から明赤褐色の火山灰と考えられる堆積が認められ、分析結果は不明である。阿蘇４テフラの可能性がある。

Ⅷ層は斜面上部の西トレンチでは確認できなかったが、北斜面下位では段丘構成層の最上部の砂礫層までを確認している。Ⅸ層岩盤層までの層厚は不明である。

以上、Ⅰ～Ⅶ層までの各層とⅡa層の層序関係は、軽微な不整合の関係にある。

Ⅲ　調査と整理の方法

１　野外調査方法

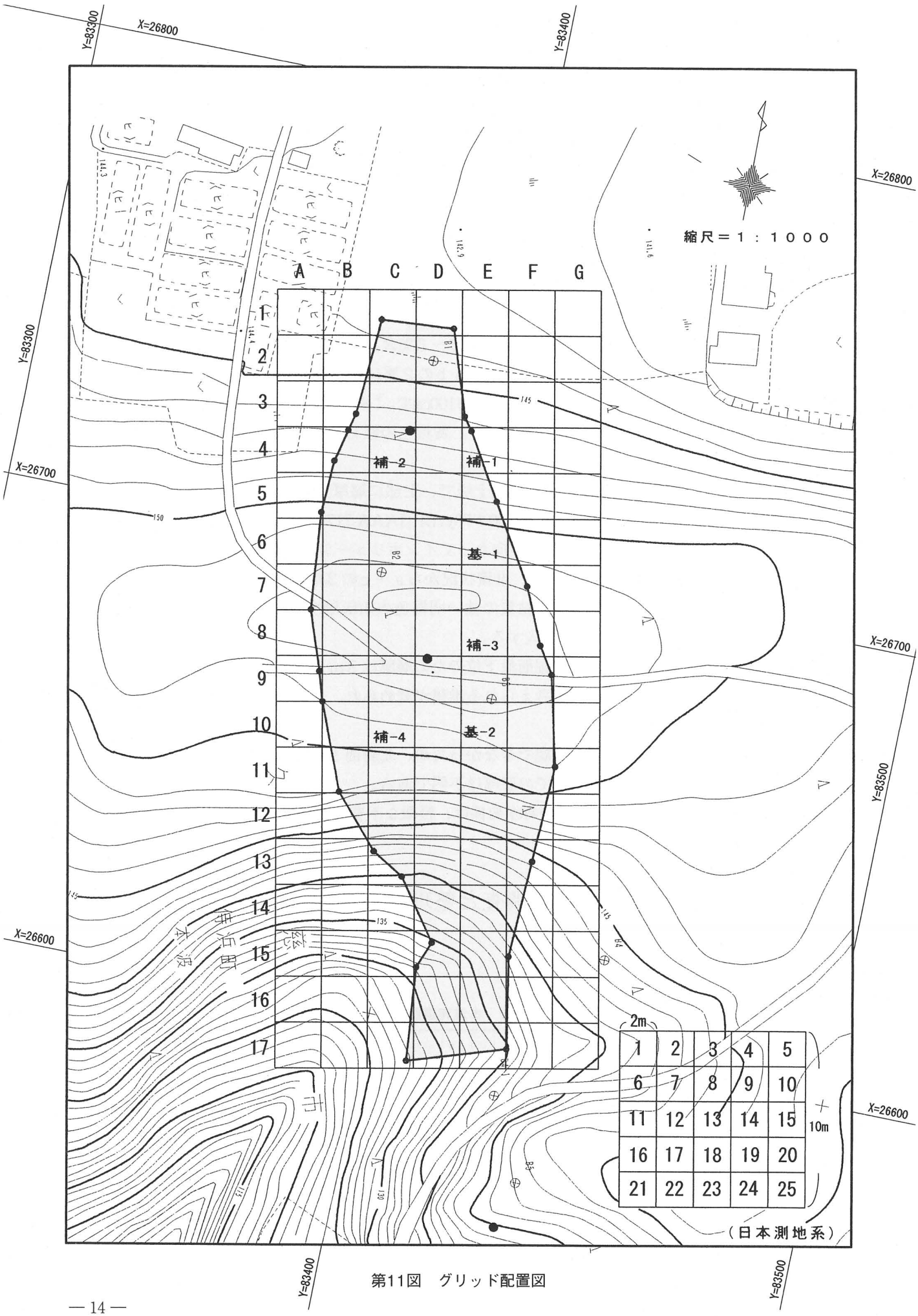
（１）グリッド設定（第11図）

本波Ⅷ遺跡の調査区域は北から南に約160ｍ、東から西に約50ｍの範囲で、南北を長軸線とする道路幅と道路法面幅分の中央が膨らむ長形の形状を呈している。

第２表　本波Ⅷ遺跡基準点位置

基準点	グリッド	日本測地系			世界測地系		
		X	Y	H	X	Y	H
基1	7E1	26700.000	83400.000	152.176	27006.639	83100.747	152.176
基2	11E1	26660.777	83407.845	152.295	26967.415	83108.591	151.295
補1	5E1	26719.612	83386.078	148.053	27026.251	83096.824	148.053
補2	5C1	26715.689	83376.466	148.423	27022.329	83077.213	148.423
補3	9E1	26680.388	83403.922	152.694	26987.027	83104.669	152.694
補4	11C1	26656.854	83388.233	150.958	26963.493	83088.980	150.958

グリッドについては地形に沿うように設定しており、国土座標Ｘ系から基１を起点に時計回りに10°振り、調査区全域をカバー出来るようにグリッドを設定した。大グリッド（10×10ｍ）は長軸方向に



第11図　グリッド配置図

算用数字１～17、短軸方向にアルファベット大文字Ａ～Ｇである。また、小グリッドは大グリッドを２×２ｍで25に分割し、北西隅を起点として、東西方向に１～5・6～10・11～15・16～20・21～25とした（例：1A1グリッド）。なお、基準点の成果値は第２表の通りである。

（2）試　掘　調　査

最初に、地形の状況と地層の堆積状況、遺構の有無、遺構・遺物集中区域の確認と把握を目的として、任意に約15箇所の４～20×1.5mトレンチを設定し、人力でトレンチ調査を行った。また合わせて、岩手県教育委員会生涯学習文化課が平成18年８月１～２日、８月24～25日の２回行った試掘調査の時に重機で掘削したトレンチも掘り下げを行った。

初めに急傾斜の南斜面から着手した。谷部に向かって東西方向にトレンチ５箇所を設定して確認を行ったが、表土直下にⅢ層を検出し遺構・遺物ともに見つからなかった。この箇所については写真記録のみで精査を終了した。

南斜面上部は傾斜に沿ったトレンチ、尾根上は南側を中心にトレンチを設定したが、大半の箇所は表土が薄く、Ⅱ層・Ⅲ層が検出された。尾根上北東側から北斜面中位までⅡ層が広く、遺物の包含が確認された。

（3）重機及び人力による粗掘・遺構検出

試掘調査の成果をもとに、トレンチ調査で終了した部分以外の重機が入れる箇所において、Ⅱ層黒褐色土及びⅢ層暗褐色土、Ⅳ層黄褐色粘土質土上面までのⅠ層現耕作土・表土を重機（バックホウ0.7）により掘削した。

この後、人力による１次検出などを行い、これによってⅡ層で遺構が検出された箇所に関しては精査を行い、それ以外の区域はさらに下層までの掘り下げを行った。基本的に遺構検出はⅡａ層上面・Ⅲ層上面の２回行い、必要があればそれ以外の面での遺構検出を実施した。Ⅲ層以下の状況については、トレンチ箇所の斜面上側と下側などに深掘りを入れて確認を行ったが、Ⅲ層以下からは遺構・遺物とも検出されなかった。

（4）遺構の調査方法

大型遺構の調査は四分法で、その他の遺構については原則的に二分法で行い、それぞれ堆積土層観察用のセクションベルトを設け、土層を観察しながら精査を進めた。この際、土層の堆積状態、遺物の出土状態、遺構の完掘状況を中心に写真撮影及び実測を随時行った。

なお、野外調査時点で付した仮名称と異なる性格の遺構種類となる場合は、室内整理時点で変更を行っている。

遺跡・遺構・現場出土遺物の写真撮影については、NikonFM2（35㎜、モノクローム・スライドカラー各１台）と中判PENTAX67（モノクローム）を使用した。一部ではデジタル一眼レフカメラCanonEOS5D（1,200万画素）を使用し、メモ撮影としてデジタルカメラ（400万画素）を使用した。

また、平成19年11月13日に調査区域全体の航空写真撮影を実施した。

遺構実測図の縮尺は1/20を基本としたが、焼土遺構や配石遺構・遺物微細図などは1/10、その他の遺構や土層断面なども種類や規模により1/50、1/100、1/200などの縮尺を用いて遺構実測図（第１原図）を作成した。なお、調査の進行上土層断面の写真や実測を省略し、状態の記録や計測等のみに留めた遺構もある。

（5）遺物の取り上げ方

遺物の取り上げ方は、遺構内出土分については出土遺構名と出土層位を記した。遺構外出土分は小グリッドごとに層位を記し、1A1・Ⅱ層上位などと記載して取り上げた。ただしⅠ層現耕作土・表土出土及び表採については大グリッド名のみのものもある。

（6）遺構の命名について

遺構名は現場段階で命名しているが、当初命名したものと異なった性格の遺構となった場合や登録抹消となる場合がある。このため、整理作業段階で遺構名を変更して付け直している（第３表参照）。

第３表　遺構名変更表

掲載遺構名	野外調査での仮遺構名	備　考
登録抹消	１号土坑	根カクランか
登録抹消	２号土坑	根カクランか
登録抹消	３号土坑	根カクランか
１号土坑	４号土坑	
２号土坑	５号土坑	
３号土坑	６号土坑	
４号土坑	７号土坑	
５号土坑	８号土坑	
６号土坑	９号土坑	
７号土坑	10号土坑	
８号土坑	11号土坑	
９号土坑	12号土坑	
10号土坑	13号土坑	
11号土坑	14号土坑	
12号土坑	15号土坑	
13号土坑	16号土坑	
14号土坑	17号土坑	
15号土坑	18号土坑	
16号土坑	19号土坑	
17号土坑	20号土坑	
18号土坑	21号土坑	
19号土坑	22号土坑	
20号土坑	23号土坑	
21号土坑	24号土坑	
22号土坑	25号土坑	
23号土坑	26号土坑	
24号土坑	27号土坑	
25号土坑	28号土坑	
登録抹消	29号土坑	
26号土坑	30号土坑	
１号焼土	１号焼土	
登録抹消	２号焼土	根カクランによる混入
１号集石	１号集石	
２号集石	１号炉跡	
１号ピット	１号ピット	
２号ピット	２号ピット	
３号ピット	３号ピット	
４号ピット	４号ピット	

2　整　理　方　法

平成19年11月１日～平成20年３月31日（５ヵ月：整理作業員１～２名）の期間で室内整理作業を行った。ただし、平成19年11月１日～29日までは野外調査を並行していたため、担当調査員は不在であった。

（1）遺　　構

遺構は現場で図化してきた遺構図面を第１原図とし、註記や遺構の切り合い、配置などを検討しながら担当調査員が遺構ごとに第２原図を作成し、その上でトレースを行った。

各遺構は、位置・規模・形態などの基礎データを抽出し、遺構一覧表を作成した。遺構図版は各遺構種別に、遺物包含層・土坑・焼土遺構・集石遺構・ピットの順で掲載した。

（2）遺　　物

a　土器

水洗乾燥後、収納袋ごとに破片数及び重量計測を行った。次に註記、遺構・層位・グリッドごとに仕分けを行い、接合作業を行った。その後、復元作業、掲載遺物の選別、登録作業、実測、拓影、トレース、写真撮影といった手順で行った。

掲載土器については、遺構内出土は遺構帰属時期決定のため細片でも登録した。遺構外出土については分類別に仕分けした上で、立体土器・口縁部破片・器形復元可能な破片を優先とし代表的な破片を掲載した。底部破片についてはすべて登録した。

b　石器

水洗・註記を行った後、担当調査員が全点を観察し、分類・計測・登録作業を行い、一覧表を作成した。その後、分類ごとに代表的な形状を抽出し、実測、トレース、写真撮影を行い、掲載した。

掲載石器については、器種・分類に選別した石器から全体の形状が明瞭に分かる完形品や黒色粘着物付着など使用痕跡が残存するものを優先して図化した。石器実測に当たっては剥離の場合、リング・フィッシャーは調査員が入れることとし作業の効率化を図った。また、礫石器の自然面は稜線のみで白抜きを基本とした。掲載できなかった石器についても全点について法量計測を行い、点数・重量の

計測、石材仕分けを行った。なお、掲載遺物については観察表を作成し掲載したが、不掲載遺物については観察表の掲載を割愛した。ただし、不掲載遺物についても観察表は作成し、岩手県埋蔵文化財センターに保管している。

（3）掲載図版の構成

掲載図版は遺構と遺物を分け、遺構図版は遺構の種別で掲載し、遺物図版は土器・石器・石製品など種別で掲載した。

登録番号については、出土土器が0001～、出土石器・石製品が1001～とした。これに加えて、掲載遺物については全遺物について通しの「掲載番号」を付している。

このほかに、図版番号・写真図版番号も合わせて記載している。観察表の（　）内数値は残存値、〔　〕内数値は推定値である。

3　野外調査経過

8月1日(水)　調査開始。現場設営。調査に先立って、7月30日～8月2日まで業者委託による草刈り・雑物撤去作業を行った。

8月2日(木)～8日(水)　試掘。南斜面谷部分から開始。15×1.5mトレンチを5本設定して確認を行ったが、遺構・遺物ともに検出されないため、写真記録のみ行い排土場とすることとした(約400㎡)。ウニ採りなどで野外作業員の出勤率低下。

8月8日(水)～10日(金)　重機による表土除去（バックホウ0.7・キャリアダンプ8t)。尾根上から開始（約2,000㎡)。並行して人力による1次検出作業を実施。調査区全体に松の切株が点在しており、捗らない。

8月20日(月)～24日(金)　南斜面の表土除去（約1,200㎡)。急斜面のため、手間取る。

8月28日(火)　基準点設置。

8月27日(月)～30日(木)　北斜面の表土除去(約2,100㎡)。表土除去終了。

9月3日(月)～14日(金)　南斜面の検出・精査。

9月18日(火)～10月17日(水)　北斜面の検出・精査。排土場が斜面下方にしか確保できず、作業効率低下。斜面下位から土坑がまとまって検出された。

10月18日(木)～11月2日(金)　尾根上西側の検出・精査。遺構密度は希薄。

11月8・9日(木・金)　菊池強一氏(岩手大学非常勤講師)現地指導。

11月5日(月)～16日(金)　尾根上南側の検出・精査。

11月12日(月)　終了確認。

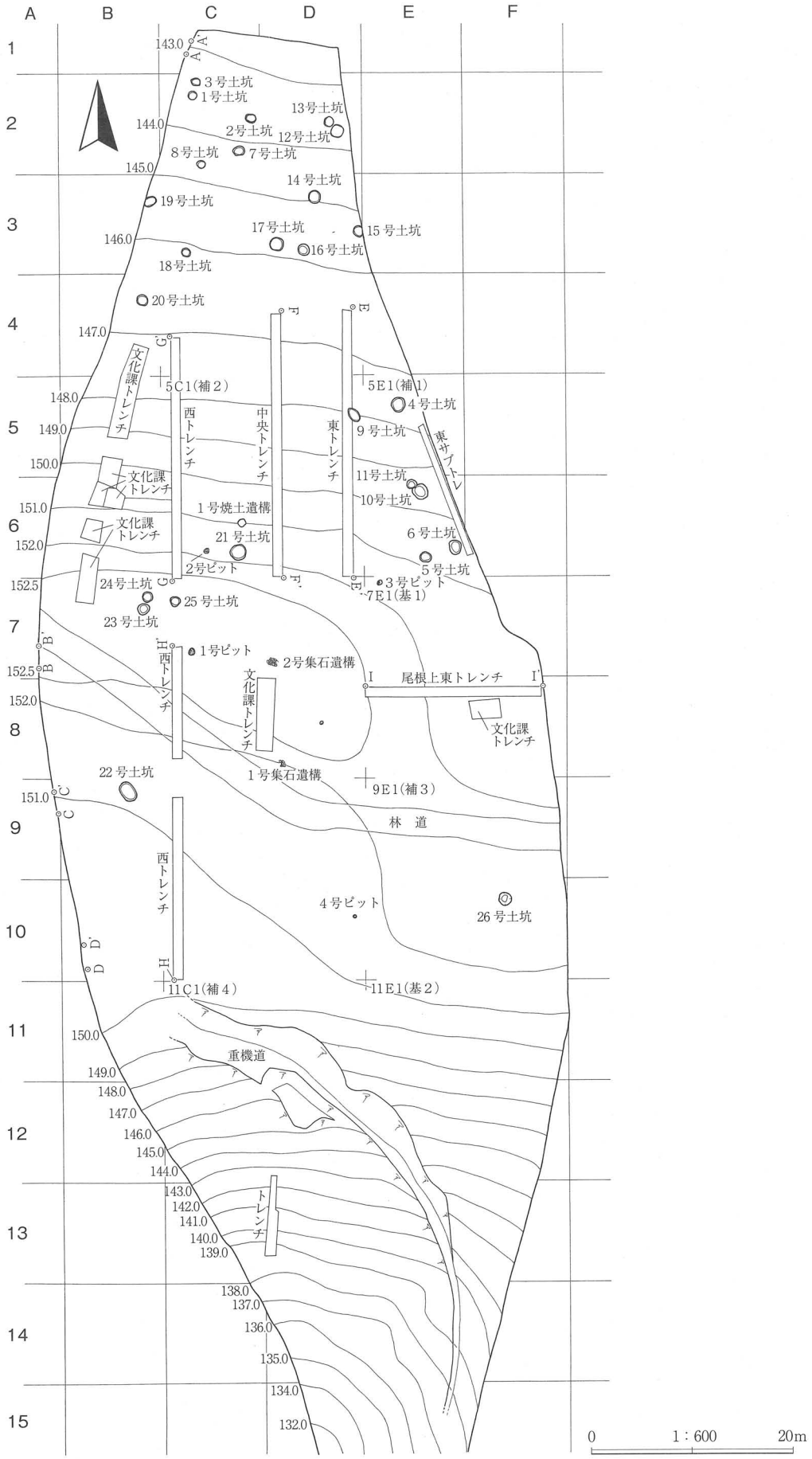
11月13日(火)　航空写真撮影。

11月19日(月)　近隣住民向け現地説明会(参加者15名)。

11月19日(月)～28日(水)　尾根上東側の検出・精査。

11月21日(水)～29日(木)　西トレンチ尾根上堆積層確認。

11月29日(木)　現場撤収。調査終了。


A
B
C
D
E
F
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
143.0
144.0
145.0
146.0
147.0
148.0
149.0
150.0
151.0
152.0
152.5
3号土坑
1号土坑
13号土坑
2号土坑
12号土坑
8号土坑
7号土坑
14号土坑
19号土坑
17号土坑
15号土坑
16号土坑
18号土坑
20号土坑
文化課トレンチ
5C1(補2)
西トレンチ
中央トレンチ
東トレンチ
5E1(補1)
4号土坑
9号土坑
東サブトレ
11号土坑
10号土坑
1号焼土遺構
21号土坑
6号土坑
5号土坑
2号ピット
3号ピット
7E1(基1)
24号土坑
25号土坑
23号土坑
1号ピット
2号集石遺構
尾根上東トレンチ
22号土坑
1号集石遺構
9E1(補3)
林　道
4号ピット
26号土坑
11C1(補4)
11E1(基2)
重機道
トレンチ
138.0
137.0
136.0
135.0
134.0
132.0
0
1：600
20m

第12図　遺構配置図

Ⅳ 検 出 遺 構

今回の調査で検出された遺構数は、縄文時代前期前葉の遺物包含層２ヵ所（計2,141㎡）、土坑26基、焼土遺構１基、集石遺構２基、ピット４個である。

１ 遺物包含層（第13図・写真図版５）

尾根上から北斜面を中心に2,141㎡の範囲に遺物包含層を検出した。まず始めに北斜面に３本、尾根上に２本のトレンチを設定して、層厚と層序の確認を行った。

北斜面の３本のトレンチ、西トレンチ、中央トレンチ、東トレンチは傾斜に沿ってほぼ等間隔に設定した。

西トレンチは１～５層に区分され、このうち１層が包含層で層厚は10～30cmである。２層以下には十和田中掫テフラ（To-Cuテフラ）の降下軽石（パミス）と思われる径１～８㎜の黄褐色粒を含んでいるため、１層はテフラ降下後の一次または二次堆積以後に形成されたものと考えられる。

中央トレンチは１～12層に区分され、このうち５層が包含層で層厚は10～30cmである。１・２層は攪乱層、３・４層は二次堆積層と思われ、６～８層はTo-Cuテフラのパミスを含む層、９層は十和田南部テフラ（To-Nbテフラ）のパミスを含む層、10層は十和田八戸（To-Hテフラ）のパミスを含む層、11・12層は粘土質層と続く。

東トレンチは１～12層で区分され、このうち２層が包含層で層厚は15～40cmである。１層は二次堆積層、３～５層は攪乱層、６～９層がTo-Cuテフラのパミスを含む層、10層はTo-Nbテフラのパミスを含む層、11層がTo-Hテフラのパミスを含む層、12層は粘土質層である。

これらの観察から、包含層はTo-Cuテフラ降下後に形成された、層厚10～40cmの暗褐色単一層に限定されることが分かった。

また、尾根上の２本のトレンチについては、北斜面の西トレンチをさらに南へ延長した尾根上西トレンチ延長と尾根上の東端に東西方向の尾根上東トレンチを設定した。

尾根上西トレンチ延長は尾根の最も標高が高い箇所から南斜面へ下る10区までに設定した。なお、このセクションの層序はほぼ本遺跡の基本層序となるため、ローマ数字で表記する。層位はⅠ～Ⅷ層に区分され、このうちⅡa層が包含層で層厚は15～40cmである。詳細はすでにⅡ－４基本層序で記載済のため譲るが、Ⅰは表土層、Ⅱb層はTo-Cuテフラのパミスを含む層、Ⅱc層がTo-Nbテフラのパミスを含む層、Ⅲ層がTo-Hテフラのパミスを含む層と続く。

尾根上東トレンチはこれまでに設定したトレンチと設定方向を異にする東西方向とした。これは、標高の高い方から低い方へと設定したためである。層位は１～８層に区分され、１層が包含層で層厚は５～20cmである。２層がTo-Cuテフラのパミスを含む層であるが、他箇所で見つかった同一層と思われるものと比べてテフラ含有量が非常に高く密で、20～30％の割合で含まれる。このため、非常に締まっており、堅緻である。

以上、尾根上２本のトレンチから北斜面に設定した３本のトレンチ同様に、包含層はTo-Cu降下以後に形成された単一層という見通しが得られた。

設定したトレンチから観察した層序を目安に、小グリッド２×２ｍ単位で掘り下げを行った。包含層が単一層に限定されるため、層位的な遺物取り上げは出来ないが、包含層が厚い場合は10cm単位で

１回目、２回目、３回目…と掘り下げ深度ごとに分けた。

遺物の取り上げを行った結果から、土器と石器・石製品の平面的な分布域を捉えたところ、第13図に示したように北と南の２箇所に集中する範囲が認められた。

北側は４～７・Ｂ～Ｆ区に位置し、東西方向48m、南北方向40m、集中域は東西方向31m、南北方向10mの範囲で、面積は1,060㎡（集中域285㎡）である。また、南側は８～10・Ｃ～Ｅ区に位置し、東西方向48m、南北方向27.5m、集中域は東西方向32m、南北方向22mの範囲で、面積は1,122㎡（集中域329㎡）である。これらはどちらも尾根上から斜面にかけて形成されており、流水などで包含層が形成されることなどの自然堆積は考慮されないため、いずれも人為的な捨て場と考えられる。以上から、これら２箇所の範囲を「北捨て場」、「南捨て場」と認定する。なお、捨て場範囲が尾根上東側で重複しているのは、どちらに含めるか不明確な部分である。よって、この重複分が範囲の総面積の和と異なる。

北捨て場の集中域は６～７・Ｃ～Ｆ区にあり、斜面を下るに従って出土量を減じて散逸的となる。集中域は調査区東端に接しているため、調査区外の東側へも捨て場が続いていると見られる。

また、南捨て場の集中域は８～10・Ｃ～Ｅ区にあり、南西斜面方向に下るに従って散逸的となる。集中域は調査区のほぼ中央に形成されているため、東西は徐々に出土量を減じており、捨て場範囲は調査区内に限定されると見られる。

なお、両捨て場範囲が重なる８・Ｅ～Ｆ区が出来たのは集中域より斜面上位の範囲のため、人為と自然の明確な区分に当て填まらなかったことが理由に挙げられる。

２　土　　坑（第14～17図・写真図版６～12）

計26基見つかっている。本項では、各土坑の記載については省略し、一覧表にまとめた（第19表参照）。この中で、特徴のある土坑のみを取り上げた。

土坑の帰属時期を想定すると、土層観察から人為堆積と思われる12基を除き、その他は時期不明である。遺物を出土している土坑は、４・６・10・20～22・26号土坑の計７基であるが、堆積土中からの出土が大半であり、遺構の時期決定には不十分である。

人為堆積と思われる１～３・７・８・12～15・17・18・20号土坑の計12基は、いずれも北斜面下位の２～３区に位置している。２～３区は牧草地造成のためか斜面を削平して、平坦地化する地形改変が行われている箇所である。ここから見つかっている土坑は、平面は円形基調、断面は皿形が多く（一部は鍋底形）、規模は上端長軸平均103.6cm（82－131cm範囲）、深さは検出面からの平均で14.4cm（5.0－33.0cm範囲）である。堆積土はいずれも10YR2/2黒褐色を主体としており、これに褐色や黄褐色ブロックを混入する一括堆積の様相を呈する。

北斜面上位に位置するものは、４～６・９～11・21号土坑などがあるが、平面は円形や楕円形、不整円形など様々あり、規模も上端長軸・短軸ともにバラつきがある。また、尾根上に位置するのは、23～26号土坑であるが、これも同様である。

土坑からの遺物出土は前述の７基に限られる。いずれも少量の縄文土器を出土しており、21号土坑は敲磨器類１点も伴出している。縄文土器は尾根上～北斜面の遺物包含層から出土しているものと同時期と思われるもので、縄文時代前期前葉に位置付けられるが、遺構との関係は不明である。

3　焼　土　遺　構（第17図・写真図版13）

計１基見つかっている。北斜面上位の６C15グリッドに位置し、Ⅱ層上面で検出した。79.0×75.0cmの不整円形を呈しており、深さ8.0cmまで被熱して黒褐色～暗褐色主体で橙色を混入する色調をしている。焼成はやや弱いと思われるが、被熱範囲から現地性であろう。上面で縄文土器片１点が出土しているが、遺構に伴うか不明である。

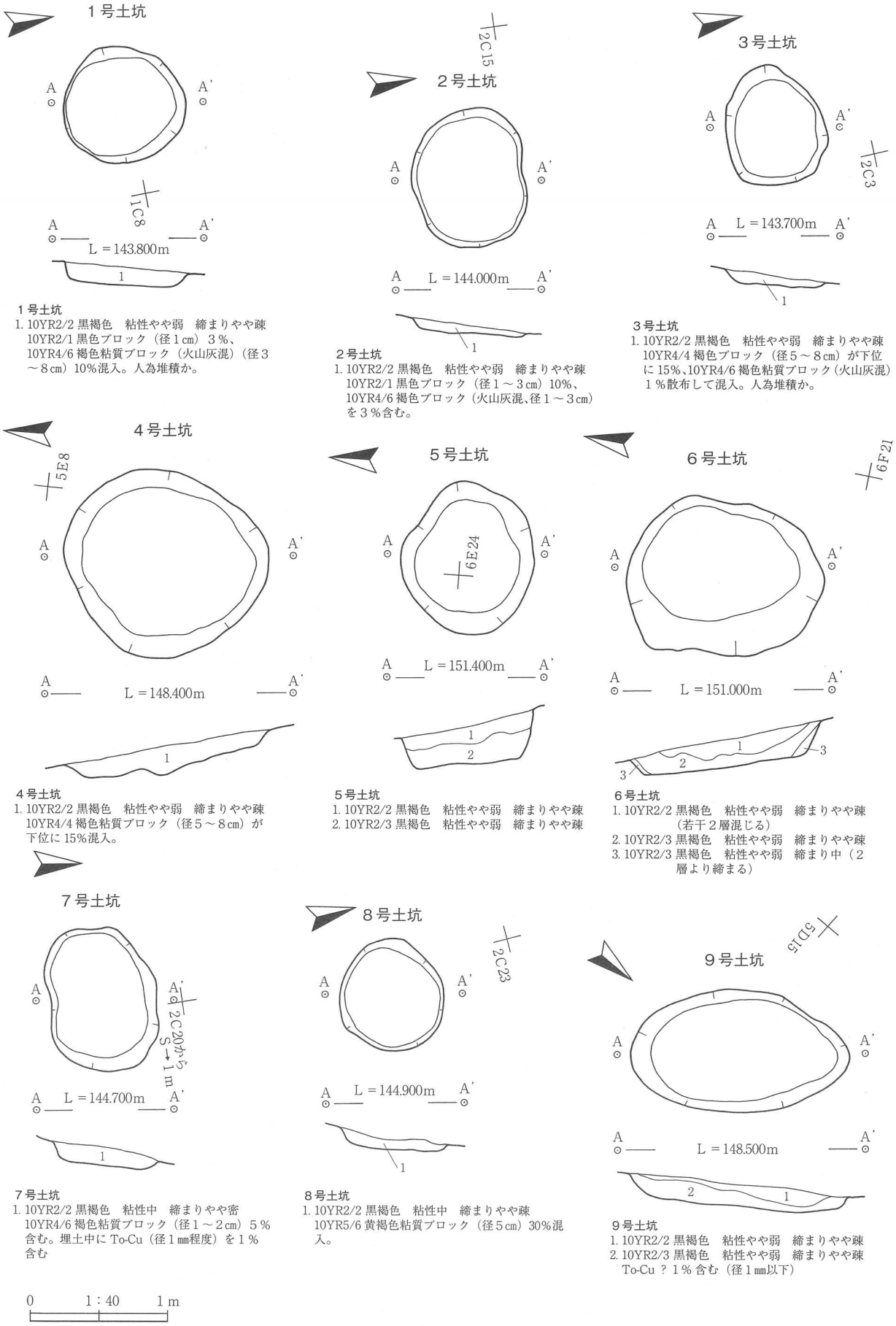
4　集　石　遺　構（第17図・写真図版12）

計２基見つかっている。１号集石は尾根上中央の８D21グリッド、２号集石は尾根上北側の７D21グリッドに位置している。いずれも自然礫を不整形（円形か）になるように配置している。規模は１号が83×63cm、２号が112×105cmで、１号は角礫７個、２号は亜円礫・角礫を12個以上用いている。１号のみにて使用礫の石材を観察したところ、７個のうち５個がデイサイト、２個が斑糲岩であった。いずれも遺跡近傍からの採取と思われる在地の石材である。遺物は1号から縄文土器１片のみが出土している。遺構の時期については、後世の混入も考えられることから不明である。ただし、１号と２号の距離は直線でちょうど10mあり、この２遺構を関連付ければ新しい可能性もある。

5　ピ　ッ　ト（第18図・写真図版13～14）

計４個見つかっている。分布に偏りは認められないが、尾根上を中心に検出している。検出層位はＰ１がⅢ層上面、Ｐ２～４がⅡ層上面である。規模にも斉一性は認められず、上端直径が30～65cmの円形で、深さは７～40cmである。10E６グリッドのＰ４は２層に薄い炭化物層を持つ。時期はいずれも不明である。

第13図　遺物包含層範囲



1号土坑
1. 10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　締まりやや疎
10YR2/1 黒色ブロック（径1㎝）3％、
10YR4/6 褐色粘質ブロック（火山灰混）（径3～8㎝）10％混入。人為堆積か。

2号土坑
1. 10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　締まりやや疎
10YR2/1 黒色ブロック（径1～3㎝）10％、
10YR4/6 褐色ブロック（火山灰混、径1～3㎝）を3％含む。

3号土坑
1. 10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　締まりやや疎
10YR4/4 褐色ブロック（径5～8㎝）が下位に15％、10YR4/6 褐色粘質ブロック（火山灰混）1％散布して混入。人為堆積か。

4号土坑
1. 10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　締まりやや疎
10YR4/4 褐色粘質ブロック（径5～8㎝）が下位に15％混入。

5号土坑
1. 10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　締まりやや疎
2. 10YR2/3 黒褐色　粘性やや弱　締まりやや疎

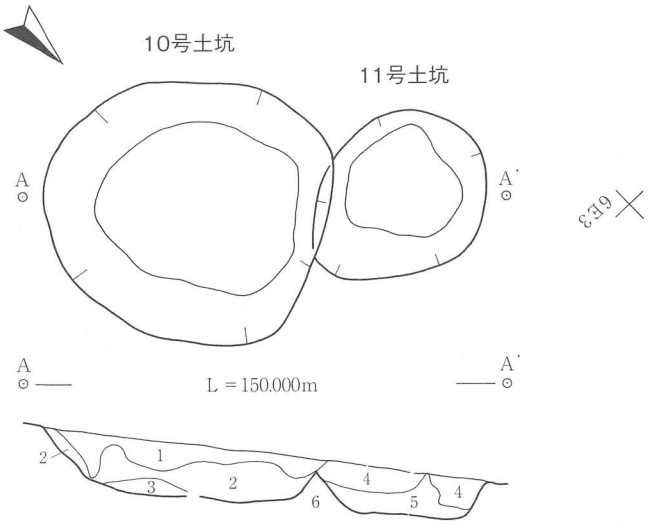
6号土坑
1. 10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　締まりやや疎
（若干2層混じる）
2. 10YR2/3 黒褐色　粘性やや弱　締まりやや疎
3. 10YR2/3 黒褐色　粘性やや弱　締まり中（2層より締まる）

7号土坑
1. 10YR2/2 黒褐色　粘性中　締まりやや密
10YR4/6 褐色粘質ブロック（径1～2㎝）5％含む。埋土中に To-Cu（径1㎜程度）を1％含む

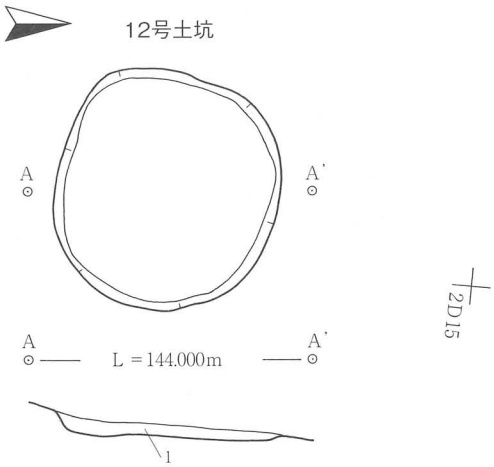
8号土坑
1. 10YR2/2 黒褐色　粘性中　締まりやや疎
10YR5/6 黄褐色粘質ブロック（径5㎝）30％混入。

9号土坑
1. 10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　締まりやや疎
2. 10YR2/3 黒褐色　粘性やや弱　締まりやや疎
To-Cu ？1％含む（径1㎜以下）

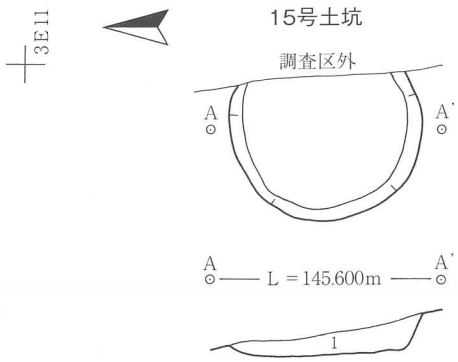
第14図　1～9号土坑



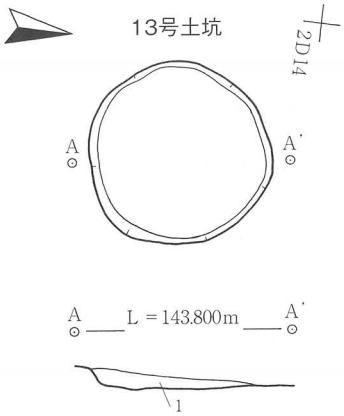
10・11 号土坑（1～3層が10号、4・5層が11号）
1. 10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　締まり疎～やや疎
2. 10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　締まりやや疎に 10YR3/3 暗褐色　粘性やや弱　締まり中　To-Cu1%（径1㎜以下）を霜状に含む）
3. 10YR2/3 黒褐色　粘性やや弱　締まり疎～やや疎
4. 10YR2/1 黒色　粘性やや弱　締まりやや疎
5. 10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　締まりやや疎に 10YR3/3 暗褐色　粘性やや弱　締まり中　To-Cu1%（径1㎜以下）
6. 10YR3/4 暗褐色　粘性やや弱　締まり中～やや強　To-Cu 3～5%（径1㎜以下）含む



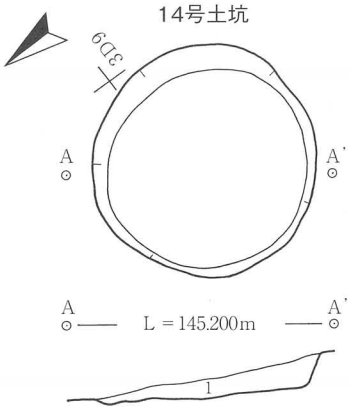
12 号土坑
1. 10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　締まりやや疎　10YR5/8 黄褐色粘土質ブロック1%（径1～3㎝）、10YR2/1 黒色ブロック1%（径1～3㎝）　一括堆積土（埋め戻し土）→人為



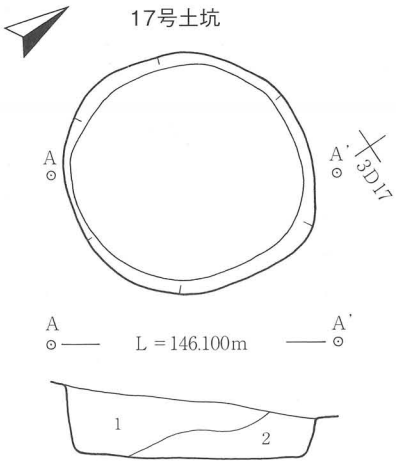
15 号土坑
1. 10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　締まりやや疎　10YR3/4 暗褐色ブロック1%（径2㎝程度）散在→人為の可能性



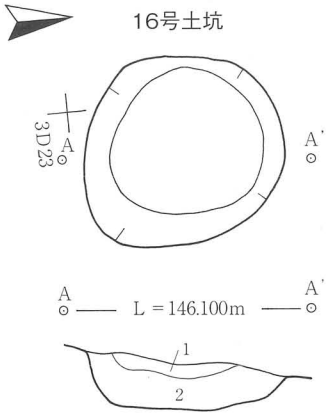
13 号土坑
1. 10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　締まりやや疎　10YR5/8 黄褐色粘土質ブロック1%（径1～3㎝）、10YR2/1 黒色ブロック1%（径1㎝）※一括堆積土（埋め戻し土）→人為



14 号土坑
1. 10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　締まりやや疎　10YR5/8 黄褐色粘土質ブロック1%（径3㎝）、10YR2/1 黒色ブロック1%（径1～2㎝）含む※一括堆積土（埋め戻し土）→人為



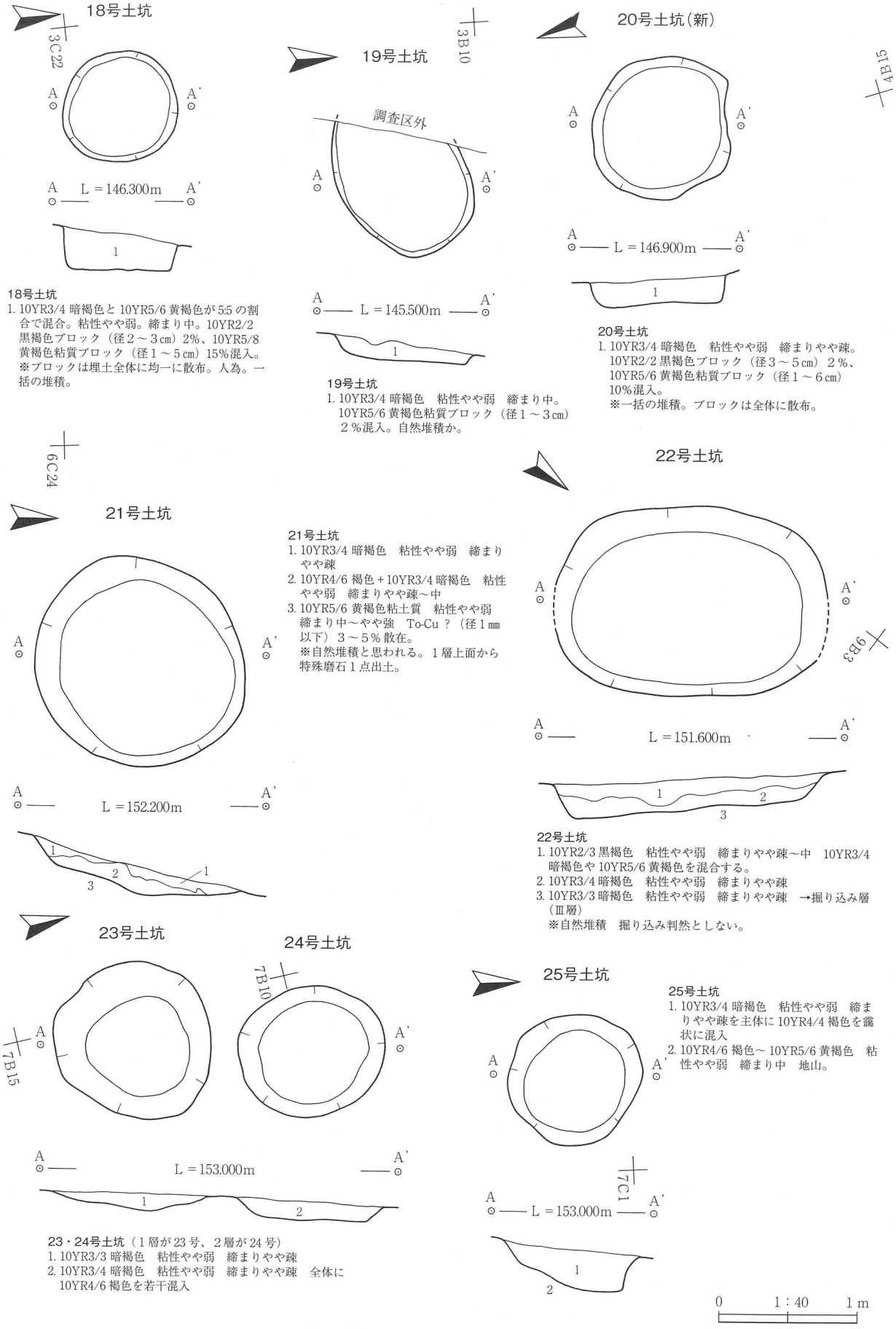
17 号土坑
1. 10YR3/4 暗褐色と 10YR5/6 黄褐色が 5:5 の割合で混合。粘性やや弱。締まりやや疎。10YR2/1 黒色ブロック（径5～8㎝）10%、10YR5/6 黄褐色粘質ブロック（径1～3㎝）3%混入。
2. 10YR4/6 褐色　粘性やや弱　締まり中。10YR2/1 黒色ブロック（径2～8㎝）1%、10YR5/6 黄褐色粘質ブロック（径1～3㎝）10%混入。



16 号土坑
1. 10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　締まりやや疎。10YR5/6 黄褐色粘質ブロック（径1㎝）5%混入。
2. 10YR4/4 褐色　粘性中　締まりやや密　10YR2/2 黒褐色ブロック（径3～5㎝）3%、10YR5/6 黄褐色粘質ブロック（径1～3㎝）7%混入　自然堆積か。

0　1：40　1 m

第15図　10～17号土坑



18号土坑
1. 10YR3/4 暗褐色と 10YR5/6 黄褐色が 5:5 の割合で混合。粘性やや弱。締まり中。10YR2/2 黒褐色ブロック（径２～３㎝）2%、10YR5/8 黄褐色粘質ブロック（径１～５㎝）15%混入。
※ブロックは埋土全体に均一に散布。人為。一括の堆積。

19号土坑
1. 10YR3/4 暗褐色　粘性やや弱　締まり中。10YR5/6 黄褐色粘質ブロック（径１～３㎝）２%混入。自然堆積か。

20号土坑
1. 10YR3/4 暗褐色　粘性やや弱　締まりやや疎。10YR2/2 黒褐色ブロック（径３～５㎝）２%、10YR5/6 黄褐色粘質ブロック（径１～６㎝）10%混入。
※一括の堆積。ブロックは全体に散布。

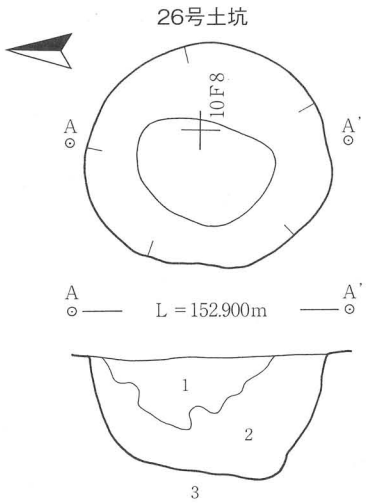
21号土坑
1. 10YR3/4 暗褐色　粘性やや弱　締まりやや疎
2. 10YR4/6 褐色＋10YR3/4 暗褐色　粘性やや弱　締まりやや疎～中
3. 10YR5/6 黄褐色粘土質　粘性やや弱　締まり中～やや強　To-Cu ？（径１㎜以下）３～５%散在。
※自然堆積と思われる。１層上面から特殊磨石１点出土。

22号土坑
1. 10YR2/3 黒褐色　粘性やや弱　締まりやや疎～中　10YR3/4 暗褐色や 10YR5/6 黄褐色を混合する。
2. 10YR3/4 暗褐色　粘性やや弱　締まりやや疎
3. 10YR3/3 暗褐色　粘性やや弱　締まりやや疎　→掘り込み層（Ⅲ層）
※自然堆積　掘り込み判然としない。

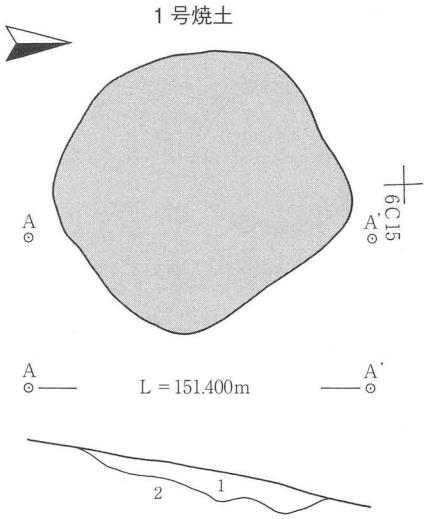
23・24号土坑（１層が 23 号、２層が 24 号）
1. 10YR3/3 暗褐色　粘性やや弱　締まりやや疎
2. 10YR3/4 暗褐色　粘性やや弱　締まりやや疎　全体に 10YR4/6 褐色を若干混入

25号土坑
1. 10YR3/4 暗褐色　粘性やや弱　締まりやや疎を主体に 10YR4/4 褐色を霜状に混入
2. 10YR4/6 褐色～ 10YR5/6 黄褐色　粘性やや弱　締まり中　地山。

第16図　18～25号土坑



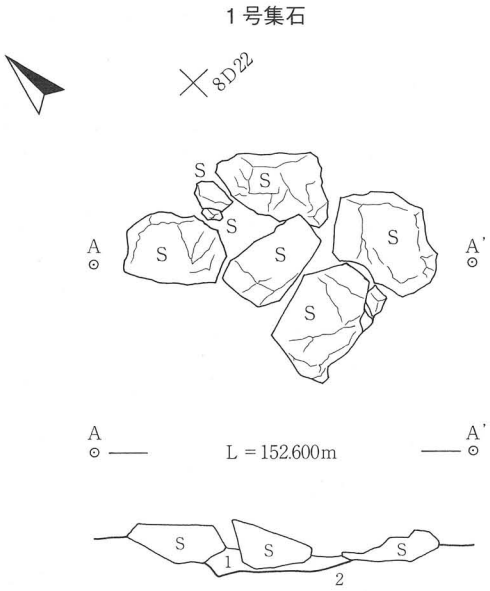
26号土坑
1. 10YR2/3 黒褐色　粘性やや弱　締まりやや疎　霜状に 10YR3/3 暗褐色、10YR5/6 黄褐色を含む。
2. 10YR3/3 暗褐色　粘性やや弱　締まりやや疎　霜状に 10YR2/3 黒褐色を含む。
3. 10YR4/6 褐色　粘性やや弱　締まりやや疎（地山）



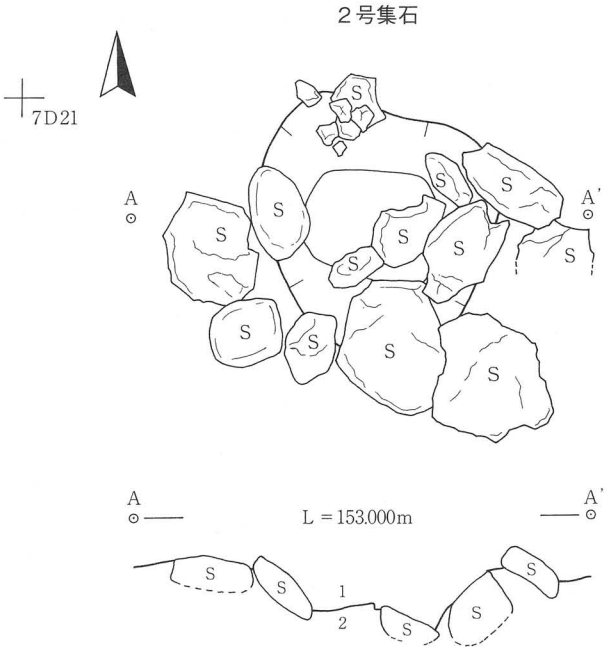
1号焼土
1. 10YR2/3 黒褐色～3/3 暗褐色　粘性やや弱　締まりやや疎　を主体に 10YR7/8 橙色焼土ブロック（径1～5㎝）、または霜状に散在。炭化物（径1～3㎜）2～3％
2. 10YR3/3～3/4 暗褐色　粘性やや弱　締まりやや疎

1号焼土遺構

0　1：40　1m



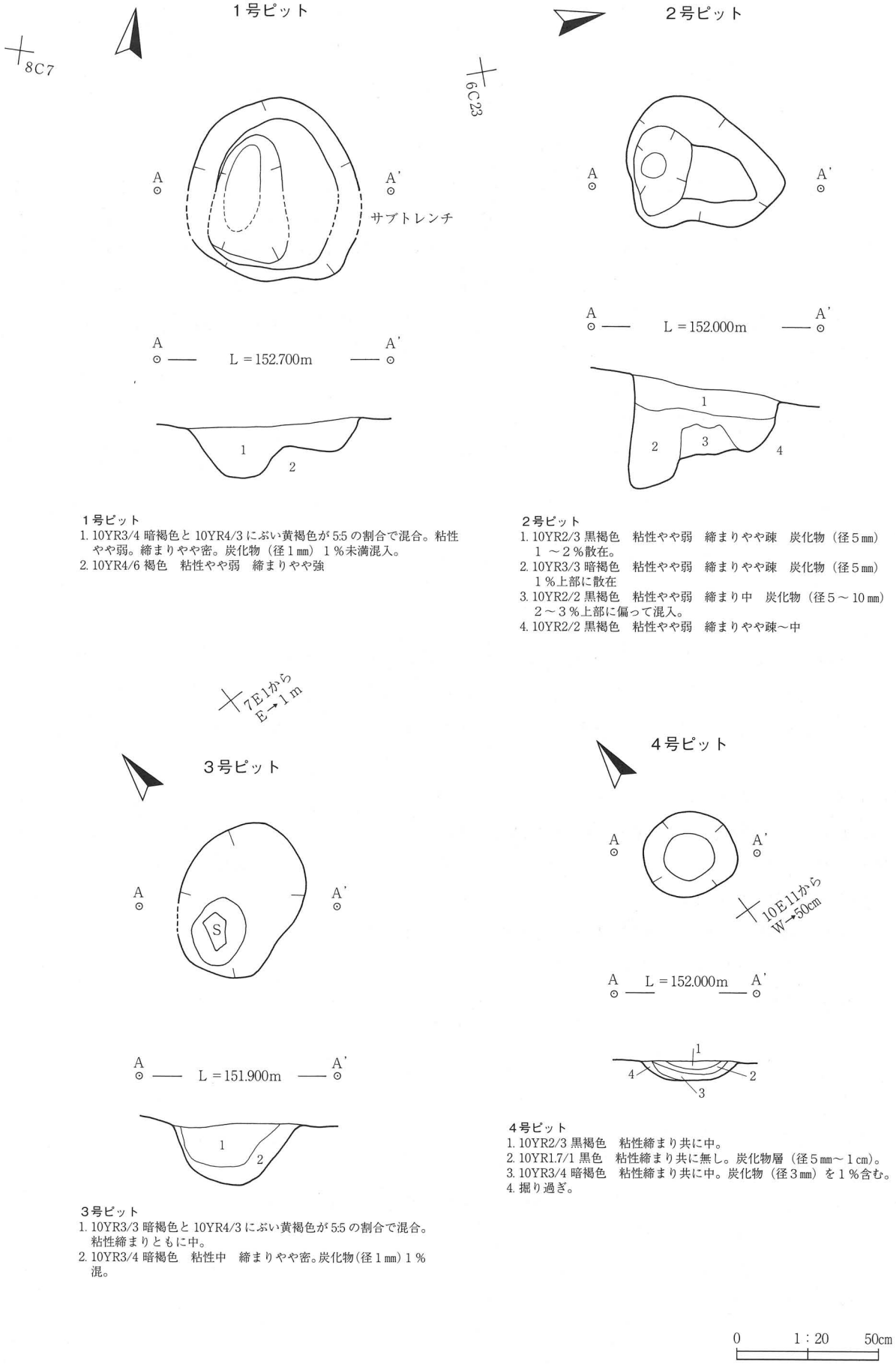
1号集石
1. 10YR4/4 褐色　粘性やや弱　締まり疎（ボソボソ）　据え方か、判然としない
2. 10YR4/6 褐色　粘性やや弱　締まりやや疎（1層より堅い）



2号集石
1. 10YR4/4 褐色　粘性やや弱　締まり疎（ボソボソ）　据え方？
2. 10YR4/6 褐色～5/6 黄褐色粘土質　粘性やや弱　締まりやや疎（1層よりは堅め）

0　1：20　50cm

第17図　26号土坑、1号焼土遺構、1・2号集石遺構



1号ピット
1. 10YR3/4 暗褐色と 10YR4/3 にぶい黄褐色が 5:5 の割合で混合。粘性やや弱。締まりやや密。炭化物（径1㎜）1％未満混入。
2. 10YR4/6 褐色　粘性やや弱　締まりやや強

2号ピット
1. 10YR2/3 黒褐色　粘性やや弱　締まりやや疎　炭化物（径5㎜）1 ～2％散在。
2. 10YR3/3 暗褐色　粘性やや弱　締まりやや疎　炭化物（径5㎜）1％上部に散在
3. 10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　締まり中　炭化物（径5～10㎜）2～3％上部に偏って混入。
4. 10YR2/2 黒褐色　粘性やや弱　締まりやや疎～中

3号ピット
1. 10YR3/3 暗褐色と 10YR4/3 にぶい黄褐色が 5:5 の割合で混合。粘性締まりともに中。
2. 10YR3/4 暗褐色　粘性中　締まりやや密。炭化物（径1㎜）1％混。

4号ピット
1. 10YR2/3 黒褐色　粘性締まり共に中。
2. 10YR1.7/1 黒色　粘性締まり共に無し。炭化物層（径5㎜～1㎝）。
3. 10YR3/4 暗褐色　粘性締まり共に中。炭化物（径3㎜）を1％含む。
4. 掘り過ぎ。

第18図　1～4号ピット

V 出 土 遺 物

1 土　　器

今回の調査から大コンテナ8.5箱分（10,510片・94,214.5g）の土器が出土した。大半の土器は遺物包含層（北・南捨て場）からの出土であり、遺構内出土は僅かである。

出土土器の全点について観察したところ、大半は胎土に植物性繊維を含んでおり、特徴的な文様帯を持つものはなく、外面に縄文のみを施文する土器群である。全体に焼成は良好で、内面調整は一部に指頭圧痕が認められるものの、ナデ・ミガキが施される。時期は縄文時代前期初頭～前葉に比定されると考えられる。

接合復元した上で器形が推定できるもの、特徴的な口縁部破片、底部破片について、計154点を選別し掲載した。全形を復元できた土器はほとんどなく、大半が破片資料である。底部が尖底のみ出土しているため、いずれも尖底土器であることは確かだが器形全体を把握することは困難である。

（1）群 別 土 器

施文方法を基準として、２群に大別した。その上で、口端形状や文様などを基に細分している。

第Ⅰ群　貝殻文を施文する土器群（６）

縄文施文以外の施文法が唯一観察されたのは、６で10Ｃ22グリッドⅡａ層最下位から出土している。施文には貝殻が用いられたと考えられ、８～９条の重層的な連続刺突文が横位に認められる。破片のため定かではないが、波状文を構成していると考えられる。

第Ⅱ群　縄文を施文する土器群（１～５、７～154）

第Ⅰ群以外の縄文のみを施文する土器群を一括した。計153点である。口端部形状や口縁に段差を有するもの、尖底部資料など計６類に細別した。また、１類はさらに計５種に分けた。

１類　口端に施文のあるもの
　ａ種　棒状工具による刻み目があるもの（25～29）
　ｂ種　縄文回転圧痕があるもの（30～36）
　ｃ種　指頭圧痕があるもの（37）
　ｄ種　内高外低の切り出し形を呈するもの（38～40）
　ｅ種　口端断面形を角形に成形し、原体などが圧痕されないもの（52～87）
２類　口縁に段差を有するもの（41～43）
３類　口縁上端に原体圧痕を有するもの（45）
３類　補修孔を有するもの（46～51）
４類　輪積箇所にも縄文施文が有るもの（124・125）
５類　尖底部資料（126～154）
６類　上記以外の縄文のみを施文するもの（１～５・７～24・44・88～123）

（2）土器重量分布

出土土器の平面的な拡がりを観察するために、第19図土器重量分布図を作成した。Ⅳ－（1）遺物包含層でも触れたが、分布は北捨て場と南捨て場の２箇所に集中域を持つ。

北捨て場は４～７・Ｂ～Ｆ区の東西方向48m、南北方向40m、集中域は東西方向31m、南北方向10mの範囲で、面積は1,060㎡（集中域285㎡）である。最も多いのは７Ｅ５の2,398g、次いで６C23の1,577g、６D20の1,396g、６D19の1,122g、６B16の1,078g、７Ｆ１の1,049gと続く。集中域の中でも傾斜変換点の北側斜面肩部の３ヵ所に密集して出土している。

南捨て場は８～10・Ｃ～Ｅ区に位置し、東西方向48m、南北方向27.5m、集中域は東西方向32m、南北方向22mの範囲で、面積は1,122㎡（集中域329㎡）である。最も多いのは10D５の1,745g、次いで７Ｅ１の1,617g、７Ｅ２の1,514g、９D16の1,475g、９E22の1,188gと続く。北側と同様、集中域の中でも傾斜変換点の南側斜面肩部に密集する傾向にあるが、約10mの範囲１ヵ所が最も出土している傾向にある。

出土土器を合わせて考えると、捨て場は斜面の南北両方向に形成されているが、ほぼ同一時期に廃棄されたものと考えられる。両集中域は斜面肩部に集中していることから、平坦部から傾斜方向に投げ捨てられたと見てよい。また、西側よりも東側に集中域が形成されていることから考えても、集落は調査区東に存在しており、尾根上から不要になった土器を捨てる「土器廃棄の場」であったと考えられる。

（3）土器の個体数

今回の調査で出土した土器の個体数調査を実施した。土器個体数を算出することにより、集落の存続時期にどのくらいの土器が使用または廃棄されたのかを推定するものである。

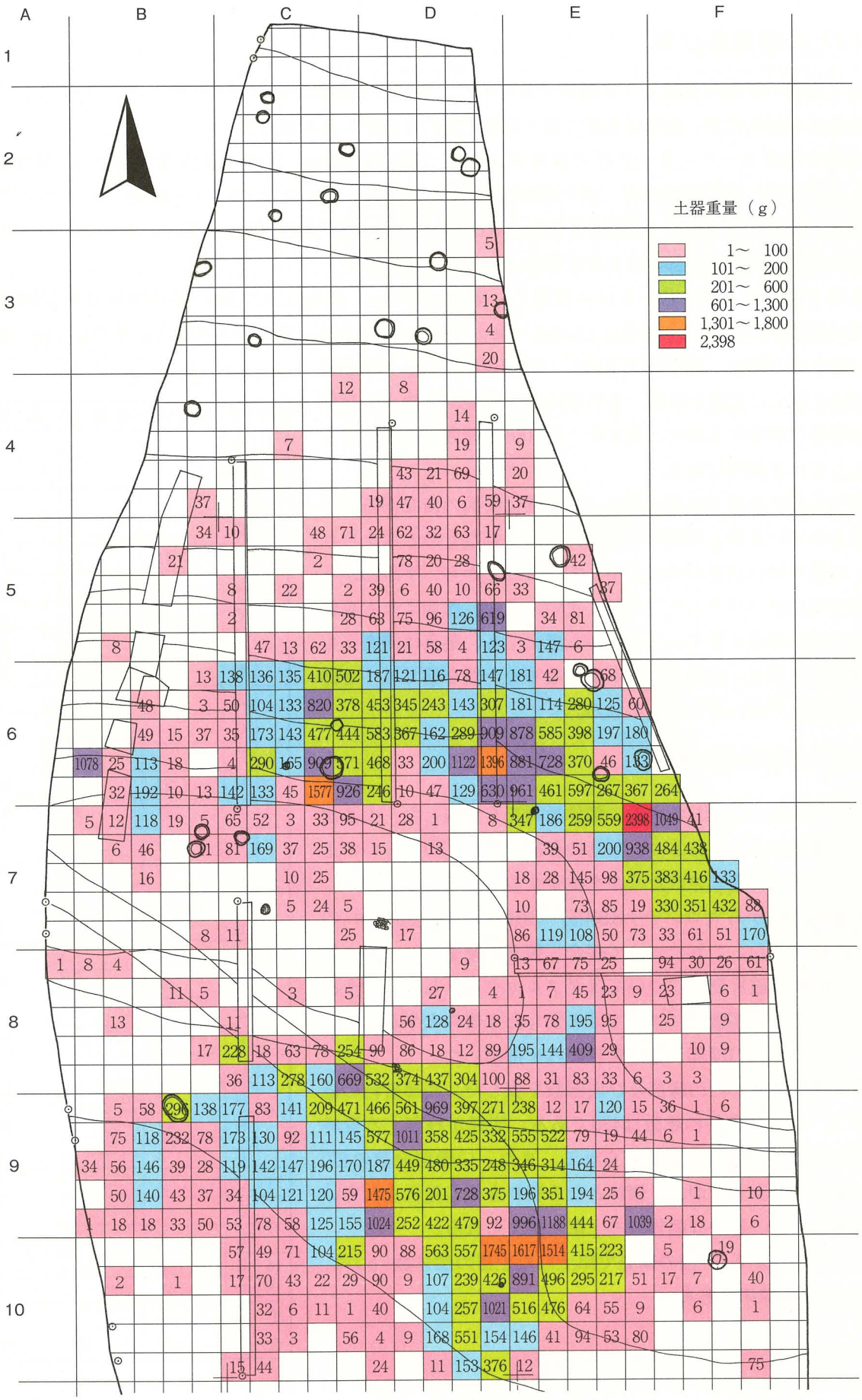
今回の調査から大コンテナ8.5箱分（10,510片・94,214.5g）の土器が出土した。これについて接合・復元作業を行い、同一個体と思われる破片資料についてはダブルカウントしないようにした。また、胴部破片については出土した土器の大半が地文のみであるため、口縁部・底部資料のみを抽出した。

第４表に集計した口縁部及び底部数を表した。底部資料の総数は25、口縁部資料の総数は470である。底部が残存する資料の総数25は最小個体数と捉えられる。また、口縁部総数の470には接合しなかったが、１個体となる資料も相当数含まれていると考えられ、言わば個体数の上限と捉えられる。

以上のことから、今回の調査で出土した土器の個体数（α）は、$25 \leqq \alpha \leqq 470$個体である。

第４表　土器個体数

グリッド		口縁部数	底部数	合計
4	B	1		1
	D	3		3
5	B	1		1
	C	5		5
	D	11	1	12
6	B	10		10
	C	40	5	45
	D	58	3	61
	E	19	2	21
7	B	2		2
	C	4		4
	D		1	1
	E	23	1	24
	F	31	3	34
8	C	5	2	7
	D	26		26
	E	13		13
	F	2		2
9	B	4		4
	C	31	2	33
	D	76	2	78
	E	28	2	30
10	C	3		3
	D	19	1	20
	E	42		42
	F	2		2
11	C	1		1
13	D	1		1
	E	1		1
14	E	5		5
15	D	1		1
不明		2		2
合計		470	25	495



第19図　土器重量分布図（1～10グリット）

2　石　　器

（1）尖　頭　器

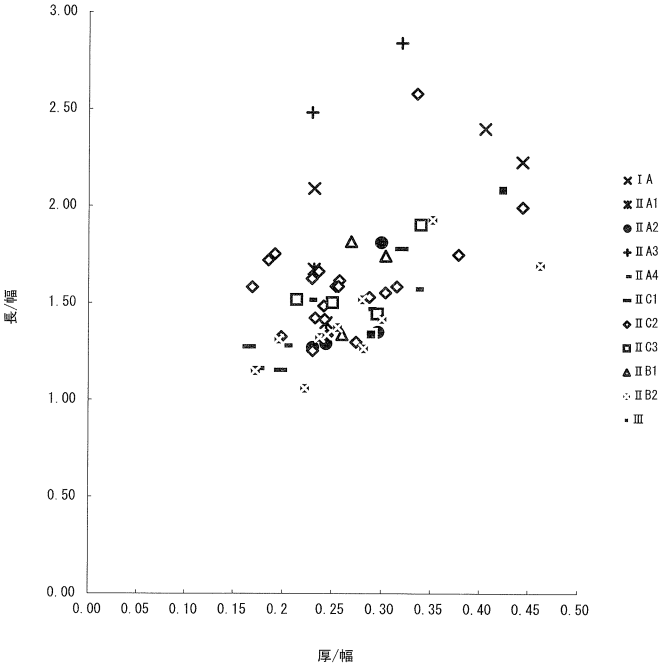
先端部に二次加工を施し鋭く尖らせた石器を尖頭器とした。基準として長さ５cmを目安に尖頭器とした。計３点出土しており、すべて掲載した。いずれも遺構外出土である。石材は１・２が頁岩で、３が珪質頁岩である。２・３は基部幅がやや広く篦状石器の可能性もあるがここに含めた。先端角はいずれも60°付近に偏っており、規格性を感じられる。

（2）石　　鏃

先端部に二次加工を施し鋭く尖らせた、扁平の石器を石鏃とした。基本的に長さ５cm未満のものを石鏃としたが、それ以上でも形態から石鏃と認められるものも含んでいる。計83点出土しており、21点を図示した（掲載率25.3%）。いずれも遺構外出土である。

茎部の有無により、２形態に大別される。有茎（Ⅰ類）が３点、無茎（Ⅱ類）が77点で、また欠損により分類不明なもの（Ⅲ類）が３点である。

Ⅰ類の基部形態についてはいずれも凸基形（A類）に限られる。また、Ⅱ類は基部形態から平基形（A類）、円基形（B類）、凹基形（C類）の３形態に分けられる。数量はA類17点、B類18点、C類42点とC類が突出している。



第20図　石鏃長幅比率

Ⅱ類を側縁形態に着目して細分すると、A類は直線的なもの（１類）４点、外湾するもの（２類）４点、先端を作出するもの１類（３類）３点、先端を作出するもの２類（４類）５点に分けられる。またB類は直線的なもの（１類）３点、外湾するもの（２類）15点である。C類については直線的なもの７点、外湾するもの31点、先端を意図的に作出するもの（３類）４点である。

法量について観察するために、第20図に長幅比率を示した。縦軸に長/幅、横軸に厚/幅を設定し、指数による比較を行った。61点について計測可能である。

特徴的な偏りは見られないが、数

第５表　石鏃先端角集計表

		先端角（°）												計
		30～35	36～40	41～45	46～50	51～55	56～60	61～65	66～70	71～75	81～85	86～90	136～140	
分類	ⅠA		1		2									3
	ⅡA1	1				1								2
	ⅡA2					1	2		1					4
	ⅡA3				1	1								2
	ⅡA4	1			3		1							5
	ⅡB1			2		1								3
	ⅡB2				1		1	2	2	1	1	2	1	11
	ⅡC1			1	2					1				4
	ⅡC2		1	2	5	5	2	4	2	1				22
	ⅡC3			2	2									4
	Ⅲ				1	1				1				3
計		2	2	7	17	10	6	6	5	4	1	2	1	63

値は長/幅1.06～2.84、厚/幅0.17～0.46の範囲に分布している。さらに先端角について見ると（第５表先端角集計表を参照）、46～50°範囲にピークがあり、51～55°範囲がこれに次ぐ。分類で見れば、ⅡＣ２類は全体の傾向とほぼ同様であるが、ⅡＢ２類などは56°以上に散在している。

使用石材については第６表分類別石材表を参照されたい。大半が頁岩を用いており、全体の88%を占める。次いで、珪質頁岩６点（7.2%）で、他は１点のみ使用されている。分類で見ると、ＩＡ・ⅡＡ２・ⅡＡ３・ⅡＢ１・ⅡＣ３類は頁岩のみが使用されている。今回の調査で黒曜石製製品として唯一出土したⅡＣ１類の173は、産地同定から青森県深浦から産出されたものを用いていることが分かった（附編３参照）。原石で持ち込まれたか、製品としてかは、今回の調査では他に２点の黒曜石製剥片が出土したのみであるため不明である。

第６表　石鏃分類別石材表

		石材						計
		頁　岩	珪質頁岩	凝灰岩	石灰岩	瑪　瑙	黒曜石	
分類	ＩＡ	3						3
	ⅡA1	3			1	1		5
	ⅡA2	4						4
	ⅡA3	3						3
	ⅡA4	5						5
	ⅡB1	3						3
	ⅡB2	12	2	1				15
	ⅡC1	5	1				1	7
	ⅡC2	29	2					31
	ⅡC3	4						4
	Ⅲ	2	1					3
計		73	6	1	1	1	1	83

（３）石　　錐

剥片の尖頭状の端部に両側縁から二次加工が施された石器を石錐とした。計７点出土しており、３点を図示した（掲載率42.9%）。いずれも遺構外出土である。

形状から２分類した。尖基形のものをⅠ類、剥片の一部に二次加工を施して尖らせたものをⅡ類とした。Ⅰ類が５点、Ⅱ類が２点である。石材はⅠ類の180のみが珪質頁岩で、他はすべて頁岩である。

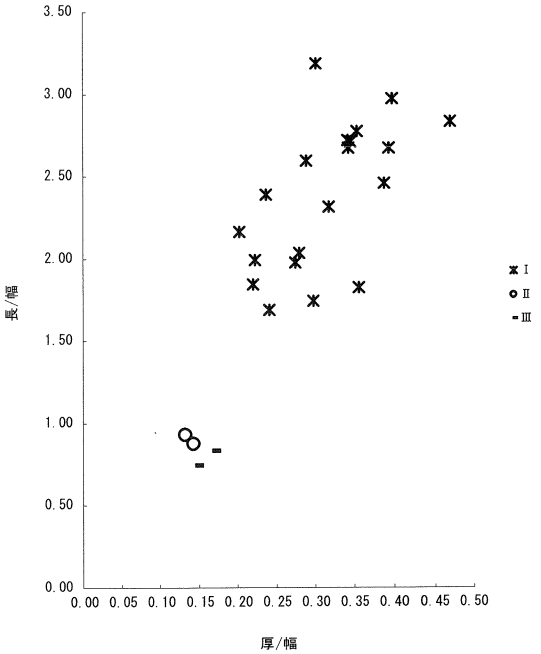
先端角は計７点について計測可能で、平均64.0°（50.0°－115.0°範囲）でバラつきがある。法量も同様でバラつきがあり、まとまりを欠く。

（４）石　　匙

摘み状の突起を一端に有し、スクレイパー類と同様の刃部を作出している石器を石匙とした。計38点出土しており、９点を図示した（掲載率23.7%）。いずれも遺構外出土である。

摘み部を上にして置き、抉り部が水平になるようにした場合（摘み部の軸を垂直に位置させた場合）、形状が縦長の形になるものをⅠ類、斜めに長くなるものをⅡ類、横長になるものをⅢ類、不明をⅣ類とした。Ⅰ類は30点（79%）、Ⅱ類は４点（10.5%）、Ⅲ類は２点（5.3%）、Ⅳ類は２点（5.3%）である。

さらに刃部形態が両刃のものをＡ類、片刃のものをＢ類とすると、ＩＡ類が20点と最も高く、全体の52.6%を占め、ＩＢ類が９点、ⅡＡ類３点、ⅡＢ類１点、ⅢＡ類２点、ⅣＢ類２点と細分される。



第21図　石匙長幅比率

法量について観察するために、第21図長幅比率を示した。縦軸に長/幅、横軸に厚/幅を設定し、指数による比較を行った。24点について計測可能である。Ⅰ～Ⅲ類は平面形態に比例して、３傾向に分かれる。Ⅰ類は長/幅1.69～3.19、厚/幅0.20～0.47と縦長の範囲、Ⅱ類は長/幅0.88～0.93、厚/幅0.13～0.14と斜長の範囲、Ⅲ類は長/幅0.74～0.83、厚/幅0.15～0.17と横長の範囲になる。また類型ごとの刃角に着目すると（第７表刃角集計表）、全体のピークは56～60°にあり、次いで51～55°である。最も出土しているⅠ類のピークも同様に56～60°の範囲にある。

使用石材については第８表分類別石材表に示した通りである。全体の89.5%（34点）を頁岩が占める。他に赤色頁岩、凝灰岩、瑪瑙が見られるが、少ない。

第７表　石匙刃角集計表

		刃角（°）										計
		35～40	41～45	46～50	51～55	56～60	61～65	66～70	71～75	76～80	86～90	
分類	ⅠA	1		2	3	8	1	3	2			20
	ⅠB	1	1	1	1	1	1	2	1			9
	ⅡA				2					1		3
	ⅡB				1							1
	ⅢA					1	1					2
	ⅣB					1					1	2
計		2	1	3	7	11	3	5	3	1	1	37

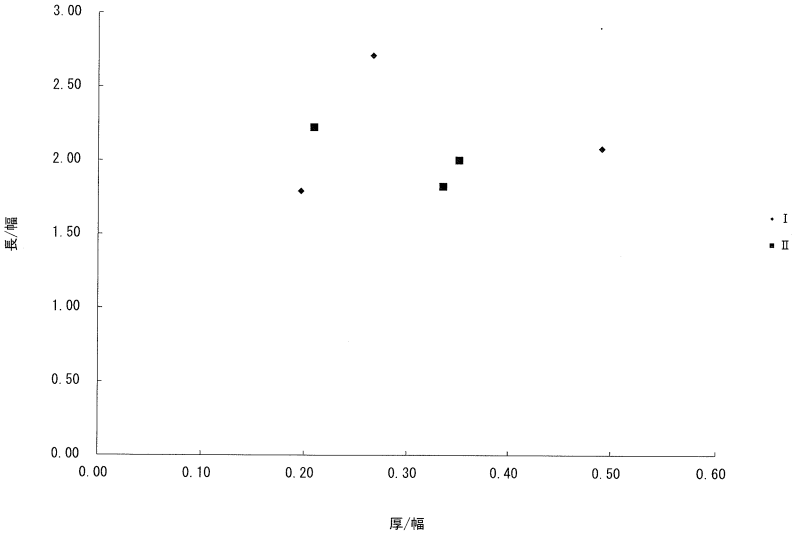
第８表　石匙分類別石材表

		石材				計
		頁岩	赤色頁岩	凝灰岩	瑪瑙	
分類	Ⅰ	27	1	1	1	30
	Ⅱ	3		1		4
	Ⅲ	2				2
	Ⅳ	2				2
計		34	1	2	1	38

（5）篦　状　石　器

左右の側縁がほぼ対称で基部側が狭く、刃部側に広がりを持つ石器を篦状石器とした。計８点出土しており、このうち２点を図示した（掲載率28.6%）。いずれも遺構外出土である。

平面形態に着目すると、２形態に大別される。基部から端部にかけて、ほぼ直線的な形態の短冊形となるもの（Ⅰ類）が４点、端部にかけて幅広になる形態の撥形（Ⅱ類）が４点である。



第22図　篦状石器長幅比率

法量について観察するために、第22図長幅比率を示した。縦軸に長/幅、横軸に厚/幅を設定し、指数による比較を行った。６点について計測可能である。出土数が限られるため一概に言えないが、

第９表　篦状石器刃角集計表

		刃角（°）								計
		46～50	51～55	56～60	61～65	66～70	71～75	76～80	81～85	
分類	Ⅰ	1	1		1				1	4
	Ⅱ		1		1	1				3
計		1	2		2	1			1	7

第10表　篦状石器分類別石材表

		石材		計
		頁岩	凝灰岩	
分類	Ⅰ	3	1	4
	Ⅱ	4		4
計		7	1	8

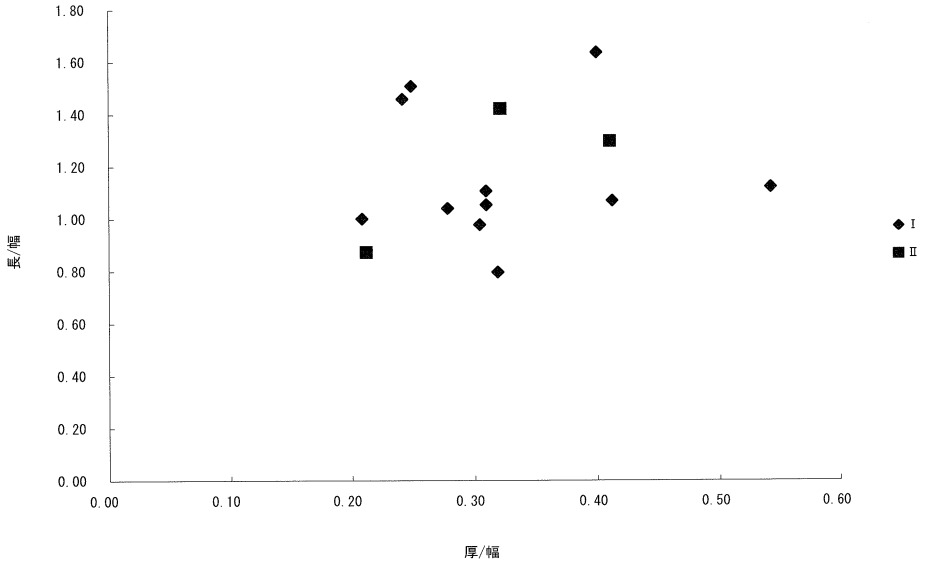
長/幅1.79～2.71、厚/幅0.20～0.49の範囲に認められる。２つの類型が同じ傾向を示すのは、規格性を意味していると思われる。
また、作出された刃部の角度（刃角）に着目する（第９表刃角集計表）。計７点について見ると、50°付近と60°半ばにやや集中するものの傾向は見出せない。
使用石材は凝灰岩が１点のみで、他は頁岩製である。

（6）楔　形　石　器

両極剥離痕と２個一対または４個二対の刃部を有する石器を楔形石器とした。剥片生産時の両極打法の痕跡のみが残された剥片はここには含んでいない。計14点出土しており、３点を図示した（掲載率21.4%）。いずれも遺構外出土である。

刃部の作出位置から２形態に分けられる。２個一対の剥離痕を持つもの（Ⅰ類）が11点、４個二対の剥離痕を持つもの（Ⅱ類）が３点である。

法量について観察するために、第23図長幅比率を示した。縦軸に長/幅、横軸に厚/幅を設定し、指数による比較を行った。全点について計測可能である。



第23図　楔形石器長幅比率

Ⅰ・Ⅱ類ともにほぼ同じ範囲に集中するが、Ⅰ類は長/幅0.80～1.64・厚/幅0.21～0.54とやや広く、Ⅱ類は長/幅0.87～1.42・厚/幅0.21～0.41と若干狭い。石材はすべて頁岩製である。

（7）スクレイパー類

定形石器以外で、機能部として刃部を有し、切る、削る、掻く作業に使用されたと見られる石器をスクレイパー類とした。計26点出土しており、３点を図示した（掲載率11.5%）。なお、二次加工ある剥片も同様の機能が考えられるが、全縁辺の1/2以上に二次加工が施されている場合を本分類とし、それ以下を二次加工ある剥片とした。いずれも遺構外出土である。

素材である剥片の形状から２形態に分けられる。縦長の剥片を素

第11表　スクレイパー類分類別石材表

		石材		計
		頁岩	チャート	
分類	Ⅰ	18		18
	Ⅱ	6	2	8
計		24	2	26

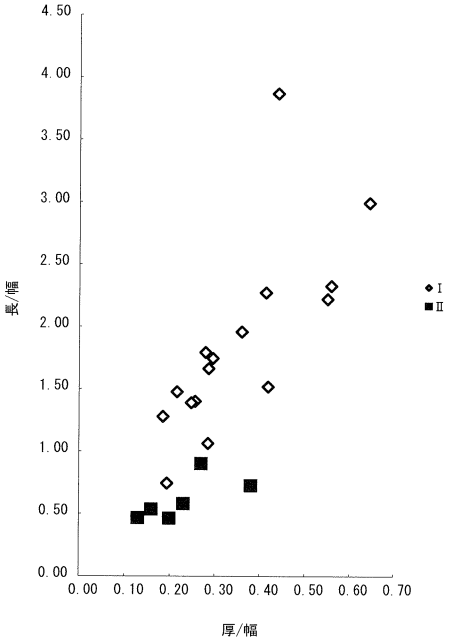
第12表　スクレイパー類刃角集計表

		刃角（°）								計
		46～50	51～55	56～60	61～65	66～70	71～75	76～80	81～85	
分類	Ⅰ	2	1	1	3	4	3	1	1	16
	Ⅱ	1	1	1	1	2	1		1	8
計		3	2	2	4	6	4	1	2	24

材とするもの（Ⅰ類）が18点、横長の剥片を素材とするもの（Ⅱ類）が８点である。

法量について観察するために、第24図長幅比率を示した。縦軸に長/幅、横軸に厚/幅を設定し、指数による比較を行った。22点について計測可能である。Ⅰ・Ⅱ類は平面形状が縦長と横長に分かれるため、結果も明確に２傾向が表された。Ⅰ類は長/幅0.74～3.87、厚/幅0.18～0.64と縦長の範囲、Ⅱ類は長/幅0.46～0.90、厚/幅0.13～0.38と横長の範囲である。また分類ごとの刃角に着目すると（第12表刃角集計表）、Ⅰ・Ⅱ類ともピークは61～75°の範囲にあり、特に66～70°の値が高い。

使用石材については第11表分類別石材表に示した。全体の92.3%(24点)を頁岩が占める。他はチャート２点がある。



第24図　スクレイパー類長幅比率

（８）二次加工ある剥片

スクレイパー類に比べて刃部の作出範囲が狭い（全縁辺の1/2未満）が、同様の機能を有する石器を二次加工ある剥片とした。計14点出土しており、２点を図示した（掲載率14.3%）。いずれも遺構外出土である。

素材である剥片の形状から２形態に分けられる。縦長の剥片を素材とするもの（Ⅰ類）が10点、横長の剥片を素材とするもの（Ⅱ類）が４点である。14点中８点が欠損しているため、詳細は不明だが、縦長の剥片がよく利用されている。

使用石材については、Ⅰ類の１点が珪質頁岩以外はすべて頁岩である。

（９）微細剥離痕ある剥片

剥片剥離工程において産出された石器製作に不適な剥片であるが、縁辺部に微細な剥離痕が観察される剥片を微細剥離痕ある剥片とした。計１点出土している（掲載率０%）。素材は縦長の剥片で、頁岩製である。

(10) 抉　入　石　器

縦長剥片を素材とした側縁に抉り部を持つ二次加工ある剥片を抉入石器とした。計１点出土している（掲載率100%）。石材は頁岩である。

(11) 石　　核

剥片剥離作業が行われて産出されたと考えられるすべての残核を石核とした。計16点出土しており、３点を図示した（掲載率18.8%）。いずれも遺構外出土である。

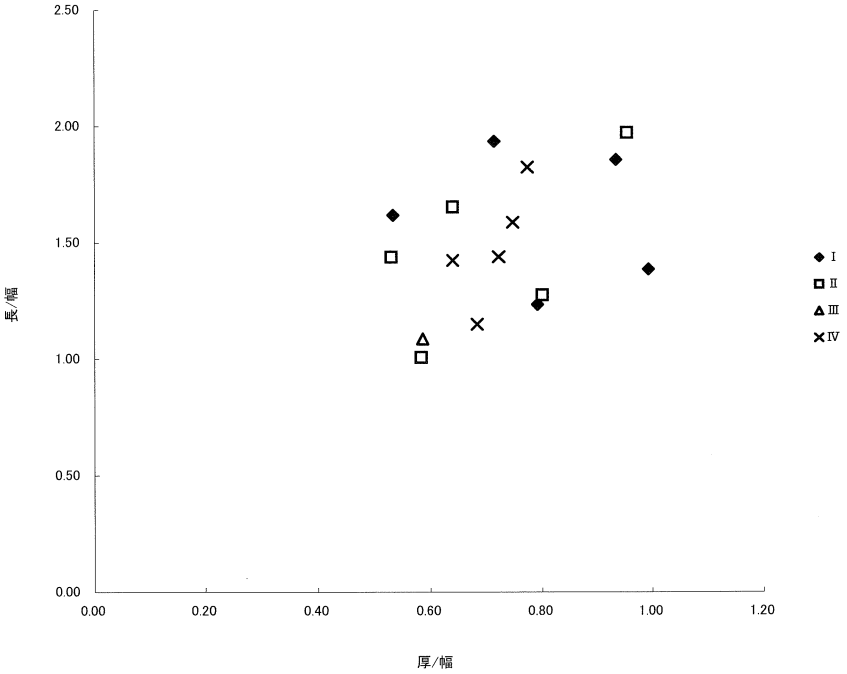
今回は整理時間の都合上、石核及び剥片の接合は行えなかった。よって、本遺跡の剥片剥離作業については石核から類推するに留めたい。なお、石核の分類については新潟県清水上遺跡（新潟県教委 1990)、新潟県アチヤ平遺跡上段（新潟県・朝日村教委

第13表　石核分類別石材表

		石材			計
		頁岩	流紋岩	斑糲岩	
分類	Ⅰ	4	1		5
	Ⅱ	4		1	5
	Ⅲ	1			1
	Ⅳ	5			5
計		14	1	1	16

2002）を用いた。

剥離作業の手順から４分類した。第13表に石核分類別石材表を示した。Ⅰ類は同一打面から同一作業面に同方向の剥離を行うもので、５点（31.3%）である。頁岩を主に用いており、流紋岩製が１点ある。Ⅱ類は同一作業面に別々の打面から剥離を行うもので、５点（31.3%）である。これも主に頁岩を使用しており、斑糲岩が１点ある。Ⅲ類は古い作業面を打面とする剥離で、１点のみに見られ、頁岩を用いている。Ⅳ類は両極技法による剥離で、５点（31.3%）に見られ、すべて頁岩製である。



第25図　石核長幅比率

第25図長幅比率を作成し、法量の相違を観察した。縦軸に長/幅、横軸に厚/幅を設定し、指数による比較を行った。16点について計測可能である。Ⅰ類は長/幅1.23～1.94、厚/幅0.53～0.99の範囲、Ⅱ類は長/幅1.01～1.97、厚/幅0.53～0.95の範囲、Ⅲ類は１点のみで長/幅1.09、厚/幅0.59、Ⅳ類は長/幅1.15～1.82、厚/幅0.64～0.77の範囲に散在している。類別の差は少なく、ほぼ同範囲に集中する傾向にある。これはほぼ同サイズの原石を用いているためである。

第14表に石核剥離角集計表を示した。全体に大きな違いは見られず、散在しているが、Ⅰ・Ⅱ類は剥離角が大きく、Ⅲ・Ⅳ類は小さい傾向にある。

（12）剥　　片

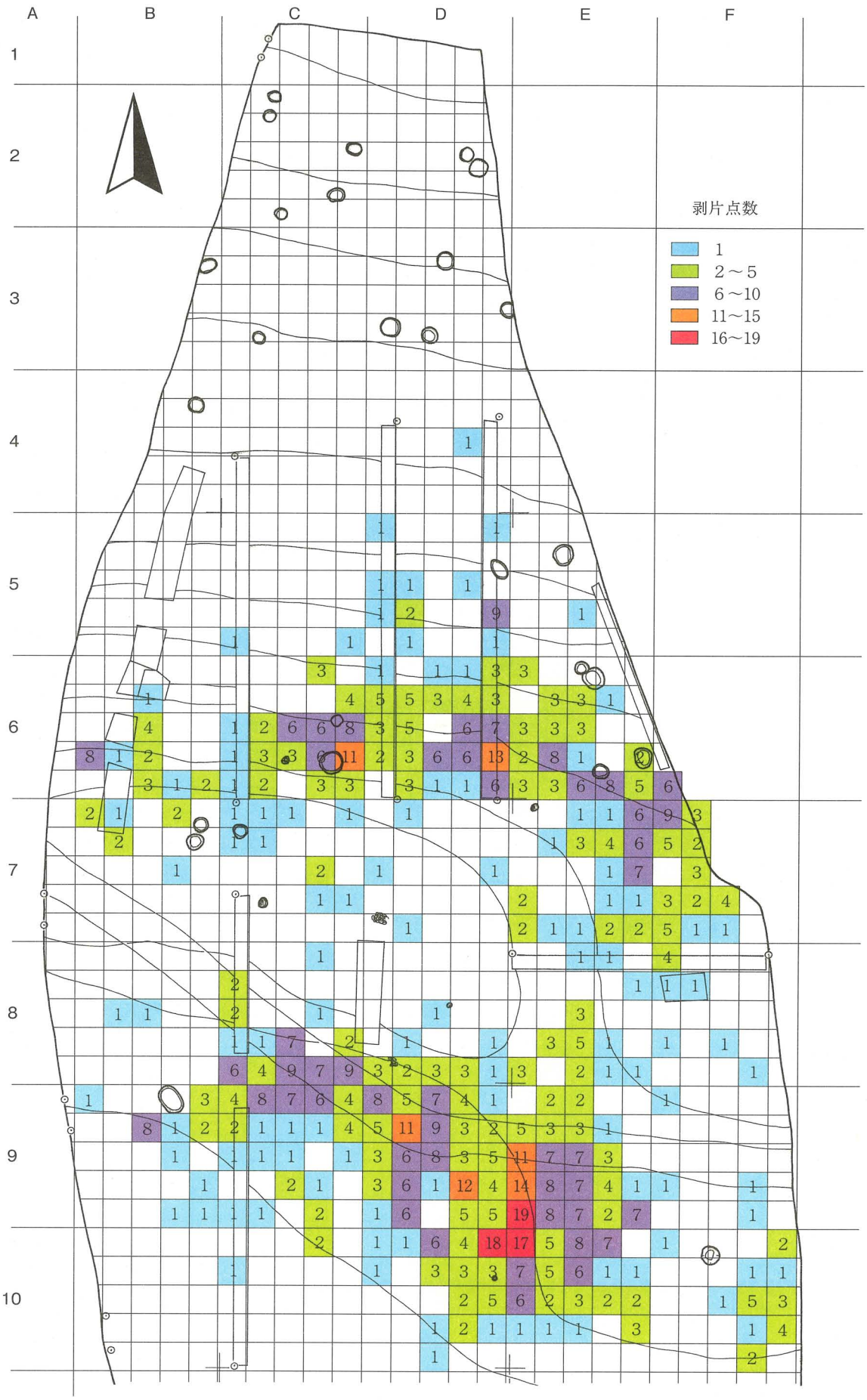
剥片剥離作業において産出された石器製作に不適な剥片や加工の施される属性を有した剥片を一括した。計1,258点（重量12827.54g）出土しており、このうち黒曜石製の２点のみを図示した（掲載率0.2%）。この２点については、蛍光Ｘ線による産地同定分析を行っている（附編３参照）。

第14表　石核剥離角集計表

		剥離角（°）											計
		71～75	76～80	81～85	86～90	91～95	96～100	101～105	106～110	111～115	116～120	121～125	
分類	Ⅰ							1	1		2	1	5
	Ⅱ			1		1			2		1		5
	Ⅲ	1											1
	Ⅳ		1	1				1					3
合計		1	1	2		1		2	3		3	1	14

整理時間の都合上、剥片に関する詳細な分析は行えなかった。石材については、大半が頁岩である。その他に水晶１点、石英２点、黒曜石２点などが出土している。

第26図に剥片出土分布図を作成した。１～10区までの平面分布を示している。全体の出土量は第15表に表した。



第26図　剥片出土分布図

第15表　剥片出土点数・重量集計表

グリッド	項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	その他	点数合計	重量合計
4D	点数														1										1			2	
	重量														2.34										4.75				7.09
5C	点数																					1				1		2	
	重量																					115.43				1.25			116.68
5D	点数	1				1						1	1		1		1	2			9		1			1		19	
	重量	1.78				56.62						8.60	2.96		2.54		0.67	21.72			252.33		0.74			35.85			383.81
5E	点数																		1									1	
	重量																		11.06										11.06
6B	点数								1					4			8	2	2					3	1	2		23	
	重量								1.49					10.80			127.64	1.66	4.13					9.46	0.26	2.93			158.37
6C	点数				3						4	1	2	6	6	8	1	3	3	6	11	1	2		3	3		63	
	重量				9.46						80.90	6.95	8.24	26.41	7.16	25.36	3.26	2.09	6.98	16.30	14.38	2.82	16.48		683.21	12.68			922.68
6D	点数	1		1	1	3	5	5	3	4	3	3	5		6	7	2	3	6	6	13		3	1	1	6	2	90	
	重量	0.59		1.79	3.94	19.22	12.10	12.44	10.14	9.93	281.98	15.48	20.88		148.65	371.08	20.24	27.26	347.31	75.06	69.38		12.87	1.09	0.60	297.83	3.03		1762.89
6E	点数	3						3	3	1		3	3	3			2	8	1		2	3	3	6	8	5		57	
	重量	3.23						4.01	309.61	1.94		10.66	15.22	25.25			8.82	40.54	2.90		4.22	6.73	6.83	212.06	93.44	10.11			755.57
6F	点数																					6					2	8	
	重量																					36.22					21.06		57.28
7B	点数	2	1		2			2							1													8	
	重量	0.32	0.68		1.36			2.96							4.45														9.77
7C	点数	1	1	1		1	1	1							2					1	1							10	
	重量	6.83	0.88	4.74		0.74	2.25	49.06							5.47					11.18	20.94								102.09
7D	点数		1									1				1							1					4	
	重量		3.07									10.04				5.65							34.79						53.55
7E	点数			1	1	6		1	3	4	6				1	7	2			1	1	2	1	1	2	2	11	53	
	重量			2.24	56.58	185.96		4.02	14.38	286.61	16.87				2.32	137.00	5.80			29.93	4.17	7.35	40.62	7.19	75.59	7.43	80.15		964.21
7F	点数	10	3				5	2					3				3	2	4			5	1	1			19	58	
	重量	103.86	9.11				89.36	7.37					8.15				11.44	5.10	9.48			30.05	6.49	56.01			223.98		560.40
8B	点数												1	1														2	
	重量												1.73	9.90															11.63
8C	点数				1		2					2			1		1	1	7		2	6	4	9	7	9	3	55	
	重量				0.92		1.67					3.59			5.66		3.20	1.23	11.33		84.96	8.13	13.72	36.39	23.06	103.98	58.67		356.51
8D	点数													1				1			1	3	2	3	3	1	5	20	
	重量													3.49				0.88			2.16	4.25	51.44	16.63	32.31	3.08	88.41		202.65
8E	点数			1	2						1			3				3	5	1		3		3	1	1		24	
	重量			0.21	10.22						1.28			11.55				230.13	440.16	2.03		2.55		8.27	2.22	0.66			709.28
8F	点数	4					1	1									1		1						1			9	
	重量	66.90					1.23	3.44									0.84		3.76						0.23				76.40
9B	点数	1				3			8	1	2				1						1				1	1	1	20	
	重量	1.77				10.72			28.07	1.46	64.78				0.32						50.02				6.25	41.34	3.97		208.70
9C	点数	4	8	7	6	4	2	1	1	1	4	1	1	1		1			2	1		1	1		2		2	51	
	重量	18.92	11.50	9.64	9.02	11.84	0.87	7.17	1.09	20.26	38.28	7.92	2.41	3.02		2.17			74.52	9.20		2.32	3.79		37.53		23.20		294.67
9D	点数	8	5	7	4	1	5	11	9	3	2	3	6	8	3	5	4	6	1	12	4	2	6		5	5	2	127	
	重量	8.31	69.69	283.82	25.59	8.54	51.95	36.15	137.65	3.66	18.76	8.70	12.87	135.26	96.87	10.67	133.56	43.21	7.55	57.30	14.14	2.54	14.39		32.79	7.13	2.74		1223.84
9E	点数		2	2			5	3	3	1		11	7	7	3		14	8	7	4	1	19	8	7	2	7		121	
	重量		2.06	6.56			9.20	7.97	2.20	10.58		20.92	16.07	15.45	6.81		32.93	33.16	33.93	11.74	2.20	48.38	76.30	12.89	8.37	20.80			378.52
9F	点数	1															1			1					1			4	
	重量	2.30															4.09			24.93					2.19				33.51
10C	点数				2		1																				4	7	
	重量				41.18		3.20																				12.50		56.88
10D	点数	2	1	6	4	18	1		3	3	3				2	5			1	2	1			1			1	54	
	重量	51.67	0.38	5.40	5.46	520.31	15.86		66.60	1.47	5.26				4.03	157.73			0.46	104.95	4.93			20.75			2.96		968.22
10E	点数	17	5	8	7		7	5	6	1	1	6	2	3	2	2	1	1	1		3						2	80	
	重量	59.44	14.90	34.64	19.53		14.07	28.69	21.51	1.31	4.22	119.81	5.38	5.94	11.44	12.63	0.12	2.88	2.79		55.82						20.12		435.24
10F	点数	1				2				1	1			1	5	3				1	4				2			21	
	重量	6.48				1.77				5.43	2.52			3.21	24.12	4.41				0.71	20.95				0.54				70.14
11C	点数																										2	2	
	重量																										10.20		10.20
15D	点数					1																						1	
	重量					3.59																							3.59
																												996	10905.43

出土地点	21号土坑	22号土坑	26号土坑	カクラン	T8	文化課T3	調査区南側	深掘トレンチ	不明	合計
点数	1	3	1	1	3	2	1	1	249	262
重さ	1.53	1.29	25.03	1.49	12.72	11.10	3.60	47.75	1817.60	1922.11

全体点数合計	全体重量合計
1258	12827.54

北捨て場では地形変換点の斜面肩部に集中域が拡がっており、６D20が13点と最も多い。６C20が11点と続き、他も６区南から７区北にかけて多い。また、南捨て場でも地形変換点の斜面肩部に集中域が拡がっており、９E21が19点、10D5が18点、10E1が17点と密で、９区から10区北までが多い。

(13) 石　斧　類

器面全体または一部を研磨・敲打、剥離などで成形した刃部を有する斧形の石器を石斧類として一括した。計88点出土しており、13点を図示した（掲載率14.77%）。

成形段階の敲打・剥離・研磨などの加工から２形態に分けられる。器面全体を研磨して成形している斧形石器（磨製石斧）がⅠ類で37点、敲打・剥離のみで成形している斧形石器（打製石斧）がⅡ類で51点である。

Ⅰ類について細分すると、最大幅が刃部付近にあるもの（A類）が13点、最大幅が中央付近にあるもの（B類）が５点、幅がほぼ直線的になるもの（C類）が６点、不明なもの（D類）が13点である。Ⅱ類は、裏面が自然面となる亀の子型を呈するもの（A類）が19点、正裏両面に自然面を有し、側縁のみに二次加工が施されるもの（B類）が28点、全面に剥離成形が及ぶもの（C類）が４点である。

刃部形状に着目すると、Ⅰ類は平面22点、断面23点について観察可能である。平面形は直刃４点、偏刃３点、円刃15点で、断面形は両刃21点、片刃２点となる。Ⅱ類は平面・断面ともに７点について観察可能である。平面形は直刃３点、円刃４点で、断面形は両刃１点、片刃６点である。

法量値については、欠損品が多いため、比較するに至らなかった。

第16表に分類別石材表を表した。玢岩の使用率が最も高く全体の45.3%、次いで斑糲岩で34.9%を占める。分類別では、ⅠC類やⅡA類は玢岩が多用されるが、ⅡC類は斑糲岩、ⅠA類やⅠB類、ⅡB類は玢岩・斑糲岩が同程度使用されている。

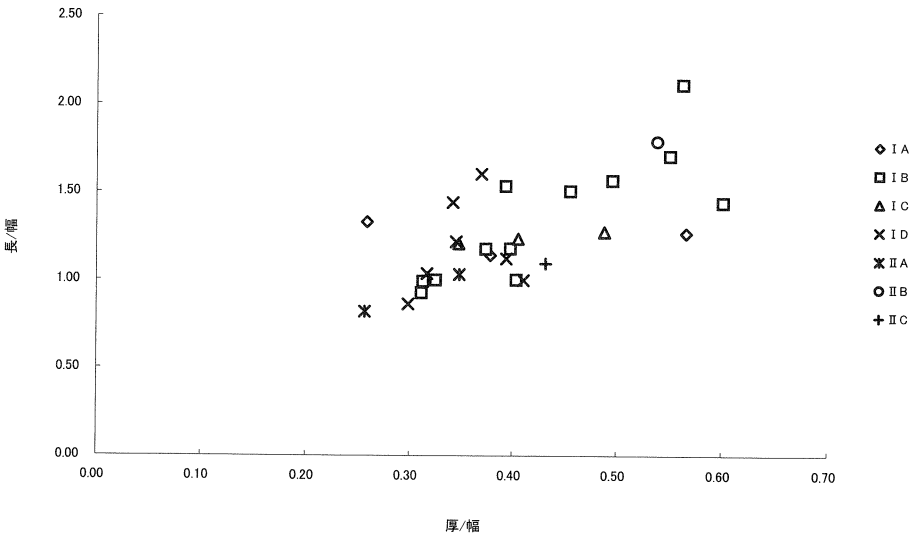
第16表　石斧類分類別石材表

		石材							合計
		玢岩	斑糲岩	砂岩	頁岩	超塩基性岩	凝灰岩	デイサイト	
分類	ⅠA	6	4	1	1	1			13
	ⅠB	2	3						5
	ⅠC	4	1	1					6
	ⅠD	3	5	1	3	1			13
	ⅡA	11	4	2					17
	ⅡB	13	10	3	1			1	28
	ⅡC		3				1		4
合計		39	30	8	5	2	1	1	86

(14) 礫　器　類

礫または大形で厚手の剥片の一部に、片面・両面から二次加工を施し、刃部を作り出した石器を礫器類とした。計30点出土しており、４点を図示した（掲載率13.3%）。いずれも遺構外出土である。

素材の性格から２形態に分けられ



第27図　礫器類長幅比率

る。礫素材のもの（Ⅰ類）が26点、大形で厚手の剥片を素材とするもの（Ⅱ類）が４点である。

また刃部の形状から４細分される。刃部の平面形が円刃、断面形が両刃のものがA類、平面形が円刃、断面形が片刃のものがB類、平面形が直刃、断面形が両刃のものがC類、平面形が直刃、断面形が片刃のものがD類とした。

ⅠA類３点、ⅠB類13点、ⅠC類３点、ⅠD類７点、ⅡA類２点、ⅡB類１点、ⅡC類１点に細分される。全体に見るとⅠ類の比率が高く、86.7%を占める。また、その中でもⅠB類が13点とⅠ類の50%を占めている。

法量を観察するために、第27図長幅比率を示した。縦軸に長/幅、横軸に厚/幅を設定し、指数による比較を行った。29点について計測可能である。全体に密集する傾向にあるが、ⅠB類はやや横長で形態差がある。ⅡA類はサイズが若干小さい。

第17表　礫器類分類別石材表

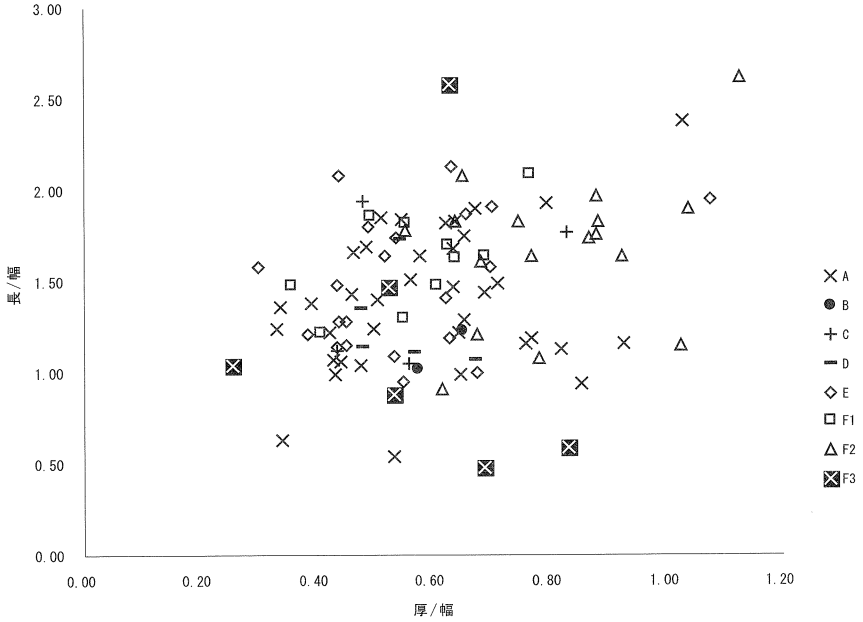
		石材					合計
		玢岩	斑糲岩	砂岩	頁岩	超塩基性岩	
分類	ⅠA	2	1				3
	ⅠB	2	7	2	1	1	13
	ⅠC	1	1			1	3
	ⅠD	1	5	1			7
	ⅡA		1	1			2
	ⅡB			1			1
	ⅡC			1			1
合計		6	15	6	1	2	30

第17表に分類別石材表を示した。全体の53.3%（16点）を斑糲岩が占める。次いで、玢岩が多い。Ⅱ類は砂岩を用いられる傾向がある。加工のしやすさが要因であろうか。

(15) 敲　磨　器　類

礫の表面に残された使用痕跡を敲打痕、磨痕、凹痕の3種類に規定し、これらの痕跡のいずれかが認められるものを敲磨器類とした。計124点出土しており、７点を図示した（掲載率5.7%）。いずれも遺構外出土である。

使用痕跡（敲打痕・磨痕・凹痕）の組み合わせにより６分類できる。A類は敲打痕だけを有するもので39点、B類は敲打痕と磨痕が認められるもので２点、C類は敲打痕と凹痕が認められるもので５点、D類は磨痕だけが認められるもので６点、E類は凹痕だけが認められるもので24点、F類はいわ



第28図　敲磨器類長幅比率

ゆる「特殊磨石」と呼称されるもので48点である。F類が全体の38.7%を占め、次いでA類が31.5%、E類が19.4%と続く。

第28図長幅比率を作成し、法量の相違を観察した。縦軸に長/幅、横軸に厚/幅を設定し、指数による比較を行った。102点について計測可能である。全体に長/幅0.48～2.62、厚/幅0.26～1.12の範疇に散在する。

第18表に分類別石材表を示した。最も多いのは斑糲岩で、41.9%（52点）を占める。次いで、花崗閃緑岩が24.2%（30点）、砂岩が12.9%（16点）である。分類別に見ると、A類は斑糲岩・チャート、F類は斑糲岩・花崗閃緑岩の占める割合が高い。チャートはA類にのみ用いられている。

第18表　敲磨器類分類別石材表

		石材								合計
		玢岩	斑糲岩	チャート	砂岩	花崗閃緑岩	凝灰岩	頁岩	デイサイト	
分類	A	3	13	7	3	8	1	4		39
	B		2							2
	C		1		2	1		1		5
	D		1		1	2	1		1	6
	E		9		4	8	2	1		24
	F	2	26		6	11		2	1	48
合計		5	52	7	16	30	4	8	2	124

(16) 礫　石　錘

礫の両側縁または片側縁を打ち欠き、「紐掛け」を作出したと考えられるものを礫石錘とした。計1点出土している（掲載なし）。上2箇所、下1箇所に紐掛けと思われる剥離があり、斑糲岩が使用されている。

(17) 砥　　石

礫の表面に溝状の痕跡が認められるものを砥石とした。計1点出土している。232は正面に礫長軸方向に溝状の痕跡がある。石材は斑糲岩であるが、欠損している。

(18) 線　刻　礫

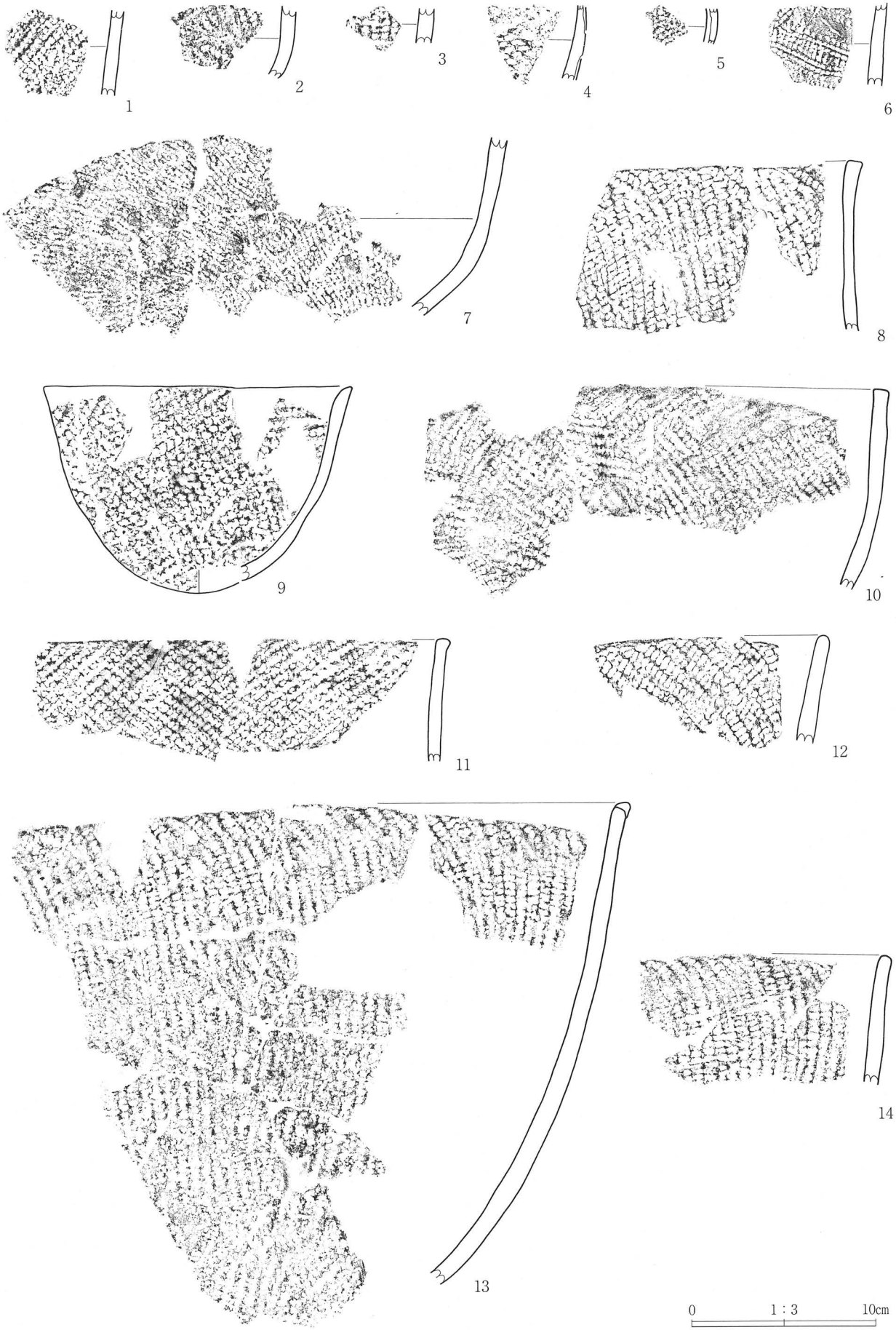
礫表面に線状痕が認められるものが1点出土した。観察では自然礫とも考えられる。石材は頁岩であり、形状は扁平である。

(19) 石 皿 台 石 類

表面に使用痕跡（敲打痕・擦痕）が認められる扁平礫で、擦るまたは敲く際の台として使用されたと考えられるものを石皿台石類とした。計3点出土しており、1点を図示した（掲載率33.3%）。出土しているものはいずれも加工されていないものである。

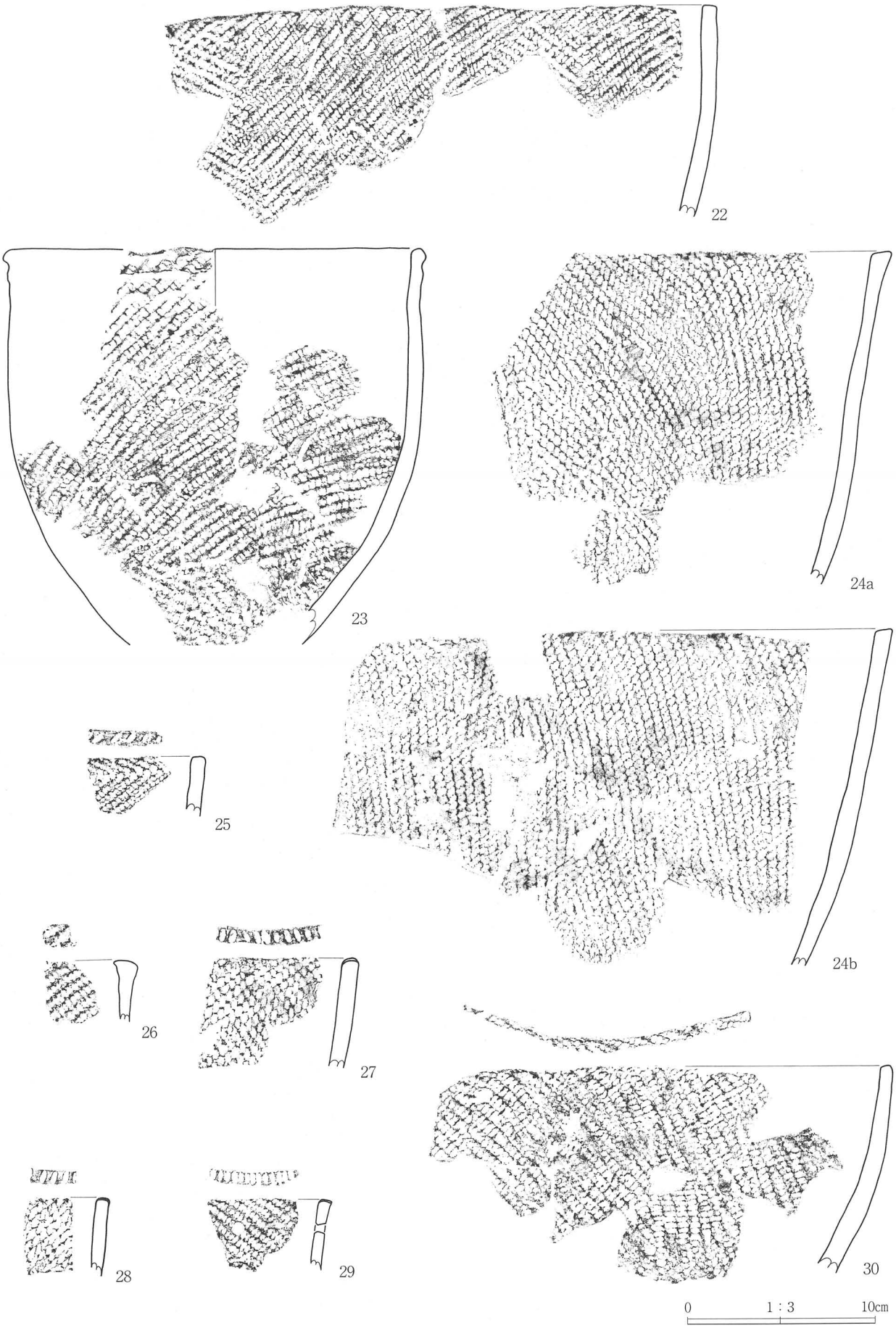
3　石　製　品

棒状の素材礫に敲打や剥離、研磨などにより成形したもので石棒類と思われるものが2点出土した。235は扁平礫で周囲を剥離で成形している。236は棒状礫で全体を敲打で成形したものと思われる。使用石材は、235が砂岩、236が玢岩である。

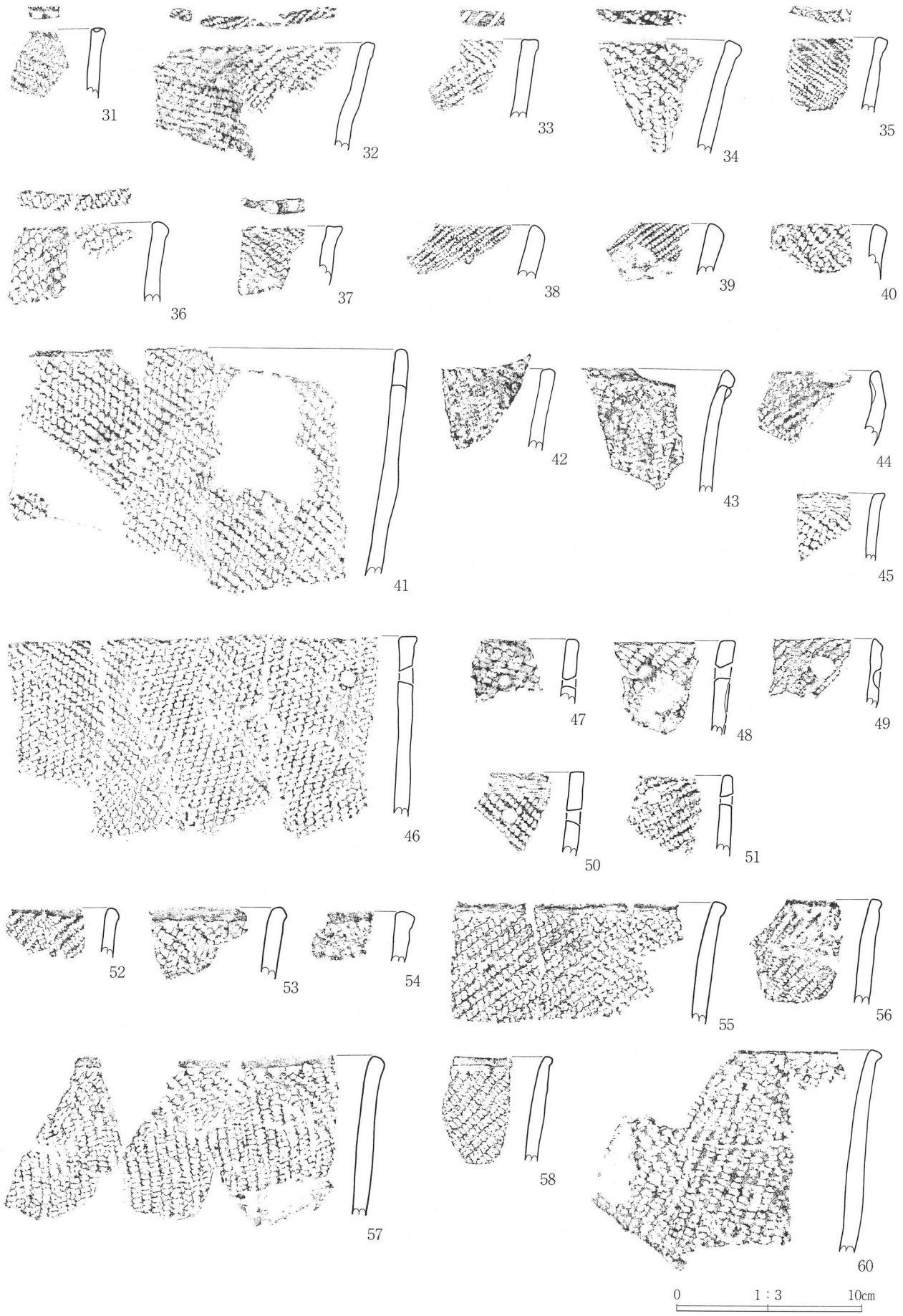


第29図　出土土器（1）

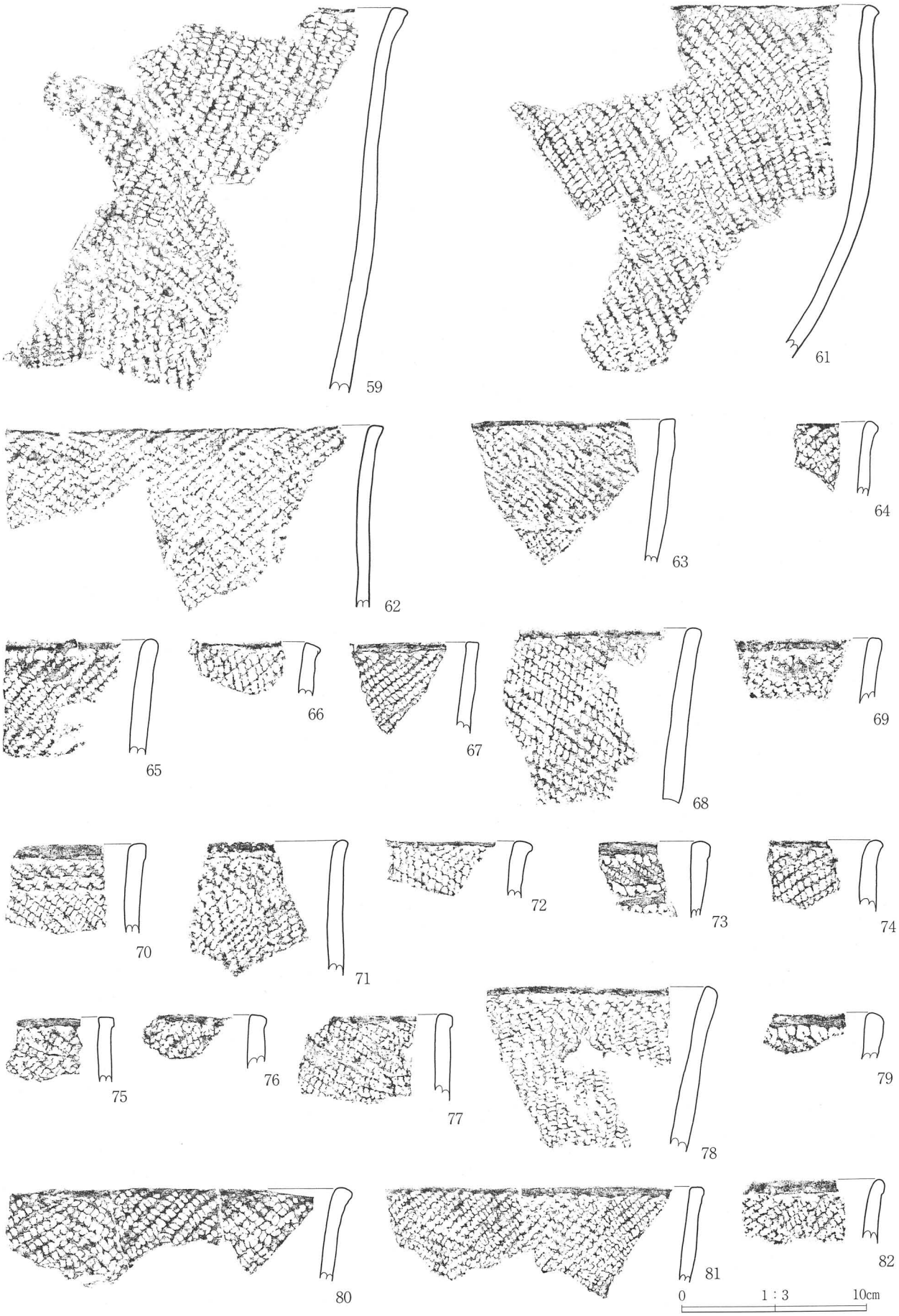
第30図　出土土器（2）



第31図　出土土器（3）


31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
60
0
1：3
10cm

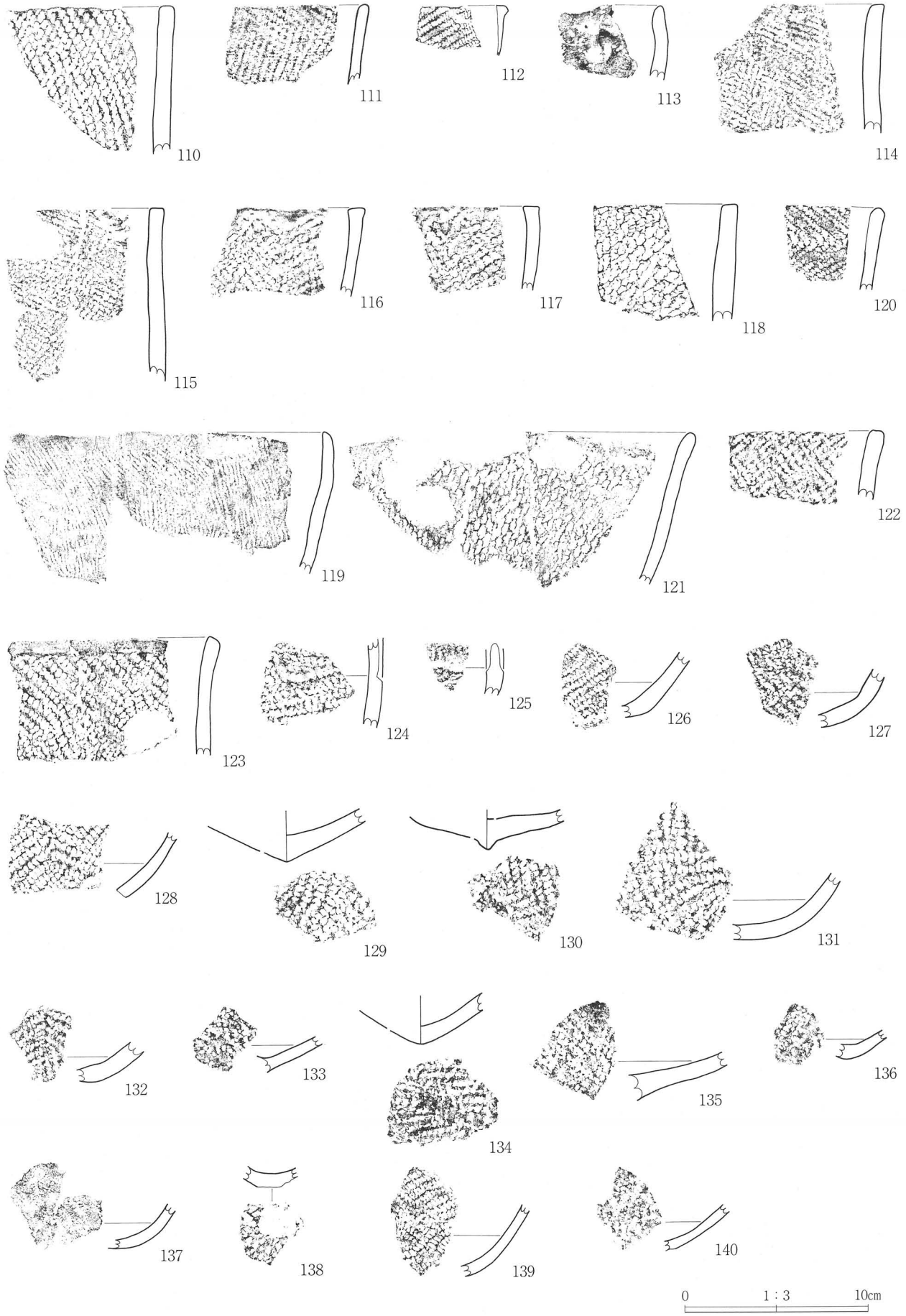
第32図　出土土器（4）


59
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
0
1：3
10cm

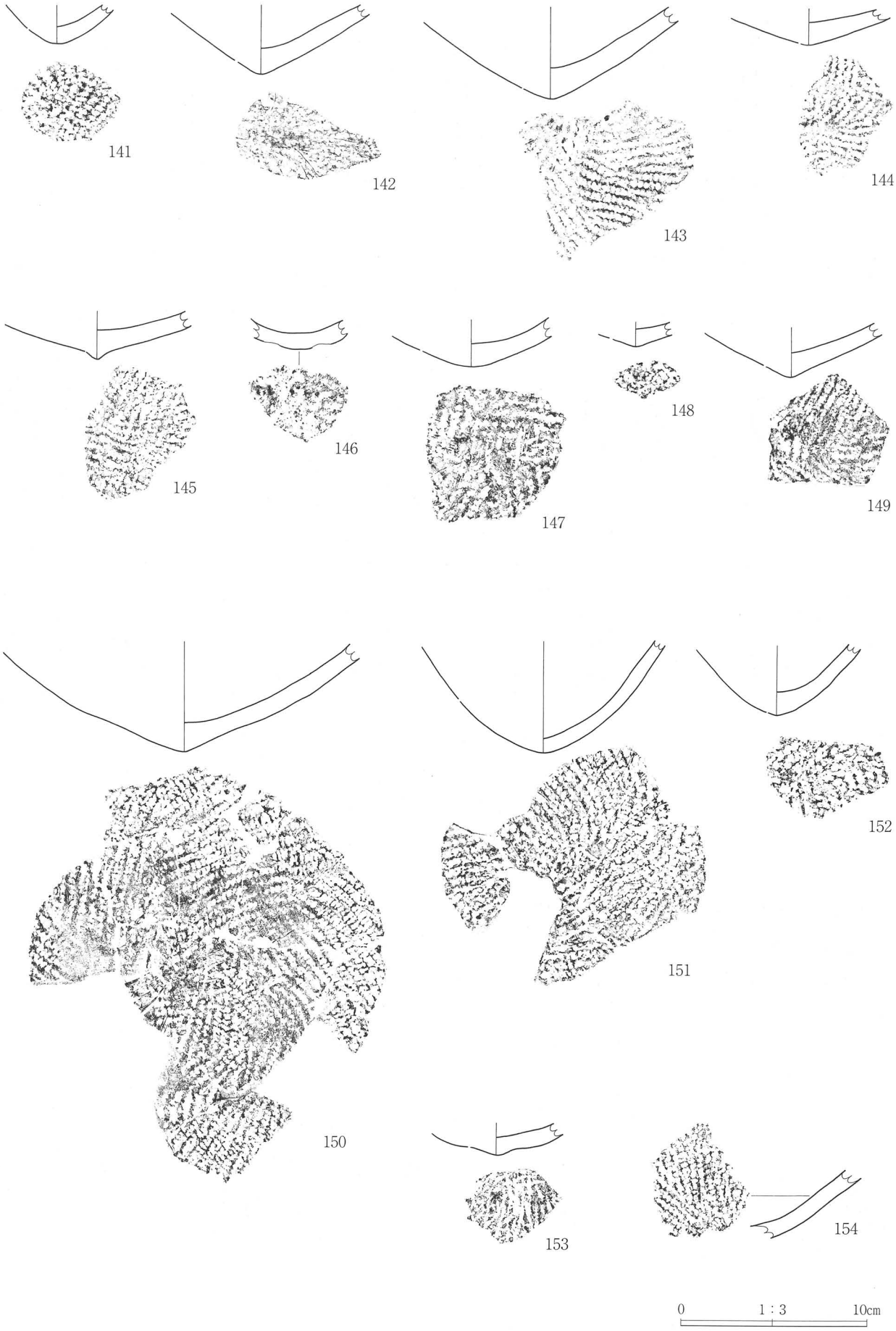
第33図　出土土器（5）

83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
0
1：3
10cm

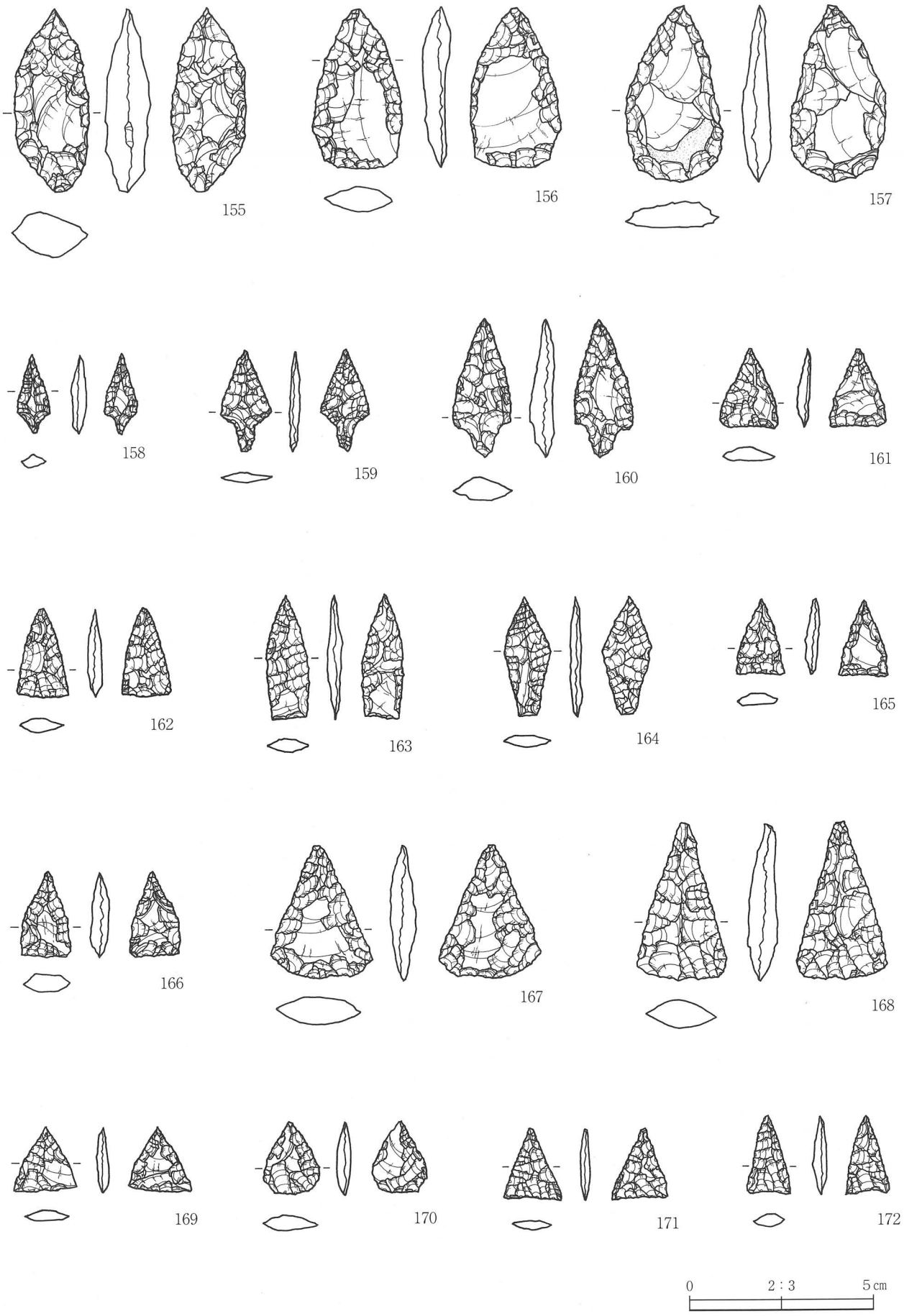
第34図　出土土器（6）


110
111
112
113
114
115
116
117
118
120
119
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
0
1：3
10cm

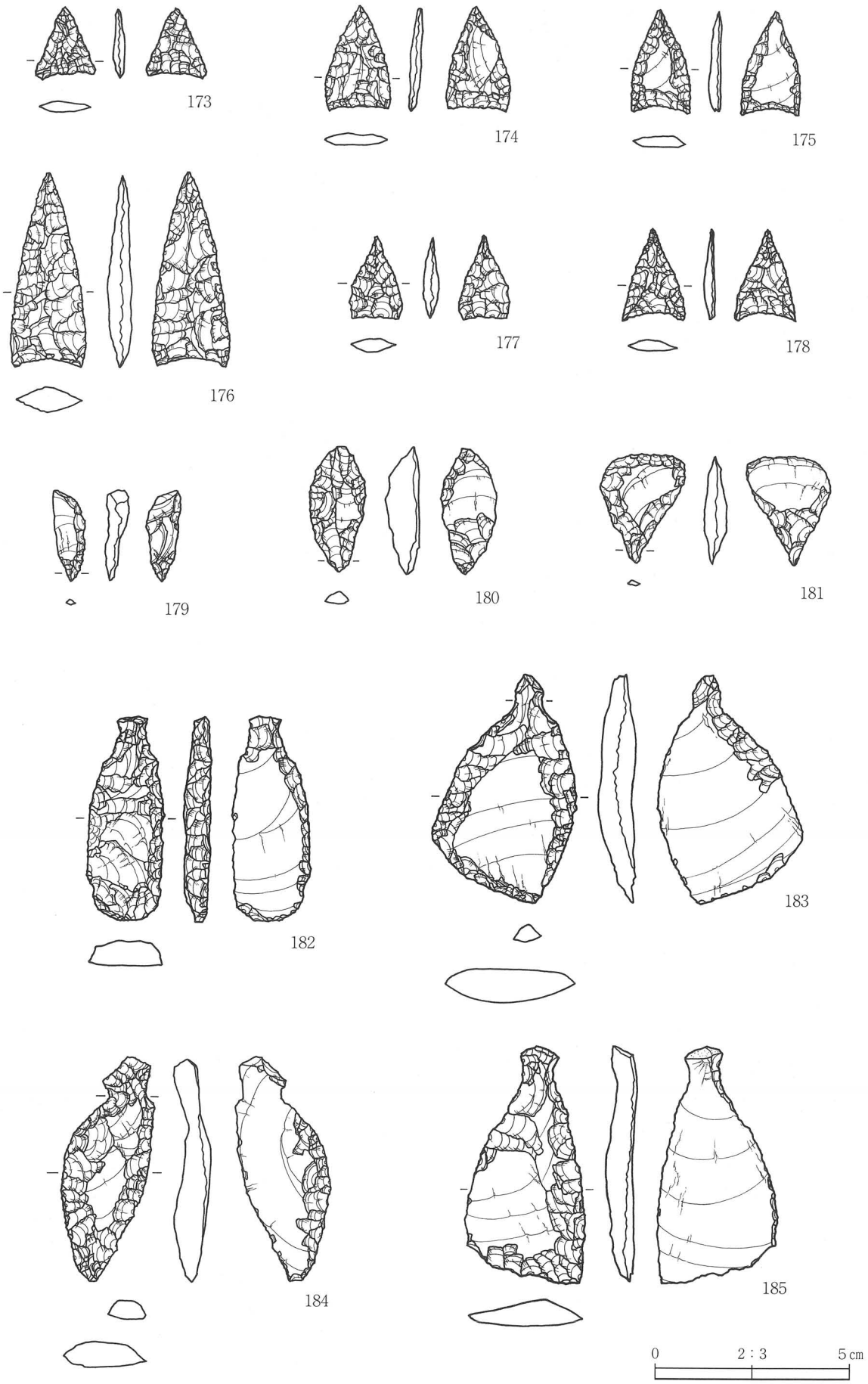
第35図　出土土器（7）



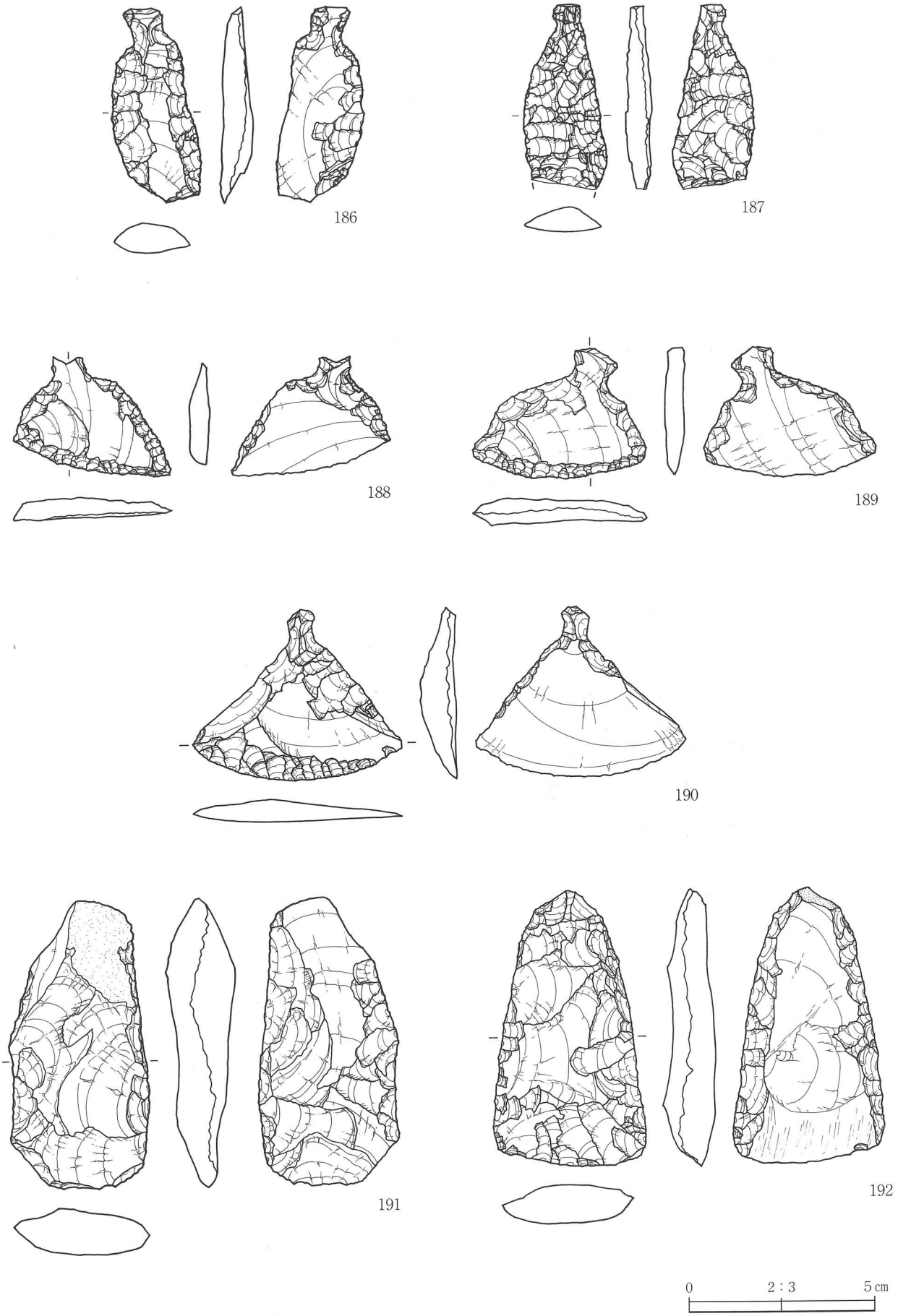
第36図　出土土器（8）


155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
0
2：3
5cm

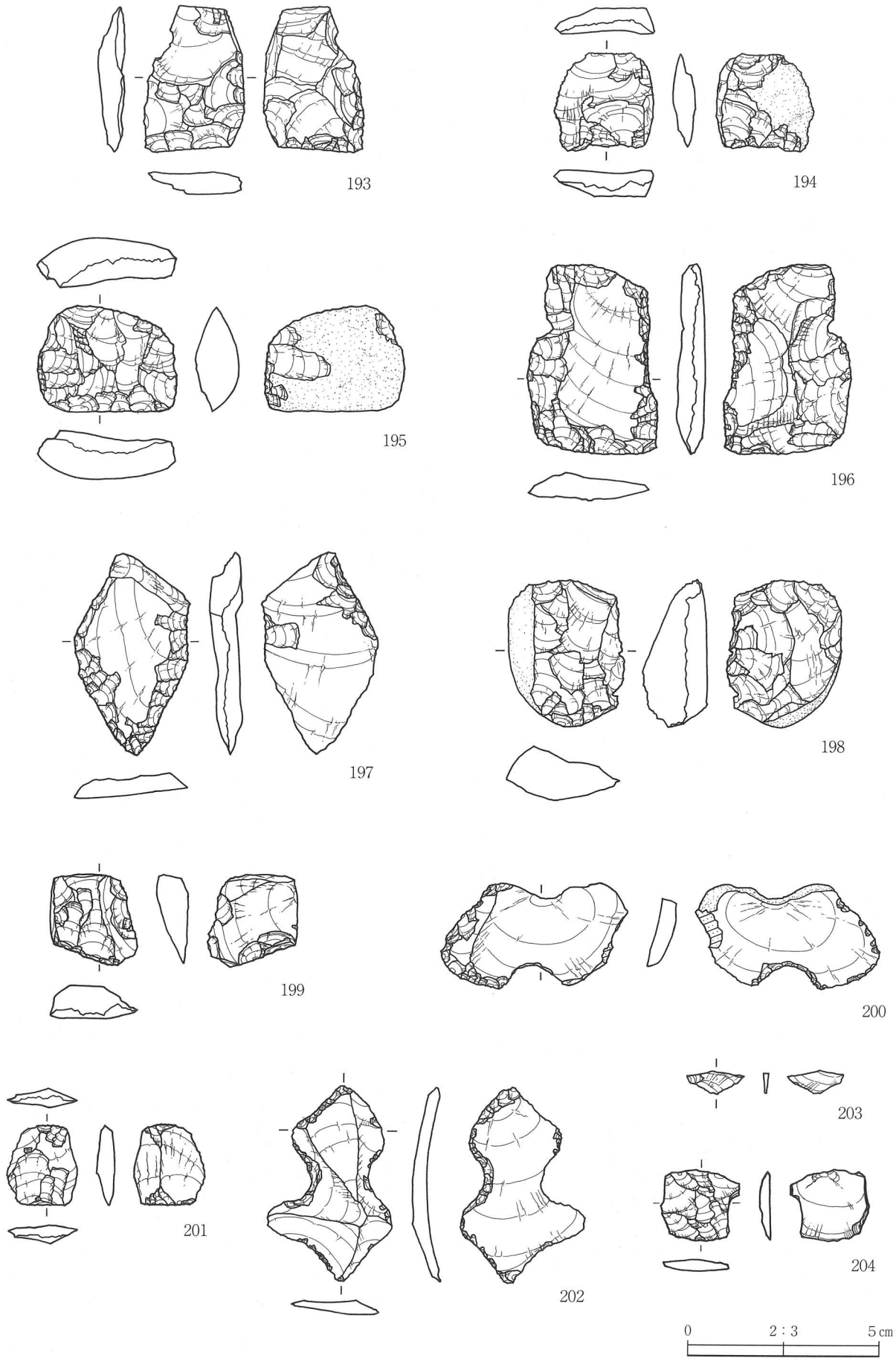
第37図　出土石器（1）



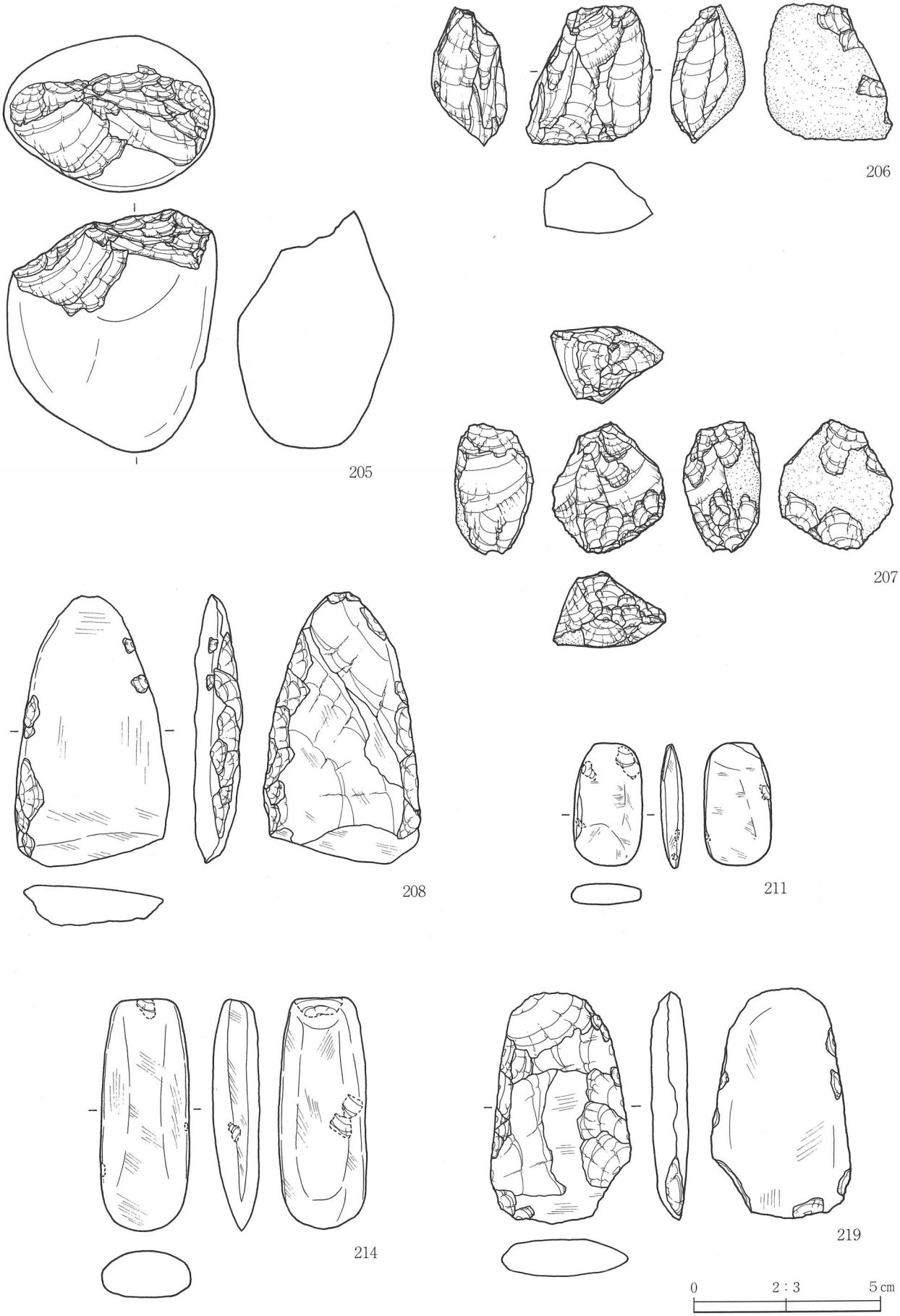
第38図　出土石器（2）



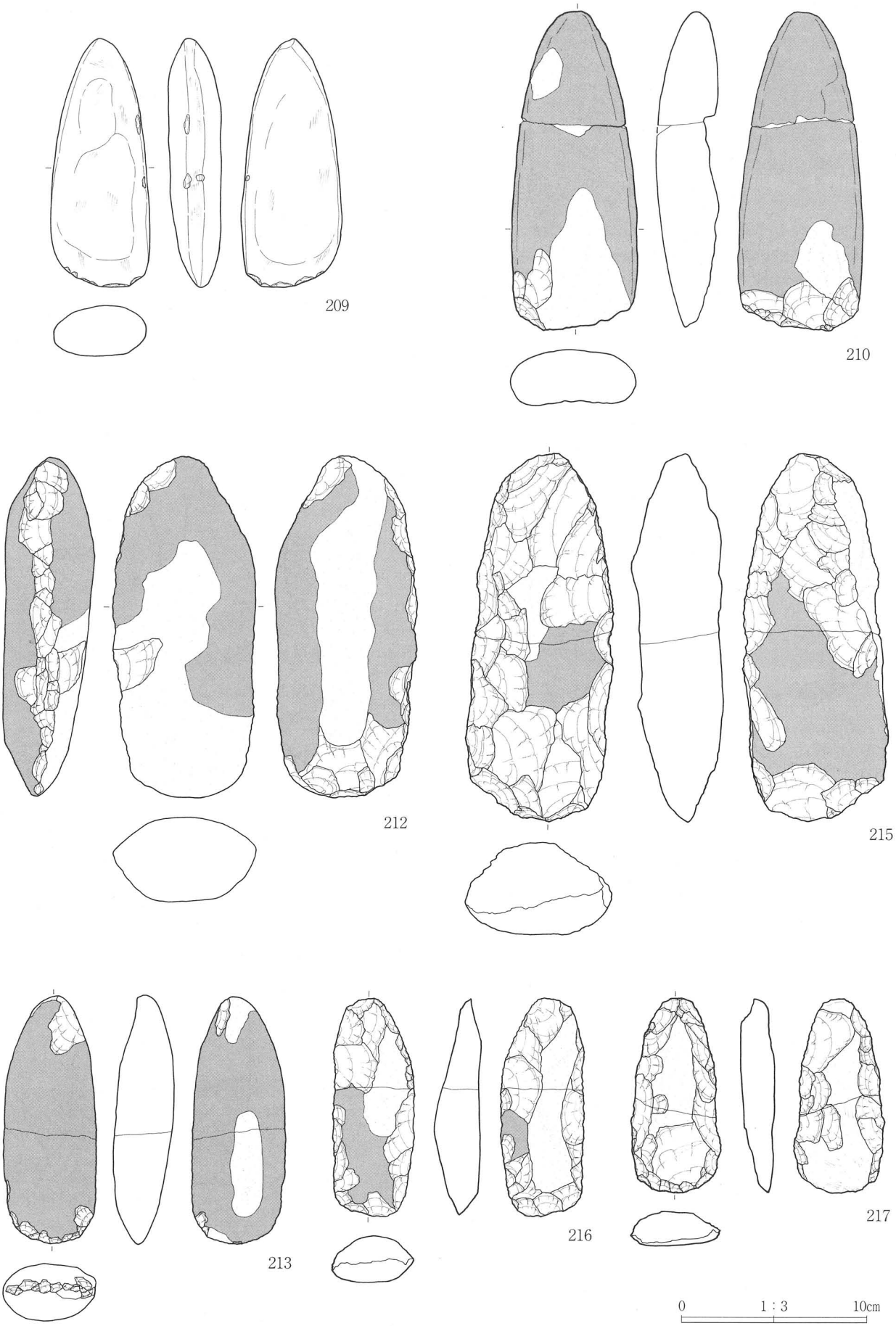
第39図　出土石器（3）



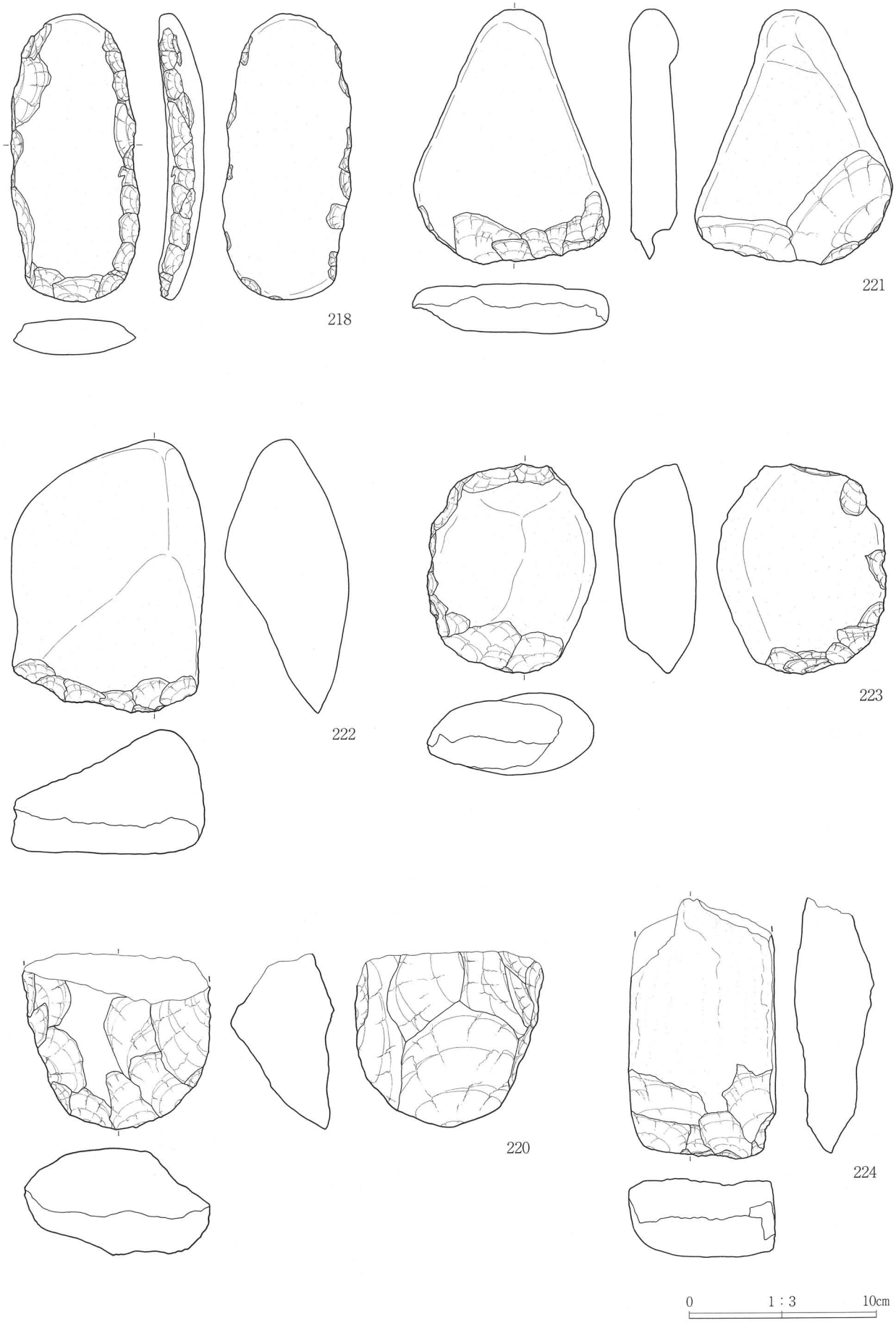
第40図　出土石器（4）



第41図　出土石器（5）

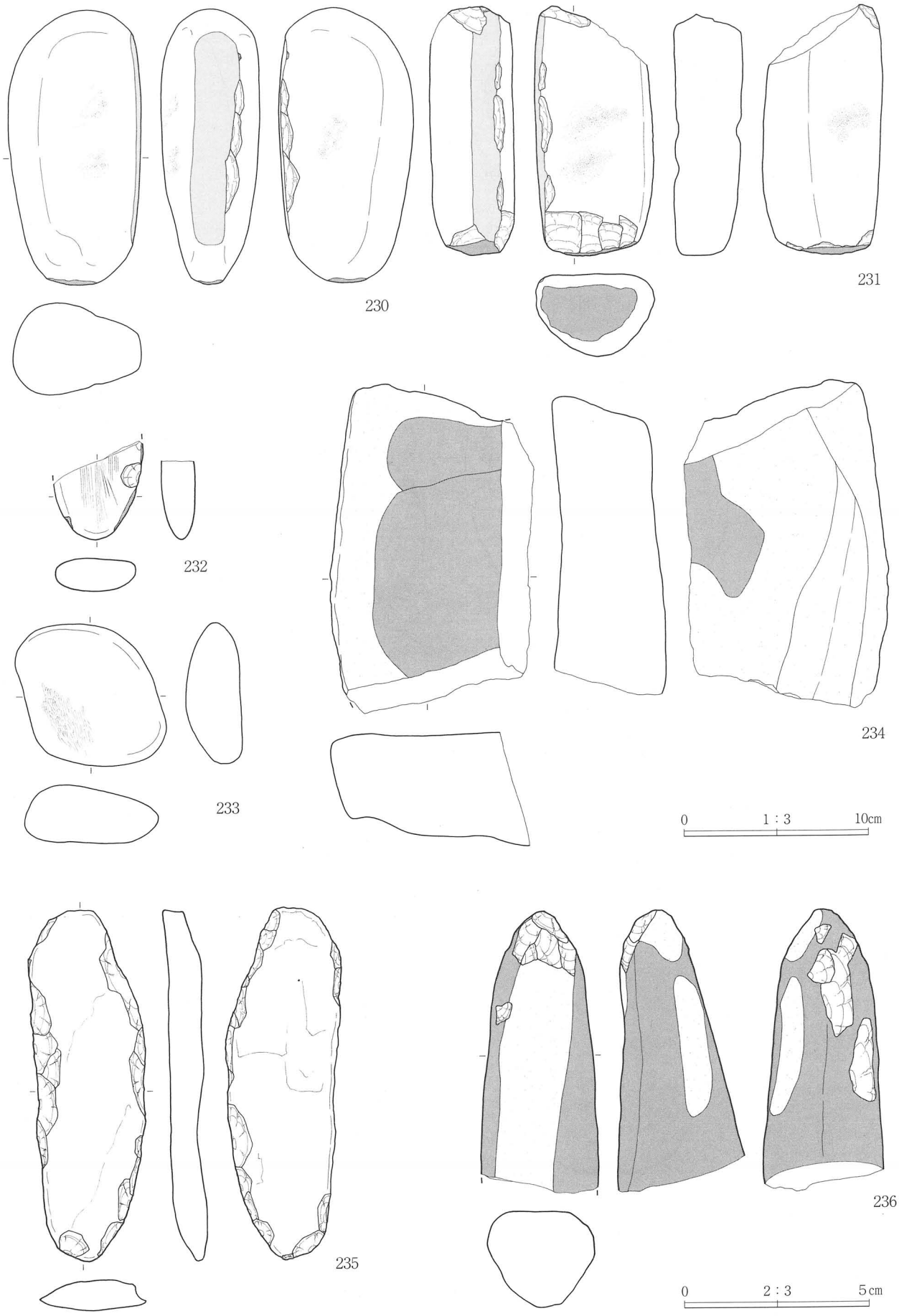


第42図　出土石器（6）



第43図　出土石器（7）

第44図　出土石器（8）



第45図　出土石器（9）

第19表　土坑観察表

遺構名	位置(グリッド)	検出層位	規模（cm）						形状		堆積土の状況	自然・人為	重複関係	時期	出土遺物	備考
			上端		下端		深さ	底面標高(m)	平面形	断面形						
			長軸	短軸	長軸	短軸										
1号土坑	2C2	Ⅳ層上面	90.0	86.0	81.0	72.0	13.0	143.466	円形	皿形	単層	人為	無			
2号土坑	2C15	Ⅳ層上面	103.0	90.0	90.0	73.0	7.0	143.680	楕円形	皿形	単層	人為	無			
3号土坑	2C2	Ⅳ層上面	89.0	73.0	71.0	59.0	9.0	143.343	楕円形	皿形	単層	人為	無			
4号土坑	5E7	Ⅱ層上面	149.0	138.0	126.0	108.0	20.0	147.088	円形	皿形	単層	自然	無		土器2片（13.0g）	底面凹凸
5号土坑	6E24	Ⅱ層上面	113.0	97.0	83.0	77.0	28.0	150.752	不整円形	鍋底形	2層	自然	無			
6号土坑	6E20	Ⅱ層上面	143.0	116.0	113.0	84.0	21.0	150.428	不整円形	鍋底形	3層	自然	無		土器2片（5.0g）	
7号土坑	2C19	Ⅳ層上面	109.0	77.0	94.0	68.0	13.0	144.296	不整楕円形	皿形	単層	人為	無			
8号土坑	2C23	Ⅳ層上面	82.0	76.0	74.0	69.0	8.0	144.558	円形	皿形	単層	人為	無			
9号土坑	5D15	Ⅱ層上面	157.0	90.0	134.0	74.0	15.0	147.381	楕円形	皿形	2層	自然	無			
10号土坑	6E3	Ⅱ層上面	152.0	141.0	106.0	89.0	29.0	149.353	円形	鍋底形	3層	自然	11号土坑より新		土器3片（31.0g）	
11号土坑	6E3	Ⅱ層上面	104.0	85.0	59.0	57.0	24.0	149.272	不整円形	鍋底形	2層	自然	10号土坑より旧			
12号土坑	2D14	Ⅳ層上面	129.0	120.0	121.0	114.0	5.0	143.587	円形	皿形	単層	人為	無			
13号土坑	2D14	Ⅳ層上面	97.0	95.0	91.0	87.0	9.0	143.494	円形	皿形	単層	人為	無			
14号土坑	3D8	Ⅳ層上面	124.0	118.0	105.0	105.0	15.0	144.802	円形	皿形	単層	人為	無			
15号土坑	3D15	Ⅳ層上面	100.0	(100.0)	85.0	(85.0)	15.0	145.204	円形	皿形	単層	人為	無			
16号土坑	3D18	Ⅳ層上面	113.0	103.0	81.0	79.0	29.0	145.577	不整円形	鍋底形	2層	自然	無			
17号土坑	3D16	Ⅳ層上面	131.0	128.0	121.0	116.0	33.0	145.498	円形	鍋底形	2層	人為	無			
18号土坑	3C17	Ⅳ層上面	84.0	80.0	74.0	71.0	29.0	145.785	円形	鍋底形	単層	人為	無			
19号土坑	3B10	Ⅳ層上面	(107.0)	98.0	(105.0)	84.0	14.0	145.242	楕円形	皿形	単層	自然	無			
20号土坑	4B10	Ⅳ層上面	105.0	97.0	89.0	84.0	17.0	146.490	不整円形	鍋底形	単層	人為	無		土器1片（4.0g）	
21号土坑	6C19	Ⅲ層上面	156.0	151.0	128.0	127.0	20.0	151.540	円形	皿形	2層	自然	無		土器9片（45.0g）・敲磨器類1点	
22号土坑	9B3	Ⅲ層上面	196.0	138.0	164.0	112.0	22.0	151.053	楕円形	鍋底形	2層	自然	無		土器2片（5.0g）	
23号土坑	7B10	Ⅳ層上面	118.0	114.0	75.0	73.0	13.0	152.635	不整円形	皿形	単層	自然	無			
24号土坑	7B5	Ⅳ層上面	105.0	84.0	78.0	74.0	13.0	152.635	円形	皿形	単層	自然	無			
25号土坑	7C6	Ⅳ層上面	99.0	95.0	75.0	73.0	29.0	152.428	不整円形	鍋底形	単層	自然	無			
26号土坑	10F2	Ⅳ層上面	130.0	121.0	73.0	53.0	67.0	151.968	不整円形	鍋底形	2層	自然	無		土器1片（7.0g）	

第20表　焼土遺構観察表

遺構名	位置(グリッド)	検出層位	規模（cm）			焼土形成面標高(m)	平面形	被熱痕跡の状況	時期	出土遺物	備考
			長軸	短軸	深さ						
1号焼土遺構	6C15	Ⅲ層上面	79.0	75.0	8.0	151.179	不整円形	弱変成	不明	土器1片（2.0g）	

第21表　集石遺構観察表

遺構名	位置（グリッド）	検出層位	規模（cm）		設置標高（m）	設置状況	重複関係	時期	出土遺物	備考
			長軸	短軸						
1号集石	8D21	Ⅳ層上面	83	63	152.380	角礫7個を不整形に配置	無	不明	土器1片（2.0g）	
2号集石	7D21	Ⅳ層上面	112.0	105.0	152.880	亜円礫・角礫12個以上を凹みの周りに配置	無	不明		

第22表 ピット観察表

遺構名	位置(グリッド)	検出層位	規模（cm）						堆積状況	自然・人為	出土遺物	備考
			上端		下端		深さ	底面標高(m)				
			長軸	短軸	長軸	短軸						
P1	8C7	Ⅳ層上面	65.0	60.0	53.0	43.0	18.0	152.393	単層	自然		
P2	6C18	Ⅲ層上面	55.0	48.0	9.0	9.0	40.0	151.398	3層	自然		
P3	7E1	Ⅲ層上面	55.0	53.0	24.0	18.0	24.0	151.550	2層	自然		
P4	10E6	Ⅲ層上面	33.0	30.0	18.0	17.0	7.0	151.686	3層	自然	土器1片（1.0g）	

第23表　土器観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点	層位	接合破片数 内訳数	接合破片数 総数	器種	残存位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	法量(cm) 厚さ	口端部	外面調整・施文など
1	29	15	4号土坑	堆積土中		1	深鉢	胴			(4.5)	0.6～0.7		地文
2	29	15	10号土坑	遺構底面（Ⅲ層）		1	深鉢	胴下半			(3.9)	0.6～0.8		地文
3	29	15	26号土坑	堆積土下位		1	深鉢	胴			(1.9)	0.8		地文
4	29	15	1号集石	検出面		1	深鉢	胴			(4.1)	0.6～0.8		地文・剥落
5	29	15	1号焼土	上面		1	深鉢	胴			(2.0)	(0.4)		地文
6	29	15	10C22	Ⅱa層暗褐最下位		1	深鉢	胴			(4.2)	0.6～0.8		貝殻押し引き文（横位）
7	29	15	6C24	Ⅱa層暗褐下位		10	深鉢	胴下半～底			(9.9)	0.7～1.0		地文
8	29	15	6C5	Ⅱa層暗褐下位	3	4	深鉢	口縁			(9.4)	0.6～0.8		地文
			6C10	Ⅱa層暗褐下位	1									
9	29	15	6E17	Ⅱa層暗褐下位	3	19	深鉢	口縁～胴下半			(10.5)	0.5～0.8		地文
			6E17	Ⅱa層暗褐最下位	2									
			6E21	Ⅱa層暗褐下位（土坑状）	14									
10	29	15	7E5（土器集中）	Ⅱa層暗褐中位		5	深鉢	口縁			(10.9)	0.7～0.9		地文
11	29	15	7F12	Ⅱa層暗褐中位	3	7	深鉢	口縁			(6.7)	0.6～0.7		地文
			7E4	Ⅱa層暗褐中位	1									
			8C24	Ⅱa層暗褐上～中位	2									
			9C11（西平坦部T②）	Ⅱa層暗褐中位（中撹混）	1									
12	29	15	7F11	Ⅱa層暗褐中位	3	4	深鉢	口縁			(5.9)	0.8～1.0		地文
			7F11	Ⅱa層暗褐最下位	1									
13	29	15	7E5（土器集中②）	Ⅱa層暗褐中位		5	深鉢	口縁			(7.1)	0.8～0.9		地文
14	29	15	7E10（土器集中）	Ⅱa層暗褐中位	17	20	深鉢	口縁			(7.1)	0.7～0.9		地文
			7F10	Ⅱa層暗褐中位	3									
15	30	15	8D17	Ⅱa層暗褐上面	1	4	深鉢	口縁			(7.7)	0.6～0.8	施文後ナデ	地文
			8E17	Ⅱa層暗褐上位	3									
16	30	16	9D16	Ⅱa層暗褐上位	11	57	深鉢	口縁			(25.9)	0.7～0.9	施文後ナデ	地文
			9D21	Ⅱa層暗褐上位	19									
			9D16	Ⅱa層暗褐中位	22									
			10C5	Ⅱa層暗褐上～中位	3									
			9D16	Ⅱa層暗褐中～下位	1									
			9D21	Ⅱa層褐色土上面	1									
17	30	16	9D1	Ⅱa層暗褐上位	2	3	深鉢	口縁			(6.6)	0.6～0.9		地文
			9D2	Ⅱa層暗褐上位	1									
18	30	16	9E22	Ⅱa層暗褐上位		3	深鉢	口縁			(4.7)	0.4～0.7	施文後ナデ	地文
19	30	16	10D15	Ⅱa層暗褐中位	6	8	深鉢	口縁			(16.3)	0.7～0.9	施文後ナデ	地文
			10F9	Ⅱa層暗褐上位	1									
			10D19	Ⅱa層暗褐上位	1									
20	30	16	10D15	Ⅱa層暗褐中位	3	4	深鉢	口縁			(12.1)	0.6～0.7		地文
			10D14	Ⅱa層暗褐上位	1									
21	30	16	10D5	Ⅱa層暗褐中位	2	6	深鉢	口縁			(10.4)	0.6～0.8	施文後ナデ	地文
			10D20	Ⅱa層暗褐上位	1									
			10D5	Ⅱa層暗褐上位	2									
			10D10	Ⅱa層暗褐上位	1									
22	31	17	10E2	Ⅱa層暗褐上位	4	6	深鉢	口縁			(11.5)	0.8～0.9	施文後ナデ	地文
			10E3	Ⅱa層暗褐上位	1									
			9E23	Ⅱa層暗褐上位	1									

内面調整・施文など	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調内面	色調外面	備考
		地文	条の傾き	回転方向	条幅	結節				
ナデ	外面スス	LR	右	横			繊維多	10YR5/3にぶい黄褐	10YR5/3にぶい黄褐	
ナデ		RL	左・直立	横・斜			繊維少	10YR6/3にぶい黄橙	10YR5/8黄褐	
ナデ		RL	左	斜			繊維少	10YR6/3にぶい黄橙	10YR5/8黄褐	
ナデ	外面スス	LRL	左	縦			繊維多	10YR6/2灰黄褐	10YR5/4にぶい黄褐	
ナデ		RL	右	横			繊維多	10YR5/3にぶい黄褐	10YR6/4にぶい黄橙	
ミガキ							雲母	10YR2/3黒褐	10YR6/4にぶい黄橙	
ナデ							繊維多	10YR3/1黒褐	5YR6/6橙	
ナデ		RL	左・直立	横・斜			繊維多	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	
ナデ		LR	左・右	横・斜			繊維多	10YR2/3黒褐	7.5YR5/6明褐	
ナデ		RL	左・右	横			繊維多	10YR3/1黒褐	10YR4/4褐	
ナデ		LR	左・右	横			繊維多	10YR7/4にぶい黄橙	10YR8/4浅黄橙	
ナデ		RL	左	横				10YR4/1褐灰	10YR2/1黒	年代測定試料No.2
ナデ	外面スス	RL	左・直立	横・斜			繊維特多	7.5YR6/6橙	7.5YR4/3褐	
ナデ	外面上部スス	RL	直立	斜			繊維多	10YR7/6明黄褐	7.5YR6/6橙	内外面焼けはじけ
ナデ	外面スス	RLR	左	横			繊維多	10YR6/4にぶい黄橙	10YR5/2灰黄褐	
ナデ	外面スス	RLR	左	横			繊維多	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/6明黄褐	
ナデ	外面スス	RL	左・直立	横・斜			繊維多	10YR4/1褐灰	10YR6/4にぶい黄橙	
ナデ		RL	左	横			繊維多	10YR4/1褐灰	10YR7/3にぶい黄橙	
ナデ		RLR	左	横			繊維多	10YR6/6明黄褐	10YR4/4褐	
ナデ	外面スス	RLR	左	横			繊維多	10YR7/3にぶい黄橙	10YR4/2灰黄褐	内面焼けはじけ
ナデ		LRL	右	横			繊維多	10YR4/2灰黄褐	10YR6/2灰黄褐	
ナデ		LR	左・右	横			繊維多	10YR4/1褐灰	10YR4/1褐灰	

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点	層位	接合破片数 内訳数	接合破片数 総数	器種	残存位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	法量(cm) 厚さ	口端部	外面調整・施文など
23	31	17	8C25	Ⅱa層暗褐上位	12	25	深鉢	口縁			(21.5)	0.6～1.0	施文後ナデ	地文
			8C24	Ⅱa層暗褐上～中位	1									
			8C25	Ⅱa層暗褐上～中位	1									
			8C20	Ⅱa層暗褐上位	3									
			8C23	Ⅱa層暗褐上位	1									
			9C4	Ⅱa層暗褐中～下位	1									
			9C5	Ⅱa層暗褐中～下位	3									
			8D	根カクラン	1									
			9C5	Ⅱa層暗褐上～中位	1									
			8C23	Ⅱa層暗褐下位	1									
24	31	17	9E25	Ⅱa層暗褐上位	9	14	深鉢	口縁			(18.3)	0.7～1.1		地文
			9E25	Ⅱa層暗褐中位	1									
			10D5	Ⅱa層暗褐上位	3									
			10D5	Ⅱa層暗褐中位	1									
25	31	17	6D13	Ⅱa層暗褐下位		1	深鉢	口縁			(3.3)	0.8	棒状工具による斜位圧痕	地文
26	31	17	7E3	Ⅱa層暗褐下位		1	深鉢	口縁			(3.3)	0.5～1.3	LR回転	地文
27	31	17	8D23	Ⅱa層暗褐上位	1	2	深鉢	口縁			(6.0)	0.9～1.0	棒状工具による連続圧痕	地文
			南側斜面土捨て場		1									
28	31	17	9C20	Ⅱa層暗褐中位		1	深鉢	口縁			(4.3)	0.7	棒状工具による連続圧痕	地文
29	31	17	7F1	Ⅱa層暗褐下位		1	深鉢	口縁			(3.8)	0.6～0.7	棒状工具による連続圧痕	地文
30	31	17	9D16	Ⅱa層暗褐上位	3	7	深鉢	口縁			(11.8)	0.7～1.1	RL回転	地文
			9D17	Ⅱa層暗褐上位	4									
31	32	17	7E14	Ⅱa層暗褐中位		1	深鉢	口縁			(3.8)	0.7～0.8	RL閉端圧痕	地文
32	32	17	6D19	Ⅱa層暗褐下位	4	5	深鉢	口縁			(5.6)	0.7～0.8	RL回転	地文
			6D14　黒褐プラン	Ⅱa層暗褐下位検出	1									
33	32	17	6D13	Ⅱa層褐色土上面		2	深鉢	口縁			(4.3)	0.8～0.9	棒状工具による斜位圧痕	地文
34	32	17	8F1	Ⅱa層暗褐中位		1	深鉢	口縁			(6.2)	0.8～1.0	LR回転	地文
35	32	17	9B23	Ⅱa層暗褐		1	深鉢	口縁			(4.0)	0.5～0.7	RL回転	地文
36	32	18	10D10	Ⅱa層暗褐上位	1	2	深鉢	口縁			(4.3)	0.8～1.0	LR回転	地文
			10D14	Ⅱa層暗褐上位	1									
37	32	18	9E17	Ⅱa層暗褐上位		1	深鉢	口縁			(3.3)	0.7～0.9	指頭圧痕による成形	地文
38	32	18	6D25	Ⅱa層暗褐下位		1	深鉢	口縁			(2.8)	0.9～1.0	切り出し形(内高外低)	地文
39	32	18	8E8	Ⅱa層暗褐上位		1	深鉢	口縁			(2.9)	0.9～1.1	切り出し形(内高外低)	地文
40	32	18	9D6	Ⅱa層暗褐中位		1	深鉢	口縁			(3.1)	0.8～0.9	切り出し形(内高外低)	地文
41	32	18	7E5（土器集中）	Ⅱa層暗褐中位		4	深鉢	口縁			(12.5)	0.7～1.0		地文
42	32	18	9D18	Ⅱa層暗褐上～中位		1	深鉢				(4.6)	0.7～0.8		地文
43	32	18	10D18	Ⅱa層暗褐中～下位		1	深鉢	口縁			(6.8)	0.6～0.8	施文後ナデ	地文
44	32	18	9D6	Ⅱa層暗褐中位		1	深鉢	口縁			(4.2)	0.5～0.9		地文・器面に成形時の指頭圧痕残存
45	32	18	9E25	Ⅱa層暗褐上位		1	深鉢	口縁			(3.8)	0.6		地文
46	32	18	9E6	Ⅱa層暗褐上位	7	9	深鉢	口縁			(9.9)	0.8～1.0		地文
			9E1	Ⅱa層暗褐上位	2									

内面調整・施文など	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調内面	色調外面	備考
		地文	条の傾き	回転方向	条幅	結節				
ナデ		LR	右	横		有（末端に環の付いた縄）3段→文様帯状	繊維多	10YR7/4にぶい黄橙	10YR6/6明黄褐	
ナデ		RLR	直立	斜			繊維多	10YR7/6明黄褐	10YR6/4にぶい黄橙	
ナデ		羽状（結束第1種・LR・RL）	左・右	横			繊維多	10YR5/4にぶい黄褐	10YR5/3にぶい黄褐	
剥落		LR	右	横			繊維多	10YR6/2灰黄褐	10YR4/2灰黄褐	
ナデ		LR	右	横			繊維多	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/3にぶい褐	
ナデ		LR	右	横			繊維多	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/3にぶい褐	
ナデ	外面スス	RL	左	斜			繊維多	10YR5/3にぶい黄褐	10YR3/2黒褐	補修孔1箇所（内外から穿孔）
ナデ		RL	左・直立	横・斜			3～5mm大の細礫少・繊維多	10YR4/2灰黄褐	10YR6/2灰黄褐	
ナデ	外面スス	RL	左	横			繊維多	10YR4/1褐灰	10YR5/2灰黄褐	
ナデ		太いLR＋細いRL2種類の原体	左・右	横			7mm大の細礫少・繊維多	10YR4/1褐灰	10YR5/3にぶい黄褐	
ナデ		羽状（結束第1種・LR・RL）	左・右	横			繊維多	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙	
ナデ		RL	左・直立	横・斜			繊維多	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙	
ナデ		RL	左	横			繊維多	10YR4/1褐灰	10YR5/4にぶい黄褐	
ナデ		LR	右	横			繊維多	10YR7/3にぶい黄橙	10YR5/2灰黄褐	
ナデ		LR	左	横			繊維多	10YR5/2灰黄褐	10YR5/2灰黄褐	
ナデ	外面スス	LR	右	横			繊維少・白色粒子少	10YR5/2灰黄褐	10YR5/2灰黄褐	
ナデ	外面スス	RL	右	横			繊維少・白色粒子少	10YR5/2灰黄褐	10YR5/2灰黄褐	
ナデ	外面スス	RL	左	横			繊維少	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	
ナデ	内外面スス	RL	左	横			繊維多	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	口縁に段差
ナデ	外面スス	RL	左・直立	横・斜			繊維多	10YR4/1褐灰	10YR2/2黒褐	年代測定試料No.3
ナデ	外面スス	RL	左・直立	横・斜		有（末端に環の付いた縄）	繊維多	10YR4/3にぶい黄褐	10YR6/4にぶい黄橙	口縁に段差
ナデ		LR	右	横			繊維少	10YR5/1褐灰	10YR6/1褐灰	
ナデ		口縁細LR・以下は太RL	横・左	斜・横			繊維多	10YR6/2灰黄褐	10YR6/2灰黄褐	
ナデ		RLR	左・右・直立	横・斜			繊維少	10YR7/3にぶい黄橙	7.5YR6/4にぶい橙	補修孔1箇所（外から穿孔・直径4mm）

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点	層位	接合破片数 内訳数	接合破片数 総数	器種	残存位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	法量(cm) 厚さ	口端部	外面調整・施文など
47	32	18	6D13	Ⅱa層暗褐最下位		1	深鉢	口縁			(3.5)	0.7～0.8		地文
48	32	18	6D20	Ⅱa層暗褐最下位		2	深鉢	口縁			(5.1)	0.7～0.9		地文
49	32	18	7F17	Ⅱa層暗褐中位		1	深鉢	口縁			(3.8)	0.6～0.7	切り出し形(内高外低)	地文
50	32	18	9D24	Ⅱa層暗褐上位		1	深鉢	口縁			(4.7)	0.5～0.7		地文
51	32	18	6D15（北東ベルト）	Ⅱa層暗褐上～中位		1	深鉢	口縁			(4.4)	0.8		地文
52	32	18	4D25	Ⅱa層黒褐下位	1	2	深鉢	口縁			(2.7)	0.7～0.8	施文後ナデ	地文
			4D22	根カクラン	1									
53	32	18	6B16	Ⅱa層暗褐下位		1	深鉢	口縁			(4.0)	0.8～1.0	施文後ナデ	地文
54	32	18	6B16	Ⅱa層暗褐下位		1	深鉢	口縁			(2.8)	0.8～1.1	施文後ナデ	地文
55	32	18	6C19	Ⅱa層暗褐下位	1	4	深鉢	口縁			(6.7)	0.7～0.9	施文後ナデ	地文
			6C9	Ⅱa層暗褐下位	3									
56	32	18	6C1	Ⅱa層相当層上面(褐色土)		1	深鉢	口縁			(5.8)	0.6～0.8	施文後ナデ	地文
57	32	18	9D18	Ⅱa層褐色土上面	1	6	深鉢	口縁			(8.8)	0.8～0.9	施文後ナデ	地文
			6D10（北東ベルト）	Ⅱa層暗褐上～中位	3									
			6D15	Ⅱa層暗褐最下位	1									
			6D15	Ⅱa層暗褐下位	1									
58	32	18	6D15（北東ベルト）	Ⅱa層暗褐上～中位		1	深鉢	口縁			(5.7)	0.5～0.8	施文後ナデ	地文
59	33	18	6E16	Ⅱa層暗褐最下位	7	9	深鉢	口縁			(21.0)	0.7～1.0	施文後ナデ	地文
			6E16	Ⅱa層暗褐下位	2									
60	32	18	6E16	Ⅱa層暗褐下位		4	深鉢	口縁			(11.2)	0.7～0.9	施文後ナデ	地文
61	33	18	6E17	Ⅱa層暗褐最下位(写有)	5	6	深鉢	口縁			(19.4)	0.7～0.9	施文後ナデ	地文
			6B8	Ⅱa層暗褐下位	1									
62	33	19	6E11	Ⅱa層暗褐下位	2	5	深鉢	口縁			(10.0)	0.6～08	施文後ナデ	地文
			7F12	Ⅱa層暗褐下位	1									
			7F13	Ⅱa層暗褐中位	2									
63	33	19	6E25	Ⅱa層暗褐下位		1	深鉢	口縁			(7.9)	0.7～0.9	施文後ナデ	地文
64	33	19	6E4	Ⅱa層暗褐下位		1	深鉢	口縁			(4.1)	0.6～0.8	施文後ナデ	地文
65	33	19	7E22	Ⅱa層暗褐中位	1	2	深鉢	口縁			(6.4)	0.9～1.0	施文後ナデ	地文
			7E22	Ⅱa層褐色土上面	1									
66	33	19	7E5	Ⅱa層暗褐中位		1	深鉢	口縁			(3.0)	0.7～0.9	施文後ナデ	地文
67	33	19	7E7	黒褐色土		1	深鉢	口縁			(5.1)	0.7～0.8	施文後ナデ	地文
68	33	19	7F1　グリッド杭付近土器集中		2	3	深鉢	口縁			(9.7)	0.9～1.1		地文
			7E5	Ⅱa層暗褐中位	1									
69	33	19	7F6	Ⅰb層黒褐下位		1	深鉢	口縁			(3.7)	0.7～0.8	施文後ナデ	地文
70	33	19	7・8F区	にぶい黄褐色土（検出面）上面		1	深鉢	口縁			(3.9)	0.8～1.0	施文後ナデ	地文
71	33	19	7・8F区	にぶい黄褐色土（検出面）上面		1	深鉢	口縁			(7.4)	0.7～0.8		地文
72	33	19	8D21	Ⅱa層暗褐上位		1	深鉢	口縁			(3.1)	0.7～1.1	施文後ナデ	地文
73	33	19	8D21	Ⅱa層暗褐上位		1	深鉢	口縁			(4.3)	0.6～1.0	施文後ナデ	地文

内面調整・施文など	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調内面	色調外面	備考
		地文	条の傾き	回転方向	条幅	結節				
ナデ		RLR	右	横			繊維少	10YR5/1褐灰	10YR6/3にぶい黄橙	補修孔1箇所（内外から穿孔・直径3mm）
ナデ	外面スス	RL	右	横			繊維多	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/4にぶい橙	補修孔1箇所（内外から穿孔・直径6mm）
ナデ		RL	右	横			繊維多	10YR4/2灰黄褐	10YR4/2灰黄褐	補修孔？貫通していない孔1箇所
ナデ		口縁細LR・以下は太RL	横・左	斜・横			繊維少	10YR7/4にぶい黄橙	10YR4/1褐灰	補修孔1箇所（外から穿孔・直径5mm）
ナデ		LR	右	横			繊維多	10YR7/4にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙	補修孔1箇所（外から穿孔・直径4.5mm）
ナデ		LR	右	横			繊維多	10YR6/4にぶい黄橙	5YR5/6明赤褐	
ナデ		RL	左	横			繊維少	10YR5/3にぶい黄褐	10YR6/3にぶい黄橙	
ナデ		RL	左	横			繊維少	10YR7/4にぶい黄橙	10YR6/6明黄褐	
ナデ		LRL	右・左	横			繊維少	10YR5/4にぶい黄褐	10YR6/2灰黄褐	内面焼けはじけ
ナデ	外面スス	LR	右	斜			繊維多	10YR2/1黒	10YR7/6明黄褐	
ナデ	外面スス	RL	左・直立	横・斜			3～7mm大の細礫少・繊維多	10YR7/4にぶい黄橙	7.5YR6/6橙	
ナデ		LR	右	斜		有（末端に環の付いた縄）	繊維少	10YR4/1褐灰	10YR3/1黒褐	
ナデ		RL	上半は右、下半は左	斜			2～5mm大の細礫多・繊維多	10YR3/4暗褐	10YR3/3暗褐	
ナデ		RL	右・左	縦・口縁は横			2～5mm大の細礫多・繊維少	7.5YR4/4褐	10YR3/3暗褐	
ナデ	外面スス	RL	左	斜			繊維多	10YR4/2灰黄褐	7.5YR7/6橙	
ナデ		LR	左・右	横・斜			繊維多	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	
ナデ		羽状（結束第1種、LR・RL）	左・右	横		有	繊維多	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/6明黄褐	
ナデ		LR	右	横			繊維多	10YR7/4にぶい黄橙	10YR6/2灰黄褐	
ナデ		LR	右	横			2～5mm大の細礫多・繊維多	7.5YR6/6橙	10YR6/4にぶい黄橙	
ナデ		LR	右	横			繊維多	10YR6/3にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	
ナデ		LR	右	横			繊維多	10YR5/1褐灰	10YR3/1黒褐	
ナデ		RL	左	横			5mm大の細礫少・繊維多	10YR5/2灰黄褐	10YR2/1黒	
ナデ		RL	左	横			繊維多	10YR3/1黒褐	10YR7/4にぶい黄橙	
ナデ	外面スス	RL	左	横			繊維多	10YR5/4にぶい黄褐	10YR6/4にぶい黄橙	
ナデ		RL	左	横			繊維多	10YR3/2黒褐	10YR7/4にぶい黄橙	
ナデ	外面スス	RL	左	横			繊維多	7.5YR5/4にぶい褐	10YR6/3にぶい黄橙	内面焼けはじけ
ナデ		RL	左	横		有（末端に環の付いた縄）	繊維少	10YR7/4にぶい黄橙	10YR4/1褐灰	

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点	層位	接合破片数		器種	残存位置	法量(cm)				口端部	外面調整・施文など
					内訳数	総数			口径	底径	器高	厚さ		
74	33	19	8D	根カクラン		1	深鉢	口縁			(3.9)	0.8～1.0	施文後ナデ	地文
75	33	19	8E25	Ⅱa層暗褐上位		1	深鉢	口縁			(3.5)	0.7～0.9	施文後ナデ	地文
76	33	19	8E13	Ⅱa層暗褐上位		1	深鉢	口縁			(2.9)	0.9～1.0	施文後ナデ	地文
77	33	19	8E11	Ⅱa層暗褐中～下位		2	深鉢	口縁			(4.8)	0.8～0.9	施文後ナデ	地文
78	33	19	9C18	Ⅱa層暗褐上～中位		4	深鉢	口縁			(9.1)	0.7～1.0	施文後ナデ	地文
79	33	19	9C1	Ⅱa層暗褐最下位		1	深鉢	口縁			(2.6)	0.8～1.0		地文
80	33	19	10E12	Ⅱa層暗褐上位		3	深鉢	口縁			(5.1)	0.7～1.0		地文
81	33	19	9D7	Ⅱa層暗褐中位		2	深鉢	口縁			(5.3)	0.6～0.8	施文後ナデ	地文
82	33	19	9E7	Ⅱa層暗褐下位（黄褐面シミ）		1	深鉢	口縁			(3.6)	0.7～0.8	施文後ナデ	地文
83	34	19	9D19	Ⅱa層暗褐上位		1	深鉢	口縁			(8.8)	0.8～0.9	施文後ナデ	地文
84	34	19	9E7	Ⅱa層暗褐下位	2	3	深鉢	口縁			(6.9)	0.7～0.8	施文後ナデ	地文
			9E12	Ⅱa層暗褐上位	1									
85	34	19	10D3	Ⅱa層暗褐上位	9	11	深鉢	口縁			(10.3)	0.7～0.9	施文後ナデ	地文
			10D4	Ⅱa層暗褐上～中位	2									
86	34	19	10D10	Ⅱa層暗褐上位		1	深鉢	口縁			(3.2)	0.7～0.9	施文後ナデ	地文
87	34	19	10E7	Ⅱa層暗褐上位	3	5	深鉢	口縁			(12.5)	0.8～1.0	施文後ナデ	地文
			10E2	Ⅱa層暗褐上位	1									
			9D	根カクラン	1									
88	34	19	4D22	根カクラン	1	5	深鉢	口縁			(4.4)	0.6～0.9		地文
			5D1	Ⅱa層暗褐上位	1									
			6D11	Ⅱa層暗褐下位	1									
			6C12	Ⅱa層暗褐下位	2									
89	34	19	10E6	Ⅱa層暗褐上位	1	4	深鉢	口縁			(5.4)	0.7～0.9		地文
			10E6	Ⅱa層暗褐中位	1									
			10E2	Ⅱa層暗褐上位	2									
90	34	19	10E6	Ⅱa層暗褐中位		1	深鉢	口縁			(3.7)	0.7～0.9	施文後ナデ	地文
91	34	19	5C22	Ⅱa層暗褐下位		1	深鉢	口縁			(5.8)	0.8～1.0	施文後ナデ	地文
92	34	20	9D8	Ⅱa層暗褐上位		1	深鉢	口縁			(7.9)	0.7～1.1		地文
93	34	20	9E18	Ⅱa層暗褐中位		1	深鉢	口縁			(6.9)	0.6～1.0		地文
94	34	20	6E22	Ⅱa層暗褐下位		2	深鉢	口縁			(3.2)	0.8～0.9		地文
95	34	20	7F6	Ⅱa層暗褐中位		1	深鉢	口縁			(3.0)	0.7～1.0		地文
96	34	20	9D11	Ⅱa層暗褐上位		1	深鉢	口縁			(3.1)	0.8～1.0		地文
97	34	20	10D9	Ⅱa層暗褐上位		1	深鉢	口縁			(3.1)	0.8～0.9		地文
98	34	20	10E1	Ⅱa層暗褐中位	2	3	深鉢	口縁			(5.7)	0.7～0.9		地文
			9D	根カクラン	1									
99	34	20	7C7	Ⅱa層暗褐下位	2	3	深鉢	口縁			(7.2)	0.7～1.0		地文
			7C8	Ⅱa層暗褐下位	1									

内面調整・施文など	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調内面	色調外面	備考
		地文	条の傾き	回転方向	条幅	結節				
ナデ		LR	右	横			繊維多	10YR5/2灰黄褐	10YR7/3にぶい黄橙	
ナデ		LR	左	横		有（末端に環の付いた縄）	繊維多	10YR7/4にぶい黄橙	10YR4/1褐灰	
ナデ		LR	右	横		有（末端に環の付いた縄）	繊維多	10YR5/3にぶい黄褐	10YR6/4にぶい黄橙	
ナデ		RL	左	横			砂多・繊維多	10YR6/4にぶい黄橙	10YR2/1黒	
ナデ		RL	左	横			5mm大の細礫少・繊維多	10YR5/4にぶい黄褐	10YR3/2黒褐	
ナデ		RL	左	横		有（末端に環の付いた縄）	繊維多	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	
ナデ		LR	左・右	横・斜			繊維多	10YR7/3にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙	
ナデ・指頭圧痕	外面ススス	LR	左・右	横・斜			繊維多	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙	
ナデ		LR	左・右	横・斜			繊維少	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	
ナデ		RL	左	横			繊維少	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	
ナデ・指頭圧痕		LR	右	横		有（末端に環の付いた縄）	繊維多	10YR6/4にぶい黄橙	10YR4/1褐灰	
ナデ		RL	左・右	横・斜			繊維多	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/4にぶい褐	
ナデ		LR	左・右	斜			繊維多	10YR5/2灰黄褐	10YR4/1褐灰	
ナデ	外面ススス	LR	左・右	横・斜			繊維多	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	焼けはじけ
ナデ		LR	右	横		有（末端に環の付いた縄）	繊維少	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	
ナデ		RL	左	横		有（末端に環の付いた縄）	繊維少	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/6明黄褐	
ナデ		LR	左・右	斜			繊維少	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙	
ナデ		RL	左	横		有（末端に環の付いた縄）	繊維少	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/6明黄褐	
ナデ		RL	左	横		有（末端に環の付いた縄）	繊維多	10YR5/4にぶい黄褐	10YR6/4にぶい黄橙	
ナデ		RL	左	横		有（末端に環の付いた縄）	繊維少	10YR6/3にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	内面焼けはじけ
ナデ		LR	右	横		有（末端に環の付いた縄）	繊維少	5YR6/8橙	5YR6/8橙	
ナデ		RL	右	横		有（末端に環の付いた縄）	繊維少	5YR6/8橙	10YR7/6明黄褐	
ナデ		LR	右	横		有（末端に環の付いた縄）	繊維少	10YR7/6明黄褐	10YR7/4にぶい黄橙	
ナデ		LR	左	横		有（末端に環の付いた縄）	繊維少	5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	
ナデ		RL	左	横		有（末端に環の付いた縄）	繊維少	7.5YR6/6橙	10YR6/4にぶい黄橙	
ナデ		LR	口縁は右、胴は左	横		有（末端に環の付いた縄）	繊維少	10YR7/4にぶい黄橙	7.5YR7/6橙	

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点	層位	接合破片数 内訳数	接合破片数 総数	器種	残存位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	法量(cm) 厚さ	口端部	外面調整・施文など
100	34	20	9E13	Ⅱa層暗褐上位	2	3	深鉢	口縁			(5.1)	0.8～1.0	施文後ナデ	地文
			9E13	Ⅱa層褐色土	1									
101	34	20	10E1	Ⅱa層暗褐上位		2	深鉢	口縁			(6.2)	0.8～1.0		地文
102	34	20	10E2	Ⅱa層暗褐中位		1	深鉢	口縁			(2.6)	0.8～1.0		地文
103	34	20	10E2	Ⅱa層暗褐上位	1	2	深鉢	口縁			(3.3)	0.6～0.9		地文
			10E6	Ⅱa層暗褐中位	1									
104	34	20	9E22	Ⅱa層暗褐上位		5	深鉢	口縁			(9.7)	0.8～1.0		地文
105	34	20	5E17	Ⅱa層相当層上面(暗褐＋褐色ブロック)		2	深鉢	口縁			(4.6)	0.7～0.8	施文後ナデ	地文
106	34	20	7E13	Ⅱa層暗褐中～下位		1	深鉢	口縁			(4.7)	0.7～0.8		地文
107	34	20	5D25	Ⅱa層暗褐上面		1	深鉢	口縁			(3.6)	0.6～0.7		地文
108	34	20	8D24	Ⅱa層暗褐中位	1	3	深鉢	口縁			(5.1)	0.6～0.7	施文後ナデ	地文
			8D18	Ⅱa層褐色土上面	2									
109	35	20	10D10	Ⅱa層暗褐上位		1	深鉢	口縁			(3.3)	0.9		地文
110	35	20	9D9	Ⅱa層暗褐上位		1	深鉢	口縁			(8.1)	0.9～1.0		地文
111	35	20	9D3	Ⅱa層暗褐上位		1	深鉢	口縁			(4.4)	0.5～0.6		地文
112	35	20	7E9	Ⅱa層暗褐上面		1	深鉢	口縁			(2.8)	(0.7)		地文
113	35	20	7F7	Ⅱa層暗褐中位		1	深鉢	口縁			(4.1)	0.5～0.8		ナデ・指頭圧痕
114	35	20	6E23	Ⅰb層黒褐下位		1	深鉢	口縁			(7.1)	0.8～1.0		地文
115	35	20	6C25	Ⅱa層暗褐下位		4	深鉢	口縁			(9.6)	0.8～1.0		地文
116	35	20	6E9	Ⅱa層暗褐下位		1	深鉢	口縁			(4.8)	0.6～0.9	施文後ナデ	地文
117	35	20	中央トレンチ　5D16	Ⅰb層黒褐色土		1	深鉢	口縁			(4.6)	0.6～0.9	施文後ナデ	地文
118	35	20	6C18	Ⅱa層暗褐下位		1	深鉢	口縁			(5.5)	0.9～1.2		地文
119	35	20	15D5	暗褐・褐色土混合		3	深鉢	口縁			(7.8)	0.4～0.7		地文
120	35	20	5C5	Ⅱa層暗褐中位		1	深鉢	口縁			(4.5)	0.6～0.8	施文後ナデ	地文
121	35	20	6C24	Ⅱa層暗褐下位		4	深鉢	口縁			(8.3)	0.7～0.8		地文
122	35	20	7F1	Ⅱa層暗褐中位		1	深鉢				(3.8)	0.9～1.0		地文
123	35	20	6C4・9	Ⅱa層暗褐中位	1	2	深鉢				(6.5)	0.7～0.8		地文
			6E23	Ⅱa層暗褐下位	1									
124	35	20	9D21	Ⅱa層暗褐上位		1	深鉢	胴			(4.9)	0.7～0.8		地文
125	35	20	6D13	Ⅱa層褐色土上面		1	深鉢	口縁			(2.8)	0.8～1.0		地文
126	35	20	5C4トレンチ	Ⅱa層暗褐下位		1	深鉢	底付近			(3.6)	0.7～1.0		地文
127	35	21	6D6	Ⅱa層暗褐下位		1	深鉢	底付近			(3.4)	0.7～0.9		地文
128	35	21	6C10	Ⅱa層暗褐下位		1	深鉢	底			(3.5)	0.5～0.7		地文
129	35	21	5D7	Ⅰb層黒褐下位		1	深鉢	底			(2.8)	0.8～1.5		地文
130	35	21	6C9	Ⅱa層暗褐下位		1	深鉢	底			(2.3)	0.7～1.2		地文・乳房状突起
131	35	21	6E17	Ⅱa層暗褐下位		1	深鉢	底			(3.7)	0.7～0.9		地文
132	35	21	6C20	Ⅱa層暗褐最下位		1	深鉢	底			(2.2)	0.8～1.0		地文
133	35	21	6C14	Ⅱa層暗褐下位		1	深鉢	底			(1.9)	0.6～0.8		地文
134	35	21	6D6	Ⅱa層暗褐下位		1	深鉢	底			(2.7)	0.8～1.0		地文

内面調整・施文など	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調内面	色調外面	備考
		地文	条の傾き	回転方向	条幅	結節				
ナデ		LR	右	横		有（末端に環の付いた縄）	繊維少	10YR7/6明黄褐	10YR7/4にぶい黄橙	
ナデ		RL	左	横		有（末端に環の付いた縄）	2mm大の細礫少・繊維少	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	内面焼けはじけ
ナデ		RL	左	横		有（末端に環の付いた縄）	繊維少	10YR6/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	
ナデ		RL	左	横		有（末端に環の付いた縄）	繊維少	7.5YR7/6橙	10YR6/6明黄褐	
ナデ		RL	左・右	横・斜			5mm大の細礫少・繊維多	7.5YR7/6橙	10YR6/4にぶい黄橙	
ナデ		LR	右	斜			繊維多	10YR7/2にぶい黄橙	10YR5/2灰黄褐	
ナデ		LR	左・右	横・斜			繊維多	10YR7/4にぶい黄橙	10YR6/2灰黄褐	
ナデ		RL	左	横			繊維多	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	
ナデ		RL	左	横			繊維多	10YR4/1褐灰	10YR6/2灰黄褐	
ナデ		RLR	左	横			繊維多	10YR5/2灰黄褐	10YR7/2にぶい黄橙	
ナデ		RLR	左	横			繊維多	10YR7/3にぶい黄橙	10YR2/1黒	
ナデ		RL	左・右	横・斜			繊維多	7.5YR7/6橙	10YR3/1黒褐	
剥落		LR	右	横			繊維多	10YR7/3にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄褐	
ナデ・指頭圧痕							繊維多	10YR6/2灰黄褐	10YR7/4にぶい黄橙	焼けはじけ
ナデ		LR	左・右	横・斜			繊維特多	10YR3/1黒褐	10YR7/4にぶい黄橙	
ナデ		LR	左	横			繊維特多	10YR4/2灰黄褐	10YR7/6明黄褐	
ナデ		LR	左・右	横・斜			繊維多	10YR2/1黒	10YR4/2灰黄褐	
ナデ		RL	左・右	横・斜			繊維多	10YR4/1褐灰	10YR4/2灰黄褐	
ナデ		LR	右	横			繊維多	10YR3/1黒褐	10YR4/1褐灰	
ナデ		R	左・直立	横・斜			3mm大の細礫少	10YR5/4にぶい黄褐	10YR4/2灰黄褐	
ナデ		羽状（結束第1種、RL・RL）	左・右	横			繊維少	10YR6/4にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	
ナデ		LR	右	横			繊維多	10YR6/4にぶい黄橙	10YR4/2灰黄褐	
ナデ		LR	左・右	横			繊維多	10YR7/6明黄褐	10YR4/1褐灰	年代測定試料No.4
ナデ		RL	左	横			繊維多	10YR4/2灰黄褐	10YR3/1黒褐	年代測定試料No.5
ナデ		RLR	右	斜			繊維多	10YR5/2灰黄褐	7.5YR7/6橙	剥がれた箇所にも地文有り
ナデ		LR	直立	斜			繊維多	10YR3/1黒褐	7.5YR7/4にぶい橙	輪積箇所にも地文有り
ナデ		LR	右	横			繊維多	10YR3/1黒褐	10YR6/3にぶい黄橙	
ナデ・指頭圧痕		LR	左	横			繊維多	10YR3/1黒褐	5YR4/8赤褐	
ナデ		LR	左・右	横・斜			繊維多	10YR2/1黒	10YR7/6明黄褐	
ナデ		LR	左	横			繊維多	10YR3/1黒褐	10YR7/3にぶい黄橙	
ナデ		RL	左・右	横・斜			繊維多	10YR7/6明黄褐	5YR5/6明赤褐	
ナデ		LR	左・右	横・斜			繊維多	10YR3/1黒褐	10YR7/4にぶい黄橙	
ナデ		LR	左・右	横・斜			繊維多	10YR3/2黒褐	5YR5/6明赤褐	
ナデ・剥落		RL	左・右	横・斜			繊維多	10YR4/1褐灰	10YR7/3にぶい黄橙	
ナデ		LR	左・右	横・斜			繊維多	10YR2/1黒	10YR6/4にぶい黄橙	

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点	層位	接合破片数		器種	残存位置	法量(cm)				口端部	外面調整・施文など
					内訳数	総数			口径	底径	器高	厚さ		
135	35	21	6D19	Ⅱa層暗褐下位		1	深鉢	底			(2.6)	0.8～1.4		地文
136	35	21	6E24	Ⅱa層暗褐下位		1	深鉢	底			(1.1)	0.5～0.8		地文
137	35	21	7D8	Ⅱa層暗褐中～下位		2	深鉢	底			(2.5)	0.5～0.6		ナデ（無文）
138	35	21	7E15	Ⅱa層暗褐中位		1	深鉢	底			(1.2)	0.7～0.8		地文
139	35	21	7F18	Ⅱa層暗褐下位		2	深鉢	底			(4.1)	0.5～0.7		地文
140	35	21	7F19	Ⅱa層暗褐中位		1	深鉢	底			(2.6)	0.4～0.5		地文
141	36	21	7F7	Ⅱa層暗褐中位		1	深鉢	底			(2.2)	0.7～1.0		地文
142	36	21	8D13	Ⅱa層暗褐中～下位		1	深鉢	底			(3.8)	0.8～1.4		地文
143	36	21	8C16（西平坦部トレンチ）	Ⅱa層褐色（中撹混）直上		1	深鉢	底			(5.1)	1.0～1.3		地文
144	36	21	9C5	Ⅱa層暗褐中～下位		2	深鉢	底			(2.0)	0.8～1.3		地文
145	36	21	9C12	Ⅱa層暗褐中～下位		2	深鉢	底			(2.7)	0.9～1.6		地文
146	36	21	9D20	Ⅱa層暗褐上位		2	深鉢	底			(1.7)	0.8～0.9		剥落
147	36	21	9D8	Ⅱa層暗褐上位		1	深鉢	底			(2.7)	0.9～1.3		地文
148	36	21	9D2	Ⅱa層暗褐中位		1	深鉢	底			(1.4)	0.7～1.0		地文
149	36	21	9E24	Ⅱa層暗褐上位		1	深鉢	底			(2.7)	0.7～1.3		地文
150	36	21	9E22	Ⅱa層暗褐上位	7	11	深鉢	底			(6.0)	0.9～1.6		地文
			10D3	Ⅱa層暗褐上位	1									
			9F2	Ⅱa層暗褐中～下位	1									
			10D9	Ⅱa層暗褐上位	1									
			9E21	Ⅱa層暗褐上位	1									
151	36	21	10D5	Ⅱa層暗褐中位	5	7	深鉢	底			(6.1)	0.6～0.8		地文
			10D10	Ⅱa層暗褐中位	1									
			10D4	Ⅱa層暗褐上位	1									
152	36	21	10D3	Ⅱa層暗褐上位		1	深鉢	底			(3.9)	0.7～1.3		地文
153	36	21	10E18	Ⅱa層褐色土		1	深鉢	底			(1.8)	0.8～1.0		地文
154	36	21	10E1	Ⅱa層暗褐上位		1	深鉢	底			(3.8)	0.8～0.9		地文

内面調整・施文など	ススコゲ	縄文原体					胎土	色調内面	色調外面	備考
		地文	条の傾き	回転方向	条幅	結節				
ナデ		RLR	左・右	横・斜			繊維多	10YR6/4にぶい黄橙	5YR6/8橙	
ナデ		LR	左・右	横・斜			繊維少	10YR3/2黒褐	10YR7/6明黄褐	
ナデ							繊維少	10YR6/1褐灰	10YR7/2にぶい黄橙	
ナデ		LR	左・右	横・斜			繊維多	10YR6/2灰黄褐	10YR5/2灰黄褐	
ナデ		RL	左・右	横・斜			繊維多	10YR4/1褐灰	10YR4/1褐灰	
ナデ		LR	左・右	横・斜			繊維多	10YR3/2黒褐	10YR6/4にぶい黄橙	
ナデ		RLR	左・右	横・斜			繊維多	10YR2/1黒	10YR5/3にぶい黄褐	
ナデ		LR	左・右	横・斜			繊維多	10YR3/2黒褐	10YR7/8黄橙	
ナデ		LR	左・直立	横・斜			3㎜大の細礫・繊維少	10YR7/4にぶい黄橙	7.5YR7/6橙	
ナデ		RL	左・直立	横・斜			2㎜大の細礫・繊維少	7.5YR7/6橙	5YR6/6橙	内面焼けはじけ
ナデ		RL	左・直立	横・斜			2㎜大の細礫・繊維少	10YR4/1褐灰	10YR7/6明黄褐	外面焼けはじけ
ナデ		LR	左・右	横・斜			線維少	10YR2/1黒	2.5YR6/4にぶい黄	
ナデ		RL	左・右	横			繊維少	10YR2/1黒	10YR6/6明黄褐	
ナデ		RL	左・右	横			繊維少	10YR2/1黒	10YR7/4にぶい黄橙	
ナデ		RL	左・右	横			繊維少	10YR5/1褐灰	10YR5/4にぶい黄褐	内外面焼けはじけ
ナデ		LR	左・右	横・斜			繊維多	10YR3/1黒褐	10YR6/4にぶい黄橙	
ナデ		RLR	左	横			繊維多	10YR6/4にぶい黄橙	10YR5/6黄褐	
ナデ		LR	左・右	横			繊維多	10YR2/1黒	10YR6/4にぶい黄橙	
ナデ		LR	左・右	横			繊維多	10YR6/3にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	尖底部若干歪み
ナデ		RL	左・右	横			3㎜大の細礫多・繊維少	10YR5/2灰黄褐	10YR7/6明黄褐	

第24表　尖頭器観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点	層位	器種	石材	法量						先端角		欠損	自然面	被熱・折断	備考
							長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	形状	角度(°)				
155	37	22	10D10	Ⅱa層暗褐中位	尖頭器	頁岩	5.08	2.03	1.18	2.50	0.58	11.21	先	64.0				
156	37	22	8D12	Ⅱa層暗褐下位	尖頭器	頁岩	4.40	2.40	0.73	1.83	0.30	6.63	先	60.5				
157	37	22	10F8	Ⅱa層暗褐上位	尖頭器	珪質頁岩	4.90	2.58	0.72	1.90	0.28	10.18	先	61.0				

第25表　石鏃観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点	層位	器種	分類	石材	法量						先端角		欠損	自然面	被熱・折断	備考
								長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	形状	角度(°)				
158	37	22	6D19	Ⅱa層暗褐下位（黒褐ブラン中）	石鏃	ⅠA	頁岩	2.16	0.97	0.43	2.23	0.44	0.65	先	39.0				
159	37	22	9B8	Ⅱa層褐色土上面	石鏃	ⅠA	頁岩	2.80	1.34	0.31	2.09	0.23	0.71	先	48.0				
160	37	22	10E1	Ⅱa層暗褐上位	石鏃	ⅠA	頁岩	3.79	1.58	0.64	2.40	0.41	3.07	先	48.0				
161	37	22	7E20	Ⅰb層黒褐最下位	石鏃	ⅡA1	頁岩	2.18	1.56	0.38	1.40	0.24	1.08	先	51.0				
162	37	22	6B23	Ⅱa層暗褐下位	石鏃	ⅡA2	頁岩	2.48	1.37	0.41	1.81	0.30	1.10	先	54.5				
163	37	22	9E12	Ⅱa層暗褐下位	石鏃	ⅡA3	頁岩	3.38	1.19	0.38	2.84	0.32	1.47	先	49.0				
164	37	22	9C15	Ⅱa層暗褐中位	石鏃	ⅡA3	頁岩	3.25	1.31	0.30	2.48	0.23	1.17	先	54.0				
165	37	22	6E17	Ⅱa層暗褐下位	石鏃	ⅡA4	頁岩	2.06	1.36	0.31	1.51	0.23	0.71	先	48.0				
166	37	22	10C	褐色土層	石鏃	ⅡA4	頁岩	2.34	1.49	0.50	1.57	0.34	1.44	先	48.0				
167	38	22	9D6	Ⅱa層暗褐上位	石鏃	ⅡB1	頁岩	3.70	2.77	0.72	1.34	0.26	5.43	先	51.0				
168	38	22	9D25	Ⅱa層暗褐上～中位	石鏃	ⅡB1	頁岩	4.30	2.47	0.75	1.74	0.30	5.69	先	42.0				
169	38	22	5D6（トレンチ）	暗褐色土（火山灰混）	石鏃	ⅡB2	頁岩	1.81	1.71	0.38	1.06	0.22	0.86	先	68.0				
170	38	22	9C12	Ⅱa層暗褐中～下位	石鏃	ⅡB2	頁岩	2.06	1.56	0.37	1.32	0.24	1.03	先	66.0				
171	37	22	6E18	Ⅱa層暗褐下位（Ⅲ層直上）	石鏃	ⅡC1	頁岩	2.00	1.57	0.26	1.27	0.17	0.61	先	49.0				
172	37	22	8C22	Ⅱa層暗褐下位	石鏃	ⅡC1	頁岩	2.17	1.22	0.39	1.78	0.32	0.86	先	45.0				
173	38	22	9D17	Ⅱa層暗褐上位	石鏃	ⅡC1	黒曜石	1.80	1.55	0.27	1.16	0.17	0.57	先	75.0				青森県深浦産
174	38	22	6D11	Ⅱa層暗褐下位	石鏃	ⅡC2	珪質頁岩	2.72	1.72	0.29	1.58	0.17	1.32	先	65.0				
175	38	22	9D2	Ⅱa層暗褐上位	石鏃	ⅡC2	頁岩	2.70	1.57	0.29	1.72	0.18	1.26	先	55.0				
176	38	22	調査区南側T4斜面下	黒褐色土中	石鏃	ⅡC2	頁岩	5.08	1.97	0.66	2.58	0.34	4.97	先	37.0				
177	38	22	6E17	Ⅱa層暗褐下位	石鏃	ⅡC3	頁岩	2.15	1.49	0.44	1.44	0.30	0.94	先	41.0				
178	38	22	8D16	Ⅱa層暗褐最下位	石鏃	ⅡC3	頁岩	2.41	1.59	0.34	1.52	0.21	0.85	先	46.0				

第26表　石錐観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点	層位	器種	分類	石材	法量						先端角		欠損	自然面	被熱・折断	備考
								長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	形状	角度(°)				
179	38	22	6D16（トレンチ）	暗褐色土	石錐	Ⅰ	頁岩	2.41	0.73	0.65	3.30	0.89	0.78	先	62.0				
180	38	22	6E25	Ⅱa層暗褐下位	石錐	Ⅰ	珪質頁岩	3.28	1.48	0.87	2.22	0.59	3.72	先	115.0				
181	38	22	7C8	Ⅱa層暗褐下位	石錐	Ⅱ	頁岩	2.88	2.15	0.61	1.34	0.28	2.92	先	50.0				

第27表　石匙観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点	層位	器種	分類	石材	法量						刃部		欠損	自然面	被熱・折断	備考
								長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	形状	角度(°)				
182	38	22	7C2	Ⅱa層褐色土上面	石匙	ⅠB	頁岩	5.41	1.99	0.68	2.72	0.34	8.95	両	62.0				
183	38	22	7F1	Ⅱa層暗褐下位	石匙	ⅠA	頁岩	5.96	3.53	0.85	1.69	0.24	15.40	片	53.0				
184	38	23	9C14	Ⅱa層褐色土上面	石匙	ⅠA	頁岩	5.93	2.22	0.76	2.67	0.34	9.73	片	63.0				
185	38	23	9D25	Ⅱa層暗褐上～中位	石匙	ⅠA	頁岩	6.25	3.14	0.70	1.99	0.22	10.96	片	46.0				
186	39	23	10E8	Ⅱa層暗褐中位	石匙	ⅠA	頁岩	5.38	2.19	0.85	2.46	0.39	9.61	片	67.0				
187	39	23	9D15	Ⅱa層暗褐上位	石匙	ⅠB	頁岩	(5.16)	2.15	0.65	(2.40)	0.30	7.27	両	50.0	刃部（端部）			
188	39	23	6D25	Ⅱa層暗褐下位	石匙	ⅡA	頁岩	3.63	4.14	0.59	0.88	0.14	7.54	片	77.5				
189	39	23	9B8	Ⅱa層暗褐中位	石匙	ⅢA	頁岩（黒曜石）	3.46	4.66	0.68	0.74	0.15	10.61	片	64.0				
190	39	23	10C3	Ⅱa層暗褐中～下位	石匙	ⅢA	頁岩	4.64	5.58	0.94	0.83	0.17	14.94	片	56.0				

第28表　篦状石器観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点	層位	器種	分類	石材	法量						刃部		剥離角		欠損	自然面	被熱・折断	備考
								長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	形状	角度(°)	有無	角度(°)				
191	39	23	9D15	Ⅱa層暗褐中～下位	篦状石器	Ⅰ	頁岩	7.88	3.79	1.86	2.08	0.49	48.73	片	61.0				有		
192	39	23	9D15	Ⅱa層暗褐中位	篦状石器	Ⅱ	頁岩	7.45	4.09	1.37	1.82	0.33	42.77	片	63.0						裏面端部・正面中央に光沢（使用痕か）

第29表　楔形石器観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点	層位	器種	分類	石材	法量						欠損	自然面	備考
								長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)			
193	40	23	7E16	Ⅱa層暗褐下位	楔形石器	Ⅰ	頁岩	3.95	2.62	0.65	1.51	0.25	6.85			
194	40	23	9E16	Ⅱa層暗褐中位	楔形石器	Ⅰ	頁岩	2.62	2.52	0.70	1.04	0.28	4.93		有	
195	40	23	8C16	Ⅱa層暗褐（褐色の上）	楔形石器	Ⅱ	頁岩	3.67	2.83	1.16	1.30	0.41	14.58			

第30表　スクレイパー類観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点	層位	器種	分類	石材	法量						刃部		欠損	自然面	被熱・折断	備考
								長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	形状	角度(°)				
196	40	23	6E11	Ⅱa層褐色土上面	スクレイパー類	Ⅰ	頁岩	5.00	3.39	0.73	1.47	0.22	13.76	両	66.0				
197	40	23	9E21	Ⅱa層暗褐上位	スクレイパー類	Ⅰ	頁岩	5.34	2.98	0.83	1.79	0.28	10.27	片	60.0				
198	40	23	8D21	Ⅱa層暗褐上位	スクレイパー類	Ⅱ	チャート	2.86	3.94	1.50	0.73	0.38	17.72	片	73.0		有		

第31表　二次加工ある剥片観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点	層位	器種	分類	石材	法量						刃部		欠損	自然面	備考
								長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	形状	角度(°)			
199	40	24	9D14	Ⅱa層暗褐中位	二次加工	Ⅰ	頁岩	2.18	2.39	0.91	0.91	0.38	5.24	両	50.0			
200	40	24	6C25	Ⅱa層暗褐下位	二次加工	Ⅱ	頁岩	2.72	4.85	0.52	0.56	0.11	7.85	両	51.0			抉入有り

第32表　微細剥離痕ある剥片観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点	層位	器種	石材	法量						剥離角		備考
							長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	有無	角度(°)	
201	40	24	9E1	Ⅱa層暗褐上位	微細剥離痕	頁岩	2.12	1.82	0.54	1.16	0.30	1.68			

第33表　抉入石器（異形）観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点	層位	器種	石材	法量						刃部		備考
							長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	形状	角度(°)	
202	40	24	6C20	Ⅱa層暗褐下位	抉入（異形）	頁岩	5.18	3.23	0.46	1.60	0.14	5.89	片	64.0	

第34表　剥片観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点	層位	器種	石材	法量						欠損	自然面	被熱・折断	備考
							長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)				
203	40	24	9D21	Ⅱa層暗褐上～中位	剥片	黒曜石	(0.59)	(1.46)	(0.15)	0.40	0.10	0.11	打点方向		被熱有	産地同定試料2
204	40	24	10D1	Ⅱa層暗褐上位	剥片	黒曜石	1.88	(2.00)	0.32	(0.94)	(0.16)	1.23	有		被熱有	産地同定試料3

第35表　石核観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点	層位	器種	分類	石材	法量						剥離角		自然面	備考
								長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	有無	角度(°)		
205	41	24	7F7	Ⅱa層暗褐中位	石核	Ⅱ	頁岩	6.72	5.27	4.21	1.28	0.80	177.11	有	117.0	有	
206	41	24	10E7	Ⅱa層褐色土上面	石核	Ⅲ	頁岩	3.75	3.45	2.02	1.09	0.59	24.28	有	72.0	有	
207	41	24	9B4	Ⅱa層暗褐上～中位	石核	Ⅳ	頁岩	3.53	3.07	2.10	1.15	0.68	22.30	有	103.0	有	両極打法

第36表　石斧類観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点	層位	器種	分類	石材	法量(cm)									刃部			欠損	自然面	備考
								長さ	幅	厚さ	基部幅	刃部幅	長さ/幅	厚さ/幅	基部幅/最大幅	重量(g)	形状		角度(°)			
																	平面	断面				
208	41	24	7B3	Ⅱa層褐色土上面	石斧類	ⅠA	玢岩	7.47	4.22	1.26	0.97	3.97	1.77	0.30	0.23	56.77	偏	両	80.0			
209	42	24	7C17	Ⅱa層褐色上面	石斧類	ⅠA	玢岩	(13.42)	5.43	2.92	0.92	4.70	(2.47)	0.54	0.17	329.48	偏	両	－	刃部（使用による）		
210	42	24	8C19・9B10	Ⅱa層暗褐下位	石斧類	ⅠA	玢岩	(17.36)	6.73	3.18	1.35	－	(2.58)	0.47	0.20	554.04	－	－	－	2個体接合		
211	41	24	9F21	Ⅱa層暗褐上位	石斧類	ⅠA	頁岩	3.38	1.86	0.61	1.09	1.41	1.82	0.33	0.59	6.86	円	両	45.0			
212	42	24	7F17	Ⅱa層暗褐中位	石斧類	ⅠB	斑糲岩	(18.62)	7.45	4.60	－	6.24	(2.50)	0.62		1020.19	円	両	99.0	基部・刃部（使用による）		
213	42	24	9C17	Ⅱa層暗褐上～中位	石斧類	ⅠC	玢岩	13.42	5.07	3.02	1.12	4.66	2.65	0.60	0.22	317.85	円	両	102.0	中央から折れ・刃部(使用による)		
214	41	25	10F7	Ⅱa層暗褐上位	石斧類	ⅠC	玢岩	6.39	2.40	1.30	1.59	2.05	2.66	0.54	0.66	33.96	円	両	75.0			
215	42	25	5D20(北東ベルト)・6E16	Ⅱa層暗褐下位	石斧類	ⅡC	斑糲岩	20.05	7.50	5.08	2.61	－	2.67	0.68	0.35	1092.19	－	－	－	2個体接合		
216	42	25	6E14・6C24	Ⅱa層暗褐下位	石斧類	ⅡB	玢岩	11.88	4.49	2.55	1.80	－	2.65	0.57	0.40	178.57	－	－	－	2個体接合		
217	42	25	8D16・8D24	Ⅱa層暗褐中位	石斧類	ⅡB	玢岩	10.59	4.76	1.86	1.60	4.25	2.22	0.39	0.34	127.15	円	片	76.0	2個体接合		
218	43	25	8D23	Ⅱa層暗褐上位	石斧類	ⅡB	斑糲岩	15.72	6.85	2.02	3.35	5.44	2.29	0.29	0.49	375.62	円	片	71.5			
219	41	25	9D18	Ⅱa層暗褐上位	石斧類	ⅠA	斑糲岩	6.30	3.72	(0.97)	1.84	－	1.69	(0.26)	0.49	33.44	円	片	73.0	刃部・厚み・欠損か	有	
220	43	25	6D23根カクラン	堆積土中	石斧類	ⅡC	斑糲岩	(9.57)	10.14	(5.86)	－	－	(0.94)	(0.58)		665.00	円	片	－	1/2以上・基部・未製品か		

第37表　礫器類観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点	層位	器種	分類	石材	法量						欠損	備考
								長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)		
221	43	25	8C	表土	礫器類	ⅠA	玢岩	13.71	10.32	2.67	1.33	0.26	493.31		両刃
222	43	25	6D18	Ⅱa層暗褐中位	礫器類	ⅠB	玢岩	15.10	10.49	6.30	1.44	0.60	1158.10		片刃
223	43	25	9E17	Ⅱa層暗褐上位	礫器類	ⅠC	玢岩	11.51	9.04	4.41	1.27	0.49	705.47		両刃
224	43	25	8C19	Ⅱa層暗褐下位	礫器類	ⅡB	砂岩	14.00	7.83	4.21	1.79	0.54	677.00		片刃・剥片

第38表　敲磨器類観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点	層位	器種	分類	石材	法量						機能部										欠損	備考
														磨部				敲部				凹部			
								長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	正	側	端	裏	正	側	端	裏	正	側	裏		
225	44	26	7E22	Ⅱa層暗褐中位	敲磨器類	A	チャート	7.01	7.09	4.59	0.99	0.65	353.62						2	1						3/4周に敲打痕
226	44	26	7・8E区	にぶい黄褐色土上面(検出面)	敲磨器類	A	斑糲岩	13.61	8.05	3.91	1.69	0.49	611.81							2						
227	44	26	5B7	Ⅰb層黒褐下位	敲磨器類	C	頁岩	12.56	7.09	5.86	1.77	0.83	847.59							2		1				
228	44	26	6F21	Ⅱa層暗褐中～下位	敲磨器類	C	斑糲岩	8.58	8.21	4.58	1.05	0.56	575.95							2		1		1		
229	44	26	10D5	Ⅱa層暗褐上位	敲磨器類	E	花崗閃緑岩	17.99	9.62	6.33	1.87	0.66	1980.58							2		2		2		
230	45	26	7F10	Ⅱa層暗褐中位	敲磨器類	F1	花崗閃緑岩	15.04	7.20	5.51	2.09	0.77	907.17		1					1		2		2		アバタ状
231	45	26	6B25	Ⅱa層暗褐下位	敲磨器類	F2	斑糲岩	(13.64)	6.20	5.29	(2.20)	0.85	719.31		1					2		2		1	端部	

第39表　砥石観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点	層位	器種	石材	法量						備考
							長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	
232	45	26	7C2	Ⅱa層暗褐下位	砥石	斑糲岩	(5.12)	(4.86)	1.97	1.05	(0.41)	59.86	正面に線状痕

第40表　線刻礫観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点	層位	器種	石材	法量				欠損	備考
							長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
233	45	26	6C8	Ⅰb層黒褐下位	線刻礫	頁岩	9.43	7.50	3.18	286.29		正面に線状痕

第41表　石皿台石類観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点	層位	器種	石材	法量						欠損	備考
							長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)		
234	45	26	9E22	Ⅱa層暗褐上位	石皿台石類	斑糲岩	(18.04)	(10.30)	(6.27)			2102.70	1/2以上	

第42表　石棒類観察表

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点	層位	器種	石材	法量						欠損	自然面	備考
							長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長/幅	厚/幅	重量(g)			
235	45	26	6E11	Ⅱa層暗褐最下位	石棒類	砂岩（ホルンフェルス化？）	9.69	2.96	1.03	3.27	0.35	40.12		有	
236	45	26	7F7	黒褐色土	石棒類	玢岩	(7.19)	(3.50)	(3.23)	2.05	0.92	112.97	1/2	有	

Ⅵ　調査のまとめ

1　遺　　構

今回の調査で検出された遺構数は、縄文時代前期前葉の遺物包含層（計2,141㎡）、土坑26基、焼土遺構１基、集石遺構２基、ピット４個である。

この中で、遺物包含層は今回の調査の主体となった遺構である。詳細はⅣ－１で述べたが、遺物の出土状況から「北捨て場」と「南捨て場」の２ヵ所の集中域が認められた（第13図参照）。

北捨て場は、４～７・Ｂ～Ｆ区に位置し、東西方向48m、南北方向40m、集中域は東西方向31m、南北方向10mの範囲で、面積は1,060㎡（集中域285㎡）である。また、南捨て場は、８～10・Ｃ～Ｅ区に位置し、東西方向48m、南北方向27.5m、集中域は東西方向32m、南北方向22mの範囲で、面積は1,122㎡（集中域329㎡）である。

遺物が出土する層位は、基本層序Ⅱａ層（10YR3/3暗褐色主体のシルト層）に限られ、この層を攪乱した上位のⅠ層からも若干量の遺物が出土した。層厚は平均して10～30㎝、深い地点では50㎝ほど確認された。Ⅱｂ層に至ると、十和田中掫テフラが３～７％の密度で混入し、土質の締まりが密になる。尾根上区をはじめ、北斜面区、南斜面区でも層序の確認を行ったが（Ⅱ－４参照）、いずれでも十和田中掫テフラの混入するⅡｂ層以下では遺物は確認されなかった。

今回の調査での特記事項として、①遺物出土層が単一層に限定されること、②出土遺物の時期がほぼ縄文時代前期前葉に限定されることが挙げられる。これは言い換えれば、人間活動が主体的に行われた時期が縄文時代前期前葉のみであったとすることができる。

遺物包含層以外の時期不明とした遺構についても、一括堆積が認められた北斜面下位の12基の土坑以外はこの時期に属する可能性がある。

遺跡の推定範囲については、本調査区を含み東西に長い痩せ尾根状の段丘面約200m四方と見られている。

今回の調査の遺構分布状況から、北捨て場は６～７・Ｃ～Ｆ区、南捨て場は８～10・Ｃ～区に集中域を持つことから考えても、遺跡の中心は本調査区の東側に拡がると思われる。

2　遺　　物

今回の調査で出土した遺物は、縄文土器大コンテナ8.5箱分（10,510片・94,214.5g）、石器1, 726点（うち製品468点）、石製品２点である。

前述したように、出土遺物の主体的な時期は縄文時代前期前葉に属すると見られる。遺物の大半は遺物包含層から出土したものであり、第13図遺物包含層範囲をはじめ、第19図土器重量分布図、第26図剥片出土分布図、第15表剥片出土点数・重量集計表に示した通り、土器・石器ともほぼ同一の分布範囲、分布密度が認められる。

出土土器の大半は胎土に植物性繊維を含んでおり、特徴的な文様帯を持つものはなく、外面に縄文のみを施文する尖底や丸底を呈する土器群である。全体に焼成は良好で、内面調整は一部に指頭圧痕が認められるものの、ナデ・ミガキが施される。

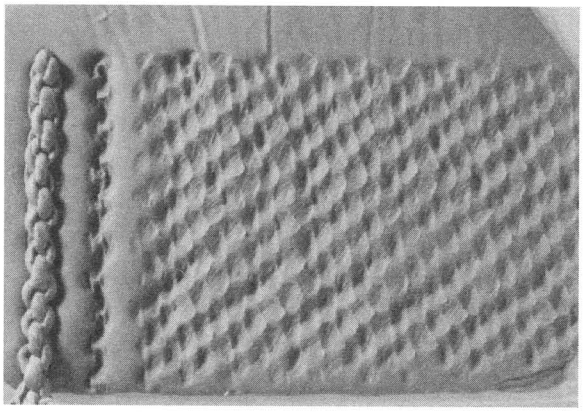
このような特徴を持つ土器群は、これまで岩手県内で二戸市沢内Ｂ遺跡第Ⅰ群１類Ｂ種（岩埋文

1978)、同市上里遺跡第Ⅱ群1類（岩埋文　1983)、同市中曽根Ⅱ遺跡第Ⅱ群（二戸市教委　1981)、滝沢村耳取遺跡縄文時代前期初頭の土器ａ～ｈ(滝沢村教委　1986)、同村仏沢Ⅲ遺跡第Ⅱ群２類Ａ種(滝沢村教委　1987)、宮古市千鶏遺跡Ⅲ群（宮古市教委　1989）などで類例が出土しており、いずれも早稲田６類に位置付けられている。

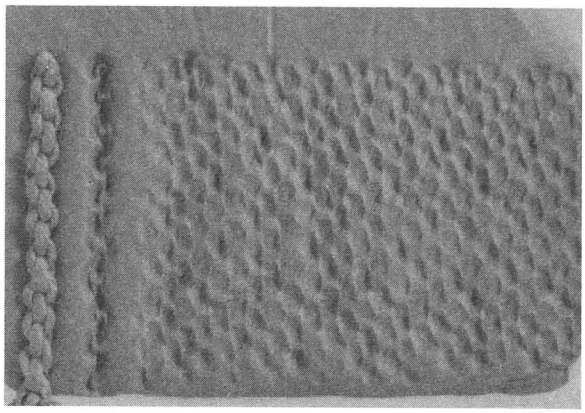
高橋亜貴子や武藤康弘による近年の資料整理によれば（高橋　1992・武藤　2008)、早稲田６類は1956・58年に佐藤達夫らによって実施された青森県三沢市早稲田貝塚の調査で、縄文時代前期前葉の第６類土器として報告されたものである。この土器は函館市春日町遺跡第二群土器（春日町式）とほぼ同様の土器で、佐藤は早稲田６類をＡ～Ｃ類の３つに分類している。

Ａ類は刺突具を押し引きした連続刺突文（類竹管文）が用いられ、口縁部に数条平行して竹管文が施されたもの、胴部と底部近くに波状ないし鋸歯状に幾何学構成に施文されているものである。Ｂ類は、器形が波状口縁の尖底深鉢形で、器表面に全面的に縄文を地文として施文し、胎土に繊維が多量に含まれる。口縁部は連続刺突文（類竹管文）及び沈線が施され、縄文原体末端の半環状の圧痕と沈線が組み合って、胴部まで文様が拡がるものである。Ｃ類は、平縁の深鉢形で底部は丸底か尖底に近く、器面全面に縄文ないしは撚糸文が施文される。また、連続刺突文（類竹管文）が完全になくなり、器面全面に斜縄文や羽状縄文が施される。地文の上に数段の縄文原体末端の半環状の圧痕文が高い確率で出現する。

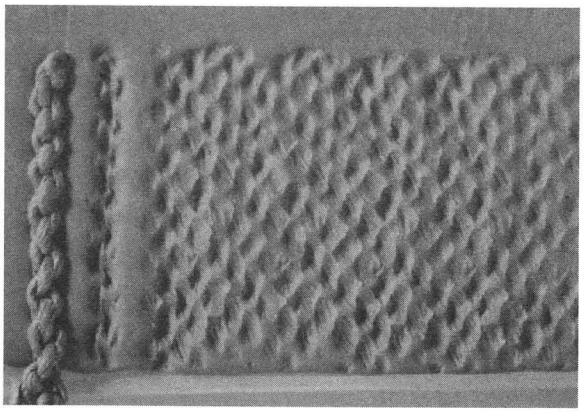
今回の調査で第Ⅱ群とした土器群には、完形に接合・復元できた土器はほとんどなく、大半が破片資料である。しかし、上述の早稲田６Ａ・６Ｂ類に見られるような文様はなく、使用原体は単節、複



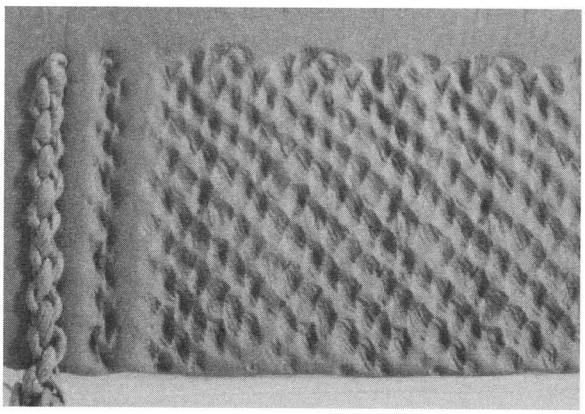
組縄Ａ(lを4本L回りに組む)ライト左



組縄Ａ(lを4本L回りに組む)ライト右



組縄Ａ(rを4本L回りに組む)ライト左



組縄Ａ(rを4本L回りに組む)ライト右

高橋　1992　p628-632を参考に作成

節のみがほとんどで、羽状縄文（結束第１種）が25・33・63・120に観察される。また、88・89・91～103のように末端に環の付いた縄（ループ文）が施文されることなどからも、早稲田６Ｃ類・春日町式Ｃ類に位置付けられよう。

口端（口唇）部に棒状工具による刻み目がある（25～29）、縄文回転圧痕がある（30～36）、指頭圧痕がある（37）、内高外低の切り出し形を呈する（38～40）、断面角形に成形する（52～87）ものがあることは、仏沢Ⅲ遺跡（滝沢村教委　1987）・千鶏遺跡（宮古市教委　1989）で指摘がある時期差と捉えられる可能性もあるが、今回の調査での層位的な追認は出来なかった。

また、高橋亜貴子によれば、早稲田６類ｃ（本報告では６Ｃ類）には時期的・地域的に限定される「組縄縄文」と呼ばれる原体が多用されるらしい（高橋　1992）。

組縄縄文は、組み方によってＸ状に交叉させて組む組縄Ａと平行に組む組縄Ｂに分類される。高橋は組縄縄文を「第一に組縄Ａを用いても組縄Ｂを用いても隣接し会う節が非常に密着しているもの、第二に見方によってはあるいは光のかげんでは条が左下がりにも右下がりにも見えるもの（実像の条がとらえ難く、虚像の条がつくられるもの）、また組縄Ａを用いると縦方向に連なる列が認められ、組縄Ｂを用いるとそれが若干乱れるものとがある」と定義している。

そして、特に組縄Ａについて東北地方北部（青森県上北地方～岩手県北上市・遠野市・秋田県大森町）を分布域に持ち、縄文時代前期前半期に限定されるとしている。

これに基づいて出土土器を観察すると、27や41・46などに組縄Ａに近似する特徴が認められる。ただし、回転圧痕と思われる土器も多く、一様ではないようである。また、報告者の観察不足から確認できていない場合もあるかもしれない。

岩手県域における該期土器群の位置付けは出土資料が少ないこともあり、依然として不明瞭な部分が多い。今後さらなる検討を要すると思われる。（北田）

参考・引用文献

岩埋文　1978『二戸市沢内Ｂ遺跡』岩手県埋文センター文化財調査報告書第７集

岩埋文　1983『上里遺跡発掘調査報告書』岩手県埋文センター文化財調査報告書第55集

熊谷常正　1989「岩手県における縄文時代前期土器群の成立」岩手県立博物館研究報告１号　45－65頁

熊谷常正　2008「縄文条痕文系土器（東北地方）」『総覧縄文土器』104－111頁

縄文文化検討会　1989『東北・北海道における縄文時代早期中葉から前期初頭にかけての土器編年について』第４回縄文文化検討会シンポジウム発表資料

高橋亜貴子　1992「東北地方縄文時代前期前葉組縄縄文について」『東北文化論のための先史学歴史学論集』

滝沢村教委　1986『耳取遺跡』滝沢村文化財調査報告書第３集

滝沢村教委　1987『仏沢Ⅲ遺跡』岩手県滝沢村文化財調査報告書第５集

二戸市教委　1981『中曽根Ⅱ遺跡発掘調査報告書』（本文編）・（図版編）

宮古市教委　1989『千鶏遺跡　昭和62年度発掘調査報告書』宮古市文化財調査報告書16

武藤康弘　2008「表館式・早稲田６類土器」『総覧縄文土器』210－217頁

附編　自然科学分析

1　火山灰同定分析

（株）火山灰考古学研究所

1　は　じ　め　に

東北地方岩手県北部には、十和田火山のほか、洞爺、阿蘇、姶良など北海道や九州など遠方の火山に由来するテフラ（火山砕屑物，いわゆる火山灰）が数多く認められる。テフラの中には、すでに噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、層位や年代が不明な土層やテフラが認められた久慈市本波Ⅷ遺跡においても、発掘調査担当者により採取された試料を対象に、テフラ検出分析と火山ガラス比分析さらに火山ガラスの屈折率測定を行って、テフラの検出と指標テフラとの同定を実施し、遺跡の土層の層位や年代に関する資料を収集することになった。分析の対象となった地点は、尾根上西トレンチである。

2　テフラ検出分析

（1）分析試料と分析方法

尾根上西トレンチにおいて、発掘調査担当者により採取された試料のうち、Ⅵc層より上位の11試料（表１：下位より試料40、試料35、試料32、試料28、試料26、試料22、試料18、試料12、試料８、試料６、試料３）についてテフラ検出分析を行い、試料に含まれる軽石、スコリア（色調が暗い軽石）、火山ガラスなどテフラ粒子の特徴を定性的に求めた。テフラ検出分析の手順は次のとおりである。

１）試料12gを秤量。
２）超音波洗浄により泥分を除去。
３）80℃で恒温乾燥。
４）実体顕微鏡下でテフラ粒子の特徴を観察。

表１　テフラ分析試料表

分析試料	尾根上西トレンチの土層
試料３	Ⅱa層
試料６	Ⅱb層
試料８	Ⅱc層
試料12	Ⅳa層
試料18	Ⅳb層
試料22	Ⅳb層
試料26	Ⅳc層
試料28	Ⅵa-Ⅴ層
試料32	Ⅵa層
試料35	Ⅵb層
試料40	Ⅵc層

（2）分　析　結　果

テフラ検出分析の結果を表２に示す。尾根上西トレンチの試料のうち、比較的粗粒の軽石が含まれているものは試料６で、最大径4.1mmの黄白色軽石が少量含まれている。

火山ガラスは、試料35、試料32、試料28、試料18、試料12、試料８、試料６、試料３に比較的多く含まれている。試料32に含まれる火山ガラスは、軽石型ガラスや平板状のいわゆるバブル型ガラスで、色調は透明、淡褐色、白色である。試料28に含まれる火山ガラスは、軽石型ガラスやバブル型ガラスで、色調は透明や淡褐色である。試料18に含まれる火山ガラスは、軽石型ガラスやバブル型ガラスで、色調は透明や白色である。試料12に含まれる火山ガラスも軽石型ガラスやバブル型ガラスで、色調は白色、淡褐色、透明である。

試料８の火山ガラスも軽石型ガラスやバブル型ガラスで、色調は黄白色、白色、透明である。こ

の試料には、特徴的に火山ガラスが付着した角閃石が比較的多く含まれている。軽石が認められる試料６に含まれる火山ガラスも、形態は軽石型やバブル型で、色調は白色や透明である。試料６に含まれる火山ガラスも、形態は軽石型やバブル型で、色調は白色や透明である。また、試料３に含まれる火山ガラスは軽石型で、白色や透明を呈する。

表２　テフラ検出分析結果

遺　跡	地　点	試　料	軽石・スコリア			火山ガラス		
			量	色　調	最大径	量	形　態	色　調
本波Ⅷ遺跡	尾根上西トレンチ	3	−	−	−	++	pm	白、透明
		6	+	黄白	4.1	++	pm>bw	白、透明
		8	−	−	−	++	pm>bw	黄白、白、透明
		12	−	−	−	++	pm>bw	白、淡褐、透明
		18	−	−	−	++	pm>bw	透明、白
		22	−	−	−	−	−	−
		26	−	−	−	+	pm>bw	透明、淡褐
		28	−	−	−	++	pm>bw	透明、淡褐
		32	−	−	−	++	pm>bw	透明、淡褐、白
		35	−	−	−	+	pm>bw	透明、淡褐、白
		40	−	−	−	+	bw	透明

++++：とくに多い、+++：多い、++：中程度、+：少ない、−：認められない.
最大径の単位は、mm. bw：バブル型、pm：軽石型.

3　火山ガラス比分析

（1）分析試料と分析方法

テフラ粒子のうち、火山ガラスは大規模な噴火の際に、鉱物などとともにマグマの破片として大量に生産噴出される。しかもその比重や形態などの関係で、とくに遠方に到達する。さらに、マグマの多様性を反映して、形態や色調さらに屈折率、主成分化学組成などに特徴があり、さまざまな分析により特徴を把握しやすい。このことから、テフラを過去の時空指標として利用する火山灰編年学の分野では、とくに火山ガラスの特徴把握が重視される。

そこで、尾根上西トレンチのテフラ検出分析の対象となった11試料について、さらに火山ガラス比分析を行って、ガラス質テフラの降灰層準および含まれる火山ガラスの特徴を定量的に記載することになった。火山ガラス比分析の手順は次のとおりである。

1）テフラ検出分析処理後の試料について、分析篩により1/4〜1/8㎜の粒子を篩別。

2）偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、火山ガラスの色調・形態別比率を求める。

（2）分　析　結　果

尾根上西トレンチにおける火山ガラス比分析の結果を、ダイヤグラムにして図１に、その内訳を表３に示す。火山ガラス比分析でも、いずれの試料からも火山ガラスを検出できた。ただし、テフラ検出分析で比較的多くの火山ガラスが認められた、試料35、試料18、試料12、試料６に含まれる1/4〜1/8㎜サイズの粒子におけるその比率はさほど高くないことが明らかになった。

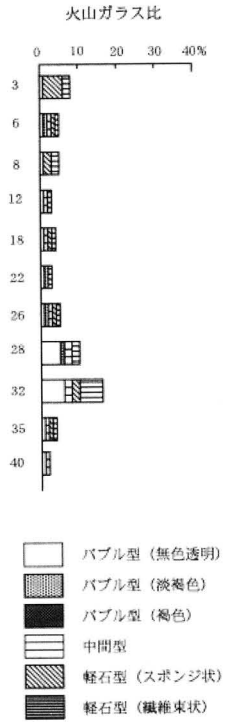


図１　尾根上西トレンチの火山ガラス比ダイヤグラム

分析対象試料の中では、試料32により多くの火山ガラスが含まれている（15.6％）。この試料に含まれる火山ガラスは、比率が高い順に透明のバブル型および繊維束状に発泡した軽石型（各6.0％）、

分厚い中間型（2.0%）、スポンジ状に発泡した軽石型（1.6%）である。

試料28にも比較的多くの火山ガラスが含まれている（8.8%）。この試料に含まれる火山ガラスは、透明のバブル型（5.2%）、繊維束状に発泡した軽石型および中間型（各1.4%）、淡褐色のバブル型（0.4%）である。試料８に含まれる火山ガラスは、繊維束状に発泡した軽石型（2.0%）、スポンジ状に発泡した軽石型（1.6%）、透明のバブル型（1.2%）である。さらに、試料３に含まれる火山ガラスは、スポンジ状に発泡した軽石型（5.6%）、繊維束状に発泡した軽石型（2.4%）、透明のバブル型（0.4%）である。

表３　火山ガラス比分析結果

遺　跡	地　点	試料	bw(cl)	bw(pb)	bw(br)	md	pm(sp)	pm(fb)	その他	合　計
本波Ⅷ遺跡	尾根上西トレンチ	3	1	0	0	0	14	6	229	250
		6	3	1	0	1	3	4	238	250
		8	3	0	0	0	4	5	238	250
		12	3	0	0	2	0	2	243	250
		18	2	0	0	2	1	1	244	250
		22	1	1	0	0	0	1	247	250
		26	3	1	0	1	1	3	241	250
		28	13	1	0	4	0	4	228	250
		32	15	0	0	5	4	15	211	250
		35	3	0	0	3	3	2	239	250
		40	1	0	0	2	0	0	247	250

数字は粒子数．bw：バブル型，md：中間型，pm：軽石型，cl：透明，pb：淡褐色，br：褐色，sp：スポンジ状，fb：繊維束状．

なお、火山ガラス比分析では透過光を利用しているために、やや淡い色調のバブル型ガラスの色調認定には難しいこともあり、透明のバブル型ガラスは必ずしも無色とは限らない。色調に関しては、テフラ検出分析による記載も考慮する必要がある。

4　屈折率測定

（1）測定試料と測定方法

尾根上西トレンチの試料のうち、試料32、試料28、試料８、試料３の４試料に含まれる火山ガラスについて、温度変化型屈折率測定装置（京都フィッション・トラック社製RIMS2000）を利用して、屈折率の測定を実施した。

（2）測　定　結　果

測定結果を表４に示す。試料32に含まれる火山ガラス（35粒子）の屈折率（n）は、1.504-1.510である。試料28に含まれる火山ガラスの屈折率（n）はbimodalで、1.496-1.497（２粒子）と1.502-1.512（28粒子）の値が得られた。試料８に含まれるほとんど火山ガラス（31粒子）の屈折率（n）は1.501-1.510であるが、わずかに1.512-1.513の値をもつ火山ガラスも少量（２粒子）含まれている。試料３に含まれる火山ガラスの屈折率（n）はtrimodalで、1.498-1.500（４粒子）、1.502-1.510（27粒子）、1.512-1.513（２粒子）の値が得られた。

表４　火山ガラスの屈折率測定結果

遺　跡	地　点	試料	火山ガラスの屈折率（n）
本波Ⅷ遺跡	尾根上西トレンチ	3	1.498-1.500(4), 1.502-1.510(27), 1.512-1.513(2)
		8	1.501-1.510(31), 1.512-1.513(2)
		28	1.496-1.497(2), 1.502-1.512(28)
		32	1.504-1.510(35)

温度変化型屈折率測定装置(RIMS2000)による．（　）は測定粒子数．

5　考　　察

テフラ検出分析および火山ガラス比分析により火山ガラスの濃集が認められた層準のうち、Ⅱｃ層（試料８）については、屈折率を含む火山ガラスの特徴や本質的な角閃石が目立つことから、約1.2～1.3万年前*1に十和田火山から噴出した十和田八戸テフラ（To-H，早川，1983a，Hayakawa，1985，町田・新井，1992）に由来するテフラ粒子が多く含まれていると考えられる。

また、Ⅱa層（試料３）中に比較的多く含まれるテフラ粒子については、層位とガラス質である点で約5,500年前*1に十和田火山から噴出した十和田中掫テフラ（To-Cu，大池ほか，1966，早川，1983b，福田，1986，町田･新井，1992）、または915年に十和田火山から噴出した十和田aテフラ（To-a，大池，1972，町田ほか，1981）に由来する可能性が考えられる。ただし、スポンジ状に発泡した軽石型ガラスに富むことや、中間型ガラスがほとんど認められないこと、さらに比較的高い屈折率の火山ガラスを含むことなどから、前者の可能性がより高いように思われる。また、屈折率が低い火山ガラスが含まれていることは、To-aが若干混在していることを示唆しているのかも知れない。

なお、本遺跡は、約8,600年前*1に十和田火山から噴出した十和田南部テフラ（To-Nb，大池ほか，1966，中川ほか，1972，町田・新井，1986）の分布軸にほぼ相当しているが、風化のためか特徴的な軽石粒子はあまり検出されなかった。

断面においてテフラ層として認められたらしいⅤ層（試料28に含まれる）については、層位、噴火の規模の大きさ、テフラの分布、さらに多くの火山ガラスの屈折率などから、約3.2万年前以前に十和田火山から噴出した十和田大不動テフラ（町田・新井，1992，2003）の可能性が考えられよう。この十和田大不動テフラは、下部の十和田ビスケット１降下軽石（To-BP1）と、上位の大不動火砕流堆積物およびそれに関連する降下火山灰（合わせてTo-Of）から構成されている。To-Ofに関しては、岩手県南部での検出例もあるらしいことから（火山灰考古学研究所，未公表資料）、本遺跡周辺に堆積したことはほぼ確実と考えられる。本遺跡の発掘調査でも、このテフラ層に関連して炭化物が検出されていることは、テフラの堆積様式を考える上でも興味深い。ただ、テフラ・カタログでは、To-Ofの上位にある十和田ビスケット２（To-BP2，大池・中川，1979）に含まれる火山ガラスの屈折率の記載がないことや、本遺跡周辺でのテフラの報告例が多くないことにも注意しておく必要があろう。

今回の分析では、それより下位の試料35でも多くの火山ガラスが検出された。火山ガラスの屈折率（n：1.504-1.510）は、To-BP1やTo-Ofのそれ（n：1.505-1.511）に良く似ており、これらのテフラに同定される可能性も考えられる。ただし、試料のなかに繊維束状の構造が直線的に発達することで特徴的な透明の軽石型ガラスが含まれており、従来の報告では知られていない。このような軽石型ガラスについては、屈折率は異なるものの、約４～4.5万年前に支笏カルデラから噴出した支笏第１テフラ（Spfa-1，n：1.500-1.503，町田・新井，2003など）にも含まれている。東北地方沖の太平洋海底から採取された試料の分析で、To-Ofの下位にSpfa-1の層位のあることが確かめられている（青木・新井，2000，町田・新井，2003）。また、約11.2～11.5万年前の洞爺テフラ（Toya，町田・新井，2003など）より下位にあると考えられている久慈市内の風成堆積物中にも、このタイプの火山ガラスで特徴づけられるテフラがあるらしい（早田，未公表資料）。

今後さらに火山ガラスや鉱物の屈折率測定、さらに信頼度の高いEPMAを利用した火山ガラスの主成分化学組成分析などにより、指標テフラとの向上精度の向上が図られることが期待される。

また、本地域周辺には、十和田火山起源のテフラのほか、約2.4～2.5万年前*1に姶良カルデラから噴出した姶良Tn火山灰（AT，町田･新井，1976，1992，松本ほか，1987，村山ほか，1993，池田ほか，1995）も降灰しているようである（早田，未公表資料）。ただし、本地域周辺では、最終氷期を中心にインボリューションなどによるテフラなどの攪乱が発生しており、とくに十和田大不動テフラやその下位で顕著との報告もあって（町田，1996，町田・新井，2003）、テフラの調査には慎重を期す必要がある。また、火山灰編年学では、テフラの一次堆積層を利用するのが基本で、その認定には、分析を担当するテフラ研究者による土層断面の観察が不可欠である。次回には、現地における調査およびサンプリングを期待したい。

6　ま　と　め

久慈市本波Ⅷ遺跡中央トレンチにおいて採取された試料を対象に、テフラ検出分析と火山ガラス比分析を行った。その結果、下位より十和田大不動テフラ（To-BP1およびTo-Of，約3.2万年前以前）の可能性のあるテフラ層、十和田八戸テフラ（To-H，約1.2～1.3万年前*1）、十和田中掫テフラ（To-Cu，約5,500年前*1）などの指標テフラおよびその降灰層準を検出することができた。

＊1　放射性炭素（^{14}C）年代．AT，To-H，To-Cuの暦年較正年代については，順に約2.6～2.9万年前，約1.5万年前，約6,000年前と考えられている（町田・新井，2003）．

文献

青木かおり・新井房夫（2000）三陸沖海底コアKH94-3，LM-8の後期更新世テフラ層序．第四紀研究，39，p.107-120.

新井房夫（1962）関東盆地北西部の第四紀編年．群馬大学紀要自然科学編，10，p.1-79.

福田友之（1986）考古学からみた「中掫軽石」の降下年代．弘前大学考古学研究，3，p.4-15.

早川由紀夫（1983a）火山豆石として降下堆積した十和田火山八戸火山灰．火山，28，p.25-40.

早川由紀夫（1983b）十和田火山中掫テフラ層の分布，粒度組成，年代．火山，第２集，28，p.263-273.

Hayakawa, Y.（1985）Pyroclastic geology of Towada volcano. Bull. Earthq. Res. Inst. Univ. Tokyo，60, p.507-592.

池田晃子・奥野　充・中村俊夫・筒井正明・小林哲夫（1995）南九州，姶良カルデラ起源の大隅降下軽石と　入戸火砕流中の炭化樹木の加速器質量分析法による^{14}C年代．第四紀研究，34，p.377-379.

町田　洋（1996）八戸付近の十和田テフラ群と段丘地形．日本第四紀学会編「第四紀露頭集－日本のテフラ」，p.141.

町田　洋・新井房夫（1976）広域に分布する火山灰－姶良Tn火山灰の発見とその意義－．科学，46，p.339-347.

町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．東京大学出版会，276p.

町田　洋・新井房夫（2003）新編火山灰アトラス．東京大学出版会，336p.

松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗（1987）姶良Tn火山灰（AT）の^{14}C年代．第四紀研究，26，p.79-83.

村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村　真・安田尚登・平　朝彦（1993）四国沖ピストンコア試料を用いた　AT火山灰噴出年代の再検討－タンデトロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の14C年代．地質雑，99，p.787-798.

中川久夫・中馬教充・石田琢二・松山　力・七崎　修・生出慶司・大池昭二・高橋　一（1972）十和田火山発達史概要．岩井淳一教授記念論文集，p.7-17.

大池昭二（1972）十和田火山東麓における完新世テフラの編年．第四紀研究，11，p.232-233.

大池昭二・中川久夫・七崎　修・松山　力・米倉伸之（1966）馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰．第四紀研究，5，p.29-35.

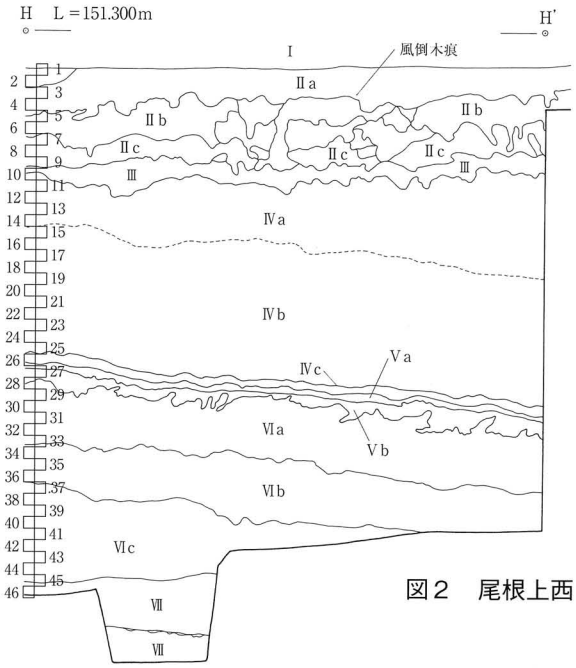


図２　尾根上西トレンチ分析試料採取位置

2　放射性炭素年代測定

（株）加速器分析研究所

1　遺跡の位置

本波Ⅷ遺跡は、岩手県久慈市侍浜町本波11-51-32ほか（北緯40°14′20″、東経141°48′36″）に所在する。九戸段丘面である尾根状の微高地に立地する。

2　測定対象試料

測定対象試料は、尾根上西トレ深堀のⅤa層から出土した泥炭中の木炭（試料１：IAAA-71749）、７F11グリッドのⅡa層暗褐色土中位から出土した12土器外面付着炭化物（試料２：IAAA-71750）、９D18グリッドのⅡa層暗褐色土上～中位から出土した42土器外面付着炭化物（試料3：IAAA-71751）、７F１グリッドのⅡa層暗褐色土中位から出土した122土器外面付着炭化物（試料４：IAAA-71752）、６C４・９，６E23グリッドのⅡa層暗褐色土中～下位から出土した123土器外面付着炭化物（試料５：IAAA-71753）、尾根上西トレ深堀のⅣc層から出土した泥炭中の木炭（試料６：IAAA-72871）、合計６点である。

3　化学処理工程

1）メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
2）AAA（Acid Alkali Acid）処理。酸処理、アルカリ処理、酸処理により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では１Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では0.001Nの水酸化ナトリウム水溶液（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では１Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
3）試料を酸化銅１gと共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で30分、850℃で２時間加熱する。
4）液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素（CO_2）を精製する。
5）精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し、グラファイトを作製する。
6）グラファイトを内径１㎜のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着し測定する。

4　測定方法

測定機器は、３MVタンデム加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。また、加速器により^{13}C/^{12}Cの測定も同時に行う。

5　算出方法

1）年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用した。
2）^{14}C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中^{14}C濃度が一定であったと仮定して測定され、

1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。この値は、δ^{13}Cによって補正された値である。

3）付記した誤差は、複数回の測定値についてχ^2検定が行われ、測定値が１つの母集団とみなせる場合には測定値の統計誤差から求めた値、みなせない場合には標準誤差から求めた値が用いられる。

4）δ^{13}Cの値は、通常は質量分析計を用いて測定されるが、AMS測定の場合に同時に測定されるδ^{13}Cの値を用いることもある。δ^{13}C補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載する。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰；パーミル）で表した。

$\delta^{14}C = [(^{14}A_S - ^{14}A_R) / ^{14}A_R] \times 1000$　（1）

$\delta^{13}C = [(^{13}A_S - ^{13}A_{PDB}) / ^{13}A_{PDB}] \times 1000$　（2）

ここで、$^{14}A_S$：試料炭素の^{14}C濃度：$(^{14}C/^{12}C)_S$または$(^{14}C/^{13}C)_S$

$^{14}A_R$：標準現代炭素の^{14}C濃度：$(^{14}C/^{12}C)_R$または$(^{14}C/^{13}C)_R$

δ^{13}Cは、加速器により測定中に同時に^{13}C濃度（$^{13}A_S = {}^{13}C/^{12}C$）を測定し、標準試料PDB（白亜紀のベレムナイト類の化石）の測定値との比較から算出した。表中に（加速器）と注記する。

5）Δ^{14}Cは、試料炭素が$\delta^{13}C = -25.0$（‰）であるとしたときの^{14}C濃度（$^{14}A_N$）に換算した上で計算した値である。（1）式の^{14}C濃度を、δ^{13}Cの測定値をもとに次式のように換算する。

$^{14}A_N = {}^{14}A_S \times (0.975 / (1 + \delta^{13}C / 1000))^2$（$^{14}A_S$として$^{14}C/^{12}C$を使用するとき）

または

$= {}^{14}A_S \times (0.975 / (1 + \delta^{13}C / 1000))$（$^{14}A_S$として$^{14}C/^{13}C$を使用するとき）

$\Delta^{14}C = [(^{14}A_N - ^{14}A_R) / ^{14}A_R] \times 1000$（‰）

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気の炭酸ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行った年代値は実際の年代との差が大きくなる。多くの場合、同位体補正をしないδ^{14}Cに相当するBP年代値が比較的よくその貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致する。

6）pMC（percent Modern Carbon）は、現代炭素に対する試料炭素の^{14}C濃度の割合を示す表記であり、Δ^{14}Cとの関係は次のようになる。

$\Delta^{14}C = (pMC / 100 - 1) \times 1000$（‰）

$pMC = \Delta^{14}C / 10 + 100$（%）

国際的な取り決めにより、このΔ^{14}CあるいはpMCにより、^{14}C年代が次のように計算される。

$T = -8033 \times \ln[(\Delta^{14}C / 1000) + 1]$

$= -8033 \times \ln(pMC / 100)$

7）^{14}C年代値と誤差は、１桁目を四捨五入して10年単位で表示される。

8）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の^{14}C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の^{14}C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、１標準偏差（$1\sigma = 68.2\%$）あるいは２標準偏差（$2\sigma = 95.4\%$）で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない^{14}C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal04データベース（Reimer et al 2004）を用い、OxCalv3.10較正プログラム（Bronk Ransey1995　Bronk Ransey 2001　Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger2001）を使用した。

6　測　定　結　果

^{14}C年代は、尾根上西トレ深堀のＶａ層から出土した泥炭中の木炭（試料１）が15300±70yrBPである。暦年較正年代（1σ）は、16810～16670BC（68.2%）である。その直上のⅣｃ層から出土した泥炭中の木炭（試料６：IAAA-72871）は15370±70yrBPである。暦年較正年代は、16850～16720BC（68.2%）である。２点は^{14}C年代の誤差範囲内で一致することから、Ｖａ層とⅣｃ層の堆積時期は非常に近い年代であった可能性が高い。

７F11グリッドから出土した12土器付着炭化物（試料２）は5780±40yrBP、９D18グリッドから出土した42土器付着炭化物（試料３）が5890±40yrBP、７Ｆ１グリッドから出土した122土器付着炭化物（試料４）が5830±40yrBP、６Ｃ４・9，６E23グリッドから出土した123土器付着炭化物（試料５）が5880±40yrBPである。暦年較正年代（1σ）は、試料２が4690～4580BC（66.5%）・4570～4560BC（1.7%）、試料３が4795～4715BC（68.2%）、試料４が4770～4650BC（57.8%）・4640～4610BC（10.4%）、試料５が4790～4710BC（68.2%）である。これらの年代は縄文時代前期前葉に相当する。

炭素含有率は十分であり、化学処理および測定内容にも問題が無いことから、妥当な年代と考えられる。

参考文献

Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19, 355-363

Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, Radiocarbon 37(2), 425-430

Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon 43(2A), 355-363

Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, Radiocarbon 43(2A), 381-389

Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, Radiocarbon 46, 1029-1058

第１表　本波Ⅷ遺跡放射性炭素年代測定結果

IAA Code No.	試料		BP年代および炭素の同位体比				
IAAA-71749	試料採取場所：	岩手県久慈市侍浜町本波11-51-32ほか　本波Ⅷ遺跡	Libby Age(yrBP)	:	15,300	±	70
			δ13C(‰)、(加速器)	=	−23.54	±	0.58
	試料形態：	木炭，泥炭	Δ14C(‰)	=	−851.1	±	1.2
	試料名(番号)：	試料１	pMC(%)	=	14.89	±	0.12
	(参考)	δ13C の補正無し	δ14C(‰)	=	−850.6	±	1.2
			pMC(%)	=	14.94	±	0.12
#1992-1			Age (yrBP)	:	15,270	±	70
IAAA-71750	試料採取場所：	岩手県久慈市侍浜町本波11-51-32ほか　本波Ⅷ遺跡	Libby Age(yrBP)	:	5,780	±	40
			δ13C(‰)、(加速器)	=	−27.59	±	0.51
	試料形態：	炭化物	Δ14C(‰)	=	−513	±	2.4
	試料名(番号)：	試料２	pMC(%)	=	48.7	±	0.24
	(参考)	δ13C の補正無し	δ14C(‰)	=	−515.6	±	2.3
			pMC(%)	=	48.44	±	0.23
#1992-2			Age (yrBP)	:	5,820	±	40
IAAA-71751	試料採取場所：	岩手県久慈市侍浜町本波11-51-32ほか　本波Ⅷ遺跡	Libby Age(yrBP)	:	5,890	±	40
			δ13C(‰)、(加速器)	=	−26.96	±	0.51
	試料形態：	炭化物	Δ14C(‰)	=	−519.7	±	2.3
	試料名(番号)：	試料３	pMC(%)	=	48.03	±	0.23
	(参考)	δ13C の補正無し	δ14C(‰)	=	−521.6	±	2.2
			pMC(%)	=	47.84	±	0.22
#1992-3			Age (yrBP)	:	5,920	±	40
IAAA-71752	試料採取場所：	岩手県久慈市侍浜町本波11-51-32ほか　本波Ⅷ遺跡	Libby Age(yrBP)	:	5,830	±	40
			δ13C(‰)、(加速器)	=	−28.33	±	0.46
	試料形態：	炭化物	Δ14C(‰)	=	−516.3	±	2.3
	試料名(番号)：	試料４	pMC(%)	=	48.37	±	0.23
	(参考)	δ13C の補正無し	δ14C(‰)	=	−519.6	±	2.3
			pMC(%)	=	48.04	±	0.23
#1992-4			Age (yrBP)	:	5,890	±	40
IAAA-71753	試料採取場所：	岩手県久慈市侍浜町本波11-51-32ほか　本波Ⅷ遺跡	Libby Age(yrBP)	:	5,880	±	40
			δ13C(‰)、(加速器)	=	−25.9	±	0.45
	試料形態：	炭化物	Δ14C(‰)	=	−519.1	±	2.3
	試料名(番号)：	試料５	pMC(%)	=	48.09	±	0.23
	(参考)	δ13C の補正無し	δ14C(‰)	=	−520	±	2.2
			pMC(%)	=	48	±	0.22
#1992-5			Age (yrBP)	:	5,900	±	40
IAAA-72871	試料採取場所：	岩手県久慈市侍浜町本波11-51-32ほか　本波Ⅷ遺跡	Libby Age(yrBP)	:	15,370	±	70
			δ13C(‰)、(加速器)	=	−26.45	±	0.58
	試料形態：	木炭　炭化物	Δ14C(‰)	=	−852.4	±	1.3
	試料名(番号)：	試料６	pMC(%)	=	14.76	±	0.13
	(参考)	δ13C の補正無し	δ14C(‰)	=	−852.8	±	1.3
			pMC(%)	=	14.72	±	0.13
#2184			Age (yrBP)	:	15,390	±	70

参考　IAAA-71749 に関しましては，木炭を処理し測定した結果になります．
　　IAAA-72871 に関しましては，AAA 処理を実施し測定した結果になります。

3　黒曜石産地同定分析

（株）第四紀地質研究所

1　分析試料の調整と実験条件

（1）分析試料の調整

原産地黒曜石の分析試料は黒曜石の岩体では岩体のなかで５個所程度選択し、１個所で５～10試料を採取した。分析結果は岩体の中で選択した各個所について１分析値で代表させた。例えば、西餅屋の岩体では孔道内の４個所を４分析値で表示した。岩体が貧弱である場合には１岩体の中で10個以上を採取し、試料数分の分析結果を表示した。岩体が消滅しているものや、明確な岩体としての露頭が認められないものや河床の中の転石あるいは斜面に露出する堆積した黒曜石は10個以上採取し、試料数分の分析結果を表示した。

分析にあたっては、露頭より採取した黒曜石を打ちかき、比較的平滑な面を分析面とする未整形試料を作成した。

（2）実　験　条　件

分析はエネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置（日本電子製JSX-3200）で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法（FP法）による自動定量計算システムが採用されており、６Ｃ～92Ｕまでの元素分析ができ、ハイパワーＸ線源（最大30kV、４mA）の採用で微量試料～最大290㎜φ×80㎜Ｈまでの大型試料の測定が可能である。小形試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルクFP法でおこなった。FP法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、Ｘ線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

分析にあたっては、露頭より採取した黒曜石を打ちかき、比較的平滑な面を分析面とする未整形試料をＸ線照射範囲が約15㎜φの試料台に直接のせ分析した。実験条件はバルクFP法（スタンダードレス方式）、分析雰囲気＝真空、Ｘ線管ターゲット素材＝Rh、加速電圧＝30kV、管電流＝自動制御、分析時間＝200秒（有効分析時間）である。また、分析にあたっては標準サンプルを分析し、キャリブレーションを行い、装置の正常さを保って行った。

分析対象元素はSi, Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, Na, K,　P,　Rb, Sr, Y, Zrの14元素、分析値は黒曜石の含水量＝０と仮定し、酸化物の重量％を100％にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量％は小数点以下２桁で表示することになっているが、微量元素のRb, Sr, Y, Zrは重量％では小数点以下３～４桁の微量となり、小数点以下２桁では０と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下4桁を用いて化学分析結果を表示した。

岩石の化学組成を構成する主要元素と微量元素の中から、岩石の骨格となるSiとAl、有色鉱物の主要元素であるFe, Ca,無色鉱物の主要元素であるNaとKの関連からK、副成分鉱物のイルメナイトからFeとTi、微量元素ではRbとSrの各元素組み合わせにより黒曜石を分類する図を作製した（周藤他、2002）。基本的には主要元素の各元素が重複しない組み合わせとしたが、Fe, Mn, Tiは鉄質関連として相関性の高い元素であり、TiはFeとMnの２元素との対比となっている。主要元素と微量元素の酸化物濃度（重量％）でSiO2-Al2O3,Fe2O3-TiO2,K2O-CaOの３組、積分強度でRb-SrOの組み合わせで図を作成した。

2　分　析　結　果

第１表化学分析表には平成19年度の本波Ⅷ遺跡より出土した黒曜石石器と剥片の分析結果と原産地対比を記載した。

1）本波Ⅷ遺跡より出土した黒曜石製石器と剥片は第２表原産地対比表に示すように、石鏃は深浦産で剥片は被熱不明である。

2）本波Ⅷ-２と３の剥片は肉眼的には表面に薄い膜が張ったようで透明感が乏しい。この２個は共にK_2Oの値が７～８％と高く、どの原産地黒曜石の領域にも属さない。被熱を受ける際（焚き火のおき）の灰の成分が黒曜石（ガラス）の表面が融ける際に取り込まれ表面の化学組成が変化する。灰に含まれるＫ（カリウム）がガラス表面で融けて融合し、化学組成を変化させるもので、そのためK_2Oの値が高くなる。

引用文献

周藤賢治・小山内康人　2002　共立出版、記載岩石学上、5-20.

地質調査所　岩石標準試料の測定結果

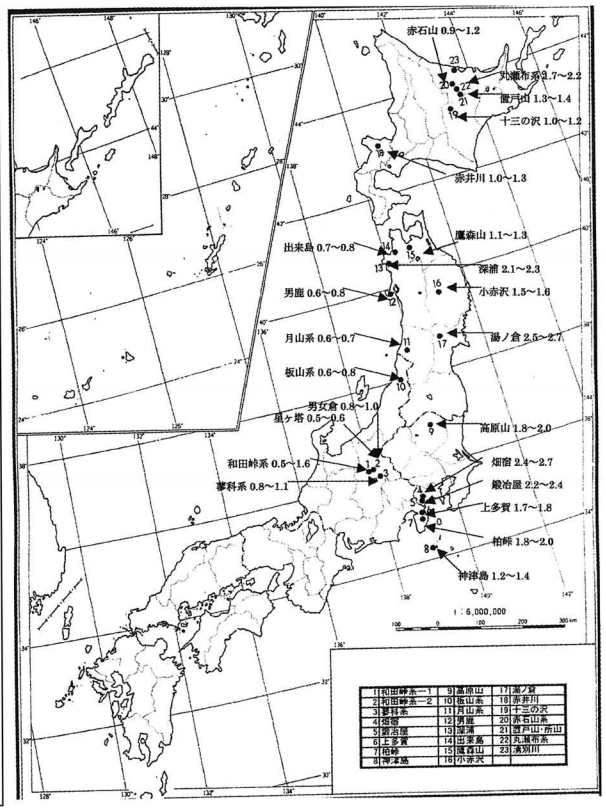
JSX-3200 型　エレメントアナライザ（EDXRF 法）
青文字：標準試料の推奨値（%）
黒文字：EDXRF 法による分析結果

(element)	JG-1a	(EDXRF)	JG-2	(EDXRF)	JG-3	(EDXRF)
SiO2	72.3	72.10	76.83	76.15	67.29	67.63
TiO2	0.25	0.28	0.044	0.05	0.48	0.50
Al2O3	14.3	14.27	12.47	12.90	15.48	15.32
T-Fe2O3	2	2.14	0.97	1.06	3.69	3.69
MnO	0.057	0.06	0.016	0.02	0.071	0.07
MgO	0.69	0.94	0.037	0.08	1.79	2.45
CaO	2.13	2.15	0.7	0.73	3.69	3.69
Na2O	3.39	3.86	3.54	4.00	3.96	4.21
K2O	3.96	4.15	4.71	4.96	2.64	2.68
P2O5	0.083		0.002		0.122	

(element)	JF-1	(EDXRF)	JF-2	(EDXRF)
SiO2	66.69	67.27	65.3	65.60
TiO2	0.005		0.005	
Al2O3	18.08	17.27	18.52	17.79
T-Fe2O3	0.08	0.09	0.06	0.05
MnO	0.001		0.001	
MgO	0.006		0.004*	
CaO	0.93	1.01	0.09	
Na2O	3.37	3.59	2.39	2.71
K2O	9.99	10.82	12.94	13.79
P2O5	0.01		0.003*	

(element)	JR-1	(EDXRF)	JR-2	(EDXRF)
SiO2	75.45	76.74	75.69	75.89
TiO2	0.11	0.11	0.07	0.06
Al2O3	12.83	12.22	12.72	12.92
T-Fe2O3	0.89	0.90	0.77	1.03
MnO	0.099	0.11	0.112	0.02
MgO	0.12	0.14	0.04	0.11
CaO	0.67	0.70	0.5	0.72
Na2O	4.02	4.49	3.99	4.26
K2O	4.41	4.56	4.45	4.94
P2O5	0.021		0.012	

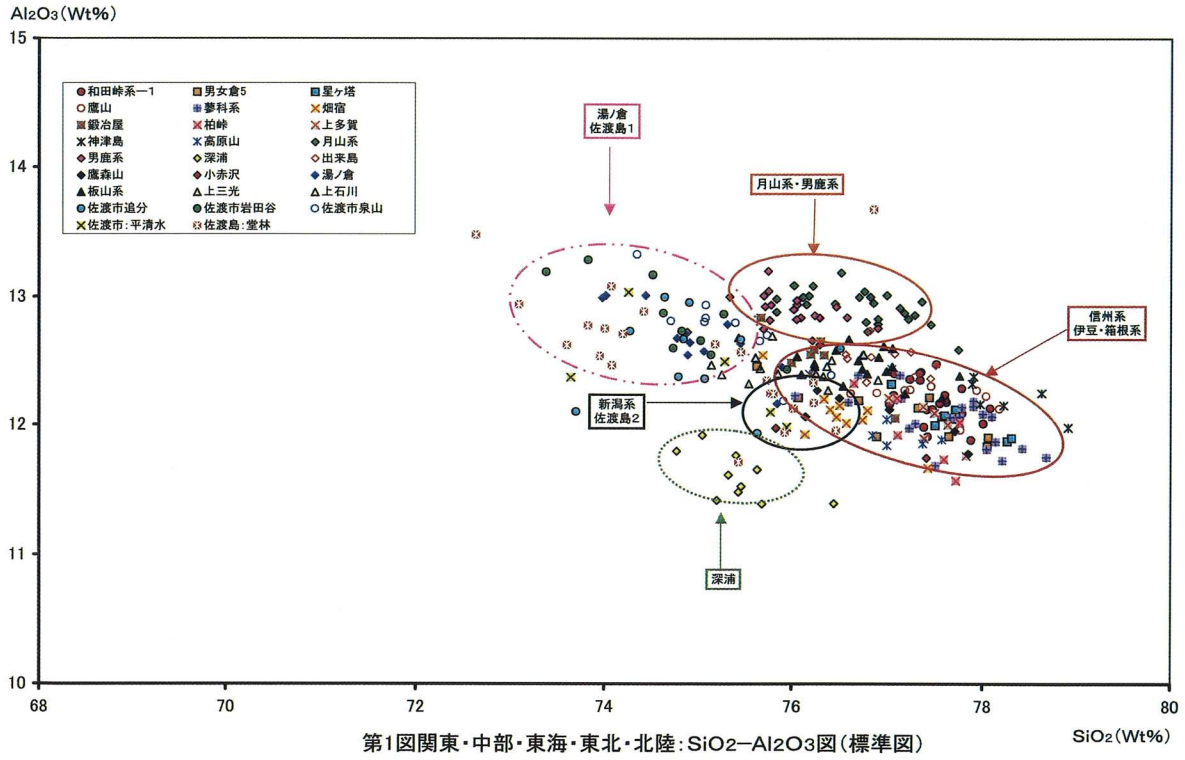
第２表　標準試料分析値対比表



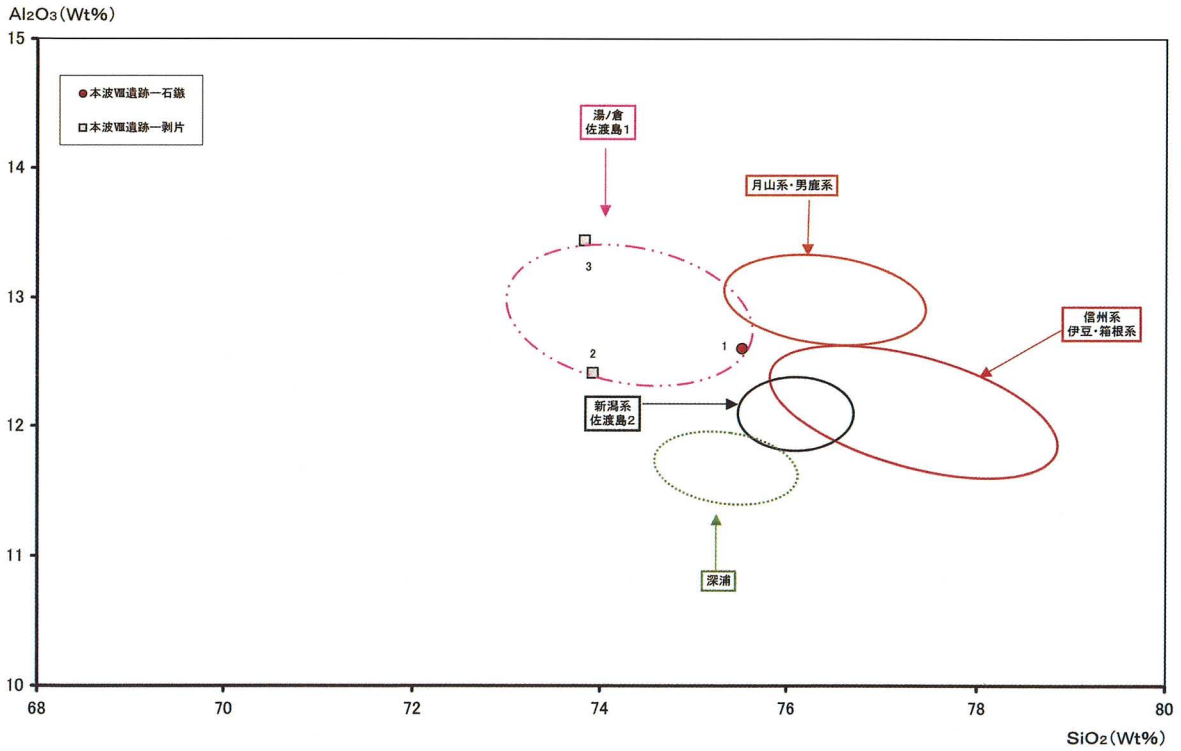
第１図　原産地位置図

第１表　化学分析表

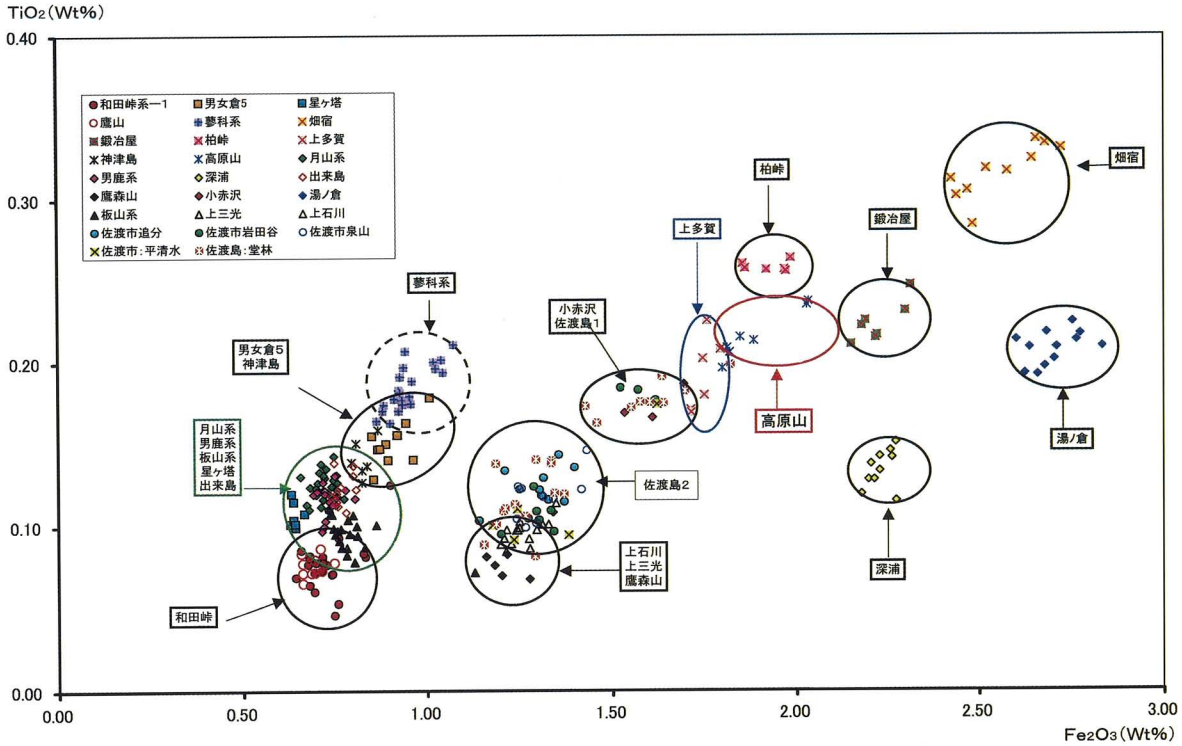
試料名	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	P2O5	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	Rb2O	SrO	Y2O3	ZrO2	Total	Rb(I)	Sr(I)	原産地	岩種	種別
H－1	4.6777	0.0000	12.6067	75.5183	0.0000	4.2555	0.2650	0.1600	0.1045	2.3171	0.0100	0.0032	0.0041	0.0779	100.0000	741	235	深浦	黒曜石	石鏃
H－2	3.1485	0.0000	12.4145	73.9177	0.2805	7.7240	0.9696	0.1693	0.0619	1.2599	0.0216	0.0113	0.0041	0.0171	100.0000	1506	772	被熱不明	黒曜石	剥片
H－3	1.7955	0.0000	13.4415	73.8285	0.4890	7.9545	0.9542	0.1745	0.0741	1.2256	0.0245	0.0139	0.0056	0.0184	99.9998	1514	839	被熱不明	黒曜石	剥片



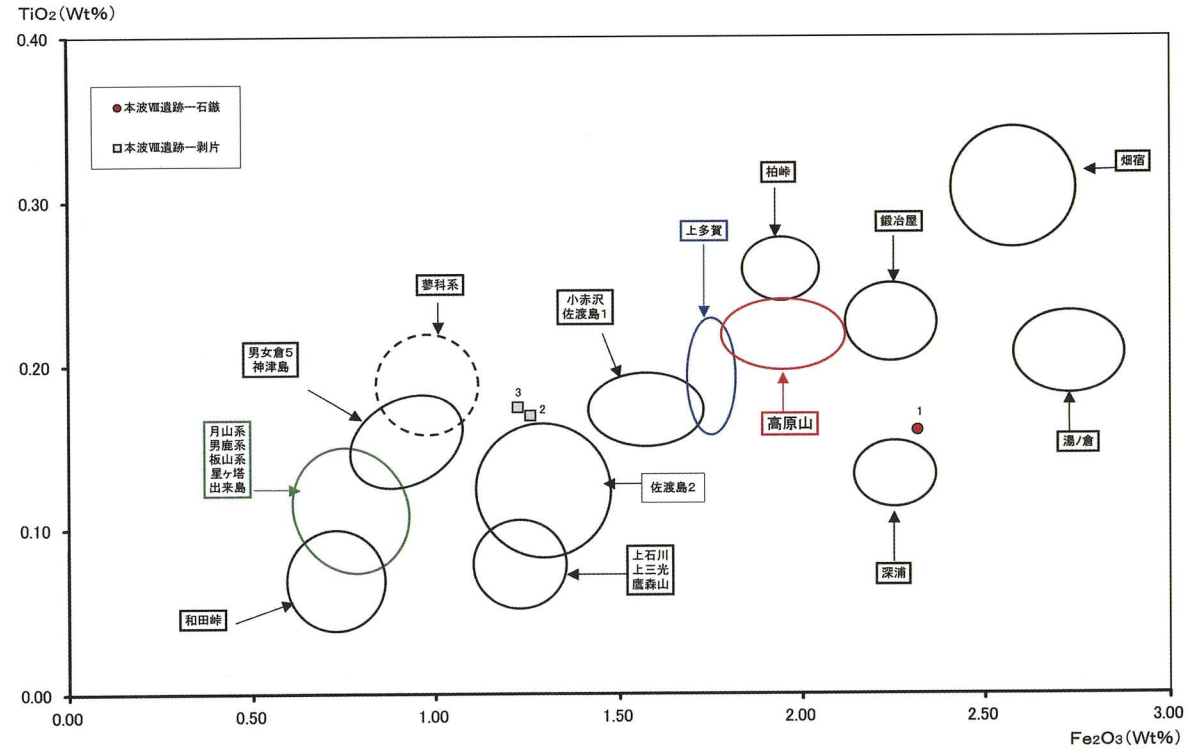
第２－１図　関東・中部・東海・東北・北陸：SiO_2－Al_2O_3図（標準図）



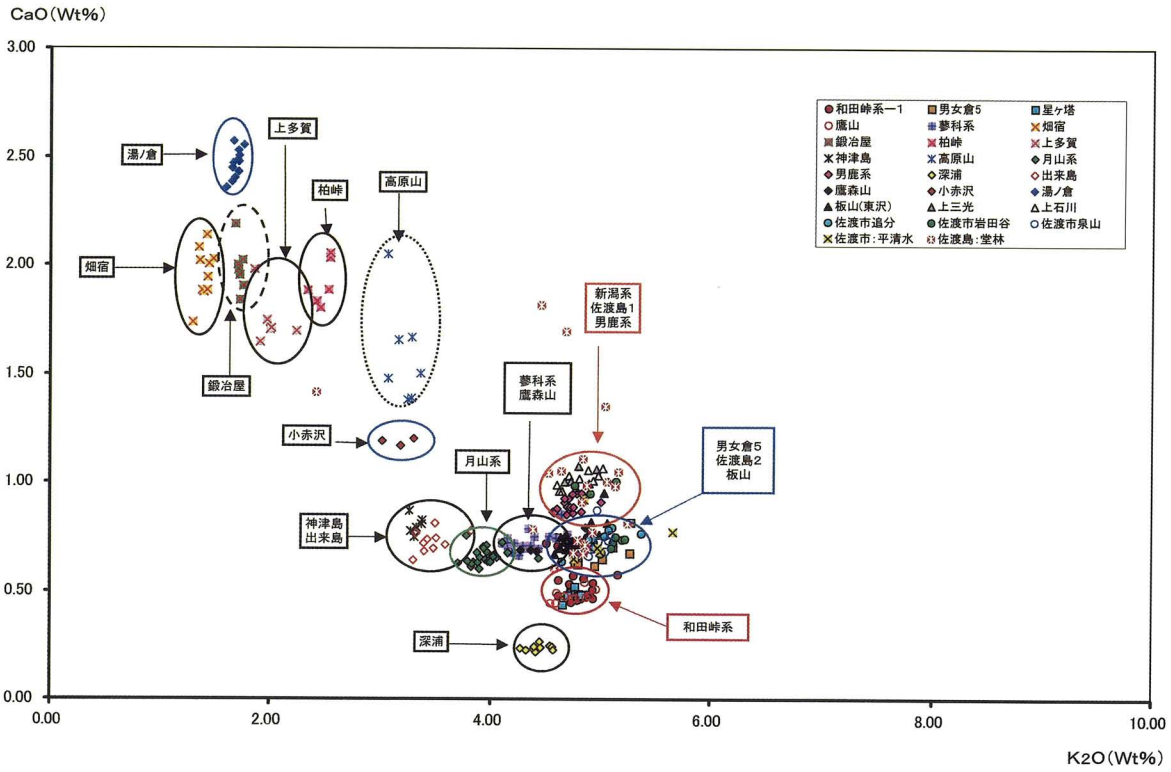
第２－２図　関東・中部・東海・東北・北陸：SiO_2－Al_2O_3図（標準図）



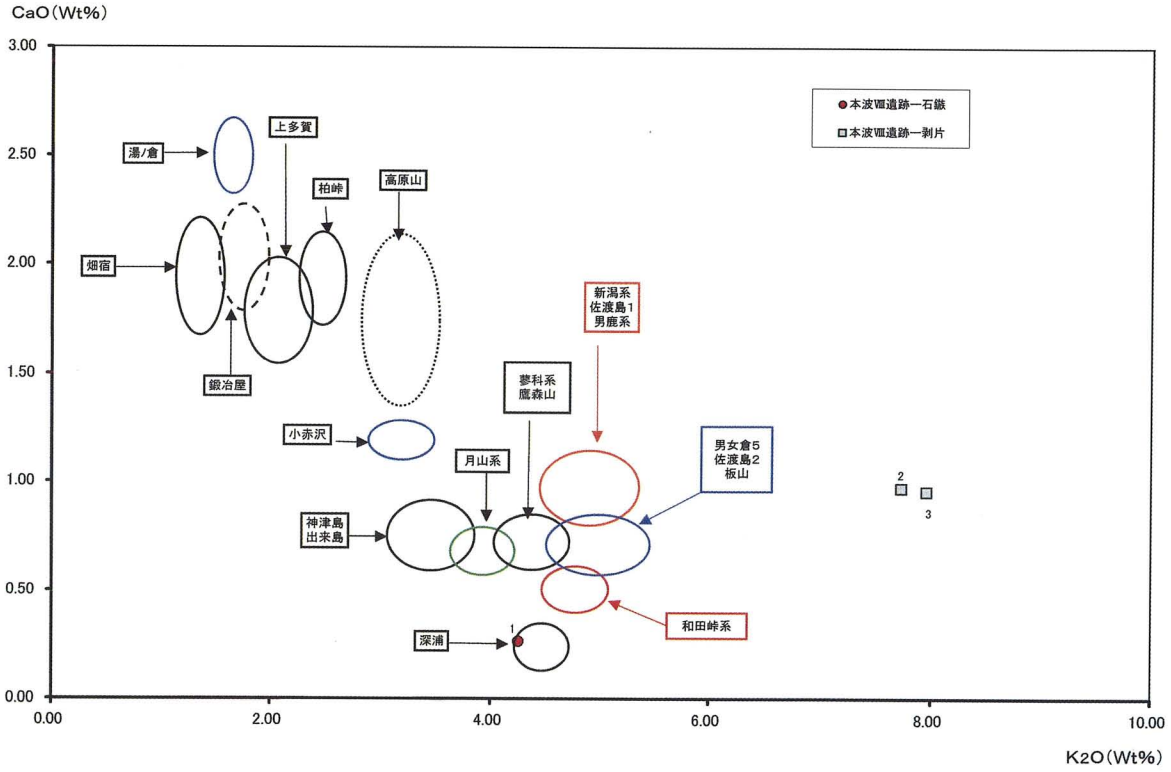
第３－１図　関東・中部・東海・東北・北陸：Fe_2O_3－TiO_2図（標準図）



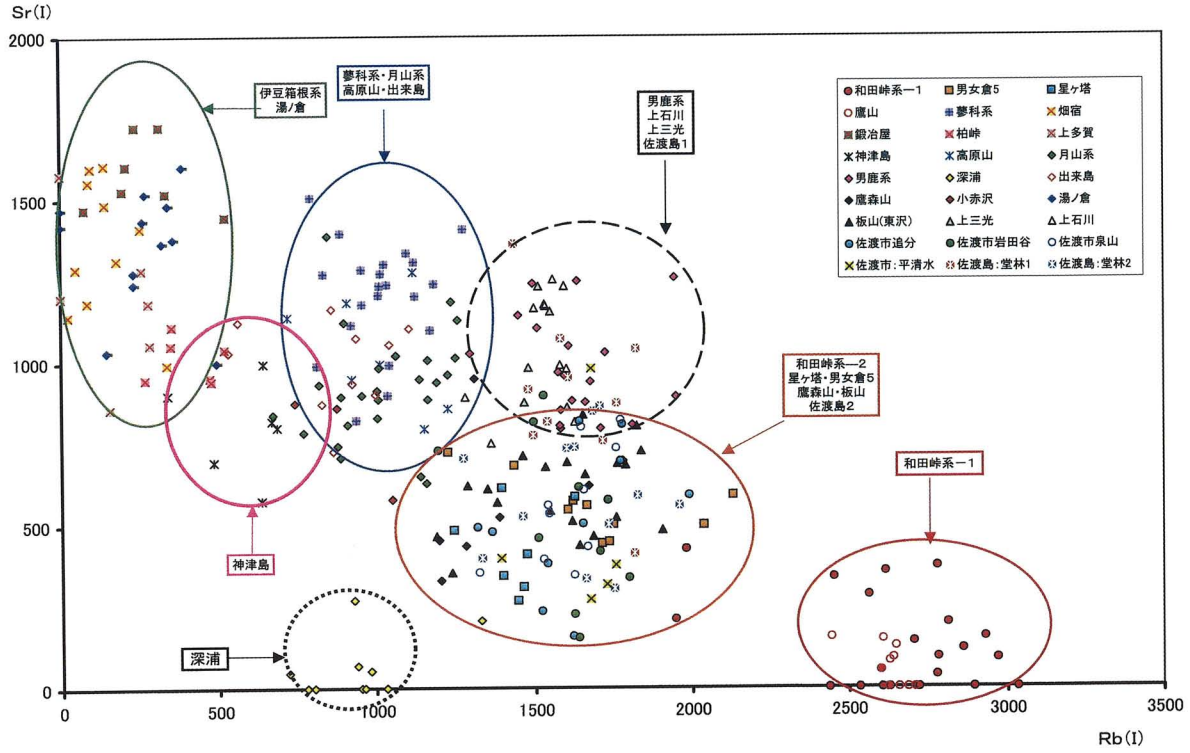
第３－２図　関東・中部・東海・東北・北陸：Fe_2O_3－TiO_2図（標準図）



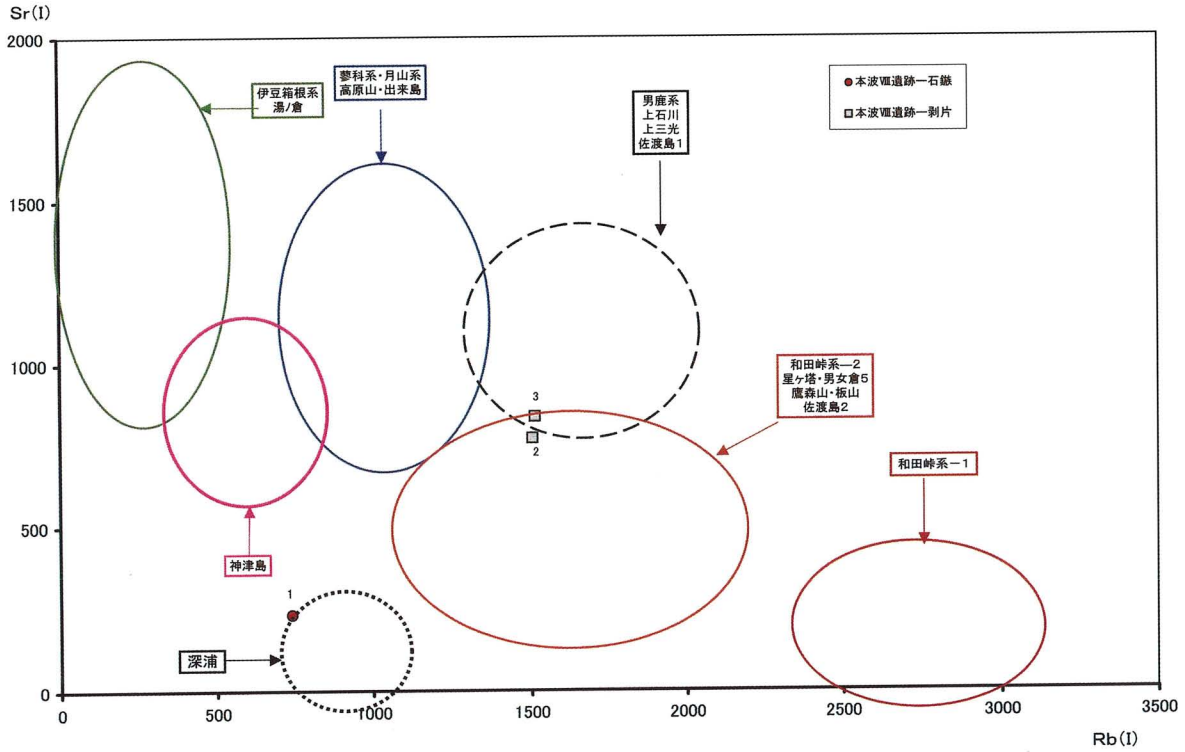
第４－１図　関東・中部・東海・東北・北陸：K_2O－CaO図（標準図）



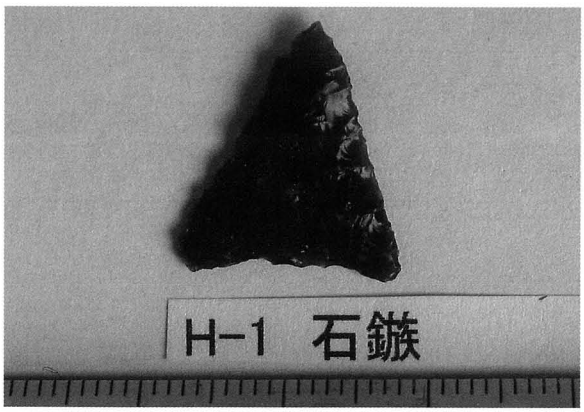
第４－２図　関東・中部・東海・東北・北陸：K_2O－CaO図（標準図）



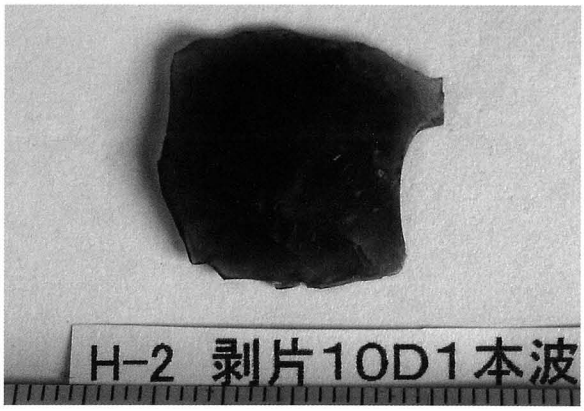
第５－１図　関東・中部・東海・東北・北陸：Rb－Sr図（標準図）



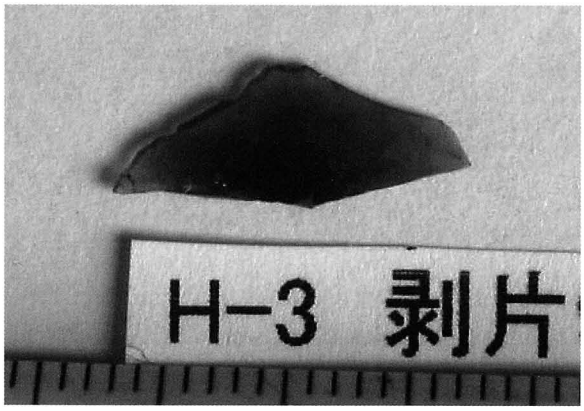
第５－２図　関東・中部・東海・東北・北陸：Rb－Sr図（標準図）



試料１（173）



試料２（203）



試料３（204）

３　報告者所見

今回の調査で出土した黒曜石製石器は分析試料として提示した３点のみである。173石鏃（試料１）、203・204（試料２・３）はいずれも尾根上区南側９D・10Dグリッドから出土した。

被熱した剥片が出土していることから、搬入原石を用いた石器製作が行われていた可能性があるが、出土数が少量であるため、一概に言い切れない。今回の調査からは製品としての搬入も考える必要がある。（北田）

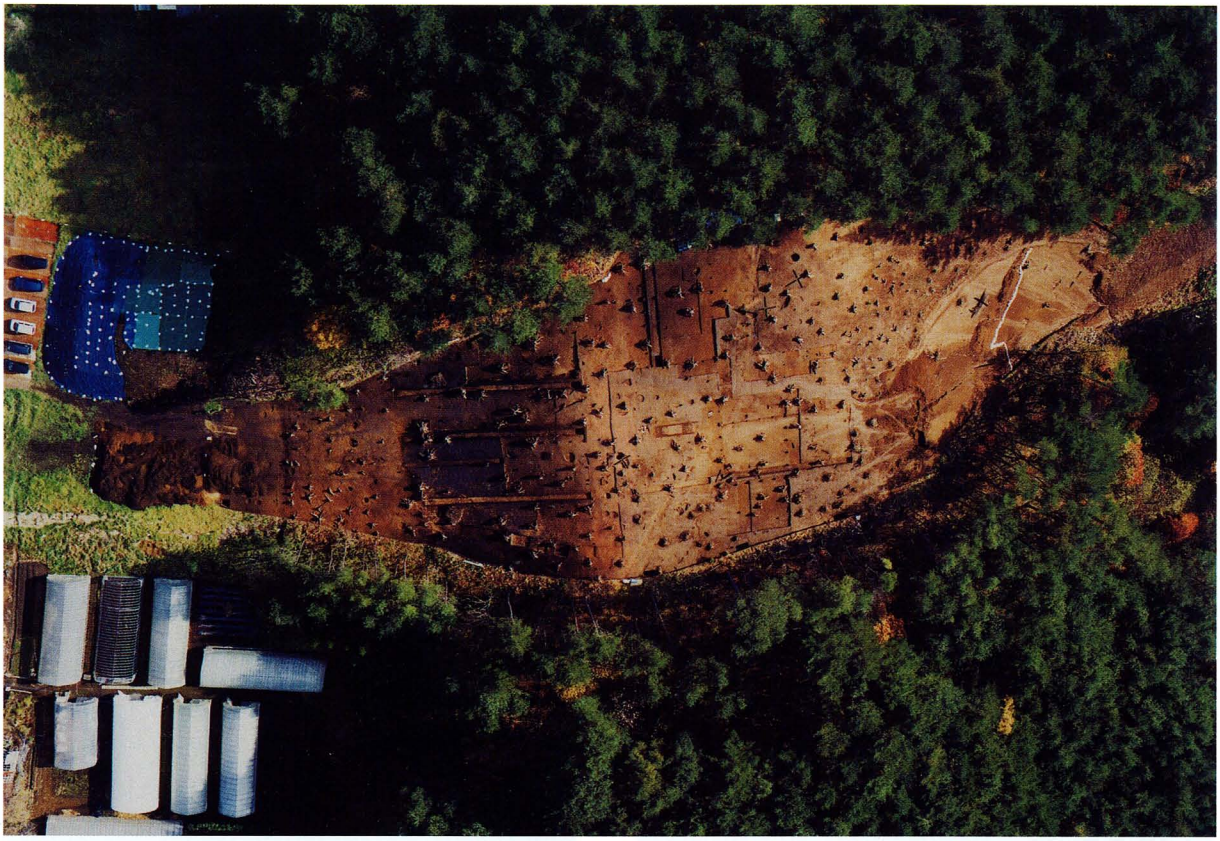
第３表　産地同定黒曜石観察表

試料No.	掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点	層　位	器種	石　材	石材産地	法　量				備考
									長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	
本波Ⅷ-1	173	38	22	９D17	Ⅱa層暗褐色上位	石鏃	黒曜石	青森県深浦	1.80	1.55	0.28	0.6	
本波Ⅷ-2	203	40	24	９D21	Ⅱa層暗褐色上～中位	剥片	黒曜石	不　明	(0.59)	(1.46)	(0.15)	0.1	被熱
本波Ⅷ-3	204	40	24	10D１	Ⅱa層暗褐色上位	剥片	黒曜石	不　明	1.88	(2.00)	0.32	1.2	被熱

遺跡遠景（西から）

遺跡遠景（直上、上が北）

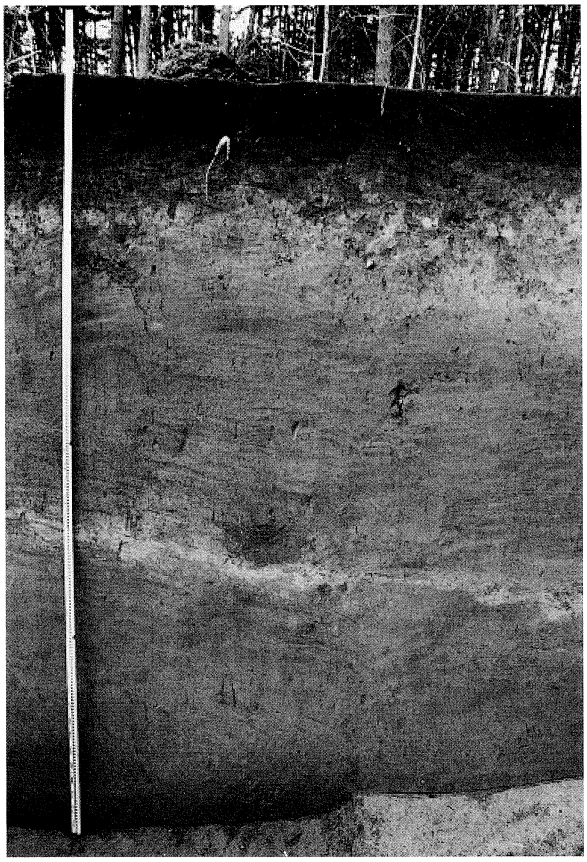
写真図版１　遺跡遠景



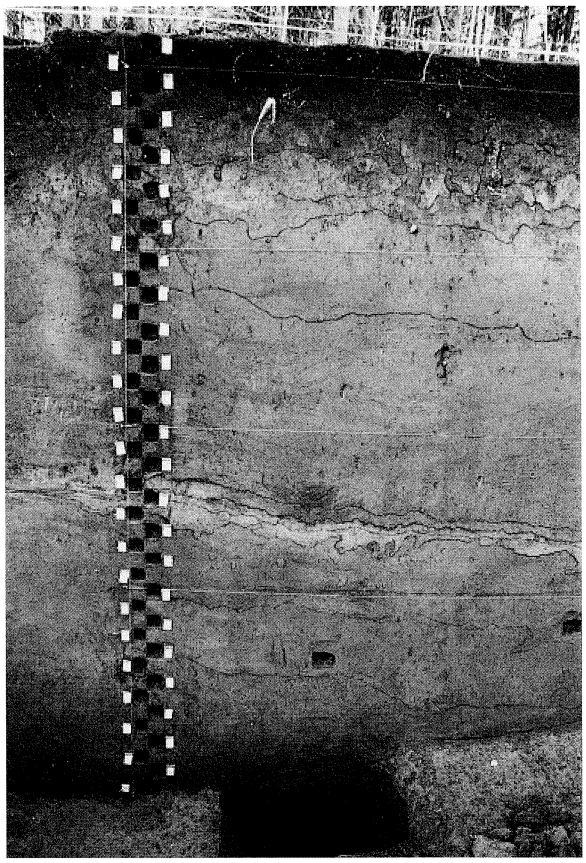
遺跡近景（直上、左が北）

尾根上西トレンチ延長分深掘　断面（東から）

写真図版２　遺跡近景、尾根上西側トレンチ深掘

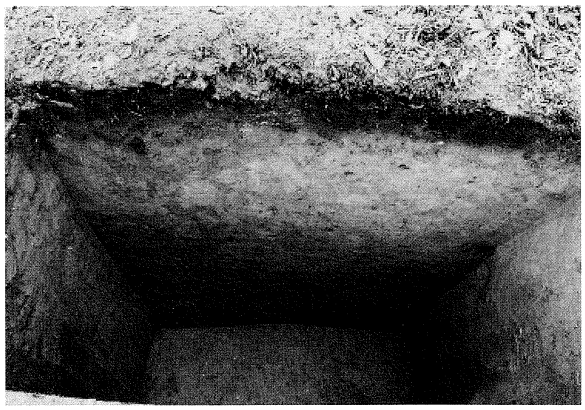


尾根上西トレンチ延長分深掘　断面（東から）

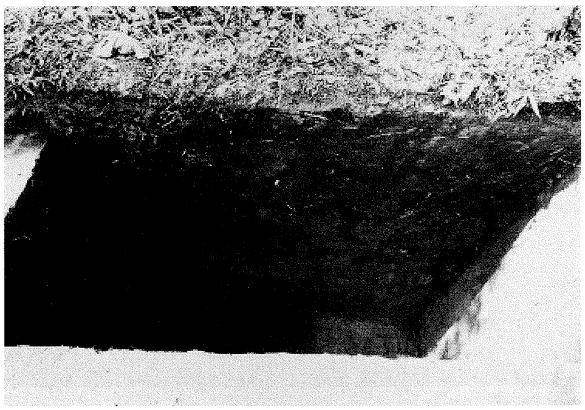


尾根上西トレンチ延長分深掘サンプル採取　断面（東から）

北斜面北端基本土層　断面（東から）



尾根上西側北基本土層　断面（東から）

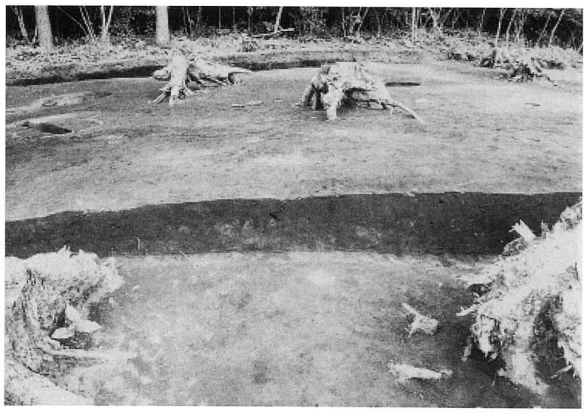


尾根上西側中央基本土層　断面（東から）

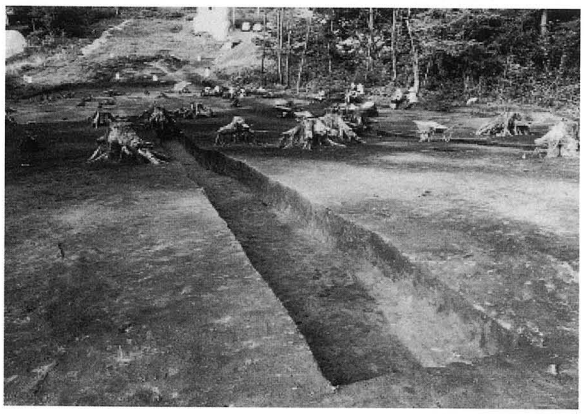
尾根上西側南基本土層　断面（東から）

写真図版３　基本土層（１）

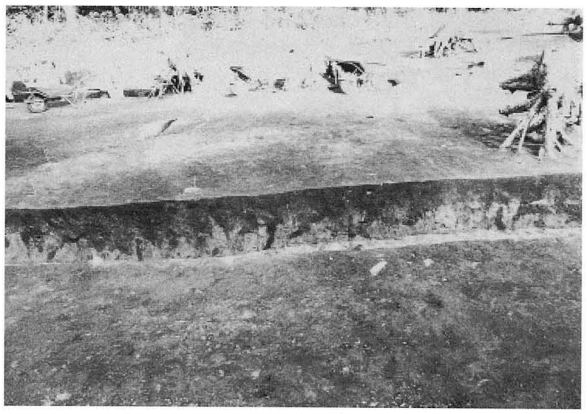
北斜面東トレンチ　平面（南から）



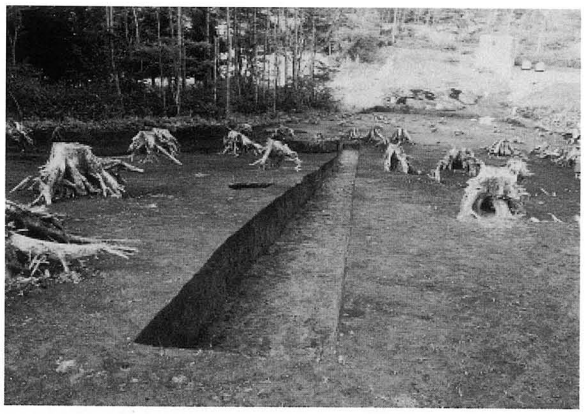
北斜面東トレンチ　断面（西から）



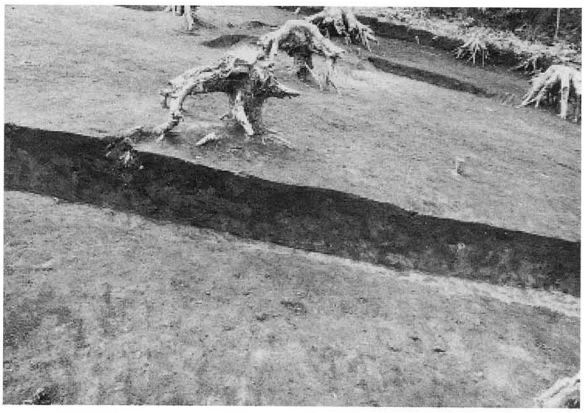
北斜面中央トレンチ　平面（南から）



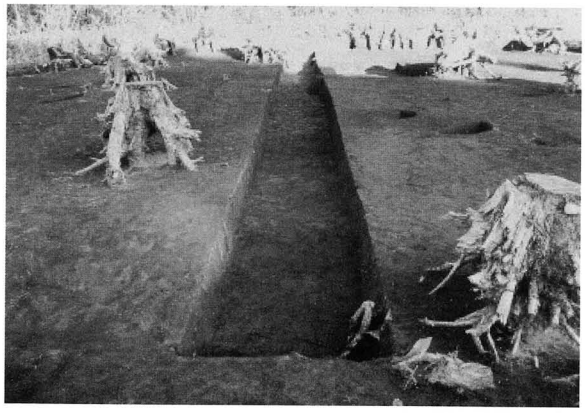
北斜面中央トレンチ　断面（西から）



北斜面西トレンチ　平面（南から）



北斜面西トレンチ　断面（西から）



尾根上東トレンチ　平面（西から）

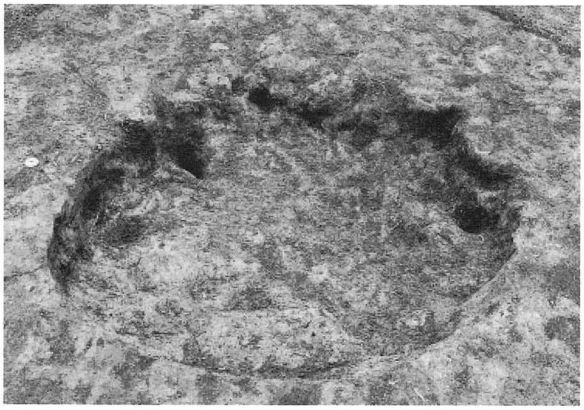
尾根上東トレンチ　断面（南から）

写真図版４　基本土層（２）

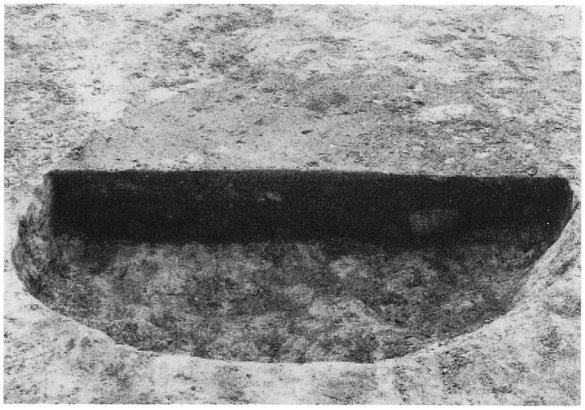
尾根上東側遺物包含層調査終了　平面（西から）

尾根上西側遺物包含層調査終了　平面（東から）

写真図版５　尾根上遺物包含層

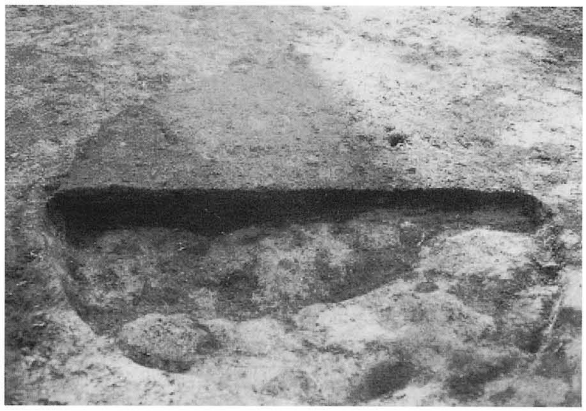


1号土坑　平面（東から）



1号土坑　断面（東から）

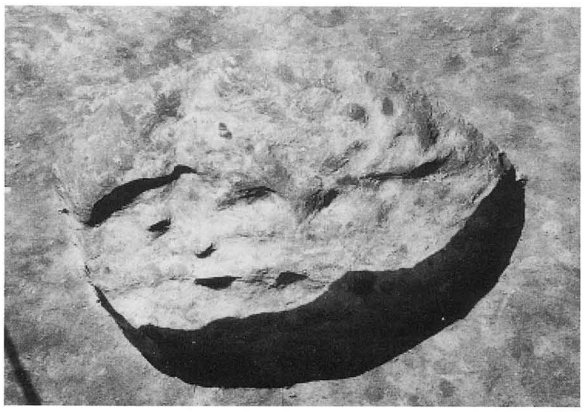
2号土坑　平面（東から）



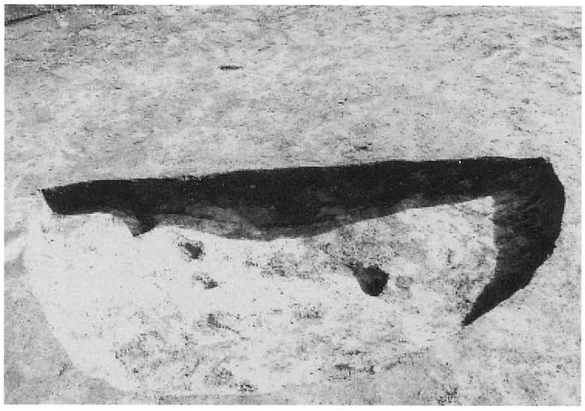
2号土坑　断面（東から）

3号土坑　平面（東から）

3号土坑　断面（東から）

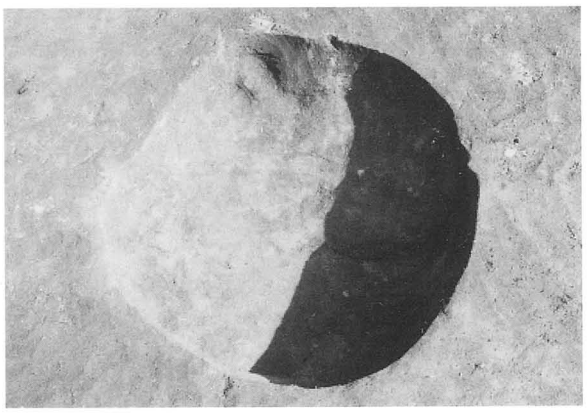


4号土坑　平面（西から）



4号土坑　断面（西から）

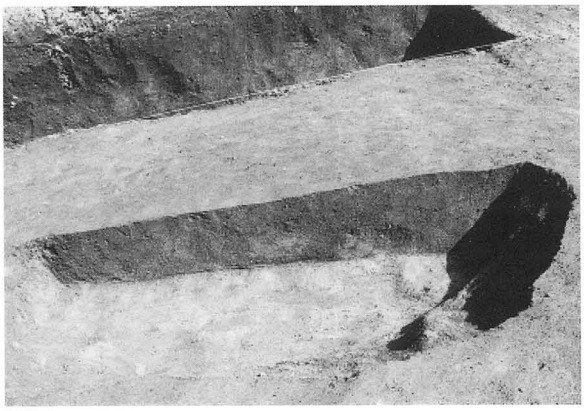
写真図版６　１～４号土坑



5号土坑　平面（西から）

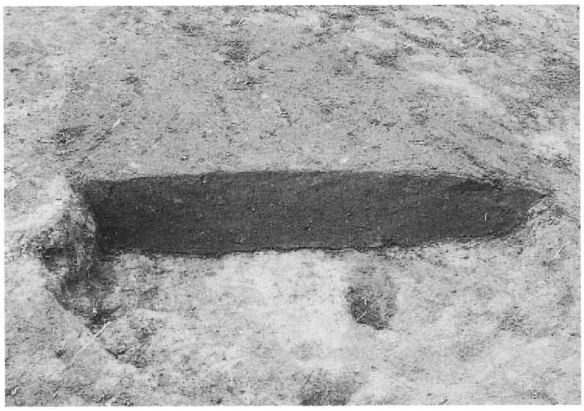
5号土坑　断面（西から）

6号土坑　平面（西から）

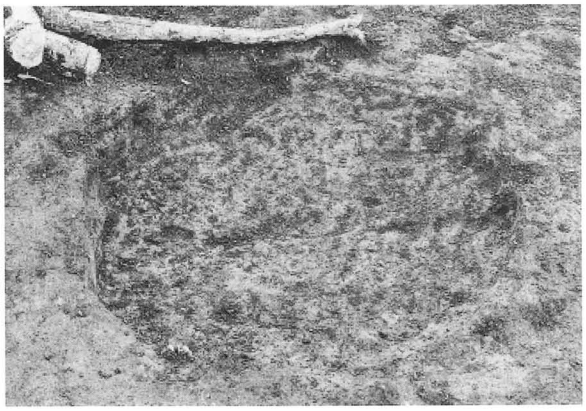


6号土坑　断面（西から）

7号土坑　平面（東から）



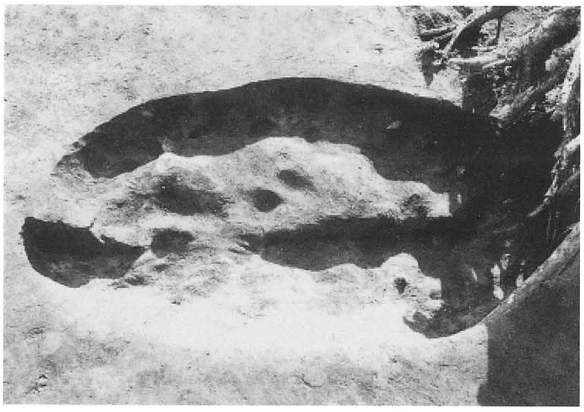
7号土坑　断面（東から）



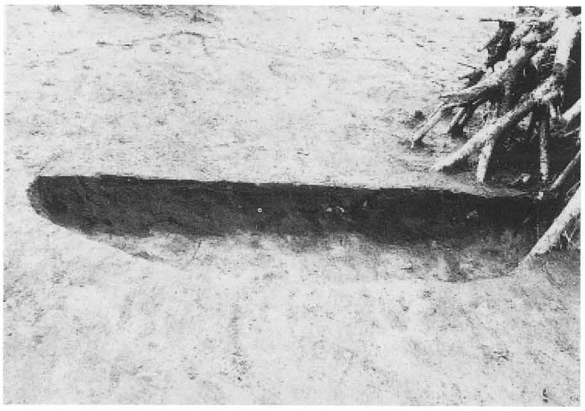
8号土坑　平面（東から）

8号土坑　断面（東から）

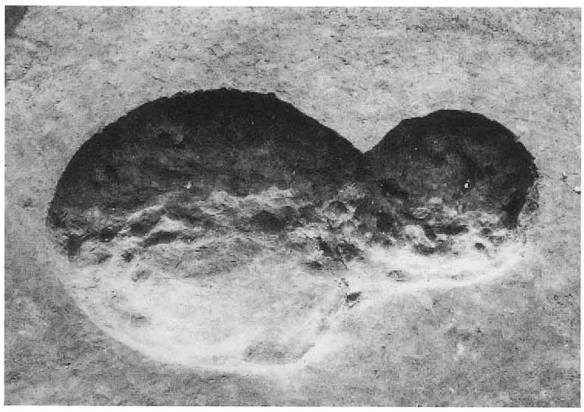
写真図版７　５～８号土坑



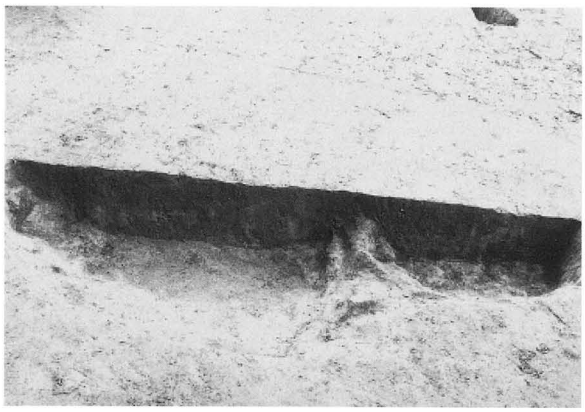
9号土坑　平面（東から）



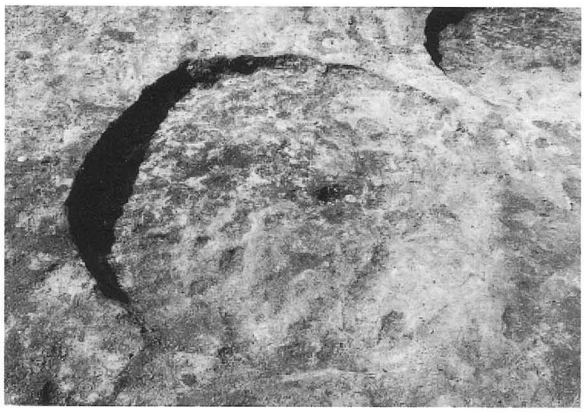
9号土坑　断面（東から）



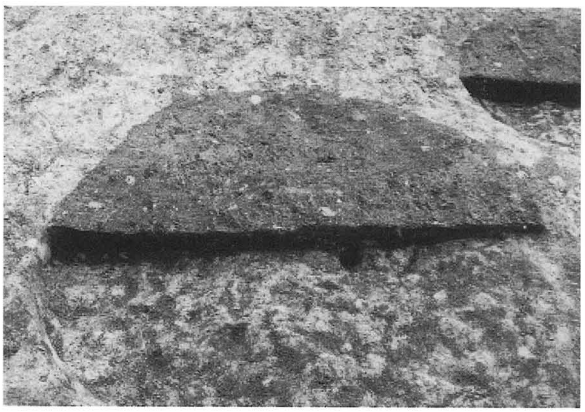
10・11号土坑　平面（東から）



10・11号土坑　断面（東から）

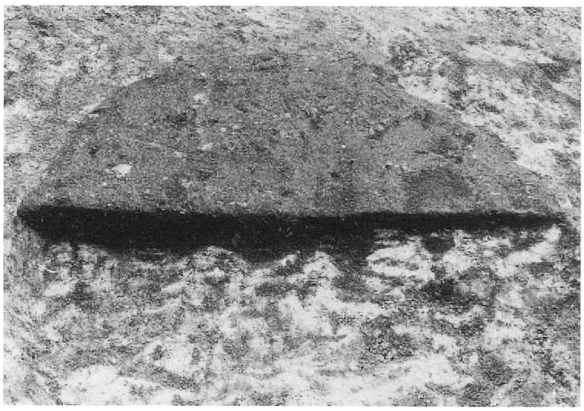


12号土坑　平面（東から）



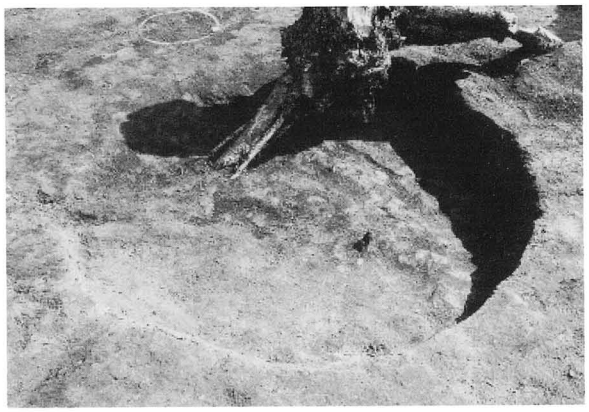
12号土坑　断面（東から）

13号土坑　平面（東から）

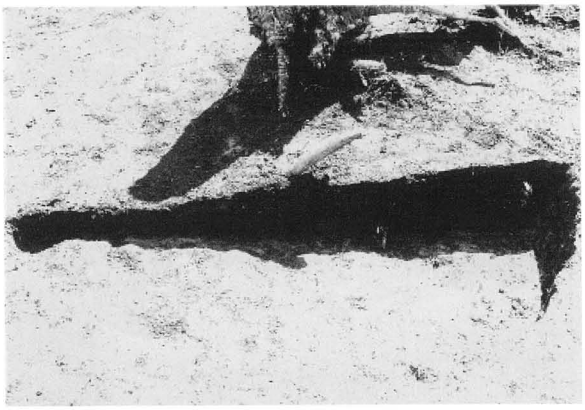


13号土坑　断面（東から）

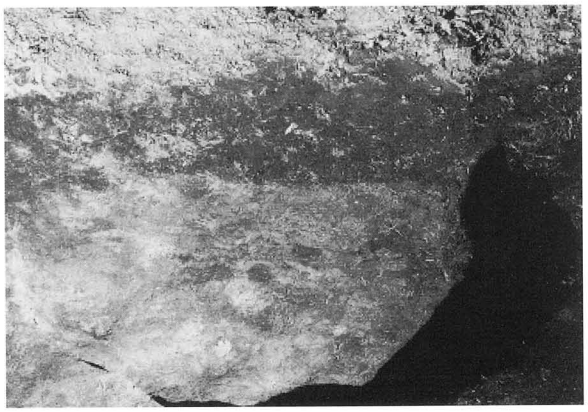
写真図版８　９～13号土坑



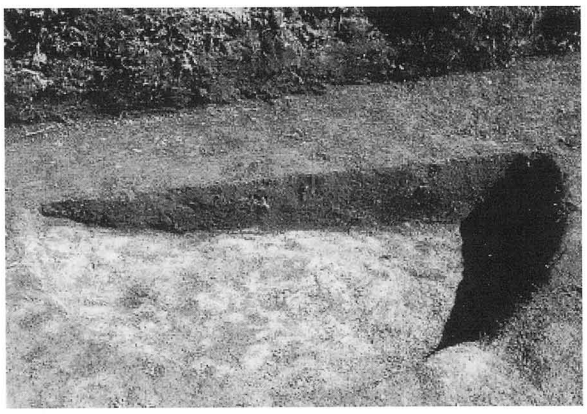
14号土坑　平面（南西から）



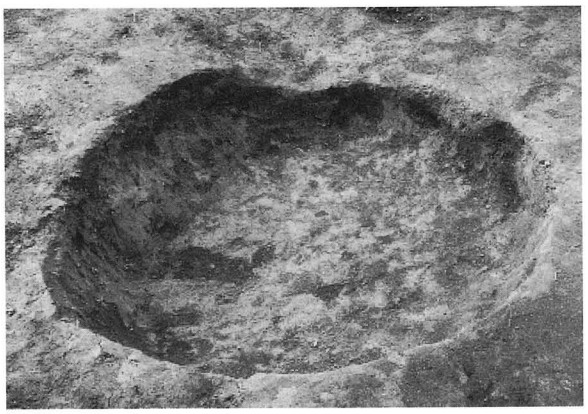
14号土坑　断面（北西から）



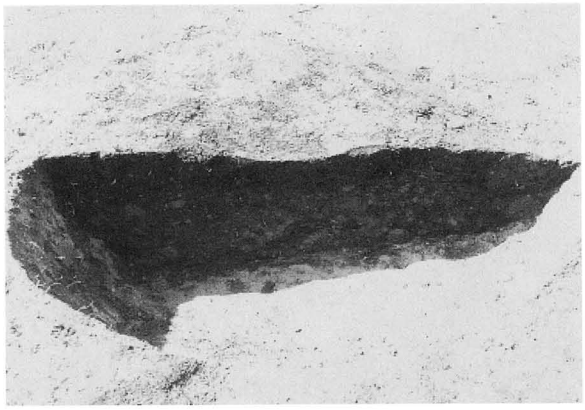
15号土坑　平面（西から）



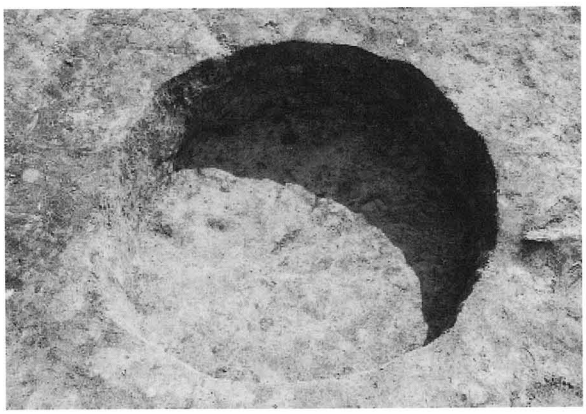
15号土坑　断面（西から）



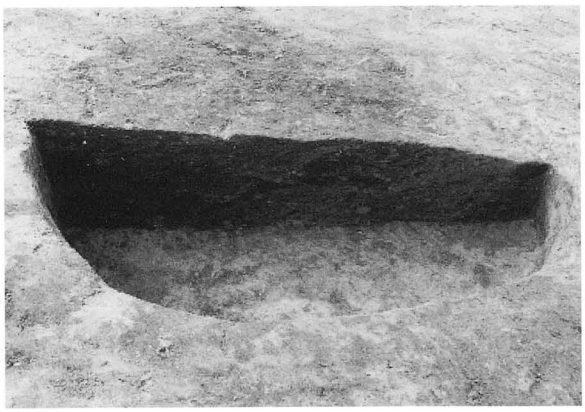
16号土坑　平面（東から）



16号土坑　断面（東から）



17号土坑　平面（南から）



17号土坑　断面（東から）

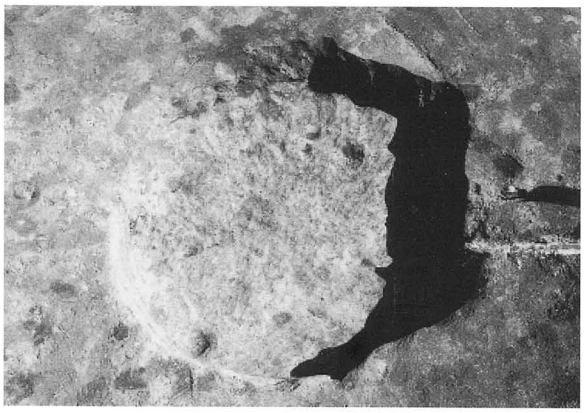
写真図版９　14～17号土坑

18号土坑　平面（南から）

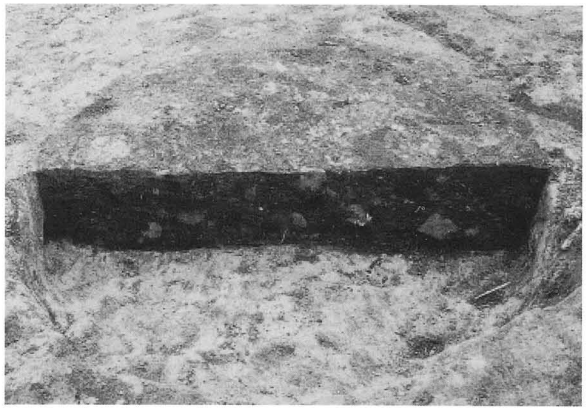
18号土坑　断面（東から）

19号土坑　平面（北から）

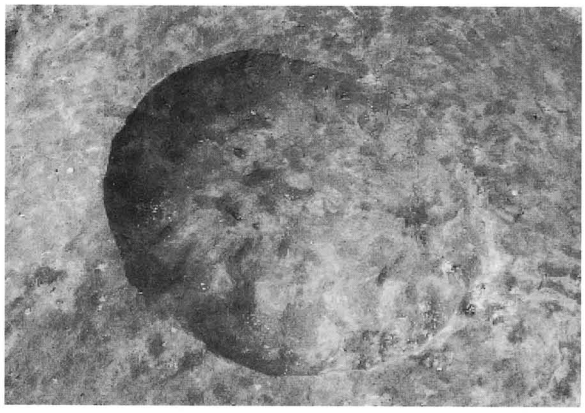
19号土坑　断面（東から）



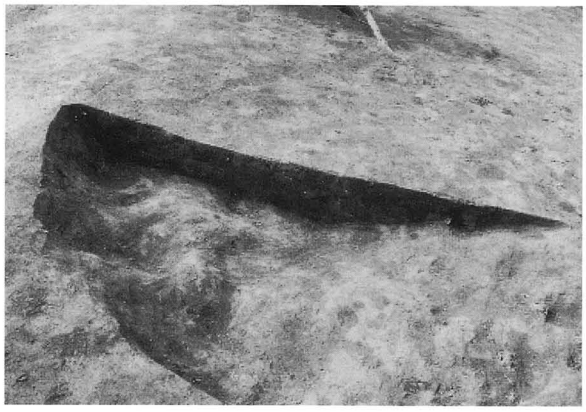
20号土坑　平面（西から）



20号土坑　断面（西から）

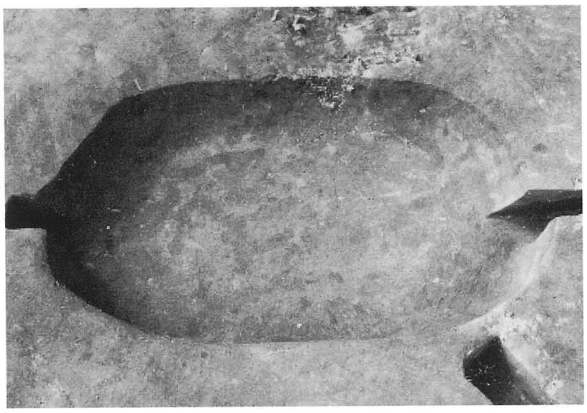


21号土坑　平面（東から）



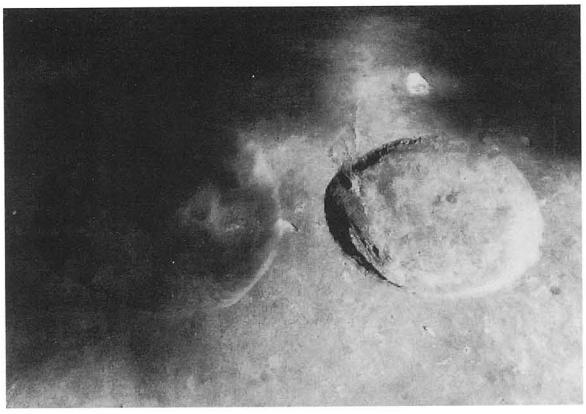
21号土坑　断面（東から）

写真図版10　18～21号土坑

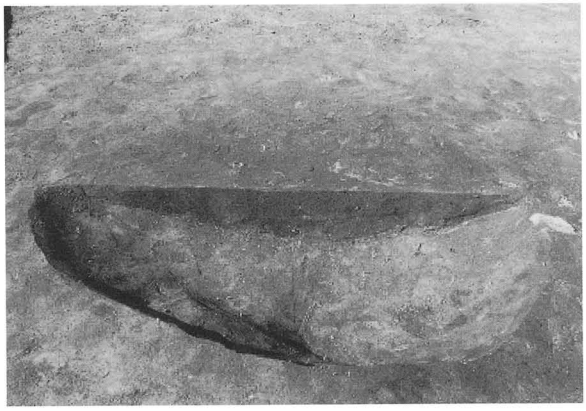


22号土坑　平面（東から）

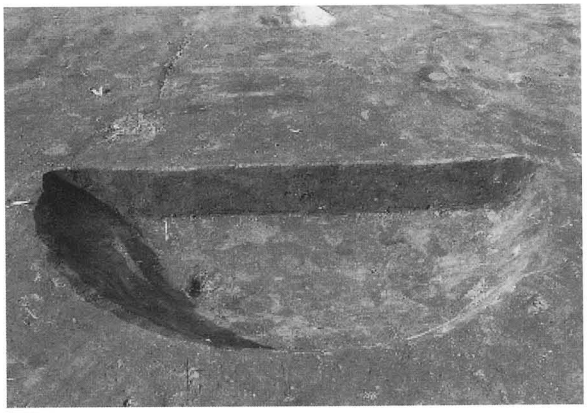
22号土坑　断面（東から）



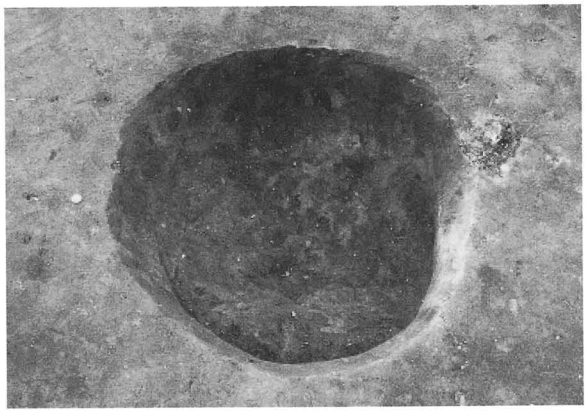
23・24号土坑　平面（東から）



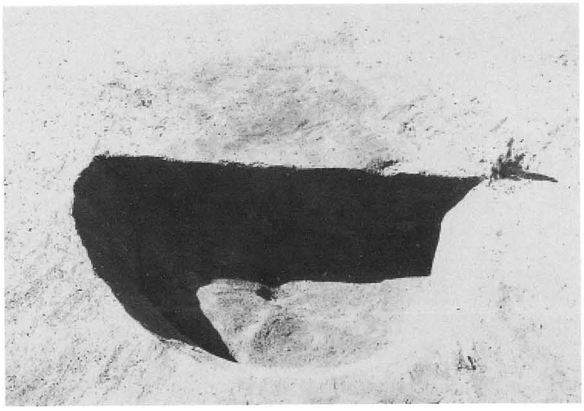
23号土坑　断面（東から）



24号土坑　断面（東から）

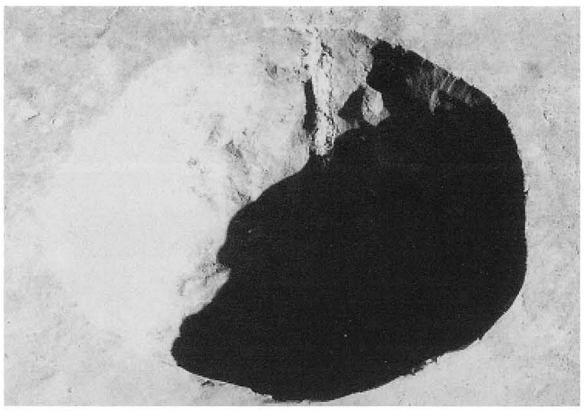


25号土坑　平面（東から）

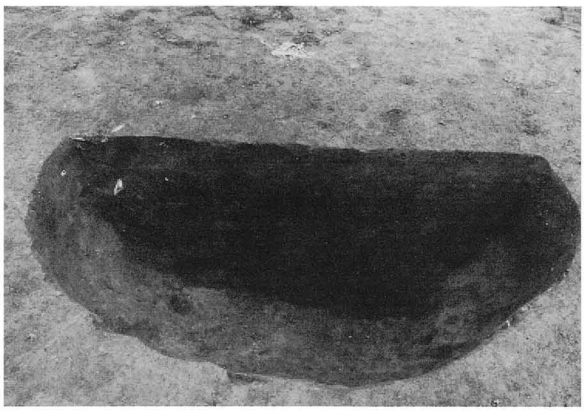


25号土坑　断面（東から）

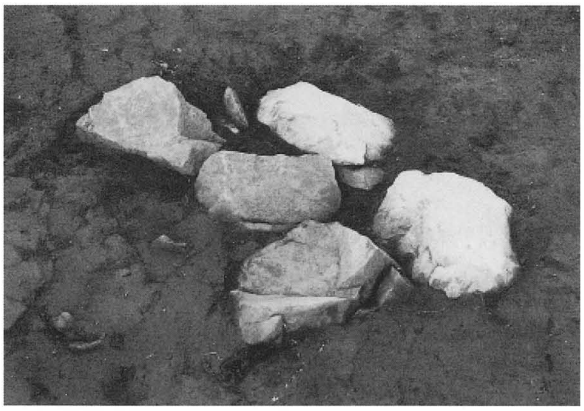
写真図版11　22～25号土坑



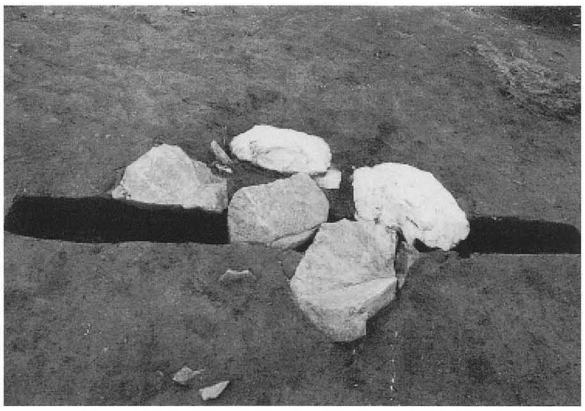
26号土坑　平面（西から）



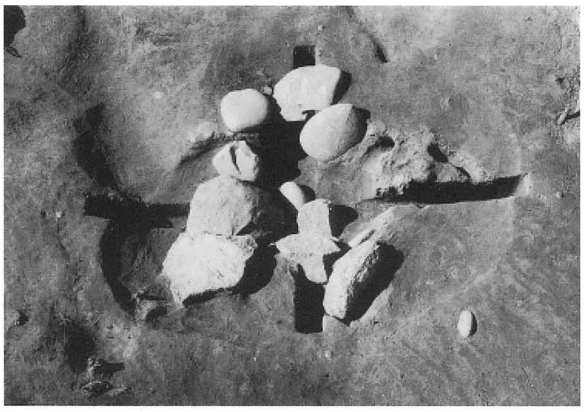
26号土坑　断面（西から）



１号集石　平面（南から）

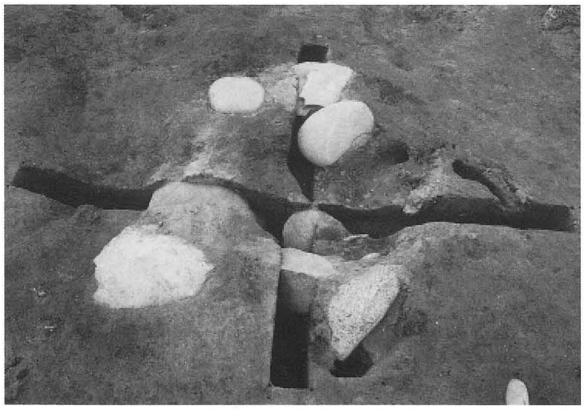


１号集石　断面（南から）

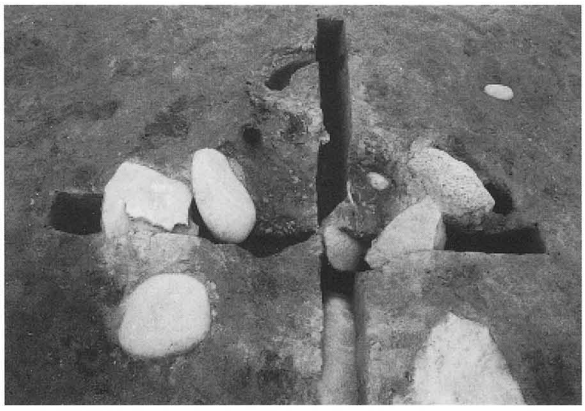


２号集石　平面（東から）

２号集石　平面（南から）



２号集石　断面（東から）

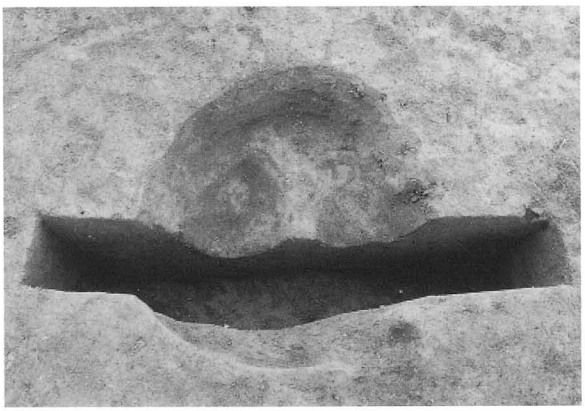


２号集石　断面（南から）

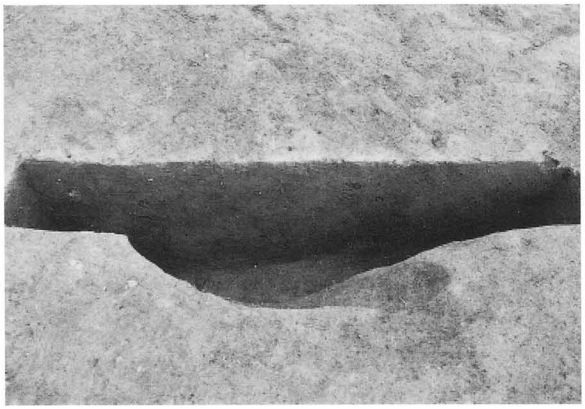
写真図版12　26号土坑、１・２号集石

1号焼土　平面（北から）

1号焼土　断面（東から）

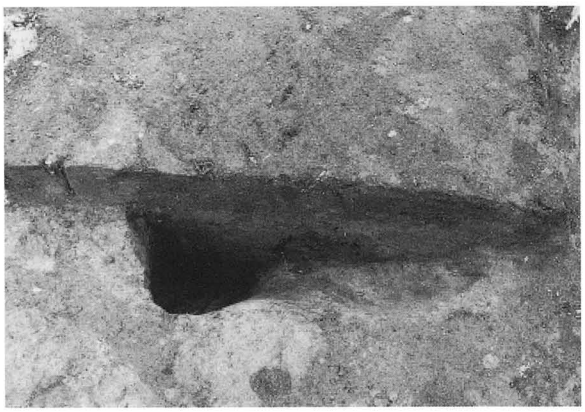


1号ピット　平面（南から）

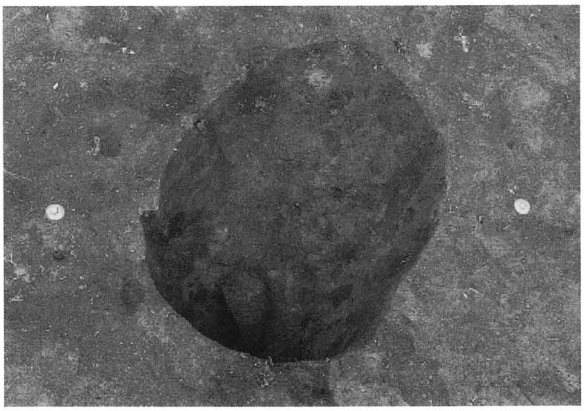


1号ピット　断面（南から）

2号ピット　平面（東から）



2号ピット　断面（東から）



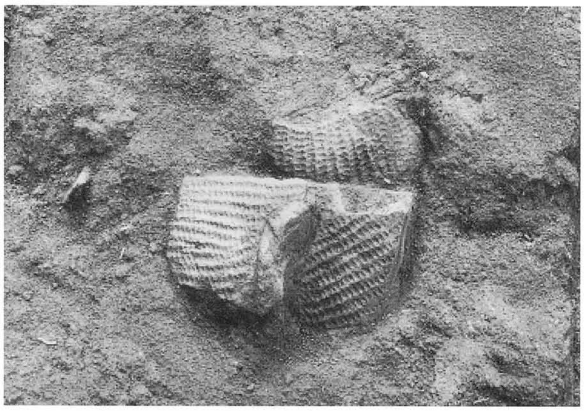
3号ピット　平面（南西から）

3号ピット　断面（南西から）

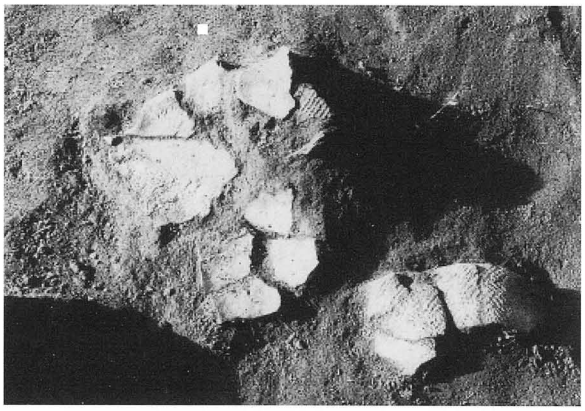
写真図版13　1号焼土、1～3号ピット

4号ピット　平面（南から）

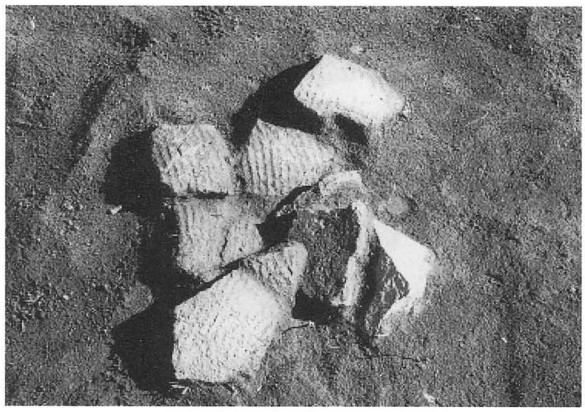
4号ピット　断面（南から）



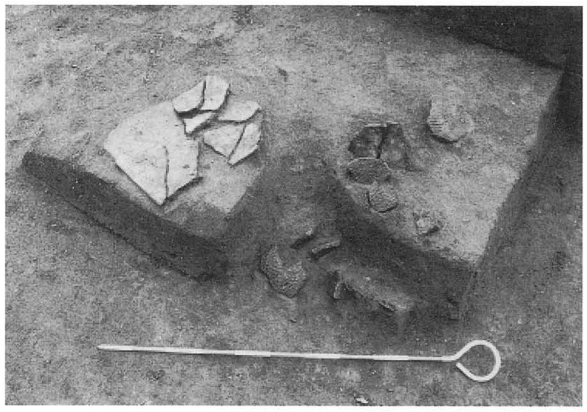
6E17Ⅱa層暗褐下位遺物集中　平面（北から）



7E5土器集中　平面（東から）



7E10土器集中　平面（西から）

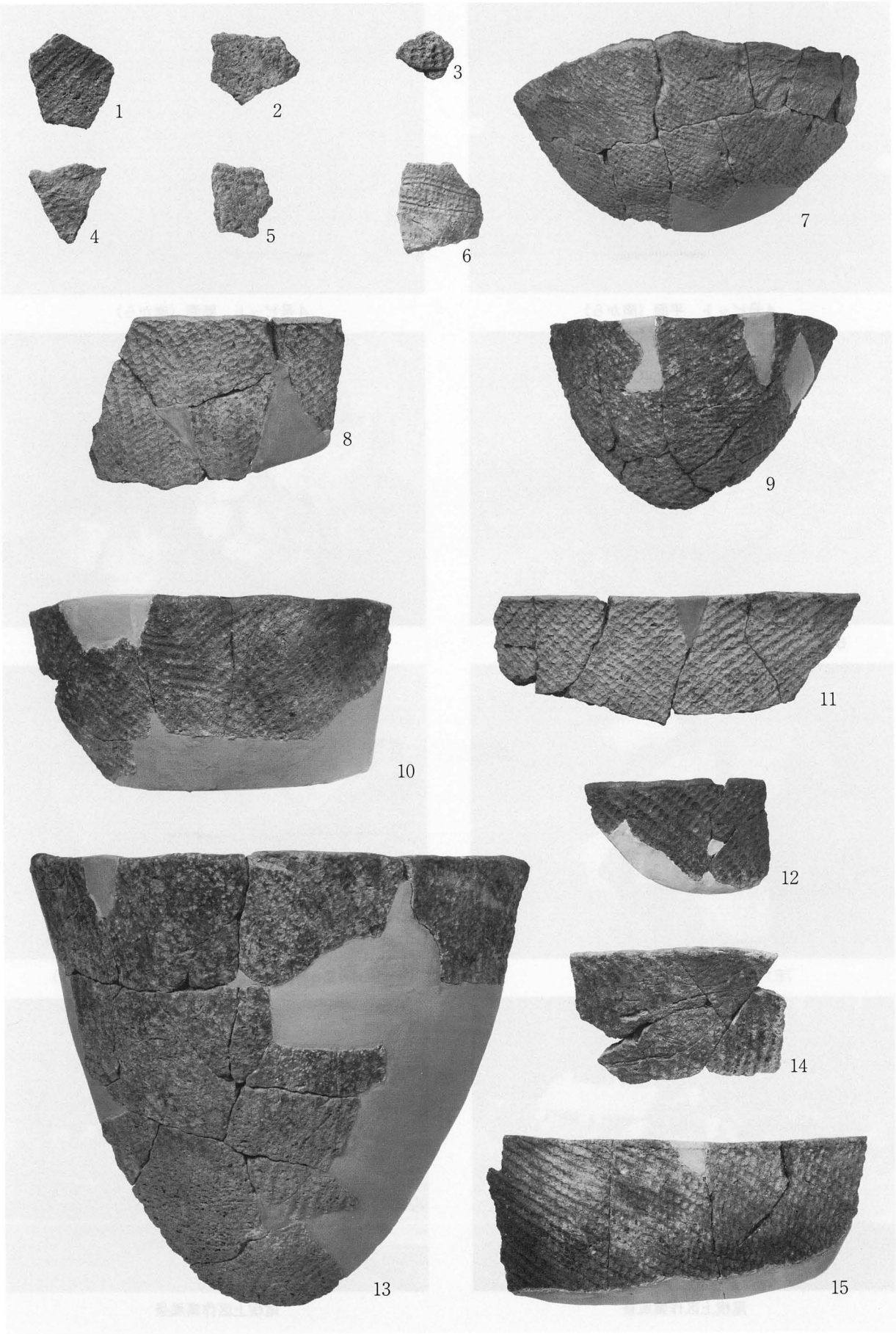


9D16Ⅱa層暗褐中位遺物集中　平面（西から）

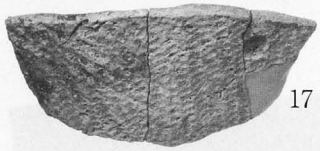
尾根上区作業風景

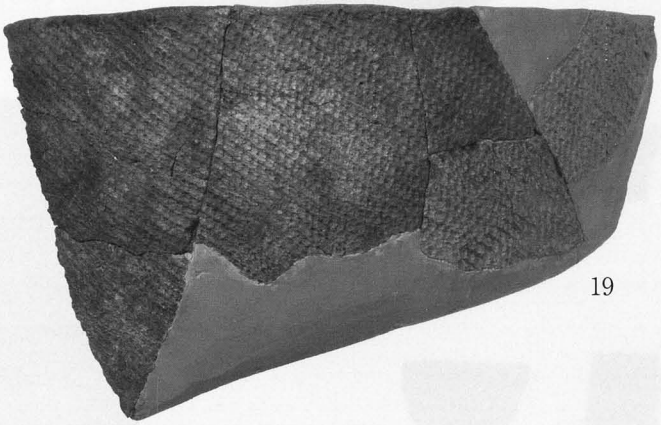
尾根上区作業風景

写真図版14　4号ピット、遺物出土状況、作業風景

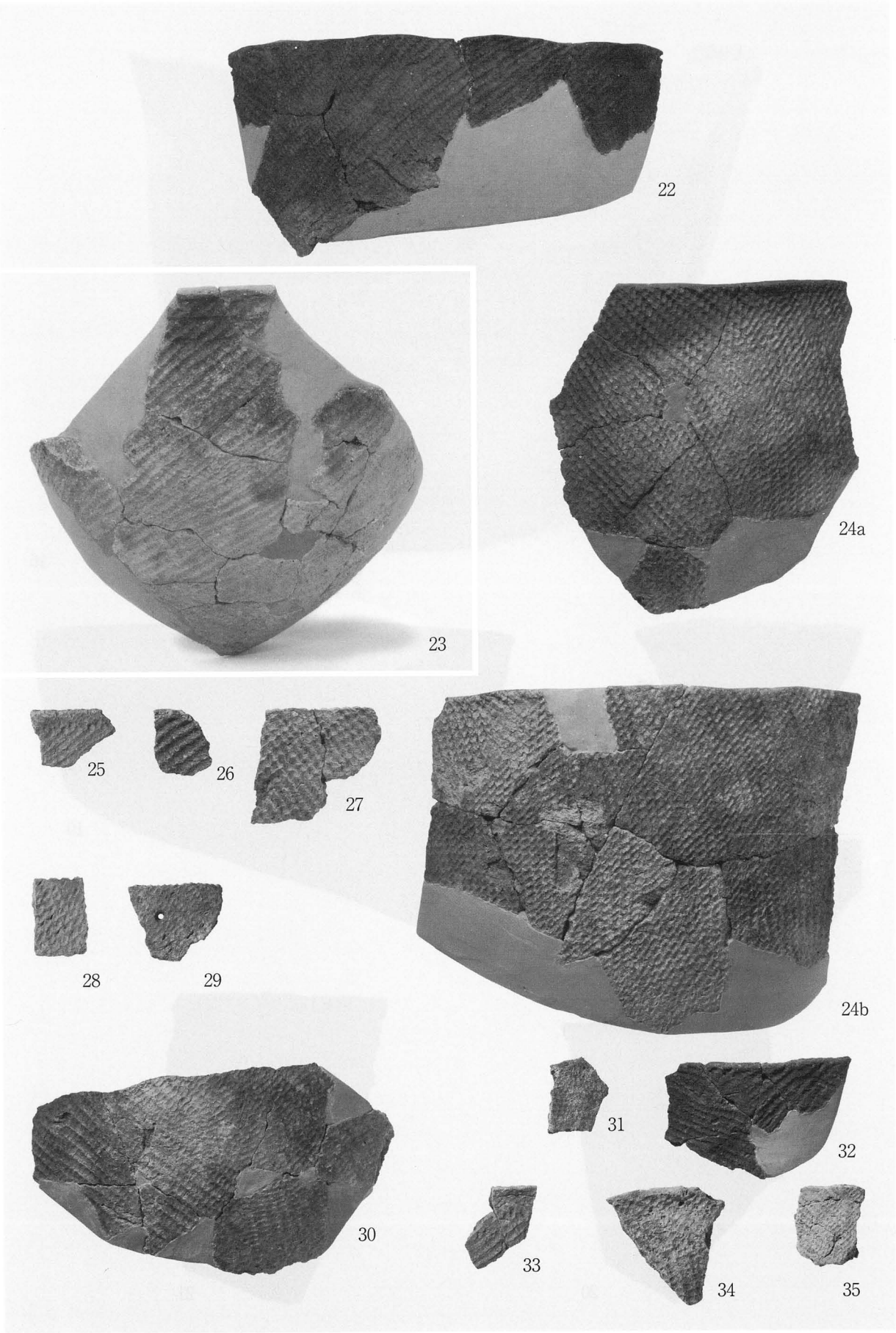


写真図版15　出土土器（1）

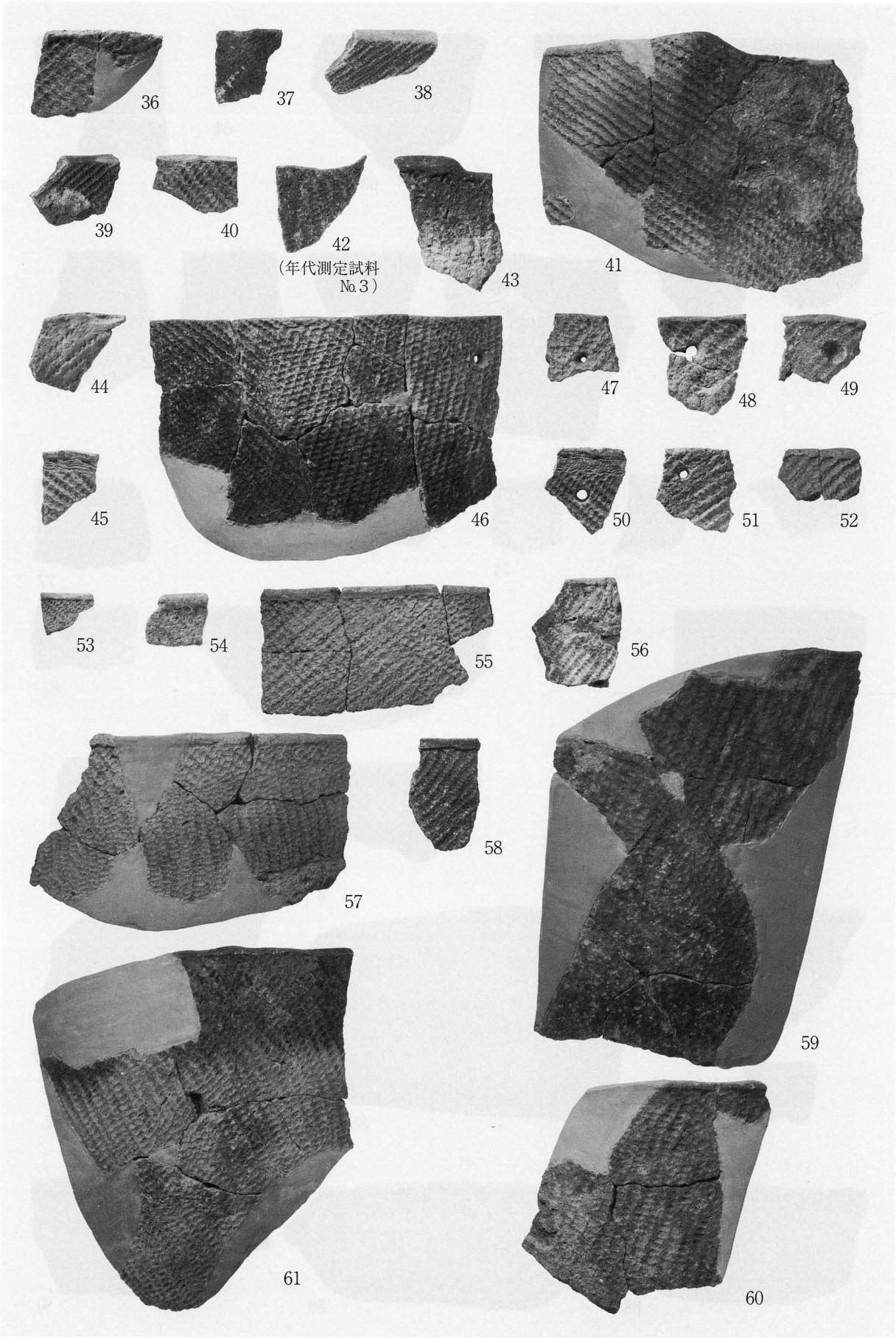




写真図版16　出土土器（2）

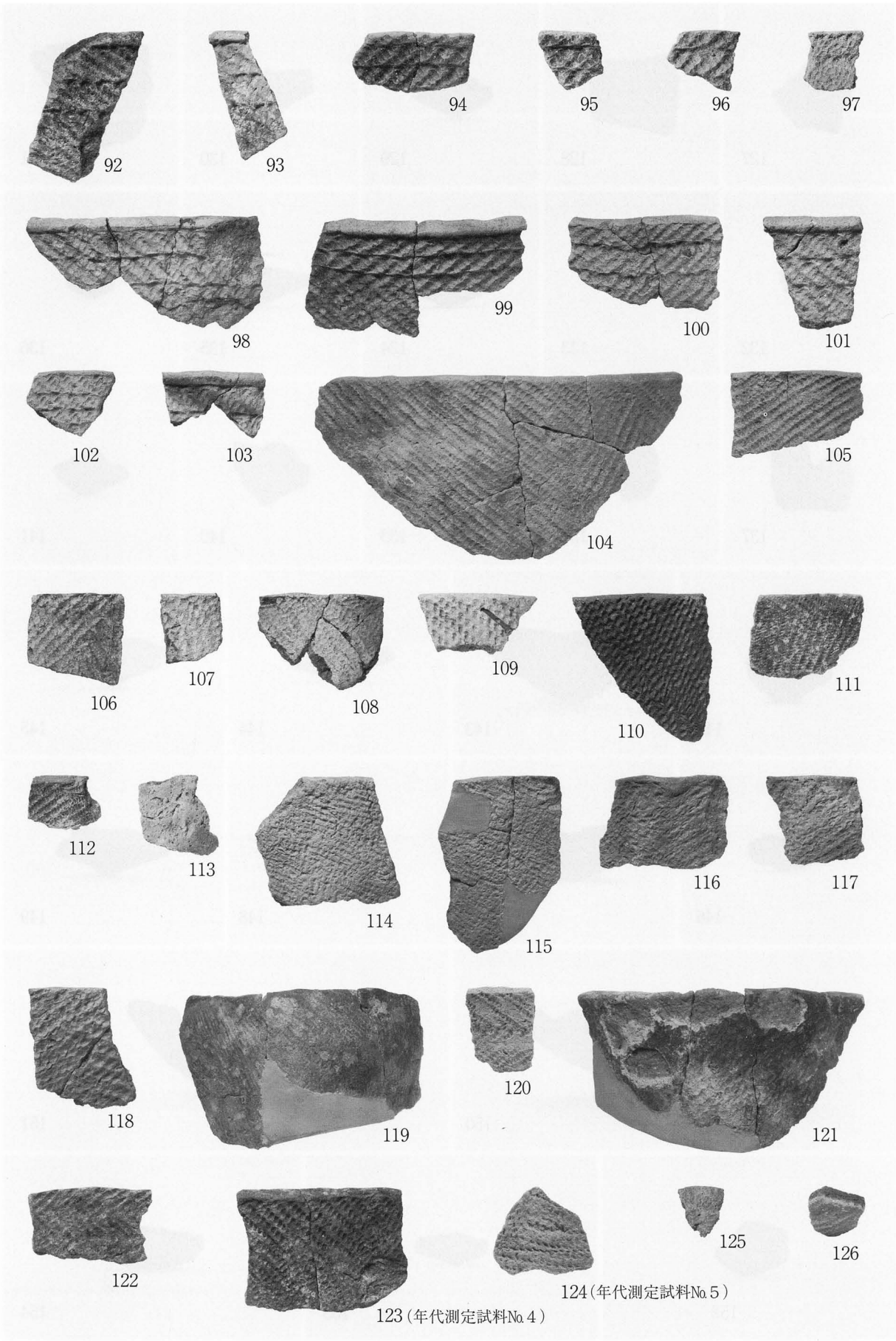


写真図版17　出土土器（3）

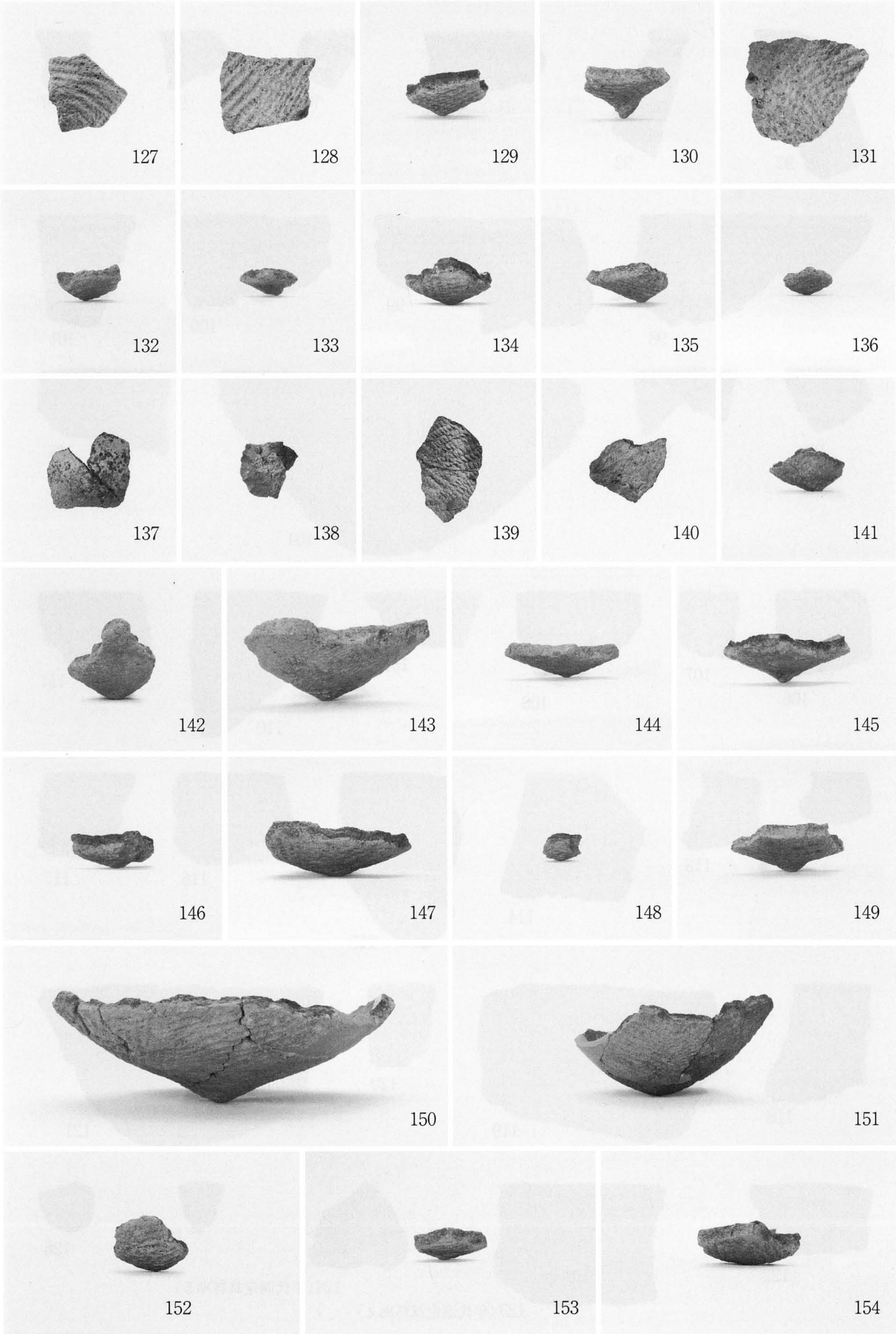


写真図版18　出土土器（4）

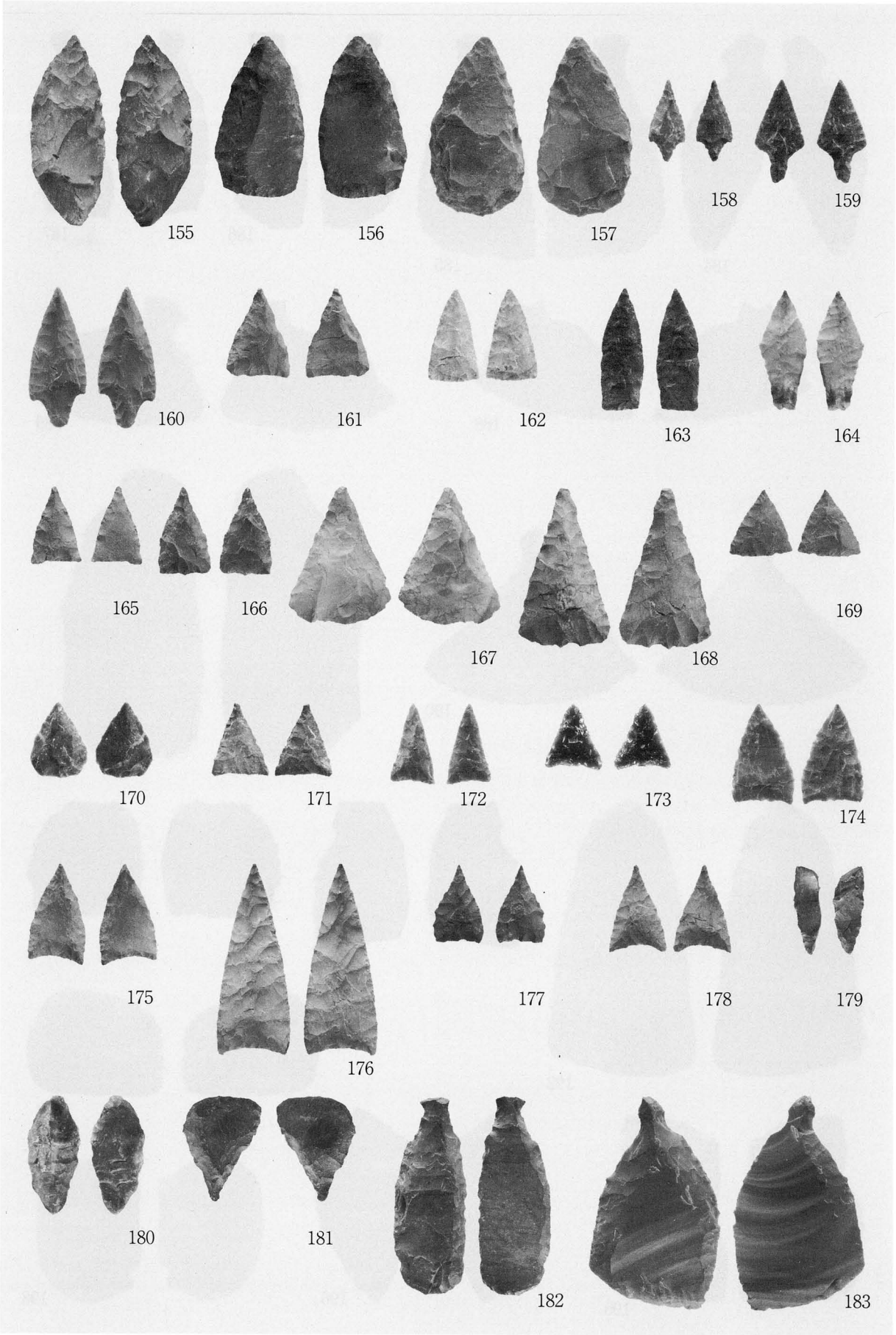
写真図版19　出土土器（5）



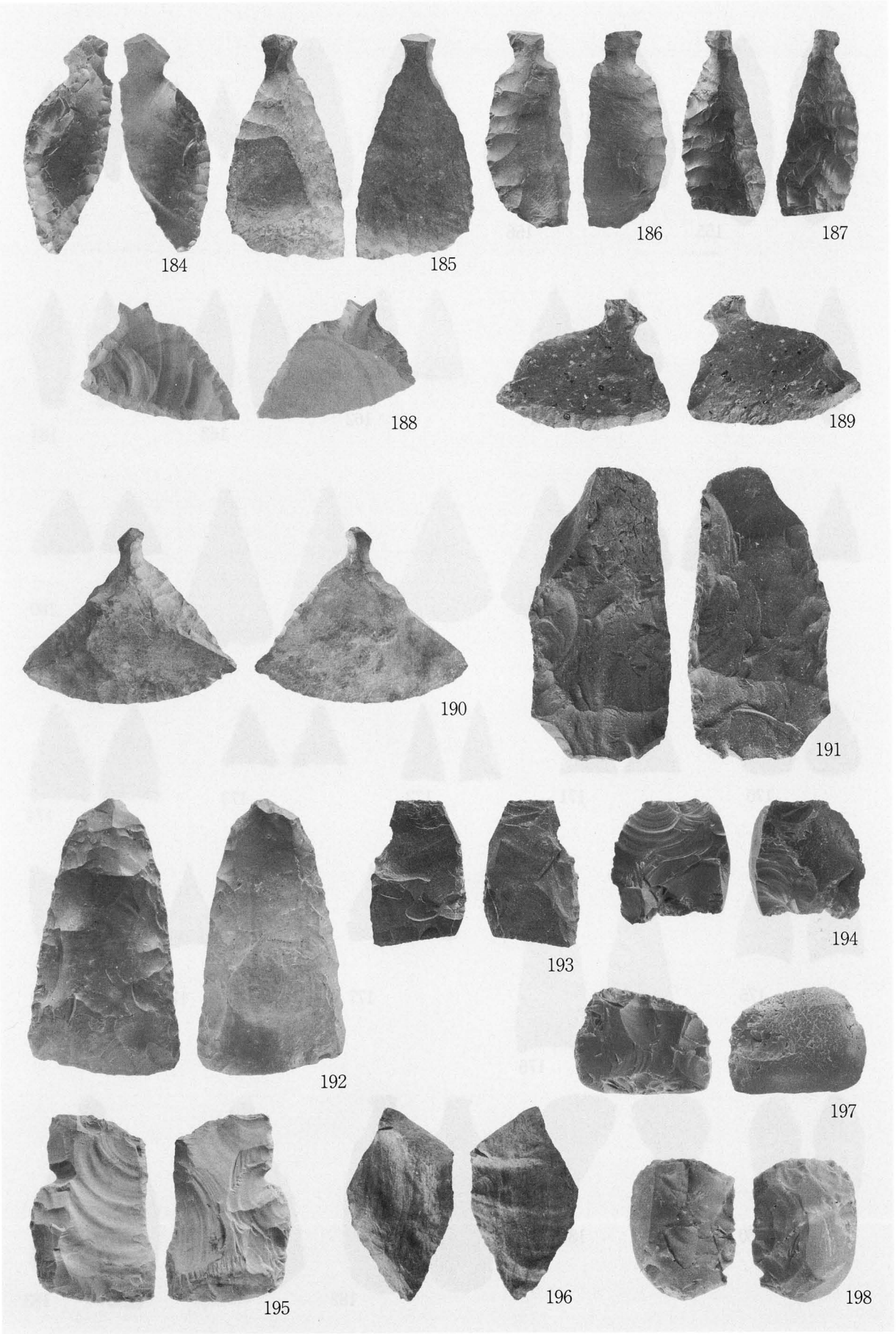
写真図版20　出土土器（６）



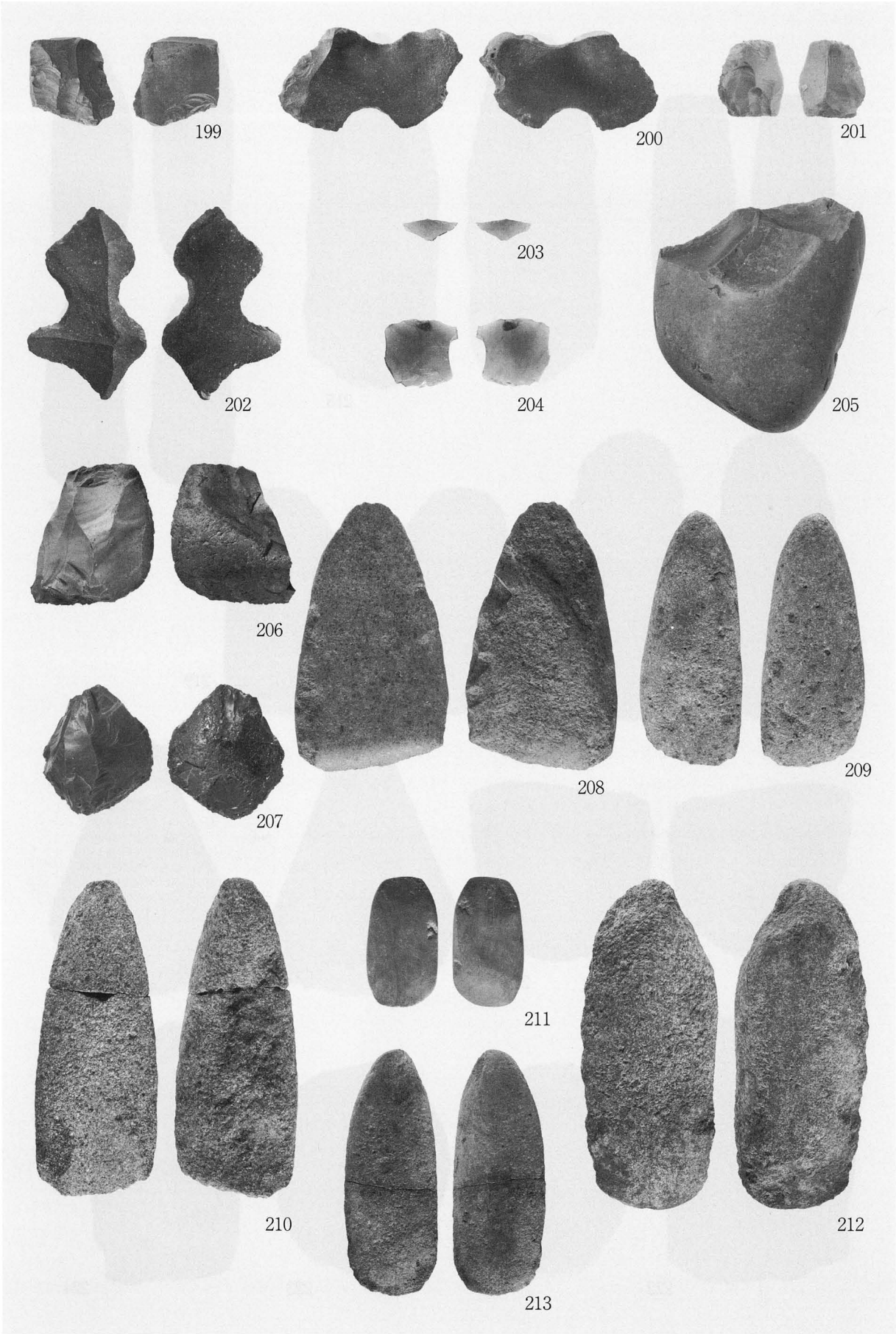
写真図版21　出土土器（7）



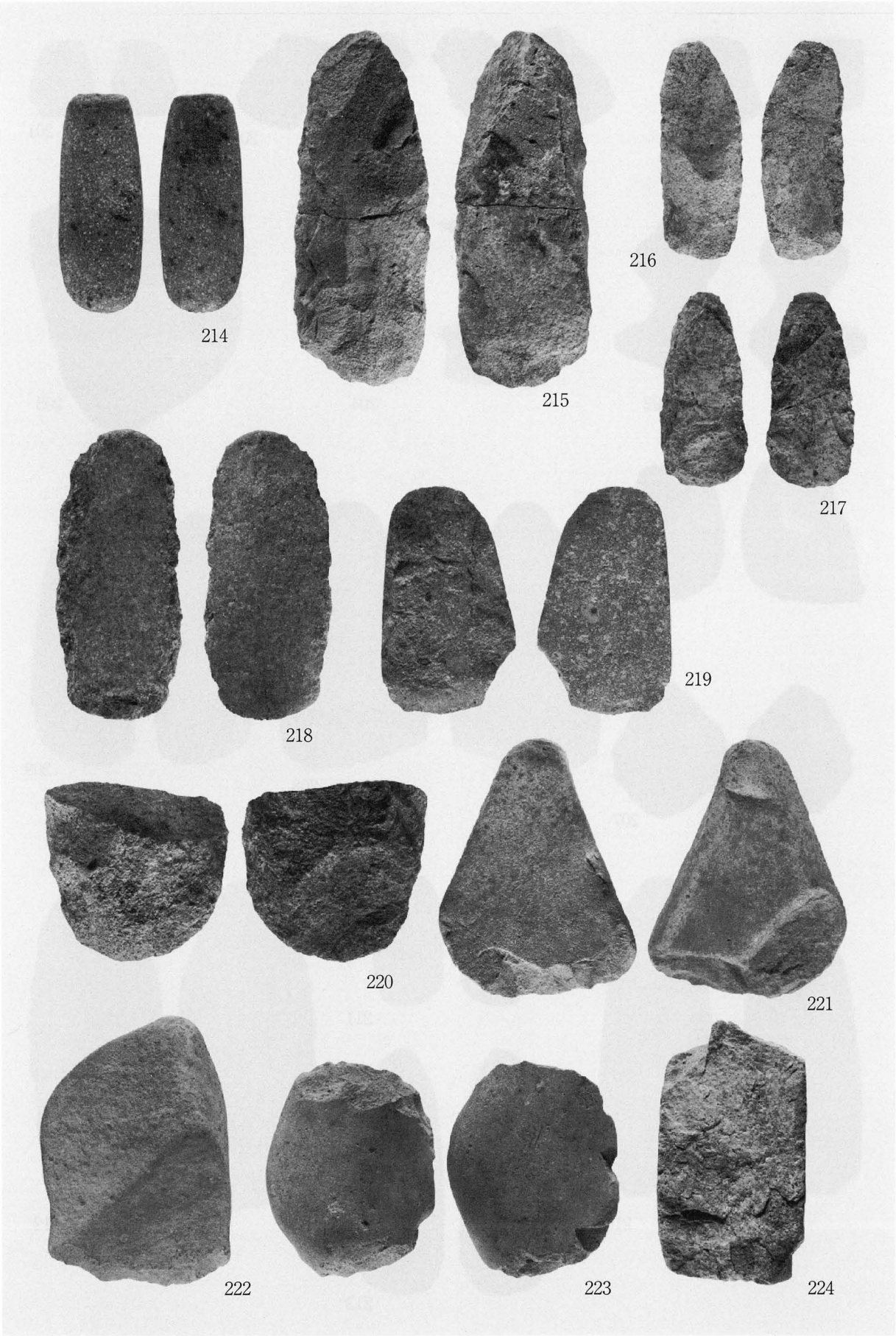
写真図版22　出土石器（1）



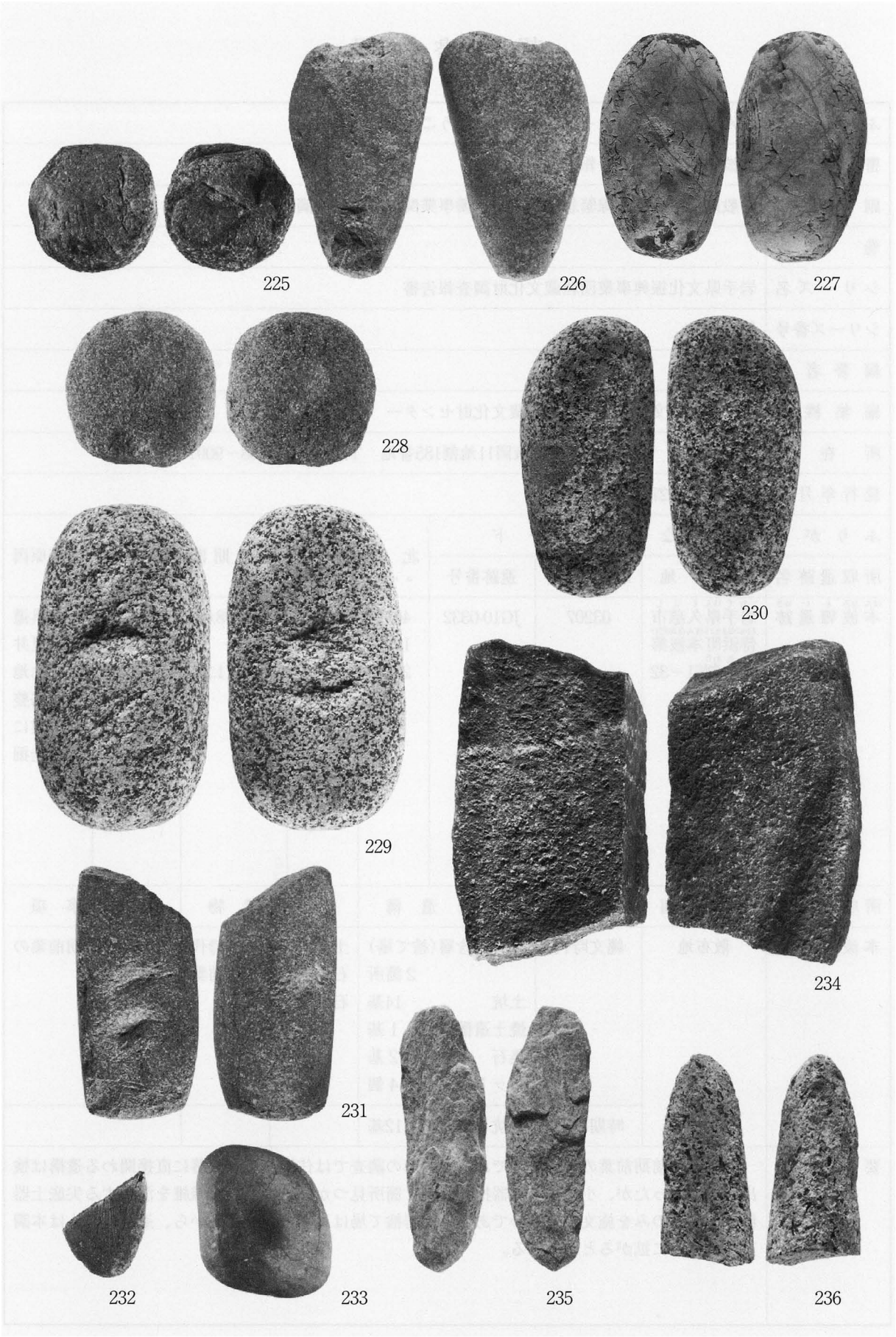
写真図版23　出土石器（2）



写真図版24　出土石器（3）



写真図版25　出土石器（4）



写真図版26　出土石器（5）

報告書抄録

ふりがな	ほんなみ８いせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	本波Ⅷ遺跡発掘調査報告書
副書名	一般県道侍浜夏井線緊急地方道路整備事業関連遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第536集
編著者名	北田　勲
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地　TEL (019) 638－9001
発行年月日	2009年２月27日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
本波Ⅷ遺跡（ほんなみ８いせき）	岩手県久慈市侍浜町本波第11地割（いわてけんくじしさむらいはまちょうほんなみだいちわり）51－32ほか	03207	JG10-0332	40度 14分 20秒	141度 48分 36秒	2007.08.01 ～ 2007.11.29	5,700㎡	一般県道侍浜夏井線緊急地方道路整備事業に係る発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項
本波Ⅷ遺跡	散布地	縄文時代	遺物包含層(捨て場)　２箇所 土坑　14基 焼土遺構　１基 集石　２基 ピット　４個	土器 石器 石製品	縄文時代前期前葉	縄文時代前期前葉の土器捨て場
		時期不明	土坑　12基			

要約	縄文時代前期前葉の単一遺跡である。今回の調査では住居跡など集落に直接関わる遺構は検出されなかったが、小規模な土器捨て場が２箇所見つかった。遺物は繊維を混入する尖底土器群で、縄文のみを施文するものである。土器捨て場は東側に偏ることから、遺跡の中心は本調査区の東側に拡がると思われる。

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書536集

本波Ⅷ遺跡発掘調査報告書

一般県道侍浜夏井線緊急地方道路整備事業関連遺跡発掘調査

印　刷　平成21年２月23日
発　行　平成21年２月27日

編　集　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話（019）638－9001
発　行　岩手県久慈地方振興局土木部
〒028-8042　岩手県久慈市八日町１－１
電話（0194）53－4990
(財)岩手県文化振興事業団
〒020-0023　岩手県盛岡市内丸13番１号
電話（019）654－2235
印　刷　株式会社　五六堂印刷
〒020-0021　岩手県盛岡市中央通三丁目16番15号
電話（019）654－5610

© (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2009